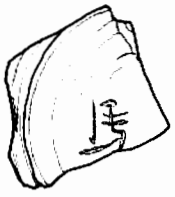
熊本大学埋蔵文化財調査報告書第１集

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅰ

（1994・1995年度）



2003

熊本大学埋蔵文化財調査室

熊本大学構内遺跡発掘調査報告 I

（1994・1995年度）

2003

熊本大学埋蔵文化財調査室

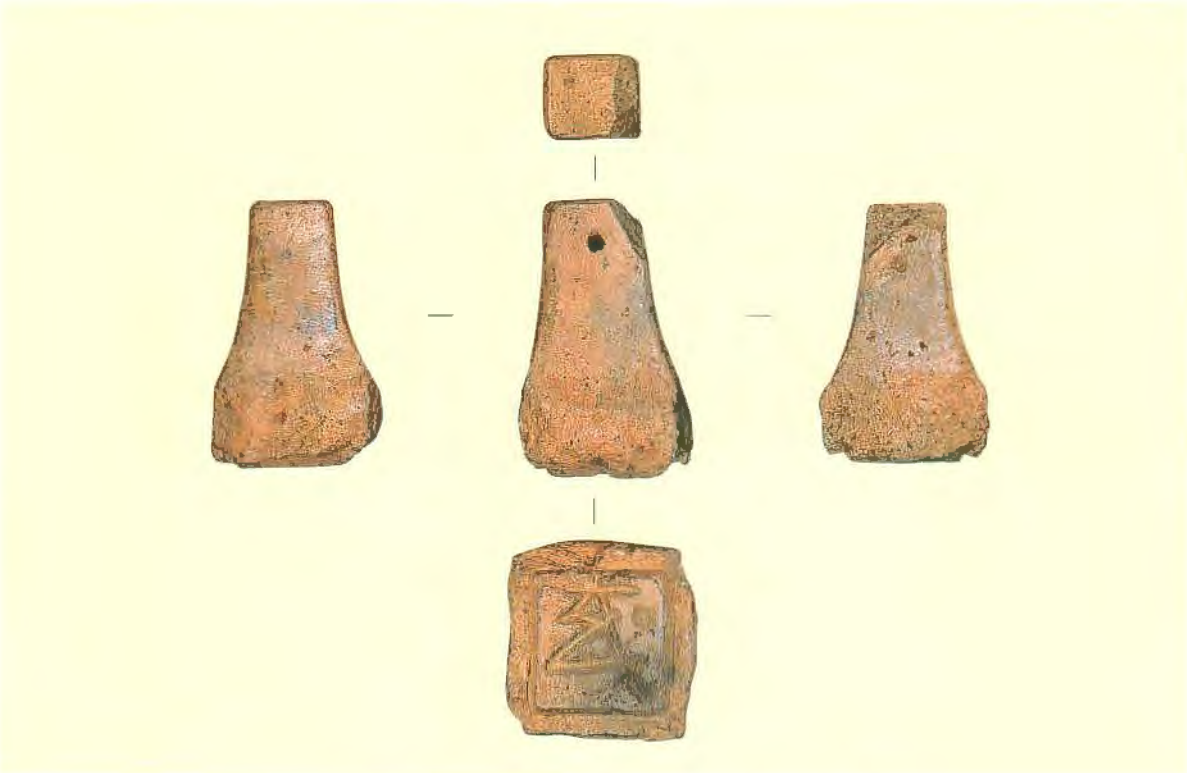
巻頭図版（1）

1．黒髪町遺跡（9412調査地点）調査区全景

2．本庄遺跡（9511調査地点）調査区全景

巻頭図版（2）

1．黒髪町遺跡（9407調査地点）出土のヘラ書き土器・土馬



2．黒髪町遺跡（9412調査地点）出土の土製「國」銘印

序　　文

熊本大学は、昭和60年、当時の県知事から校地移転の検討の申し出を受け、学内の議論を経て、最終的には平成５年に現地での再開発を決定した。再開発が進行し始めた年に学内のほぼ全地区にわたって埋蔵文化財が存在することが明らかになり、平成６年度から埋蔵文化財調査委員会・調査室を設置し、再開発に先立つ埋蔵文化財の調査を継続してきた。本年はその10周年を迎える。

この間、現在に至るまで180件にわたる埋蔵文化財の発掘調査・立会調査が実施されてきた。ここで明かになったことは、本学校地が各地域の埋蔵文化財包蔵地の中でも重要な文化財的価値のある地点に相当すること、そしてそこから得られた情報が地域の文化財の研究・保護において、きわめて有意義な提言ができるほどのものであるということである。とくに、黒髪町遺跡群の所在する黒髪北・南地区、本庄遺跡の立地する本荘地区は縄文時代から古代にかけての遺構・遺物群が充実したものであることを物語っている。

今回、埋蔵文化財調査室創設初期の２年間の調査成果に関する正式報告書をここに上梓することができた。本書には、黒髪町遺跡群、本庄遺跡をはじめとする８箇所の発掘調査成果が収録されている。この中でも黒髪北地区で実施された福利施設建設に伴う調査（9704調査地点）は、「馬」銘をはじめとするヘラ書き土器や土馬の遺物に象徴されるように、古代延喜式にみる「蚕養駅」の存在を窺わせるなど、きわめて重要な成果であった。また、南地区で実施された9412調査地点からは「國」銘の土製印が出土し、この地が官衙周辺地域であったことを裏付ける結果となった。

これら調査の一つをとってみても、大学校地に包蔵される文化財の資料的価値は図りしれない。調査委員会および調査室創立10周年を迎え、本学の文化財に対する取組みは益々重要性を帯びてきており、その責任の重さを感じる。これまで本学の埋蔵文化財調査にかかわり、御尽力およびご協力いただいた熊本県文化課および熊本市文化課をはじめ各位に厚く御礼を申しあげるとともに、今後の調査の円滑かつ充実した進行にさらなるご協力をお願いするものである。

平成15年３月15日

熊本大学埋蔵文化財調査委員会

委　員　長　北　野　　隆

例　　言

1．本報告書は、熊本大学再開発計画によって熊本大学敷地内において実施された各種建築工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査室が1994・1995年度に実施した発掘調査に関するものである。

2．本書に収録した成果報告は、1994・1995年度に埋蔵文化財調査室が実施した発掘調査とそれに関連する立会調査などの成果のうち、（京町）9405調査地点、（黒北）9407調査地点、（渡鹿）9408調査地点、（黒南）9412調査地点、（渡鹿）9413調査地点、（黒南）9501調査地点、（本荘中）9511調査地点の発掘調査の成果であるが、1995年度に会津地区で実施した（会津）9509調査地点の発掘成果については割愛した。

3．上記調査地点の報告にあたっては、

Ⅱ章：黒髪北地区　9407調査地点

Ⅲ章：黒髪南地区　9412・9501・9512調査地点

Ⅳ章：京町地区　　9405調査地点

Ⅴ章：渡鹿地区　　9408・9413調査地点

Ⅵ章：本荘南地区　9511調査地点

のように地区ごとに分けて報告する。

4．以上の調査を実施した1994年度と1995年度の埋蔵文化財調査室の組織と調査体制は以下のとおりである。

1994年度　室　　長：甲元眞之（文学部教授）
　　調　査　員：原田範昭（文学部助手）
　　事務補佐員：矢野希久代

1995年度　室　　長：甲元眞之（文学部教授）
　　調　査　員：小畑弘己（文学部助教授）
　　事務補佐員：矢野希久代

5．遺物番号は各地点ごとに1から番号を付けている。写真図版中の番号はこれに一致する。

6．本書の作成は熊本大学埋蔵文化財調査室で実施した。

7．本文の内容は、既刊の熊本大学埋蔵文化財調査室年報1・2（1995・1996）の内容の一部を使用し、小畑弘己が執筆した。とくに1994年度に実施された調査の調査経過・基本土層・遺構の記述など、調査所見に関連する部分は、調査に直接携わっていないため、年報の記載を重視し、体裁を整えるために部分的に修正を加えたが、その変更は最小限にとどめた。基本的にこれら原典の記述に遺物の記載とまとめを加えて本文とした。なお、その際、前任調査員の原田範昭氏（前埋蔵文化財調査室助手：現熊本市教育委員会文化課文化財保護主事）より助言・情報提供を受けた。

8．本書に使用した遺構実測図に関しては、1994年度分は原田範昭をはじめ、山田康弘（前熊本大学考古学研究室助手：現島根大学文学部助教授）や調査に参加した熊本大学文学部考古学研究室学生諸氏、1995年度分は小畑をはじめ、調査に参加した熊本大学考古学研究室学生諸氏の手によるものである。

9．本書に使用した遺物実測図は、9408・9413調査地点を原田範昭、9405調査地点を吉田正一（元熊本県文化課嘱託職員）、その他を古賀敬子、泗水直子、溜渕俊子、林田恵子、早田咲百合（埋蔵文化財調査室整理員）、尾上博一（現厳原町教育委員会生涯学習課）、宮本千恵子（熊本大学考古学研究室学生）、小畑、大坪志子（埋蔵文化財調査室調査員）が行った。

10. 本書に使用した図版の製図は小畑、大坪、坂元紀乃（埋蔵文化財調査室事務補佐員）・尾上が行った。
11. 本書に使用した現場写真は原田、吉田、小畑が、遺物写真は小畑と大坪がこれを撮影した。
12. 本書で使用した遺物観察表は、9405調査地点は原報告の観察表をもとに改変・追加し、その他の観察表は小畑、大坪、坂元が作成した。
13. 本書に掲載した出土遺物および記録類は、9405調査地点（京町地区の調査）分を熊本県文化課が保管し、それ以外のものはすべて熊本大学埋蔵文化財調査室が保管している。
14. 調査および整理報告にあたっては、下記の機関および人々の指導と協力を得た（順不同、敬称略）。

    熊本県教育庁文化課、熊本市教育委員会文化課、福岡市埋蔵文化財センター、熊本市立博物館、島津義昭、赤星雄一、網田龍生、板楠和子、稲津暢洋、今田秀樹、今村佳子、岩崎志保、岩谷史記、江本直、大城康雄、大貫静夫、岡本真也、尾上博一、遠部慎、金田一精、木崎康弘、木下尚子、工藤敬一、蔵冨士寛、小谷桂太郎、古藤忠吉、坂田和弘、櫻木晋一、佐藤伸二、佐藤宏之、白木原和美、杉井健、高木正文、高宮広土、谷口武範、都出比呂志、田崎博之、椿坂恭代、富田紘一、中橋孝博、長沼孝、西住欣一郎、長谷部善一、原田範昭、林田和人、春成秀爾、平野芳英、福田正文、藤木聡、藤野次史、古森政次、松村真紀子、水ノ江和同、美濃口雅朗、美濃口紀子、宮崎敬士、宮本一夫、村上恭通、村崎孝宏、師富国博、山口隆男、山崎純男、山下実、山下義満、山下宗親、山田康弘、吉崎昌一、吉田麻子、吉田正一、吉留秀敏、米倉秀紀、米田修、渡辺貞幸、綿貫俊一。
15. 本書の編集は小畑が行った。

本　文　目　次

Ⅰ　構内遺跡と調査の概要
1．熊本大学敷地と構内遺跡の概要…… 1
2．調査に至る経緯…… 4
3．これまでの調査と本書収録の遺跡…… 5
Ⅱ　黒髪北地区の調査
1．福利施設建設工事に伴う発掘調査（9407調査地点）…… 11
（1）調査の目的と経過 …… 11
（2）調査区の基本層序 …… 13
（3）検出遺構 …… 14
（4）出土遺物 …… 19
2．まとめ…… 40
Ⅲ　黒髪南地区の調査
1．工学部実験棟新営に伴う発掘調査（9412調査地点）…… 43
（1）調査の目的と経過 …… 43
（2）調査区の基本層序 …… 45
（3）検出遺構 …… 47
（4）出土遺物 …… 52
2．工学部研究実験棟共同溝建設工事に伴う発掘調査（9501調査地点）…… 55
（1）調査の目的と経過 …… 55
（2）調査区の基本層序 …… 58
（3）検出遺構 …… 58
3．工学部研究実験棟貯水桝建設工事に伴う発掘調査（9512調査地点）…… 58
（1）調査の目的と経過 …… 58
（2）調査区の基本層序 …… 59
（3）検出遺構 …… 59
（4）出土遺物 …… 59
4．まとめ…… 60
Ⅳ　京町地区の調査
1．熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査（9405調査地点）…… 61
（1）調査の目的と経過 …… 61
（2）調査区の基本層序 …… 61
（3）検出遺構 …… 62
（4）出土遺物 …… 63
2．まとめ…… 74
Ⅴ　渡鹿地区の調査
1．渡鹿グラウンド整備に伴う発掘調査（9408・9413調査地点）…… 75
（1）調査の目的と経過 …… 75
（2）調査区の基本層序 …… 77

（3）検出遺構 …… 77
（4）出土遺物 …… 86
2．まとめ …… 93
Ⅵ　本荘南地区の調査
1．医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査（9511調査地点） …… 95
（1）調査の目的と経過 …… 95
（2）調査区の基本層序 …… 96
（3）検出遺構 …… 98
（4）出土遺物 …… 103
2．まとめ …… 119
Ⅶ　まとめ
まとめ …… 121

挿　図　目　次

図1　黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000） …… 2
図2　黒髪北地区東半における既往調査地点と9407調査地点の位置図（1/2000） …… 12
図3　9407調査地点東壁土層断面図（1/90） …… 13
図4　9407調査地点遺構配置図（1/250） …… 15
図5　1・2・9号竪穴住居址実測図（1/50） …… 16
図6　3～8号竪穴住居址実測図（1/50） …… 17
図7　1・2号掘立柱建物址実測図（1/100） …… 18
図8　9407調査地点出土遺物実測図1（1/4） …… 21
図9　9407調査地点出土遺物実測図2（1/4） …… 22
図10　9407調査地点出土遺物実測図3（1/4） …… 23
図11　9407調査地点出土遺物実測図4（1/4） …… 24
図12　9407調査地点出土遺物実測図5（1/4） …… 25
図13　9407調査地点出土遺物実測図6（1/4） …… 26
図14　9407調査地点出土遺物実測図7（1/4・1/3・2/3） …… 27
図15　9407調査地点出土遺物実測図8（1/3・1/2） …… 28
図16　黒髪南地区における既往調査地点と9412調査地点の位置図（1/2000） …… 44
図17　9412調査地点土層断面実測図（1/30） …… 45
図18　9412調査地点遺構配置図（1/150） …… 46
図19　1・2号竪穴住居址実測図（1/50） …… 48
図20　3～5号竪穴住居址実測図（1/50） …… 49
図21　6・7号竪穴住居址実測図（1/50） …… 50
図22　6号竪穴住居址竈実測図・集石遺構実測図（1/15） …… 51
図23　9412調査地点出土遺物実測図（1/4・1/3・1/2） …… 53
図24　9501・9512・9514・9516調査地点遺構配置図（1/200） …… 56
図25　9501調査地点土層断面実測図（1/50） …… 57
図26　9501調査地点1号住居址実測図（1/50） …… 57
図27　9512調査地点1号竪穴住居址実測図（1/50） …… 57
図28　9501調査地点1号溝土層断面

実測図（1/50）…… 57
図29 9501・9512調査地点包含層出土土器
実測図（1/3）…… 59
図30 京町地区における既往調査地点と9405調査地点位置図（1/3600）・基本層序（1/60）・遺構配置図（1/30）…… 62
図31 1・2号竪穴住居址
実測図（1/60）…… 64
図32 1号墓実測図・1号井戸
実測図（1/30）…… 65
図33 1・3・4号土坑
実測図（1/30・1/60）…… 66
図34 9405調査地点出土遺物
実測図1（1/3）…… 67
図35 9405調査地点出土遺物
実測図2（1/3）…… 68
図36 9405調査地点出土遺物
実測図3（1/3）…… 69
図37 9405調査地点出土遺物
実測図4（1/3）…… 70
図38 9408・9413調査地点
配置図（1/910）…… 76
図39 9408調査地点トレンチ土層断面
実測図1（1/40）…… 78
図40 9408調査地点トレンチ土層断面
実測図2（1/40）…… 79
図41 9413調査地点第1トレンチ遺構配置図・北壁・西壁土層断面実測図(1/60) … 81
図42 9413調査地点第2トレンチ遺構配置図・北壁・西壁土層断面実測図(1/60)… 82
図43 9413調査地点第3トレンチ遺構配置図・北壁・西壁土層断面実測図(1/60)… 84
図44 9413調査地点第4トレンチ遺構配置図・北壁・西壁土層断面実測図(1/60)… 85
図45 9408調査地点出土遺物
実測図（1/4）…… 86
図46 9413調査地点出土遺物実測図1
（1/4・1/2・1/3）…… 88
図47 9413調査地点出土遺物実測図2
（1/4・1/2・2/3）…… 89
図48 9413調査地点出土遺物実測図3
（1/4・1/2）…… 90
図49 本荘南地区における既往調査地点と9511調査地点の位置図（1/2000）… 96
図50 9511調査地点遺構配置図(1/200) … 97
図51 9511調査地点土層断面
実測図（1/50）…… 99
図52 10・19・55号溝土層断面
実測図（1/50）…… 99
図53 50号・25号住居址実測図（1/50)… 101
図54 5・7・65号住居址・6・46・75号方形竪穴遺構実測図（1/50)…… 102
図55 9511調査地点出土遺物
実測図1（1/4）…… 104
図56 9511調査地点出土遺物
実測図2（1/4）…… 105
図57 9511調査地点出土遺物
実測図3（1/4）…… 106
図58 9511調査地点出土遺物
実測図4（1/4）…… 107
図59 9511調査地点出土遺物実測図5
（1/4・1/2）…… 108
図60 9511調査地点出土遺物実測図6
（1/4・1/2）…… 109
図61 9511調査地点出土遺物実測図7
（1/3）…… 110
図62 9511調査地点出土遺物実測図8
（1/2）…… 111

写　真　目　次

巻頭図版（1）
1．黒髪町遺跡（9412調査地点）調査区全景
2．本庄遺跡（9511調査地点）調査区全景
巻頭図版（2）
1．黒髪町遺跡（9407調査地点）出土のヘラ書き土器・土馬
2．黒髪町遺跡（9412調査地点）出土の土製「國」銘印

図版１　9407調査地点
写真１　Ⅰ区（南より）…… 123
写真２　Ⅱ区（西より）…… 123
写真３　Ⅲ区（東より）…… 123
写真４　Ⅳ区（東より）…… 123
写真５　Ⅰ区（南より）…… 123
写真６　Ⅱ区（南より）…… 123
写真７　Ⅲ区（西より）…… 123
写真８　Ⅳ区（西より）…… 123
図版２　9407調査地点
写真９　１号竪穴住居址（西より）…… 124
写真10　１号竪穴住居址竈（南より）… 124
写真11　２号竪穴住居址（東より）…… 124
写真12　２号竪穴住居址竈（東より）… 124
写真13　２号竪穴住居址遺物出土状況… 124
図版３　9407調査地点
写真14　３～８号竪穴住居址（南より）… 125
写真15　３号竪穴住居址（南より）…… 125
写真16　３号竪穴住居址竈（南より）… 125
写真17　４号竪穴住居址（東より）…… 125
写真18　４号竪穴住居址竈（東より）… 125
図版４　9407調査地点
写真19　５号竪穴住居址（東より）…… 126
写真20　５号竪穴住居址竈（東より）… 126
写真21　６号竪穴住居址（東より）…… 126
写真22　６号竪穴住居址竈（東より）… 126
写真23　７号竪穴住居址（西より）…… 126
写真24　７号竪穴住居址竈（西より）… 126
写真25　８号竪穴住居址（南より）…… 126
写真26　９号竪穴住居址（南より）…… 126
図版５　9407調査地点
写真27　１号掘立柱建物址（南より）… 127
写真28　２号掘立柱建物址（南より）… 127
図版６　9407調査地点出土遺物１…… 128
図版７　9407調査地点出土遺物２…… 129
図版８　9407調査地点出土遺物３…… 130
図版９　9407調査地点出土遺物４…… 131
図版10　9407調査地点出土遺物５…… 132
図版11　9412調査地点
写真１　調査区近景（東より）…… 133
写真２　調査区全景（北より）…… 133
図版12　9412調査地点
写真３　１号竪穴住居址（東より）…… 134
写真４　２号竪穴住居址（西より）…… 134
写真５　３号竪穴住居址（東より）…… 134
写真６　４号竪穴住居址（北より）…… 134
写真７　５号竪穴住居址（東より）…… 134
写真８　６号竪穴住居址（西より）…… 134
写真９　６号竪穴住居址竈（西より）… 134
写真10　７号竪穴住居址（東より）…… 134
図版13　9412調査地点
写真11　溝状遺構（東より）…… 135
写真12　籾殻出土状況…… 135
写真13　集石遺構（東より）…… 135
写真14　鉄製品出土状況…… 135
写真15　調査風景（北より）…… 135
図版14　9501調査地点
写真１　調査区全景（東より）…… 136
写真２　調査区全景（北西より）…… 136
図版15　9501調査地点
写真３　１号竪穴住居址（南より）…… 137
写真４　１号竪穴住居址竈断面(西より）… 137
写真５　柱穴検出状況（北より）…… 137
写真６　７号柱穴根石検出状況…… 137
写真７　１号溝土層断面（西より）…… 137
図版16　9512調査地点
写真１　調査区全景（西より）…… 138
写真２　１号竪穴住居址（北より）…… 138
写真３　１号竪穴住居址完掘状況(東より）… 138
写真４　１号溝断面（西より）…… 138
写真５　調査区西壁（東より）…… 138
図版17　9412調査地点出土遺物…… 139
図版18　9405調査地点
写真１　調査区全景（北より）…… 140
写真２　１号竪穴住居址（西より）…… 140
図版19　9405調査地点
写真３　２号竪穴住居址（北東より）… 141
写真４　１号墓（西より）…… 141
図版20　9405調査地点
写真５　１号墓（南より）…… 142

写真６　１号井戸（東より）…… 142
写真７　１号井戸上層出土状況(北より)… 142
写真８　１号井戸青磁・瓦器出土状況… 142
写真９　１号井戸銅銭出土状況…… 142
写真10　３号土坑（南より）…… 142
写真11　４号土坑（南より）…… 142
写真12　４号土坑遺物出土状況(北西より)… 142
図版21　9405調査地点出土遺物１…… 143
図版22　9405調査地点出土遺物２…… 144
図版23　9408・9413調査地点
写真１　調査区近景（東より）…… 145
写真２　第１トレンチ全景（東より）… 145
写真３　第２トレンチ全景（東より）… 145
写真４　第３トレンチ全景（東より）… 145
写真５　第４トレンチ全景（南より）… 145
図版24　9408・9413調査地点
写真６　第２トレンチ遺物出土状況(南より)… 146
写真７　第２トレンチ道路址検出状況(西より)… 146
図版25　9408・9413調査地点
写真８　１号竪穴住居址（東より）…… 147
写真９　２・３号竪穴住居址（西より）… 147
写真10　４号竪穴住居址（南より）…… 147
写真11　４号竪穴住居址竈（南より）… 147
写真12　５号竪穴住居址（南東より）… 147
写真13　５号竪穴住居址竈（南東より）　147
写真14　６号竪穴住居址（南東より）… 147
写真15　６号竪穴住居址竈（南より）… 147
図版26　9408・9413調査地点出土遺物１　… 148
図版27　9413調査地点出土遺物２…… 149
図版28　9413調査地点出土遺物３…… 150
図版29　9511調査地点
写真１　調査区東部全景（西より）…… 151
写真２　調査区西部全景（北西より）… 151
図版30　9511調査地点
写真３　10号溝（北より）…… 152
写真４　19・55号溝切り合い状況(北東より)… 152
写真５　25号竪穴住居址竈と周囲の土器(南より)… 152
写真６　25号竪穴住居址甑出土状況(南より)… 152
写真７　25号竪穴住居址と覆土廃棄土器(北西より)…… 152
写真８　25号竪穴住居址廃棄土器詳細（１）(東より)…… 152
写真９　25号竪穴住居址廃棄土器詳細（２）(東より)…… 152
写真10　25・50・65号竪穴住居址(北西より)… 152
図版31　9511調査地点
写真11　５号竪穴住居址（西より）…… 153
写真12　65号竪穴住居址（東より）…… 153
写真13　７号竪穴住居址（南より）…… 153
写真14　６号方形竪穴遺構（北より）… 153
写真15　46号方形竪穴遺構（南より）… 153
写真16　75号方形竪穴遺構（西より）… 153
写真17　85号掘立柱建物址（西より）… 153
写真18　95号掘立柱建物址（南東より）　153
図版32　9511調査地点
写真19　冠雪の現場（東南より）…… 154
写真20　調査区南壁（西より）…… 154
写真21　土層断面(H－１－３区)(北西より)… 154
写真22　縄文土器出土状況（北より）… 154
写真23　調査風景（西より）…… 154
図版33　9511調査地点出土遺物１…… 155
図版34　9511調査地点出土遺物２…… 156
図版35　9511調査地点出土遺物３…… 157
図版36　9511調査地点出土遺物４…… 158

表　目　次

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧 …　1
表２　既往調査地点と本書収録調査地点一覧 …　5
表３　9407調査地点出土遺物観察表……　29
表４　9412調査地点出土遺物観察表……　54
表５　9501・9512調査地点出土遺物観察表 …　60
表６　9405調査地点出土遺物観察表 …… 71
表７　9408調査地点出土遺物観察表 …… 87
表８　9413調査地点出土遺物観察表 …… 91
表９　9511調査地点出土遺物観察表…… 112

Ⅰ　構内遺跡と調査の概要

1．熊本大学敷地と構内遺跡の概要

熊本大学が保有する敷地は、熊本市内の黒髪地区・本荘地区・九品寺地区・大江地区・小磧地区・京町地区・城東地区及び新南部地区の８区、市外の合津地区・阿蘇地区の２地区に分散しており、それぞれ埋蔵文化財の包蔵地となっている（表１）。

法・文・教育・工学・理学部の校舎が設置されている**黒髪地区**は黒髪町遺跡（熊本市埋蔵文化財地図№８－88）に含まれる。本遺跡は熊本市中心部のほぼ北東端に位置する立田山（標高151.6m）の南西部の緩斜面が、西を坪井川の作る沖積面と南を白川河岸の低位段丘によって囲まれる東西900m、南北1000mの遺跡群であり、縄文時代から歴史時代に至る遺構・遺物を包蔵している。遺跡発見の経緯は昭和11年に遡り、大学に隣接する熊本県立中学済々學（現済々黌高校）の校庭から甕棺２基が発見されたことに始まる。また昭和40年には隣接する九州女学院敷地においてやはり弥生時代中期の甕棺や古墳時代の須恵器甑などが発見されるに至り、その重要性が認識されるに至った。黒髪式土器の指標遺跡である。このように弥生時代を中心とした遺跡としての認識が高いが、1983年に実施された済々黌高校内における新たな調査によって古代の竪穴住居址と土師器・須恵器・黒色土器などの関連遺物が出土し、その中には「寺門」銘の墨書土器が含まれているなど古代飽田郡における拠点的な性格をもった遺跡であることが予想された（『新熊本市史料編第１巻考古資料』新熊本市史編纂室1996）。古代官道や駅伝制の研究上、文献で推定されていた延喜式にみる「蚕養駅」、旧飽田郡家の推定地としても注目を集めてきた（木下1975・1995）が、近年ではこれまでの周辺遺跡での発掘成果および文献資料の検討、そして本調査室による発掘成果を受けて、済々黌高校から本学黒髪地区周辺が飽田郡郡司建部公の居所であり、飽田郡家として比定するなどの積極的な意見が展開されている（鶴嶋1997）。このように、本遺跡は先史時代のみならず、古代律令制下の駅伝制を考える上できわめて重要なものである。

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧

No	地区名（学部名）	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　考
1	黒髪北地区（法・文・教・大教センター） 黒髪北地区（教育学部附属養護学校）	熊本市黒髪2丁目40－1 熊本市黒髪5丁目17－1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市黒髪2丁目39－1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市京町本丁5－12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市城東5－9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市新南部居屋敷240－1	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	理学部臨海実験所	天草郡松島町大字合津606	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘南地区（医）	熊本市本荘2丁目2－1	本荘遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院）	熊本市本荘1丁目1－1	本荘遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	九品寺地区（医療技術短期大学部）	熊本市九品寺4丁目24－1	本荘遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	薬学部（薬）	熊本市大江本町5－1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	大江地区（渡鹿グラウンド）	熊本市渡鹿4丁目1－1	大江遺跡	集落址	奈良・平安	

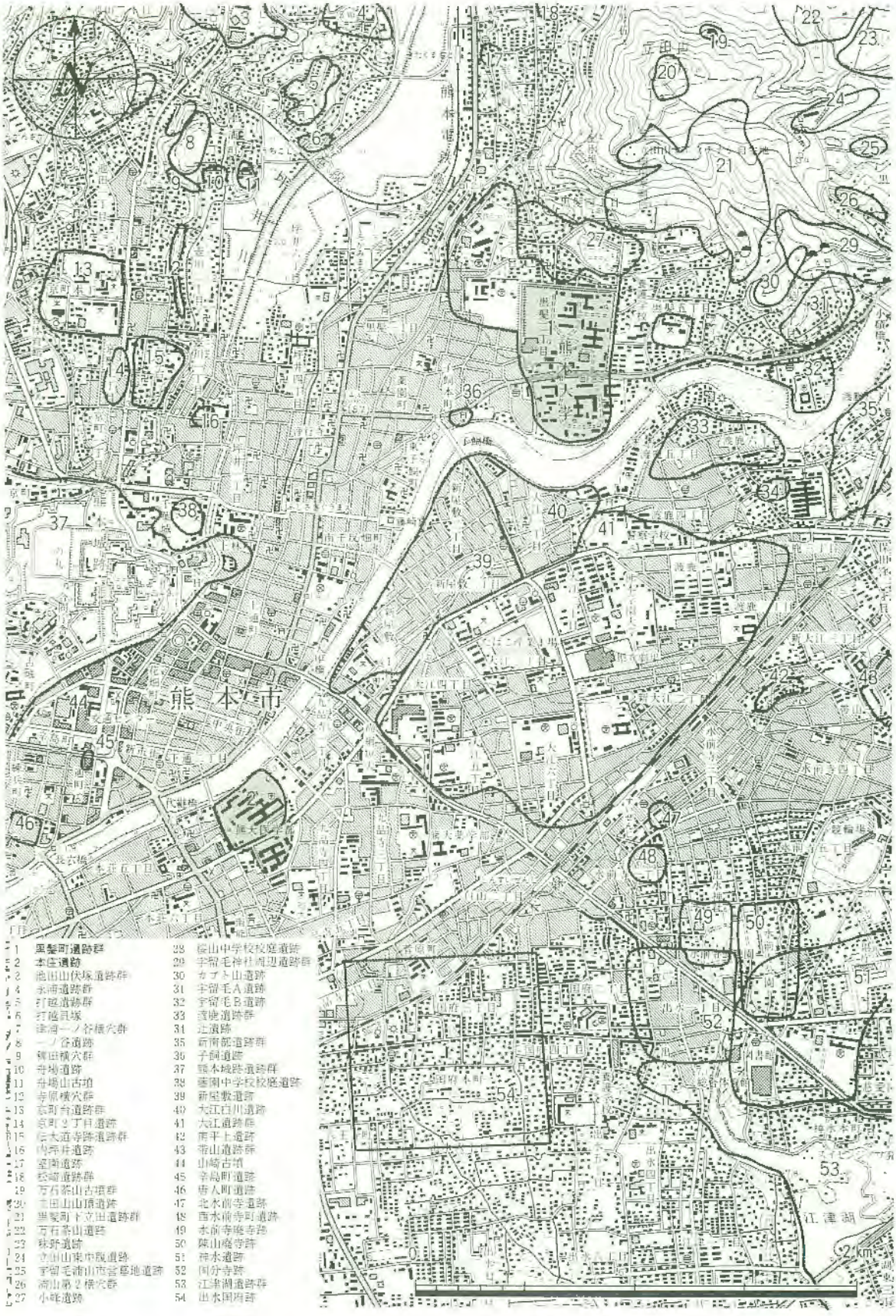


図1　黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）

医学部附属病院および医学部がある**本荘地区**は、本庄遺跡（熊本大学病院敷地遺跡）（熊本市埋蔵文化財地図№８－95）を包括する。本遺跡は黒髪町遺跡と同じく熊本平野を形成する扇状地形の中央を流れる白川の河岸堤防上に位置する遺跡であり、標高は13～12mである。附属病院の所在する白川寄りの地点が標高が高く、南東部（医学部側）へと緩やかに傾斜する地勢である。敷地内を白川より分岐した小河川が暗渠として流れており、古来この一帯は流道を変えながら幾本もの小河川が流れていた可能性が高い。『熊本市中央北地区文化財調査報告書』（熊本市教育委員会1980）によれば、1963年ごろ本大学医学部附属病院の敷地内から須恵器、土師器、布目瓦片類が採集されており、遺跡の存在が確実であるとされ、遺跡としての認定を受けている。しかし、その後本敷地内において学術的な発掘調査は一度も実施されておらず、遺跡の詳細な内容に関しては本調査室における調査が実施されるまで不明であった。しかし、先の報告の中では、東側に隣接する仙崇寺小松原墓地（現在の小松原公園）内においても須恵器片が採集され、遺跡の包含地がより広いことが想定されていた。このため、1995年に道路を挟んで隣接する医学部敷地内において計画されたRI総合センター遺伝子実験施設の建築に先立ち試掘調査を実施したところ、良好な状態で古代の遺構群が検出され、遺跡の広がりを確認することができた。よって、遺跡の範囲は東西500m、南北500mを越えるものと推定される。なお、本地点の発掘調査の報告は本書に収録している。医療技術短期大学部の位置する九品寺地区は、この遺跡の範囲に入る。本格的な発掘調査が実施されていないため、詳細は不明であるが、敷地中央部における立会調査によって古代の遺物包含層が確認されている。

薬学部が所在する**薬学部地区**は、大江遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図№８－93）の南西端に位置する。また、本学大江総合運動場（渡鹿グラウンド）は本遺跡群の北東端に位置している。地形は本庄遺跡とほぼ同じで、白川河岸に隣接し、標高は13～20mである。本遺跡群は詫麻郡家および渡鹿廃寺などの推定地を含む熊本市内でも有数の大規模（東西1.8km、南北1.7km）かつ貴重な古代を中心とした遺跡群であり、これまで60次にわたる調査が実施され、各種遺物を伴って、８・９世紀代を中心とした古代竪穴住居址群、掘立柱建物址、道路址、溝址などが検出されている（新熊本市史編纂室1996）。本学が実施した調査においては、大江総合運動場整備に伴う調査によって古代関連の遺物・遺構群が発見された他は、薬学部敷地の北西部において古代包含層の一部を確認しているにすぎない。薬学部敷地内においては大規模な建替がないため、依然遺跡の状況はよく分っていないのが現状である。なお、大江総合運動場整備に伴う発掘調査の成果は本書に収録している。

附属中学校・小学校の所在する**京町地区**は京町台遺跡群（熊本市埋蔵文化財地図№８－45）（東西400m、南北350m）に包括され、同遺跡群内には熊本市立京陵中学校と熊本営林局も含まれる。本台地は熊本平野の北部にある阿蘇４火砕流（凝灰岩）が形成した標高30～40mの平坦な台地であり、東西両側はそれぞれ坪井川と井芹川が流れて急峻な崖地を形成している。この天然の要害ともいうべき地の利を活かして台地の南端には熊本城が築かれており、周辺の台地上には武家屋敷が築かれていた。本遺跡における発掘調査の嚆矢は、1966年の営林署内の宿舎改築工事の際、遺構は検出されなかったが、重弧文をもつ弥生式土器、土師器、瓦器片が少量出土したことであり、現在では弥生時代遺跡として認定されている（熊本市文化財調査会1971）。

理学部附属臨海実験所の占地する**合津地区**は、熊本県天草郡松島町大字合津に所在する。遺跡は本地区のある松島の南西部端、標高12mの丘陵端部に位置する。この松島を含めた一帯は有明海から不知火海へ抜ける海上交通の要衝にあたり、天草で唯一の形象埴輪を出土したカミノハナ古墳群や長沙連古墳、大戸鼻古墳群など重要な古墳が密集しているように、古来より重要な拠点として意識されていたところでもある。また、縄文時代にはカルワ島遺跡や柳遺跡のように海岸部や海底に位置する遺

跡群が数多く発見されている。理学部の臨海実験所は、1956年に天草で初めて発見された縄文時代遺跡として著名な前島貝塚（熊本県遺跡地図57－013）とその東部にある梅殿古墳（同014）の隣接地にあたり、同貝塚の広がりが実験所敷地内に残存する可能性も大きく、古墳関連の遺構の存在も予想されるような位置にある（熊本県教育委員会1968）。実際、1996年に実験所の北部丘陵斜面にある宿舎が建設された際、建設業者によって７本の石斧が発見されているし、実験所の船着場南側の海岸では本学考古学研究室の学生諸氏によって縄文時代早期～前期を中心とした土器や石器が採集されている。よって実験所内とその周辺は縄文時代の遺跡・遺構が存在する可能性がきわめて高いところとして周知されていたところであった。本地区においては、1995年に臨海実験所実験棟改築工事に伴う発掘調査によって、前島貝塚が貝塚ではなく、本丘陵上には縄文時代早期の縄文時代早期の遺物包含層や遺構群が存在することが明らかになった（熊本大学埋蔵文化財調査室1996・小畑2001）。

２．調査に至る経緯

熊本大学の校地は先に示したように８地区に分散しており、どの校地も狭隘化してきているため、かねてから校地の移転などが議論されてきた。昭和60年に当時の熊本県知事から校地移転を検討する旨の申し出があり、その件について学内で議論され、本荘地区の医学部・附属病院を除き他の地区は現地再開発が決定された。本荘地区も平成５年に現地再開発することが決定されたので、全学が現地再開発で取り組むこととなった。その後それぞれの地区での再開発構想が検討され、基本的な計画が出来上がった地区から文教施設費を概算要求し、それらが認められたところから再開発事業が始まった。一方、黒髪地区などにおいては、従来から建設工事などによって古代や先史時代の遺物が発見されていたにもかかわらず、埋蔵文化財包蔵地としては周知されていなかった。

平成５年10月から黒髪南地区において情報処理センターの建設工事が始まったところ、熊本市教育委員会文化課から工事前に埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨の連絡があり、同課へ出向き確認したところ、平成５年４月１日から熊本市文化財保護審議会において黒髪地区などが埋蔵文化財の包蔵地として追加指定されていることが判明した。そこで大学が計画している建設工事の予定地に係わる試掘調査の届を同課に提出して、調査を依頼した。試掘調査の結果では、ほとんどの建設工事に先立ち発掘調査が必要であるということになった。

今後の発掘調査について同課に相談したところ、以下のような回答があった。

①国の機関（大学等）は考古学研究室などがあって専門のスタッフを擁していることでもあり、熊本大学においてもそのような機関を設け、そこが実施機関として発掘調査を担当願いたい。

②熊本市が平成６年度発掘調査の依頼を受けたとしても、それを実施する場合、既に他の発掘調査予定が半年分はあるので、急いでも９月または10月頃から調査を始めることとなる。

以上のことから、熊本大学の再開発事業には事前の試掘および発掘調査を行うことが必須条件であり、そのためには大学独自の調査組織を早急に設けることが必要となった。まずは発掘調査組織の中心となってもらうべく、文学部考古学研究室に協力を依頼し、このことについて承諾を得た後、急ぎ委員会などの組織作りを行い、責任体制を確立するための作業が始められた。本学の状況および他大学に既に設置されている同種組織の内容を勘案しながら検討した結果、熊本大学埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」と略する）を設けることとなった。また、この調査委員会の下に熊本大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」と略する）を置き、発掘調査の実務を担当することとした。

平成６年４月７日をもって熊本大学埋蔵文化財委員会規則が定められ、調査委員会が設置され、委

員会内に調査室が置かれ、平成６年５月16日、委員会委員の委嘱、調査室長および調査員・事務補佐員が就任し、正式に調査室業務が始動した。調査室発足後は、文学部考古学研究室の甲元眞之教授（現埋蔵文化財調査室長）をはじめとするスタッフによって平成６年度建設予定地の調査を中心に発掘調査が実施された。

３．これまでの調査と本書収録の遺跡

以後平成15年３月末日現在まで、再開発計画に則り行われた事業の事前調査として、表２のような調査が実施されてきた。本書はこの中から1994・1995年度に実施された発掘調査の成果を中心に報告する。試掘・立会調査などについては年報において既に報告済みであるので、本書からは除外した。なお、理学部臨海実験所実験棟改築工事に伴う発掘調査の成果については、すべて年報（熊本大学埋蔵文化財調査室1996）および理学部附属臨海実験所報（合津臨海実験所2001）に収録済みであるので、発掘調査ではあるが、本書では割愛したことを御断りしておく。

表２　既往調査地点と本書収録調査地点一覧

調査期日	調査No.	地点名	調査内容	調査面積	時代	遺構・遺物	掲載書
1994年度							
94･4･15～17	9401	（黒北）運動場整備（照明塔建設）工事	発掘調査	128㎡	古代	古代土師器・須恵器	年報1
94･4･21	9402	（黒北・南）基幹整備（教育学部エレベーター室取設）工事	発掘調査	47.5㎡	現代	ガラス・磁器片	年報1
94･4･25	9403	（黒北・南）基幹整備（工学部エレベーター室取設）工事	発掘調査	48㎡		包含層確認・土器片	年報1
94･5･13～14	9404	（黒北）福利施設建設予定地の樹木移植	立会調査	30㎡	古代		年報1
94･5･17～6･25	9405	（京町）附属中学校舎建設工事	発掘調査	400㎡	弥生・近世	縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・近世陶磁器・砥石・銅銭・瓦・ガラス瓶	年報1 本書
94･5･20/23/24	9406	（黒北）武夫原運動場整備（集水枡埋設）工事	発掘調査	100㎡	古代		年報1
94･5･23～7･28	9407	（黒北）福利施設建設工事	発掘調査	1,290㎡	古代		年報1 本書
94･8･1～8･10	9408	（渡鹿）グラウンド集水枡整備工事	発掘調査 立会調査	40.4㎡	古代	土師器	年報1 本書
94･8･11	9409	（黒北）武夫原器具庫新営工事・外灯基礎工事	立会調査	23.4㎡		包含層に達せず遺構なし、土師器片	年報1
94･8･12	9410	（京町）附属中学校電気引き込み配線工事	立会調査	13㎡		遺構・遺物なし	年報1
94･8･22	9411	（黒北）基幹整備（附属図書館スロープ取設）工事	立会調査	25.5㎡		包含層に達せず、遺構・遺物なし	年報1
94･9･12～10･31	9412	（黒南）工学部実験棟新営工事	発掘調査	743.6㎡	古代	古代竪穴住居址、古代土師器・須恵器・瓦・土製印・鉄器・縄文土器	年報1 本書
94･11･14～12･22	9413	（渡鹿）グラウンド整備工事	発掘調査	200㎡	縄文・古代	古代竪穴住居址・道路址、古代土師器・須恵器・布目瓦・砥石・鉄器・縄文土器・石器	年報1 本書
95･1･17～21	9414	（黒北）福利施設設備工事	立会調査	169㎡		遺構・遺物なし	年報1
95･1･9～11、1･26～2･1	9415	（黒南）工学部共同溝工事	立会調査	50㎡		遺構・遺物なし	年報1
95･2･27	9416	（城東）附属幼稚園排水管敷設工事替工事	立会調査	129.7㎡		遺構・遺物なし	年報1
95･3･15～23	9417	（黒南）福利施設設備工事	立会調査				
1995年度							
95･4･25～5･2	9501	（黒南）工学部研究実験棟新営Ⅰ期共同溝建設工事	発掘調査	90㎡	古代～近世	古代竪穴住居址・柱穴・溝、縄文後期土器片・古代土師器・須恵器	年報2 本書
95･5･9～10	9502	（黒南）工学部附属工学機器センター新営工事	試掘調査	20㎡	古代	包含層確認・古代土師器・須恵器	年報2
95･5･15～16	9503	（黒南）工学部RI研究実験棟建設及び基礎掘削	試掘調査	20㎡	古代	集石、古代土師器・須恵器	年報2
95･5･29/30･6･21	9504～06	（黒南）工学部研究実験棟新営電気設備（その2）に伴う高圧ケーブル埋設工事	立会調査	38㎡		遺構・遺物なし	年報2

調査期日	調査No.	地点名	調査内容	調査面積	時代	遺構・遺物	掲載書
95・8・21		(黒南) 工学部通信設備埋設工事	立会調査	14㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・8・22	9508	(黒南) 事務局前外灯配線改修工事	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・9・8～10・12	9509	(合津) 理学部附属臨海実験所実験棟改築工事	発掘調査	298㎡	縄文	集石、縄文早期土器・石器	年報2
95・11・2	9510	(黒南) 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴うガス配管工事	立会調査	7.5㎡	古代	古代包含層確認・古代土器片	年報2
95・11・6～8	9511	(本荘中) 医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設及び外溝切り替え	試掘調査	200㎡	古代	古代包含層確認・竪穴住居址、古代土師器・須恵器	年報2
95・11・13～16	9512	(黒南) 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う排水桝設置工事	発掘調査	60㎡	古代	古代竪穴住居址・柱穴・包含層、縄文後期土器片・古代土師器・須恵器	年報2 本書
95・11・17	9513	(黒南) 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う外溝工事	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・11・17	9514	(黒南) 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う外溝工事	立会調査	10㎡	古代	古代土師器・須恵器片	年報2
95・11・21～22	9503	(黒南) 工学部RI研究実験棟建設に伴う基礎掘削工事	立会調査	13㎡	古代	古代土師器・須恵器	年報2
95・11・22	9515	(黒南) 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う外溝工事	立会調査	30㎡	古代	包含層確認・古代土師器	年報2
95・11・24	9511	(本荘中) 医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設工事	立会調査	50㎡		一部包含層確認・遺構・遺物なし	年報2
95・11・28～29	9516	(黒南) 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴う外溝工事	発掘調査	72㎡	縄文～古代	包含層・柱穴、縄文土器片・古代土師器	年報2 本書
95・12・1	9511	(本荘中) 医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設に伴う外溝切替工事	立会調査	20㎡		包含層確認・遺構・遺物なし	年報2
95・12・4	9517	(本荘中) 医学部RI総合センター遺伝子実験施設に伴う樹木移植	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・12・5	9518	(黒南) 工学部RI研究実験棟建設に伴う外溝工事	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・12・12～14	9519	(黒南) 工学部研究実験棟新営Ⅰ期に伴うガス配管工事	立会調査	50㎡	古代	古代柱穴・溝、古代土師器・須恵器	年報2
95・12・18	9520	(黒北) 教養部前道路改修工事	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報2
95・12・25～96・2・22	9511	(本荘中) 医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設工事	発掘調査	976.9㎡	縄文・古代	古代竪穴住居址・掘立柱建物・溝・道路・方形竪穴遺構・土壙、縄文土器・石器・古代土師器・須恵器・鉄器	年報2 本書
96・3・1	9521	(黒南) 工学部校舎新営工事	試掘調査	9㎡	弥生	弥生土壙・ピット、弥生中期土器	年報2
96・3・8	9522	(黒北) 文法学部等五高等学校記念館庭園植栽工事	立会調査	5㎡	古代	包含層確認・古代土師器	年報2
96・3・21	9523	(城東) 教育学部附属幼稚園水道及び場兼足洗い場設備寄贈受入	立会調査	5㎡		遺構・遺物なし	年報2
96・3・25～26	9524	(京町) 教育学部附属小学校給排水管取替工事	立会調査	27.6㎡		遺構・遺物なし	年報2
1996年度							
96・4・19	9601	(本荘北) 医学部校舎建設工事	試掘調査	33㎡	古代	古代包含層・溝、古代土師器・須恵器	年報3
96・5・10	9602	(黒北) 法文学部記念植樹	立会調査	1㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・5・10～6・24	9603	(黒南) 工学部校舎建設工事	発掘調査	1000㎡	縄文・弥生・古代	縄文後期包含層・古代竪穴住居址・溝・掘立柱建物・土壙・柱穴、縄文後期土器・弥生中期土器・古代土師器・須恵器・鉄器・瓦	年報3
96・5・13	9604	(黒北) 教育学部ネットワーク付設工事	立会調査	40㎡	近代	遺構・遺物なし	年報3
96・5・14	9605	(京町) 教育学部附属小学校ネットワーク付設工事	立会調査	14㎡		近代磁器	年報3
96・5・15	9606	(大江) 医学部ネットワーク付設工事	立会調査			遺構・遺物なし	年報3
96・6・17	9607	(黒北) 法文学部外灯設置工事	立会調査	4㎡	古代	一部包含層確認、古代須恵器	年報3
96・6・19	9608	(黒南) 工学部RI実験棟配線工事	立会調査	21㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・8・5	9609	(黒北) 入試保管庫建設工事 (試掘)	発掘調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・8・6～9	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う樹木移植・貯水槽建設工事 (1・2・3区)	発掘調査	45.7㎡	古墳・古代	古墳時代前期竪穴住居址・古代竪穴住居址、古墳時代土師器・古代土師器・須恵器	年報3
96・8・22～27	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設 (4区)	発掘調査	37.4㎡	古代	竪穴住居址・柱穴、古代土師器・須恵器	年報3
96・8・29～30	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設 (5区)	発掘調査	28.2㎡	古代	竈址、古代土師器・須恵器	年報3
96・9・6	9610	(黒北) 教養部夏目漱石像建立	試掘調査	9㎡		遺構・遺物なし	年報3
96・10・1～9	9601	(本荘北) 医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事 (6区)	発掘調査	104.3㎡	古代	古代道路・竪穴住居址、古代土師器・須恵器	年報3

調査期日	調査No	地点名	調査内容	調査面積	時代	遺構・遺物	掲載書
96·10·11～97·1·17	9601	（本荘北）医学部校舎本体工事（本調査区）	発掘調査	1686㎡	縄文・古墳・古代	縄文包含層・古墳土壙・古代道路・竪穴住居址・掘立柱建物・土壙・近代墓地、縄文後期土器・古墳／古代土師器・須恵器・鉄器・石器	年報3
96·10·21～29	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事（7・8・9区）	発掘調査	62.5㎡	古代	古代竪穴住居址・竈、古代土師器・須恵器	年報3
96·11·12～13	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事（10区）	発掘調査	21.8㎡	古代	古代竪穴住居址、古代土師器・須恵器	年報3
96·11·12	9611	（黒南）工学部外灯付設工事	立会調査	0.4㎡		遺構・遺物なし	年報3
96·12·18	9612	（黒南）工学部電線埋設工事	立会調査	74.8㎡		遺構・遺物なし	年報3
97·3·3～31	9613	（黒南）工学部研究実験棟Ⅱ新営機械設備工事	立会調査	175㎡		遺構・遺物なし	年報3
97·3·7	9614	（黒南）工学部衝撃エネルギー実験所火薬庫取設工事	立会調査	109㎡		遺構・遺物なし	年報3
1997年度							
97·4.·8	9701	（本荘中）医学部情報リテラシー教育施設電気設備その他の改修工事	立会調査	21㎡		一部包含層を確認・遺構なし、古代土器片	年報4
97·5·7	9702	（黒南）理学部ヘリウム棟増築・ヘリウム管埋設工事	立会調査	126.6㎡		遺構・遺物なし	年報4
97·5·28	9703	（本荘北）医学部外来臨床研究棟血液製剤管理室取設工事	試掘調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報4
97·7·28～11·4	9704	（黒南）工学部校舎新営工事	発掘調査	1783.3	弥生・古代・近世	弥生時代甕棺墓・古代竪穴住居址・溝・掘立柱建物・柱穴・近世墓、弥生中期甕棺・土師器・鉄器・古代須恵器・近世陶磁器	年報4
97·10·29	9705	（京町）教育学部附属中学校女性立像建立	立会調査	2.6㎡		遺構・遺物なし	年報4
97·10·22	9706	（黒北）法文学部健南健児像建立	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし	年報4
97·11·11～98·3·31	9707	（本荘北）医学部基礎研究棟屋外配線工事	立会調査	370㎡	古代・近代	近代墓地・古代土壙・柱穴、甕・人骨・墓石等・古代土器	年報4
98·1·30～2·12	9708	（黒北）法・文・教育学部外灯設備増設工事	立会調査	61.9㎡	古代	溝	年報4
98·2·3～2·13	9709	（黒南）管財係黒髪6号宿舎取り壊し工事	立会調査	116㎡	古代	一部包含層を確認・遺構なし、磨耗した古代土器	年報4
1998年度							
98·4·14	9801	（黒南）工学部校舎建設に伴う排水管撤去工事	立会	10㎡		掘削により遺構なし	年報5
98·6·26～7·2	9801	（本荘中）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発センター新営工事	立会	2.4㎡	古代	遺構・遺物認められず	年報5
98·7·6	9801	（本荘中）同樹木伐採工事	立会			遺構・遺物なし	年報5
98·7·13	9809	（黒南）工学部3号館電気設営工事	立会	3㎡	古代	遺物包含層を確認	年報5
98·7·28～9·10	9801	（黒南）同新営工事	発掘調査	972㎡	縄文・古代・近世	竪穴住居址・掘立柱建物・溝・土壙	年報5
98·9·21～22	9803	（黒北）文化部室取設工事に伴う樹木移植工事	立会	9㎡		遺物・遺構なし	年報5
98·9·25～11·6	9802	（黒北）文化部室取設その他の工事	発掘調査	575㎡	縄文・弥生・近世	縄文土器・弥生土器・石器等・土壙・溝・縄文・弥生遺物包含層確認	年報5
98·9·28	9805	（本荘北）大学病院病棟新営工事	試掘調査	10㎡	古墳・古代	古墳・古代土器	年報5
98·9·29	9806	（本荘北）大学病院中央診療棟新営工事	試掘調査	5㎡		河成砂礫層を検出・遺構・遺物なし	年報5
98·9·30	9807	（本荘北）大学病院薬剤部注射患者毎セット支給室等取設工事	試掘調査	2㎡	古代	遺物包含層・柱穴検出・古代土器片	年報5
98·10·6	9808	（黒南）工学部1・9号館電気埋設工事	立会	30㎡		遺構面に達せず・遺物なし	年報5
98·10·28～11·20	9807	（本荘北）大学病院薬剤部注射患者毎セット支給室等取設工事	発掘調査	175㎡	古代	縄文土器・石鏃等 古代竪穴住居址・土壙・溝・近代溝	年報5
98·11·2	9801	医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター関連図書館解体工事	発掘調査	139㎡		削平のため存在せず	年報5
98·12·14～12·18	9810	（黒南）理学部自然科学等総合実験棟新営支障配管替工事	立会	35㎡	古代	遺物包含層・柱穴検出、古代土器片	年報5
98·12·16	9802	（黒北）文化部室新営排水管敷設工事	立会	35㎡	古代	遺構面確認・遺構・遺物はなし	年報5
98·12·17～99·1·10	9805	（本荘北）大学病院病棟新営に伴う支障配管替工事	立会	333㎡	古代	竪穴住居址、古代土器片	年報5
99·1·12	9811	（黒南）工学部実験室新設工事	試掘調査	14㎡	縄文後期	土器	年報5
99·1·21～3·25	9810	（黒南）理学部自然科学等総合実験棟新営工事	発掘調査	1,098㎡	縄文・古代・近代	縄文土器・石鏃等、古代竪穴住居址・柱穴・溝・近世溝	年報5
99·2·2	9802	（黒北）環境整備事業に伴う文化部室解体	立会調査	260㎡		遺構・遺物なし	年報5
99·2·10	9802	（黒北）環境整備事業に伴う建築工事	立会調査	40㎡		遺構面には達せず・遺物なし	年報5

調査期日	調査No	地点名	調査内容	調査面積	時代	遺構・遺物	掲載書
99・2・18	9802	(黒北) 環境整備事業に伴う植樹工事	立会調査	12.3㎡		地表下2mで弥生時代遺物包含層・遺構面を確認、遺構・遺物なし	年報5
99・2・9～3・9	9802	(黒北) 環境整備事業に伴う電気配線工事	立会調査	4㎡		地表下90cmで水田土を検出、遺構・遺物なし	年報5
99・3・11～12	9812	(大江) 渡鹿団地東側ブロック塀改修工事	立会調査	70㎡		包含層・遺構面確認。遺構・遺物なし	年報5
99・3・10～31	9801	(本荘中) 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営に係る配管切替工事	立会調査	57.5㎡	古代	一部包含層・遺構面確認 (ピット)・遺物なし	年報6
1999年度							
99・4・5～8・31	9901	(本荘北) 病棟 (軸) 新営工事	発掘調査	2,405㎡	縄文・古墳・古代・近代	縄文時代石器・玉・古墳時代住居址・溝・土師器・古代住居址・柱穴溝・土壙墓・土師器・須恵器・鉄器・陸衣壺・土鏡・近代溝	年報6
99・6・14～7・14	9902	(本荘中) 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営電設工事立会	立会調査	40㎡	古代	古代柱穴、溝、遺物を少量検出	年報6
99・6・17	9903	(黒南) 工学部研究実験棟Ⅱ－2－2新営工事に伴う植樹立会	立会調査	10㎡		遺構・遺物なし	年報6
99・7・19～26	9904	(本荘中) 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営基礎工事立会	立会調査	2㎡	古代	遺構・遺物なし	年報6
99・7・29～7・30	9905	(黒南) 自然科学研究科・理学部総合研究実験棟新営ガス設営工事	立会調査	50㎡		遺物・遺構なし	年報6
99・7・2～8・7	9906	(黒南) 自然科学研究科・理学部総合研究実験棟新営電気設営工事立会	立会調査	200㎡	古代	古代溝6条・柱穴2個、古代土器片少量を検出	年報6
99・9・22～10・5	9907	(黒南) 工学部実験用プレハブ新築工事	発掘調査	136.5㎡	縄文前期～晩期	ピット群、縄文土器片出土	年報6
99・11・24～11・25	9908	(黒東) 附属養護学校給食室増改築工事	試掘調査	42㎡	近世以降	トレンチ2本設定して調査したが、遺構なし・近世陶器片	年報6
00・2・14～3・24	9909	(黒南) 工学部衝撃・極限環境研究センター・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー棟新営工事	試掘調査	1,853㎡	近世・近代	畑址・墓地。近世陶磁器、煙管、銅・鉄銭	年報6
00・1・25	9910	(本荘北) 血液照射管理室増改築試掘	試掘調査	2㎡		攪乱著しく、遺構・遺物ともに確認できず	年報6
00・3・6～14	9911	(黒南) 水生動物飼育舎建築工事	発掘調査	70.9㎡		縄文土器・古代土師器・須恵器	年報7
00・3・14	9912	(黒南・東) 外灯取設工事立会	立会調査	3㎡		遺物・遺構ともに確認できず	年報6
00・3・2	9913	医学部液化窒素供給設備新設工事立会	立会調査	7.84㎡		遺構・遺物なし	年報6
00・3・16～17	9914	(本荘南) さく井設備工事立会	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報6
2000年度							
00・4・7	0001	(黒南) 水生動物飼育舎新営給水管設営工事	立会調査	6.1㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・4・11	0002	(黒南) 水生動物飼育舎新営電気設営工事	立会調査	4.1㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・4・17	0003	(本荘北) 附属病院格納庫移設工事	試掘調査	5.8㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・10・23	0004	(黒南) 工学部衝撃・極限環境研究センター・サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー棟新営電気設営工事	立会調査	18㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・10・30	0005	(黒南) 工学部植栽工事	立会調査	63㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・11・6～22	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備第3井戸入水槽設営工事 (Ⅰ区)	発掘調査	119.4㎡	縄文・古墳古代	縄文時代石器・古墳時代柱穴・住居址・土師器・須恵器	年報7
00・11・22	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備第1井戸入水槽設営工事	試掘調査	4㎡	近・現代	近・現代墓石・墓壙・遺骨	年報7
00・11・27～29	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備給水管配管工事	立会調査	85.5㎡		遺構・遺物なし	年報7
00・12・4～13	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備排水管配管工事 (Ⅱ区)	発掘調査 立会調査	32㎡	縄文・古代	土壙状遺構・縄文時代石器・土師器・ガラス玉・鉄器・須恵器	年報7
00・12・8～01・1・10	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備電気設営工事 (Ⅳ区)	立会調査	31.5㎡	古代	遺構なし、土師器数点	年報7
00・12・19～20	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備排水管配管工事 (Ⅲ区)	発掘調査 立会調査	20.4㎡	古代	住居址・土師器	年報7
00・12・26～28	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備給水管配管工事	立会調査	100.7㎡	近・現代	近代墓壙・墓石・遺骨	年報7
01・1・29	0006	(本荘北) 附属病院基幹・環境整備排水管配管工事 (Ⅴ区)	立会調査	7㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・1・22～30	0007	(庄町) 附属中学校体育器具庫新営工事	発掘調査	119.4㎡	弥生・古代	弥生・古代土師器・鉄器・土製紡錘車	年報7
01・2・5	0008	(黒北) 生涯学習境域研究センタースロープ取設工事	立会調査	28㎡		攪乱のため遺物・遺構なし	年報7

調査期日	調査No.	地点名	調査内容	調査面積	時代	遺構・遺物	掲載書
01・2・6～9	0009	（黒南）理学部1・2号館身体障害者用設備整備工事	立会調査	70㎡	古代	包含層を確認、古代土師器・須恵器	年報7
01・2・16～19	0010	（黒北）体育系部室解体・新営工事	立会調査	372㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・2・22	0011	（大江）旧食堂解体撤去工事・旧ボイラー室解体撤去工事	立会調査	132㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・5～6	0012	（黒北）外灯取付工事	立会調査	3㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・6	0013	（大江）屋内運動場〔尚武館〕取り壊し工事	立会調査	500㎡		遺物・遺構なし	年報7
01・3・22	0014	（黒北）旧生活協同組合事務所解体撤去工事	立会調査	66㎡		遺物・遺構なし	年報7
2001年度							
01・4・9～7・3	0101	（本荘北）附属病院医学部総合研究棟新営工事	発掘調査	1733.75㎡	古墳・古代・近世・近代	住居址・溝・畑址・墓鉄鏃・土師器・須恵器	年報8
01・5・14	0102	（黒南）基幹・環境整備	試掘調査	4.8㎡			年報8
01・5・14	0103	京町団地高圧ケーブル改修工事	立会調査	59.5㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・7・9～26	0102	（黒南）基幹・環境整備	発掘調査	418.5㎡	縄文	縄文土器・寛永通宝・風倒木痕・防空壕	年報8
01・7・4～10・29	0104	（本荘北）附属病院基幹・環境整備（共同溝設置）	発掘調査	1,023.8㎡	縄文・弥生・古墳・古代	住居址・溝・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・鉄鏃・青銅器	年報8
01・7・13	0105	（京町）正門取設工事	立会調査	7.12㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・7・30～11・14	0106	（黒北）大学教育研究センター等改修工事	立会調査	3,907㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・7・31	0107	（大江）薬学部共同実験棟改修工事	立会調査	97.84㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・8・1/13	0108	（京町）キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・8・2/21	0109	（黒北）キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	58㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・8・27	0110	（大江）薬学部キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	20㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・9・4	0111	（本荘中）医学部キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	2.78㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・8・22/9・4	0112	（黒北）食堂南側テラス整備工事	立会調査	662㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・9・14/10・1	0113	（本荘南）医療技術短期大学キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	105㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・9・17	0114	（本荘北）附属病院キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	38㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・10・19	0115	（黒南）理学部2号館南側排水工事	立会調査	8.4㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・10・22～02・2・19	0116	（本荘北）附属病院基幹・環境整備（A～D地区・ボイラー設備更新等）	立会調査	426.4㎡		遺構・遺物なし	年報8
01・12・8～02・2・9	0117	（本荘北）医学部総合研究棟新営機械設備工事	立会調査	133.1㎡	古代	住居址・柱基礎 土師器・須恵器	年報8
01・12・12～02・2・4	0118	（黒南）基幹・環境整備（特高変電設備等・植栽その他）	立会調査	111.7㎡		遺構・遺物なし	年報8
02・2・25～3・20	0119	（本荘北）医療用ガス供給設備室取設工事	発掘調査	205.8㎡	縄文・古墳・古代	住居址・溝・掘立柱建物址・縄文土器・土師器・須恵器・鉄鏃	年報8
02・3・18	0120	（本荘北）総合研究棟周辺環境整備工事	立会調査	1492.7㎡		遺構・遺物なし	年報8
02・3・18	0121	（本荘北）附属病院西病棟（仕上Ⅱ）新営工事	立会調査	1076.4㎡		溝？・遺物なし	年報8
02・3・22	0122	（本荘北）附属病院西病棟電気設備工事（仕上Ⅱ）	立会調査	54㎡		遺構・遺物なし	年報8
2002年度							
02・4・3～4	0201	（黒北）大学教育研究センターC棟空調機取設工事給排水及び室外機基礎工事	立会調査	29.3㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・4・15～16	0202	（黒北）外灯設備工事	立会調査	199㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・4・17	0203	（黒南）インキュベーション施設新営工事	試掘調査	3㎡			年報9
02・4・17	0204	（黒南）総合研究棟新営工事	試掘調査	4㎡			年報9
02・4・24	0205	（黒南）食堂裏エコクリーンソイル工事	立会調査	0.73㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・5・20～29	0206	（黒南）総合研究棟新営に伴う樹木移植工事	発掘調査	28㎡		甕棺	年報9

3. これまでの調査と本書収録の遺跡

調査期日	調査No.	地点名	調査内容	調査面積	時代	遺構・遺物	掲載書
02·5·30～8·2	0203	（黒南）インキュベーション施設新営工事	発掘調査	810㎡	近世	畑址	年報9
02・6・3	0207	（黒南）総合研究棟新営一次掘削に伴う電気工事	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・6・12～8・14	0204	（黒南）総合研究棟新営工事	発掘調査	2,803㎡	縄文・古墳古代	住居址・溝・火葬墓・縄文土器・土師器・須恵器	年報9
02・7・2	0208	（黒北）図書館南側学生部駐車場拡張工事	立会調査	24㎡		遺構・遺物なし	年報9
02・8・29	0209	（京町）陸風小学校スロープ取設工事	立会調査	13㎡		遺構・遺物なし	年報9
02·10·1～10·3,11·18	0210	（黒南）工学部樹木移植工事	発掘調査	61.19㎡		包含層・縄文土器・石鏃	年報9
02·10·7	0211	（本荘北）医学部総合研究棟新営工事（渡り廊下部分）	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報9
02·12·3/5/11	0212	（黒南）通用門拡幅工事	立会調査	480㎡		遺構・遺物なし	年報9
	0213	（本荘北）総合研究棟新営電気設備工事	立会調査	216㎡		遺構・遺物なし	年報9
03·2·7	0214	（本荘北）基幹環境整備外灯工事	立会調査	216㎡		遺構・遺物なし	年報9
03·2·18	0215	（大江）薬学部実験動物慰霊碑建立工事	立会調査	3.4㎡		遺構・遺物なし	年報9
03·2·21	0216	（黒北）外灯設備工事	立会調査	18.5㎡		遺構・遺物なし	年報9
03·3·7	0217	（本荘南）体育部室（プレハブ）新設工事	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報9
03·3·10	0218	（黒北）外灯設備工事	立会調査	27㎡	古代	住居址・土師器・須恵器・砥石	年報9
03·3·11	0219	（本荘南）塀新設工事	立会調査	36㎡		遺構・遺物なし	年報9
03·3·26	0220	（新南部）教育学部新南部農場竹藪・畑地境界掘り	立会調査	40㎡	古代	住居址・柱穴・溝、古代土師器・須恵器	年報9

Ⅱ　黒髪北地区の調査

1．福利施設建設工事に伴う発掘調査（9407調査地点）

（1）調査の目的と経過

a．調査地と調査経緯

当調査地区は熊本大学黒髪キャンパス北地区の北東隅に位置する。木造の学生集会場が1軒あるのみで、残りの場所は空地となっていた。今回の調査は福利施設の新営工事に伴う調査であり、調査の総面積は1290㎡である。試掘の結果、遺物包含層の保存状態が比較的良好であったので、包含層上面まで重機による除去を行い、その後手作業による調査を行った。廃土置場の確保と調査の混乱を避けるため、調査区を4分割して順次調査を行う方針を立てた。調査区は北東部1/4をⅠ区とし、その西側である北西部をⅡ区、東南部をⅢ区、西南部をⅣ区とした。また建物の建築工事に伴う電気配線工事や給排水配管工事に先立ち、平成7年1月17日から21日まで本調査区の周辺で立会調査を行った。掘削深度が浅いため包含層および遺構には影響が認められなかった。

b．調査の経過

5月13日　樹木移植開始。
5月18～20日　重機による表土剥ぎ開始。調査区全面においてⅠ層を除去。
5月23日　作業員投入。調査区を4区に分け、Ⅰ区より2層の掘り下げ開始。
5月26日　雨のため作業中止。
5月30日　Ⅰ区において住居址確認。住居址の検出作業開始。
6月1日　Ⅱ区において2層の掘り下げ開始。須恵器・土師器片多数出土。
6月8～13日　雨で作業難行。
6月20日　トレンチにより、Ⅰ区南半部には遺構の存在しないことを確認。
6月23日　雨天のため作業昼まで。
6月27日　Ⅱ区において住居確認。トレンチによって他の遺構の有無を確認。
6月28日　住居址の検出作業開始。
7月6日　実測作業開始。
7月7日　Ⅰ区において建物跡を確認。
7月10日　Ⅰ区調査終了。
7月11・12日　Ⅲ・Ⅳ区において3層除去。4層上面において遺構確認。排土をⅠ区に移動。
7月13日　Ⅲ・Ⅳ区調査開始。
7月14日　Ⅲ区において住居址確認。
7月20日　Ⅱ区において3層の除去完了。Ⅲ、Ⅳ区遺構検出作業開始。実測作業開始。
7月22日　実測の完了をもってⅣ区調査終了。
7月25日　実測の完了をもってⅢ区調査終了
7月28日　Ⅱ区における実測作業を完了し、全調査終了。

c．調査の組織

調　査　員：原田範昭（現熊本市文化課）
事務担当：矢野希久代
発掘作業員：相川奈美・飯田孝俊・稲田和加・今村佳子・岩谷史記・内薗拓也・大塚宏之・大坪志子・岡部是央・岡本久美子・甲斐美紀代・甲斐田末男・川野博之・清田志野・蔵冨士寛・古賀敬子・後藤郁子・小深田ナオ・佐藤タエ子・

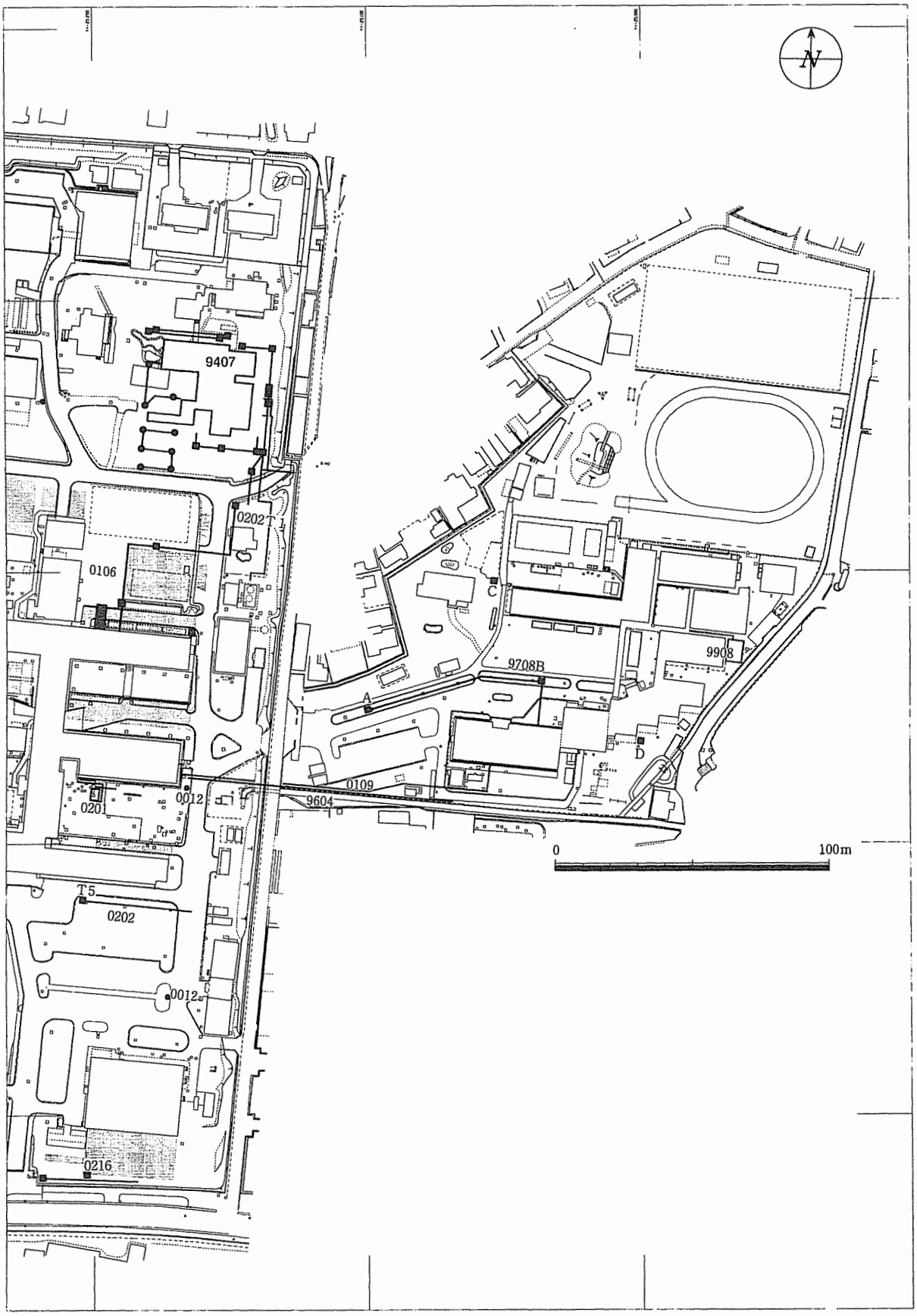


図2　黒髪北地区東半における既往調査地点と9407調査地点の位置図（1/2000）

澤田まり子・柴田やよひ・高崎芳美・高松幸一・田崎末人・田中末光・田中聡一・田中大介・田中レイ・土田ちえみ・中嶋由起子・中村さつき・中村哲史・橋本みどり・花田誉宣・林田恵子・春木藤美・番山明子・東真一・藤田實千代・藤岡泰江・古屋俊英・本田晶子・本田浩二郎・槇林啓介・益永武史・松井昭子・松浦一之介・松里健一・丸岡恵子・美浦雄二・村山志穂・山口健剛・山下直哉・吉岡和哉・若杉あずさ・若杉竜太

整理作業員：甲斐美紀代・古賀敬子・柴田やよひ・田中レイ・土田ちえみ・橋本みどり・林田恵子・春木藤美・藤岡泰江・松井昭子

（2）調査区の基本層序（図3）

今回の調査区内における基本層序は、以下のとおりである。

1層：褐色土層（10YR4/6）　表土層である。レンガや礫を多く含み、大部分に撹乱を受けている。粘性が全くなく、しまりがない。厚さ100～120cm。

2層：黒褐色土層（10YR2/3）　遺物包含層である。粘性がなく軟質である。きめが細かく、焼土粒などを多く含む。中位から下位にかけて須恵器片・土師器片を特に多く含む。厚さ30cm。

3層：暗褐色土層（10YR3/3）　無遺物層である。やや粘性があり、軟質で粒子は細かい。混入物は特にないが、押型文土器の入る可能性が指摘されている。厚さ30～40cm。

4層：暗褐色土層（10YR5/4）　無遺物層である。粘性で粒子が細かく、しまっている。ニガ土と呼ばれる。厚さ20cm。

5層：オリーブ褐色土層（2.5Y5/8）　無遺物層である。粘性が強く、特に硬質である。ニガ土と呼ばれる。厚さ20～30cm。

6層：黄褐色土層（10YR5/8）　無遺物層である。特に粘性が強く、しまっている粘土層である。ローム層である。厚さ40cm。

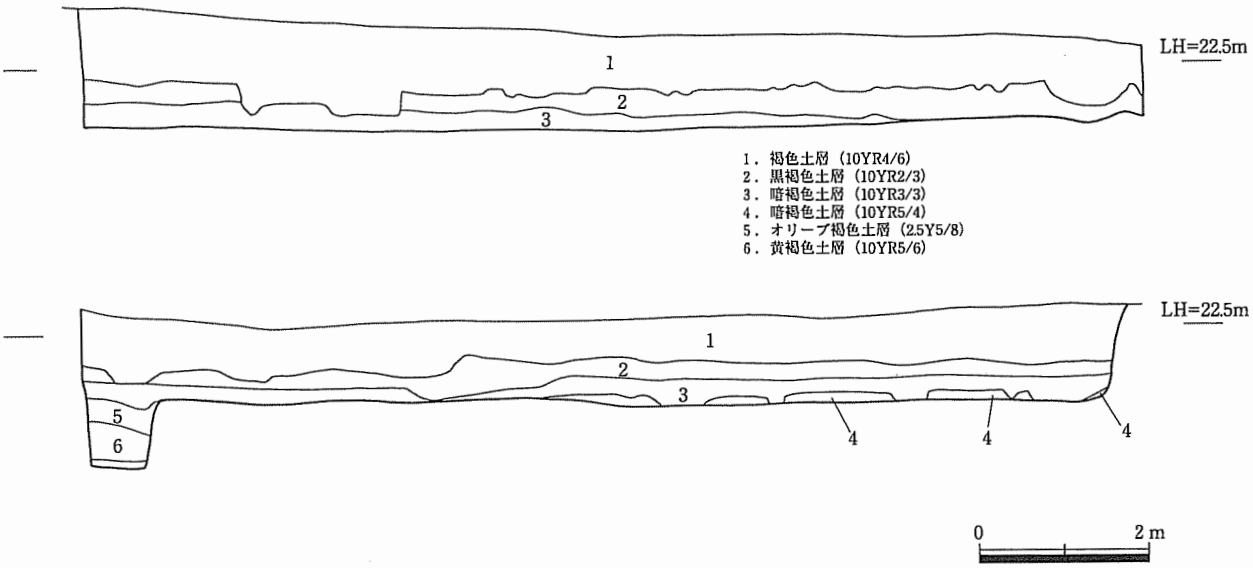


図3　9407調査地点東壁土層断面図（1/90）

（3）検出遺構

今回の調査では竪穴住居址9基、掘立柱建物址2基、土坑3基、柱穴130個、土器集中区などの遺構を検出した（図4）。竪穴住居址は重複しているものが多く、かなりの改築を繰り返し行ったようである。竪穴住居址内の覆土は、いずれも遺物包含層と同質の土に灰や焼土が混入するものであり、分層はできない。いずれも壁体がもろく、プランの確認が困難であった。

＜竪穴住居址＞

1号竪穴住居址（図5・図版2－9・10）

Ⅰ区中央北端に位置する。西側は撹乱により破壊されている。平面形は一辺4.3mの方形プランを想定している。主軸はN－10°－Eである。柱穴は確認できなかった。北壁中央部分から床面にかけて、焼土が集中する地点がある。竈跡と思われる。破壊を受け、構造は明らかではない。焼土下において直径70cm、深さ40cm、直径60cm、深さ20cmの竈に伴うピット2個、直径65cm、深さ60cmの竈を切るピット1個を検出した。

2号竪穴住居址（図5・図版2－11～13）

Ⅱ区北西部に位置する。樹木移植による破壊を受け、詳細は不明である。一辺3.5mを確認した。主軸はN－45°－Wである。住居北壁中央部に竈をもつ。竈は破壊を受けており、焼土・粘土・灰が混在し、構造については明らかではない。焼土上から座った形で土師器の坏を検出した。

3号竪穴住居址（図6・図版3－14～16）

Ⅱ区中央北側に住居址6軒（3～8号）が切り合う。3号住居址はこの住居群において、最も新しく構築されたものである。2.3×2.3mの隅丸の正方形プランである。主軸はN－10°－Wである。切り合いにより北側および東側の壁が明確な形で検出できなかった。残存する壁高は20cmである。直径22cm、深さ22cmの柱穴を住居中央に1個検出した。竈は北壁中央および床面を掘り窪め、粘土を貼り付けて形成されている。幅65cm、全長85cmの規模をもつ。

4号竪穴住居址（図6・図版3－17・18）

東南の一部が2号住居址によって切られている。2.5×2.3mの隅丸方形プランを呈する。主軸はW－10°－Sである。残存する壁高は20cmである。竈は、西壁の中央を掘りくぼめ、粘土を貼り付けて形成されている。幅50cm、全長70cmである。壁面より住居内に粘土で作られた竈袖部が張り出している。柱穴は確認できなかった。

5号竪穴住居址（図6・図版4－19・20）

三方の壁が2号住居址によって切られている。一辺1.9mの北壁のみが残存していた。隅丸方形の平面プランをもつであろう。主軸はW－15°－Sである。残存する壁高は25cmである。竈は西壁中央に付設される。竈の平面形は袋状を呈し、粘土を用いて構築されている。焚口幅30cm、最大幅40cm、奥行き50cmを呈する。

6号竪穴住居址（図6・図版4－21・22）

南半は2号及び3号住居址によって切られており、東半は調査区外にあるため平面プランは確認できない。他の住居の状況からみて、隅丸方形の平面プランが想定できる。主軸は4号住居址に平行すると考えられる。残存する壁高は竈周辺で20cm程度である。竈は西壁に形成される。竈壁体から竈脇の住居壁面20cm程度にかけて粘土が貼り付けられている。したがって粘土の貼り付けられた住居壁面の一部が、竈の袖部を兼用する形となる。焚口幅は40cm、奥行き50cmを呈する。

7号竪穴住居址（図6・図版4－23・24）

住居壁体および床面は検出できず、竈のみを確認した。他の住居址との位置的関係からみて、おそ

らく一辺２ｍ前後の方形の住居址と考えている。竈は西向きに開口することより、住居址の東壁に存在する可能性が高い。６号住居址と同様、袖部を住居壁体と兼用し、竈内から住居壁面にかけて粘土を貼り付けて形成されている。粘土は厚さ10cm程度で貼り付けられている。焚口幅30cm、奥行き45cmである。

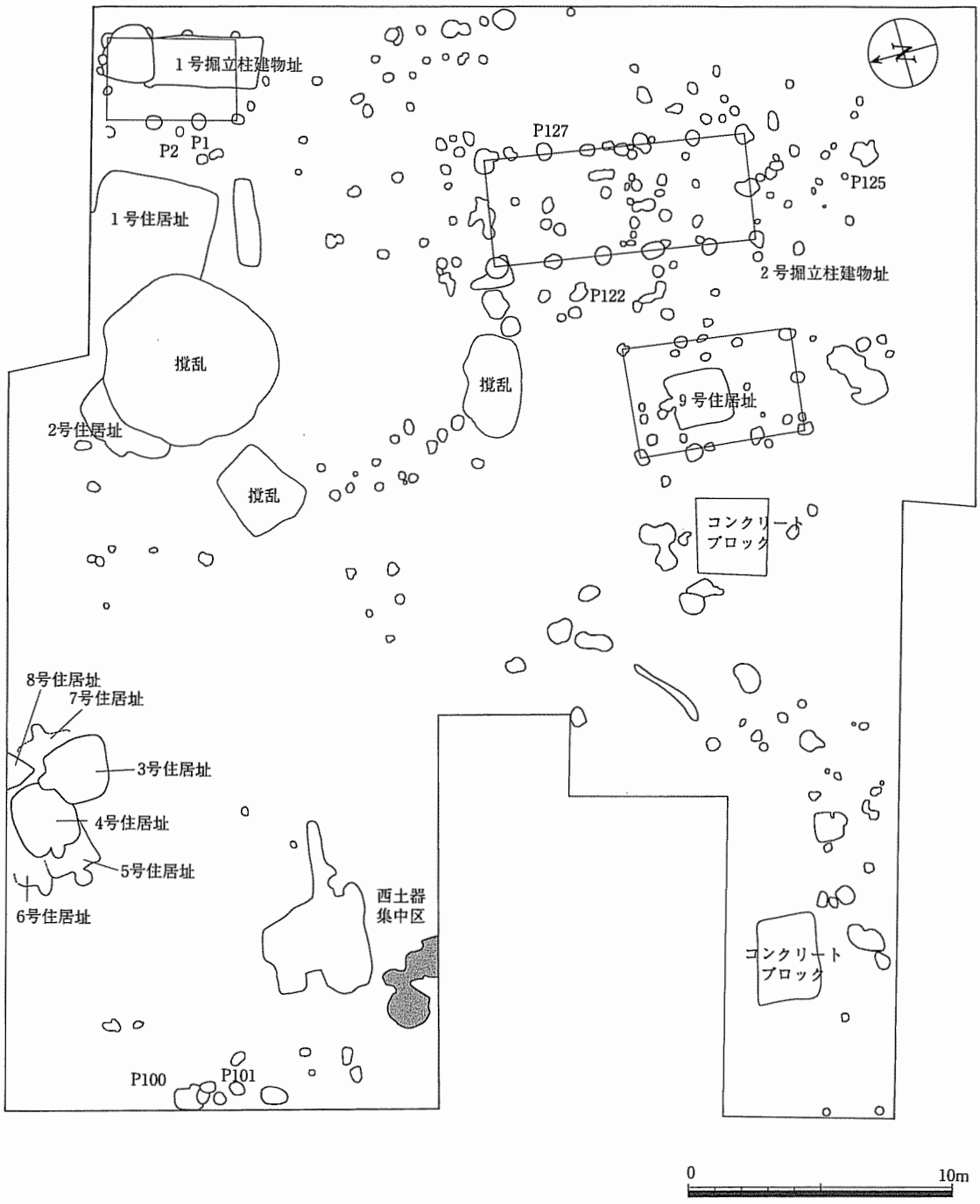


図４　9407調査地点遺構配置図（1/250）

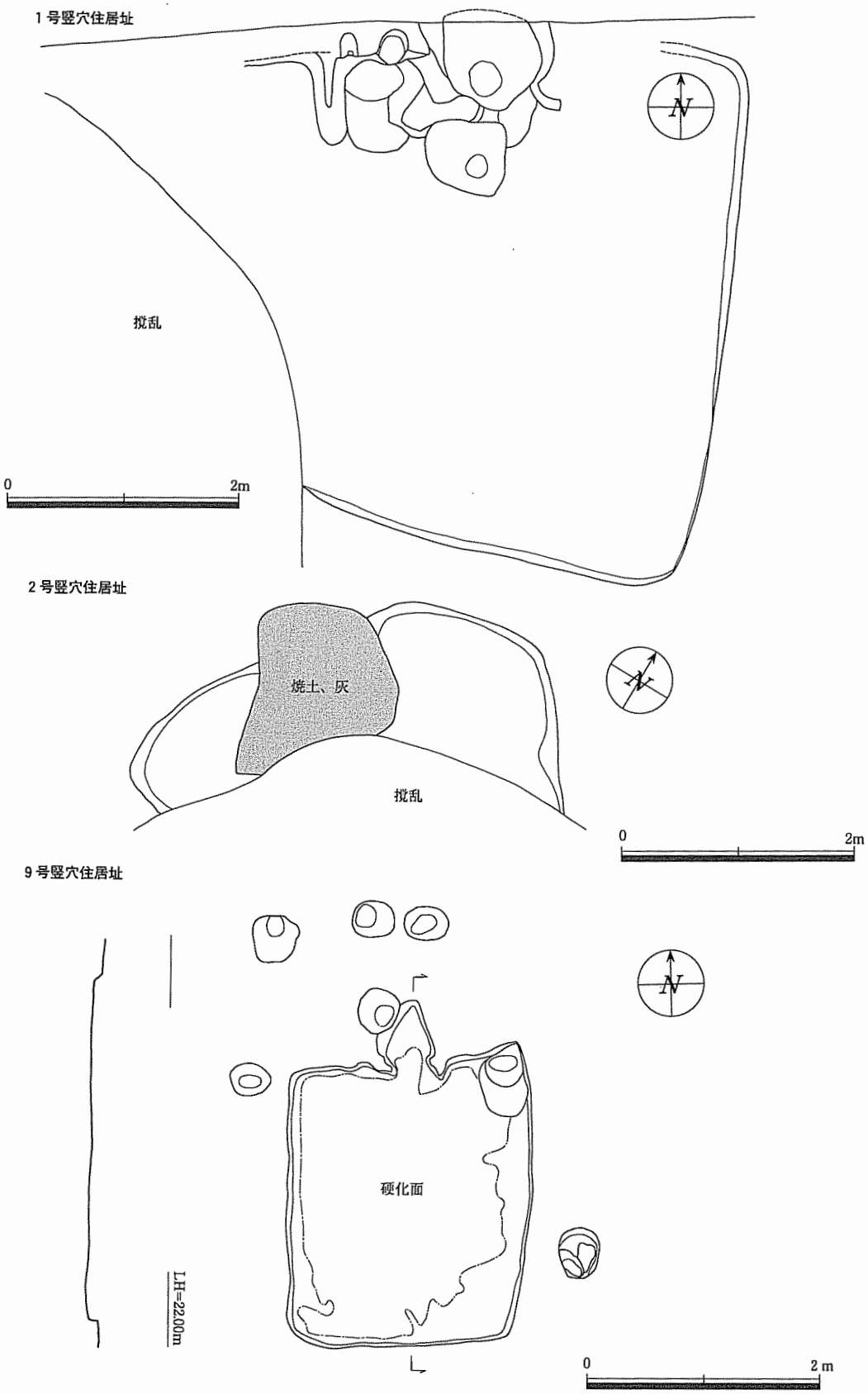


図5　1・2・9号竪穴住居址実測図（1/50）

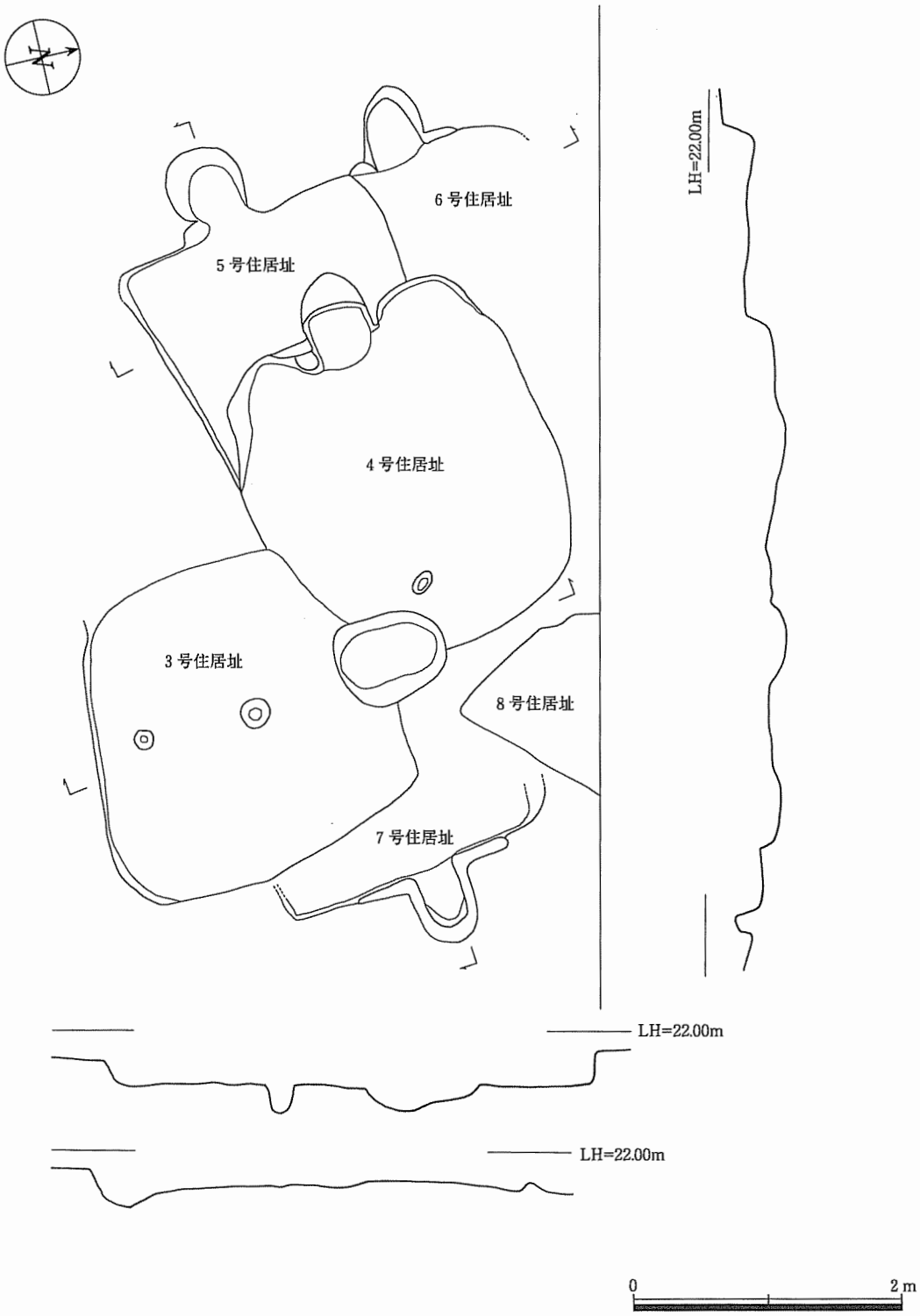
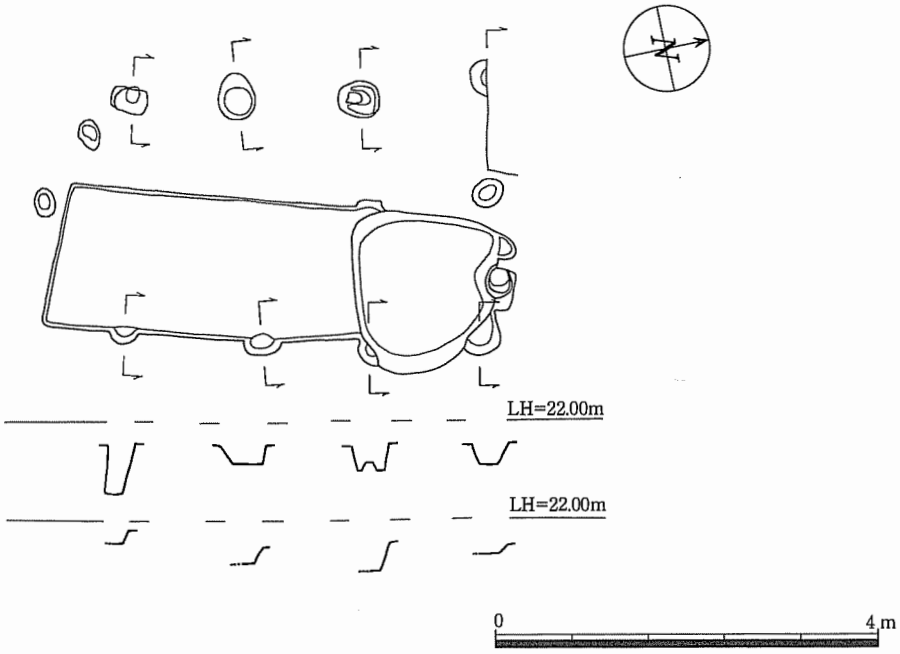


図 6　3 ～ 8 号竪穴住居址実測図（1/50）

1号掘立柱建物址



2号掘立柱建物址

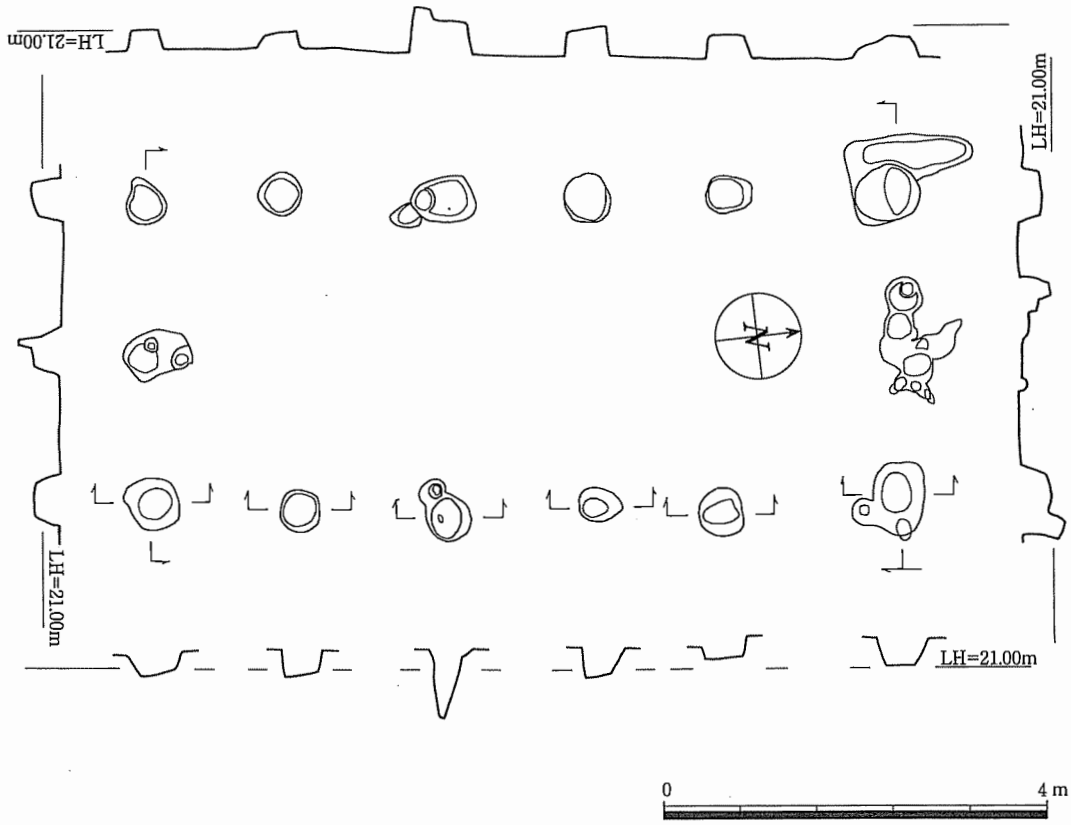


図7　1・2号掘立柱建物址実測図（1/100）

8号竪穴住居址（図6・図版4－25）

住居床面の一部のみの確認となった。大部分が調査区外にあり、東西1.2m・南北1.2mの範囲で住居南西隅の床面のみが露呈する。

9号竪穴住居址（図5・図版4－26）

2.3×2.0mの長方形プランを呈し、主軸は南北に沿う。床面には東南側を除いてほぼ全面に硬化面が広がっていた。残存部の壁高は10cmである。住居内北東隅で長軸55cm、短軸45cmの楕円形のピットを検出したが、ピットの性格は不明である。竈は北壁の中央に存在する。袋状の三角形を呈し、焚口幅30cm、奥行き60cmである。一部がピットによって切られている。

＜掘立柱建物址＞

1号掘立柱建物址（図7・図版5－27）

調査区北東隅において柱穴8個が並ぶ。棟方向に大きく撹乱が入っているため、柱穴列1列の約半分は破壊されていた。棟方向は桁行3間、梁行1間の建物を想定している。梁間に撹乱部分がおよぶため明らかではないが、梁行2間の可能性もある。柱穴の直径はすべて50cm前後であり、確認できた深さは20～65cmである。本来もっと上位から掘り込まれていたものと考えられる。桁柱間は1.5～1.8m、桁長は4.8mである。梁長は3.0～3.4mであり、北に向かって若干幅広になる。また調査区外に柱穴列が続く可能性もある。

2号掘立柱建物址（図7・図版5－28）

調査区南東部分において柱穴12個が並ぶ。棟方向はN－6°－Eである。桁行5間、梁行1間または2間の建物を想定している。柱穴はすべて比較的円形に近く、直径は70cm前後である。確認できた深さは0.2～1.0cmと統一性を欠く。桁柱間は1.8～2.3mであり、桁長は9.8mである。梁長は4mである。

Ⅱ区西遺物集中区

Ⅱ区南部壁にかかるように検出した遺物が比較的集中して出土したもので、西集中区と銘々した。土師器・須恵器・瓦など約200点が出土した。遺物の分布状況は平面的であり、掘り込みの痕跡なども認められなかった。

（4）出土遺物（図8～15・図版6～10）

出土遺物はパンケース50箱以上に及ぶが、遺構出土の遺物が少ないため、包含層出土遺物を加えおよそ250点を図示した。出土遺物の種類は、古代の土師器・須恵器・磁器（越州窯青磁）の各種容器の他に、布目瓦、土馬、紡錘車、土製円盤、石槌、砥石、刀子や鎌などの鉄器がある。容器の中には墨書土器やヘラ書き土器も含まれていた。また、少量ではあるが、深鉢形土器や石鏃などの縄文時代の遺物も出土している。

1号竪穴住居址出土遺物

1・2は須恵器碗である。3・4は須恵器坏である。4は底部に「×」字のヘラ書きがある。5は土師器のヘラミガキの碗である。6は土師器鉢である。7・8は土師器坏、9は皿である。6～8は竈より出土しており、本住居の時期を示す。ほぼ8世紀末～9世紀初のものと思われる。

2号竪穴住居址出土遺物

10～12は須恵器の坏である。10の底面には墨書にて蕨状の文字がかかれている。13は須恵器の大型壷の盤状口縁である。

3号竪穴住居址出土遺物

14・15はいずれも土師器の坏である。15は灯明皿として使用されている。14は竈より出土した。

ピット出土遺物

16～22はピットから出土した遺物である。16は須恵器の碗の破片である。17は回転ヘラミガキを施す土師器坏であるが、底部に墨書が認められる。鮮明でないが、後述する他の墨書から類推すると「衆」の字の可能性もある。18～20は土師器坏である。19は1号掘立柱建物の柱穴の一つである1号ピットから出土した。また10も2号掘立柱建物の柱穴の一つである127号ピットから出土したものである。いずれも8世紀中葉～後半の資料であり、竪穴住居址とほぼ変わらない時期の所産である。21は須恵器の有耳壷の破片である。22は土師器甕の口縁部である。

Ⅱ区西側遺物集中区出土遺物

本集中区からは時期の異なる多量の遺物が出土した。ここに図示したものはその一部である。

23～39は須恵器である。23～33は碗、34～37は坏である。38は壷の口縁部、39は甕の底部であろう。土師器には碗（40～60・251・252）、坏（61～71）、甕（72・74・75）、鉢（73）、把手付甕（76）などがある。251・252はいずれも丹塗りの碗であり、外面に「東ヵ」と「衆」の墨書がある。77から80は布目瓦の平瓦片である。81は砥石、82は両端および側面に潰れた痕跡のある石杵である。

土師器や須恵器の坏や碗をみると、8世紀後半代～9世紀前半を中心としているものの、10世紀中頃までのものが含まれている。45の碗は墨書が書かれた251・253と同じ丹塗り碗で、9世紀中頃の様相を示している。これらに加えて、10世紀前半代の様相を示す57～60などの碗も含まれる。このような時期幅をもつ本集中区がいかなる作用によって形成されたのかは不明である。

包含層・その他出土遺物

83～85はⅢ区で認められた焼土から出土したもので、83・84は土師器の坏、85は赤焼きの須恵器の甑である。いずれも大型の破片であり、このⅢ区は重機によって掘削して遺構面を検出していることから、この焼土は削平された竪穴住居址の竈などの残りであった可能性もある。91も同様の性格をもつと思われる焼土3から出土した土師器鉢の口縁部片である。86～90はⅡ区のほぼ中央部に設定したトレンチからまとまって出土したもので、86は土師器碗、87は丹塗りの土師器坏、88は須恵器坏、89・90は須恵器の甕の底部である。

図11～図15は2層を中心とした包含層出土品である。図11・12には須恵器、図13・14には土師器、図14には土製品・石製品、縄文時代遺物、図15には墨書・ヘラ書き土器、鉄器を掲載した。

92は高台付皿、93～111は須恵器碗、112～127は須恵器坏・皿、128～130は碗である。130は蓋の可能性もある。110の碗の外面には「北ヵ」の墨書がある。131～146は須恵器蓋である。147は須恵器小壷、148・149は須恵器高坏の脚部、151はラッパ状を呈する口縁部をもつ須恵器の大型壷の口縁部片、152は有耳壷の胴部片である。153～162は須恵器の甕の口縁部片である。163は肩の張る須恵器壷の肩部の破片であり、外面には厚い自然釉が付着している。164は須恵器長頸壷の胴部～底部片、165・166は須恵甕の底部片である。167は盤状の口縁をもつ須恵器の壷であり、168は大甕の口縁部片である。

169～180は土師器碗、181～204は坏・皿である。190の小型皿は灯明皿として使用されている。202から204は糸切り＋板目圧痕の底部をもち12世紀後半まで下る資料である。205～207は黒色土器A（内黒）の碗、213は同じ内黒の坏の破片である。214は土師器の小型壷で、215は丹塗りの高坏片である。216～223は土師器甕である。

208から212は越州窯青磁の碗の破片である。蛇目高台をもち、208～211が全釉であり、212は高台を残して施釉されている。

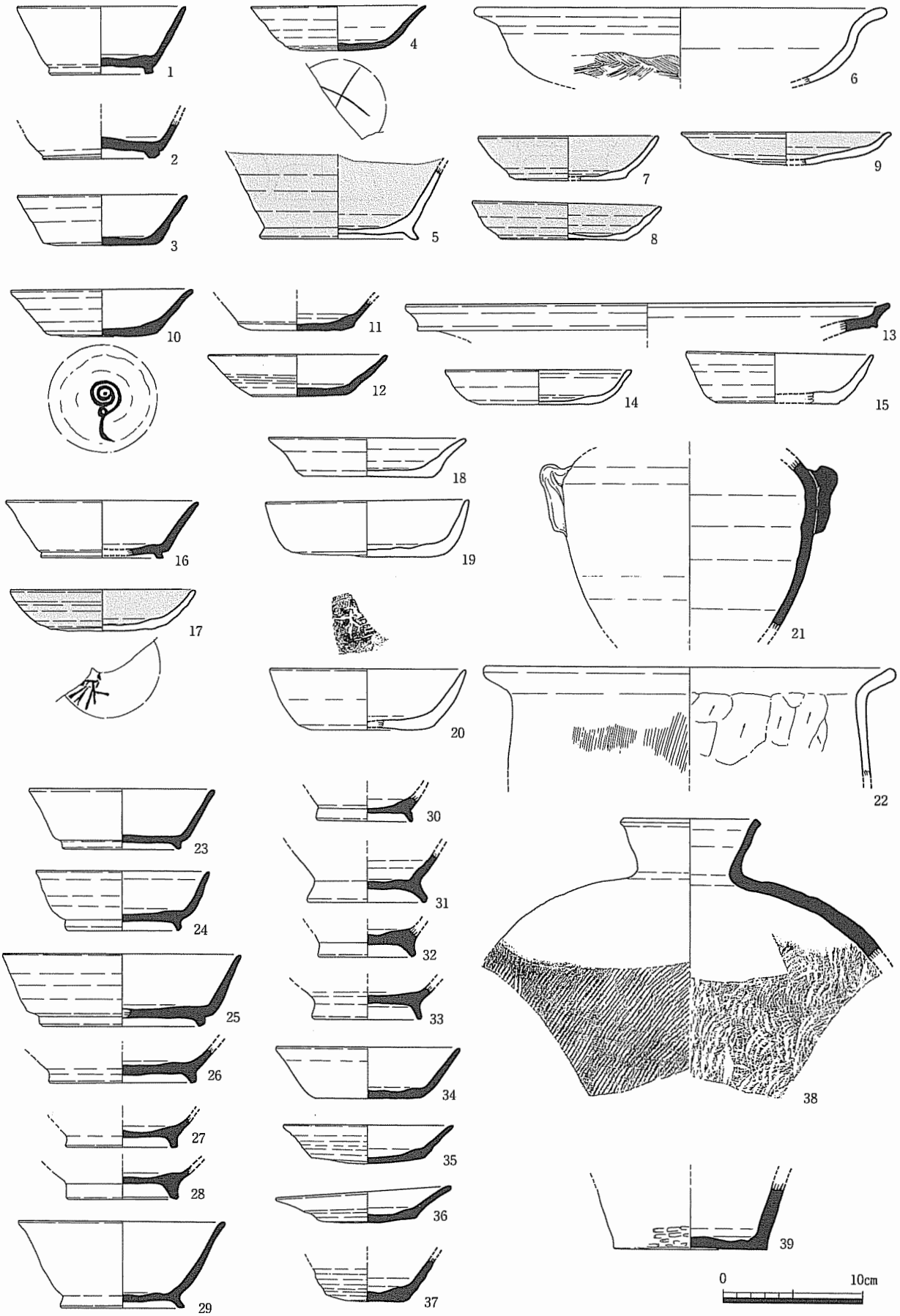


図８　9407調査地点出土遺物実測図１（1/4）

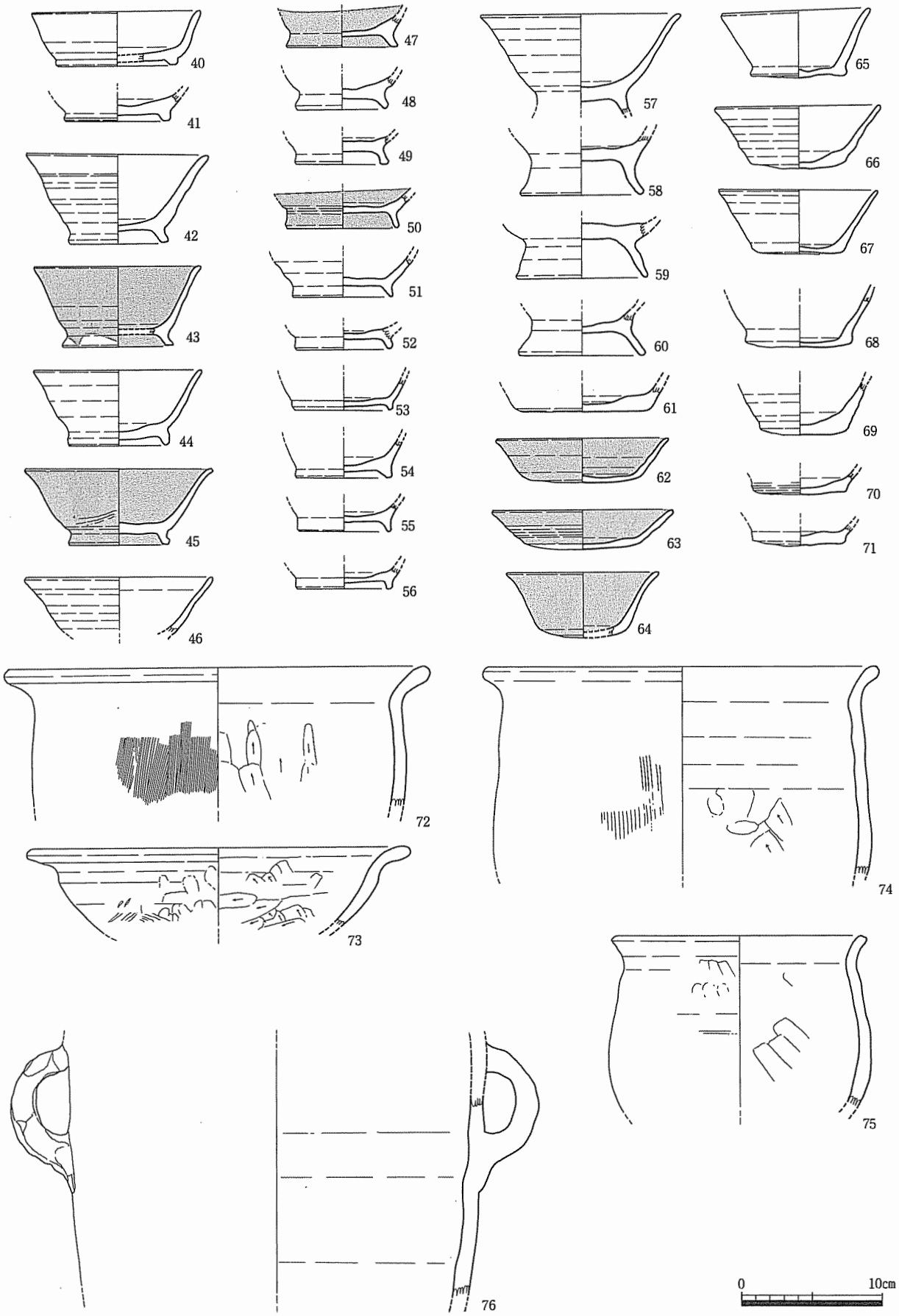


図９　9407調査地点出土遺物実測図２（1/4）

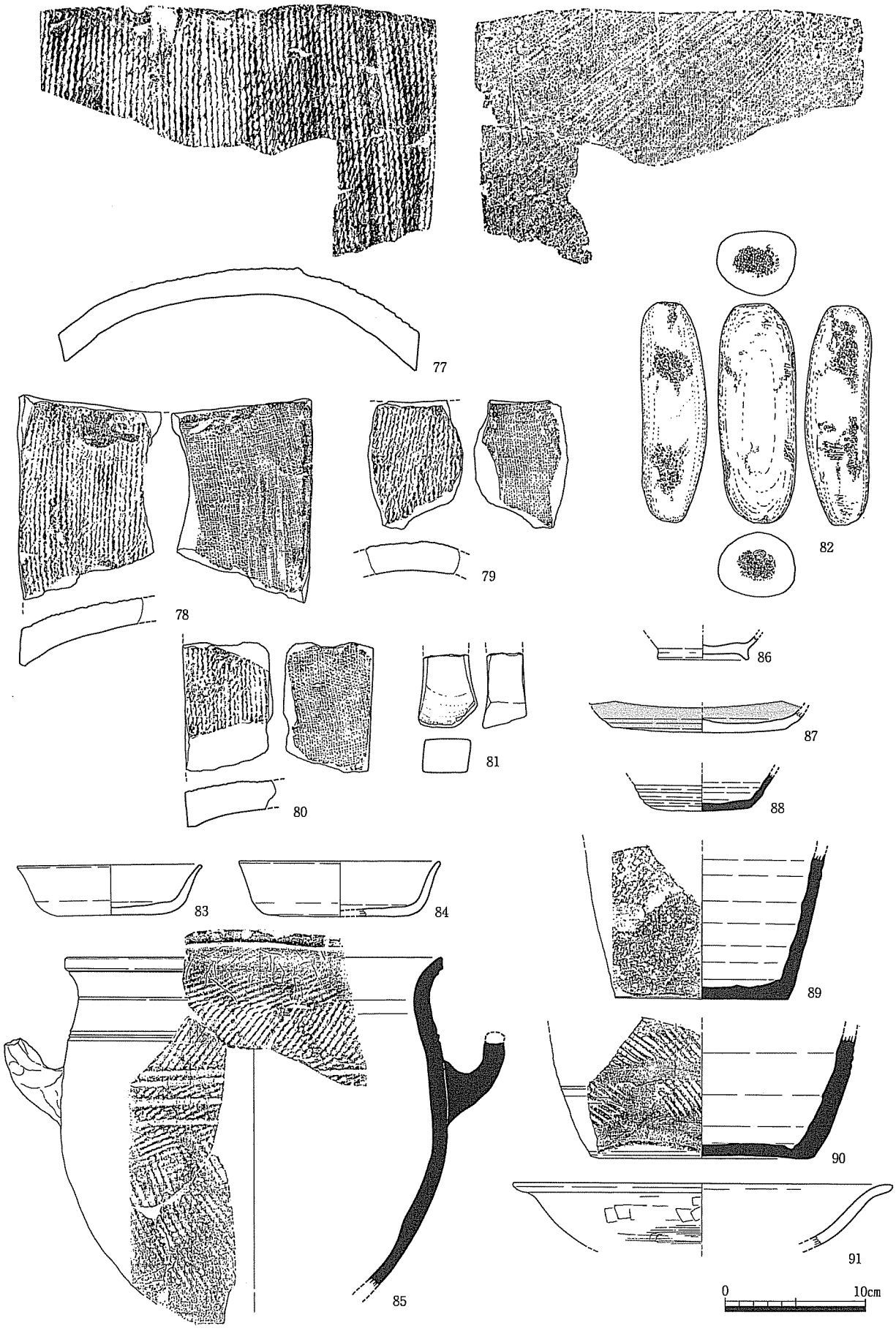


図10　9407調査地点出土遺物実測図３（1/4）

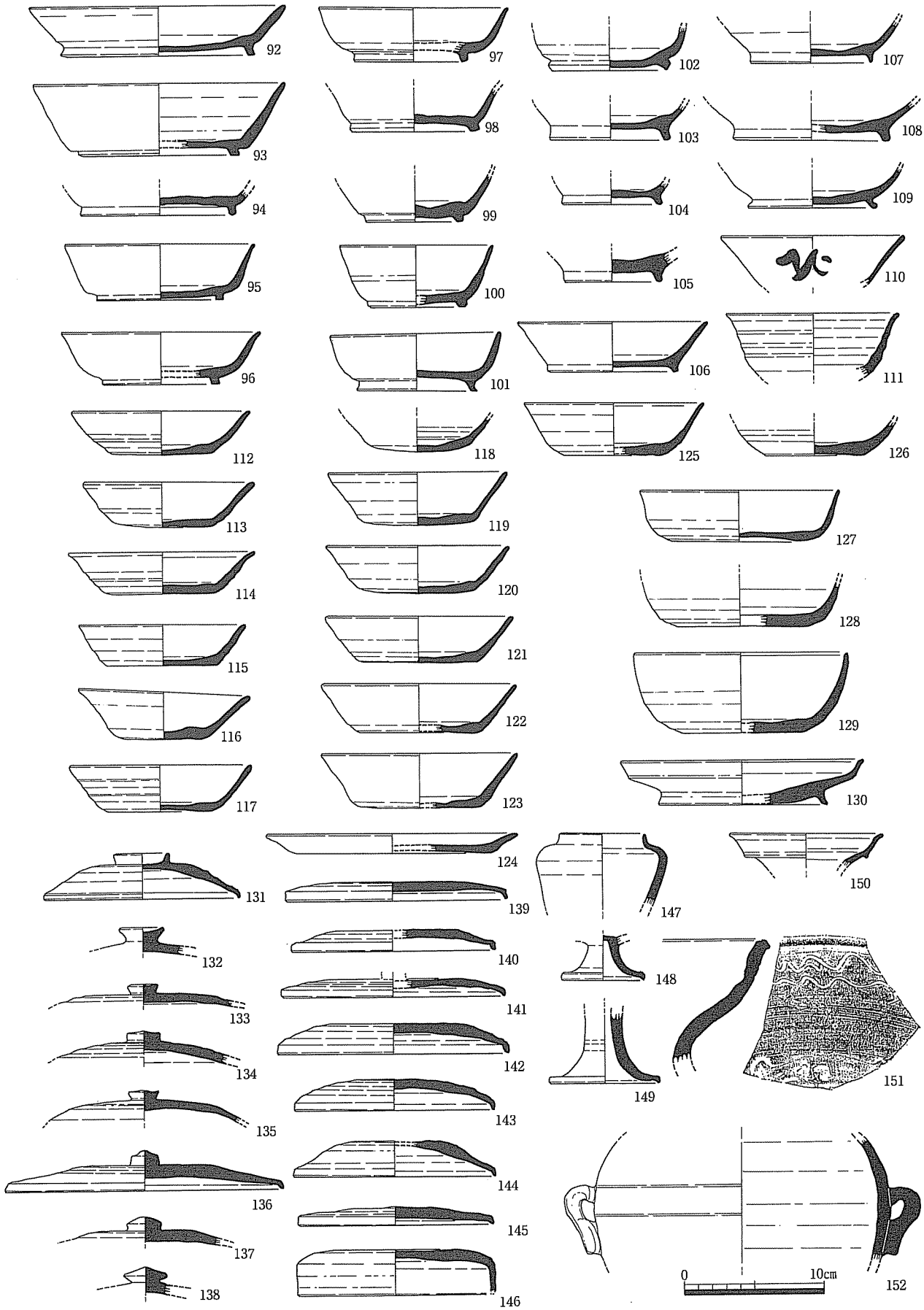


図11　9407調査地点出土遺物実測図４（1/4）

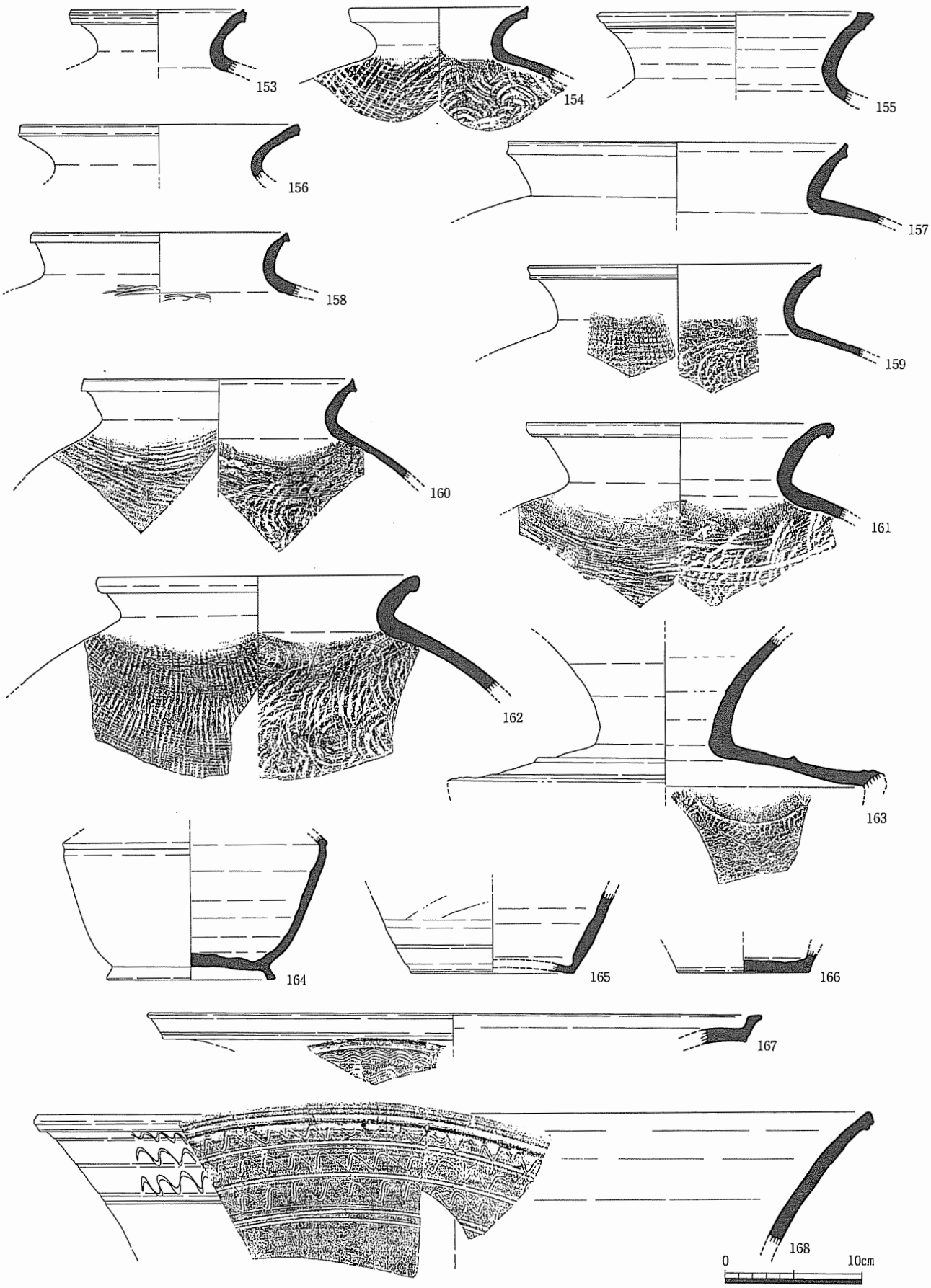


図12　9407調査地点出土遺物実測図５（1/4）

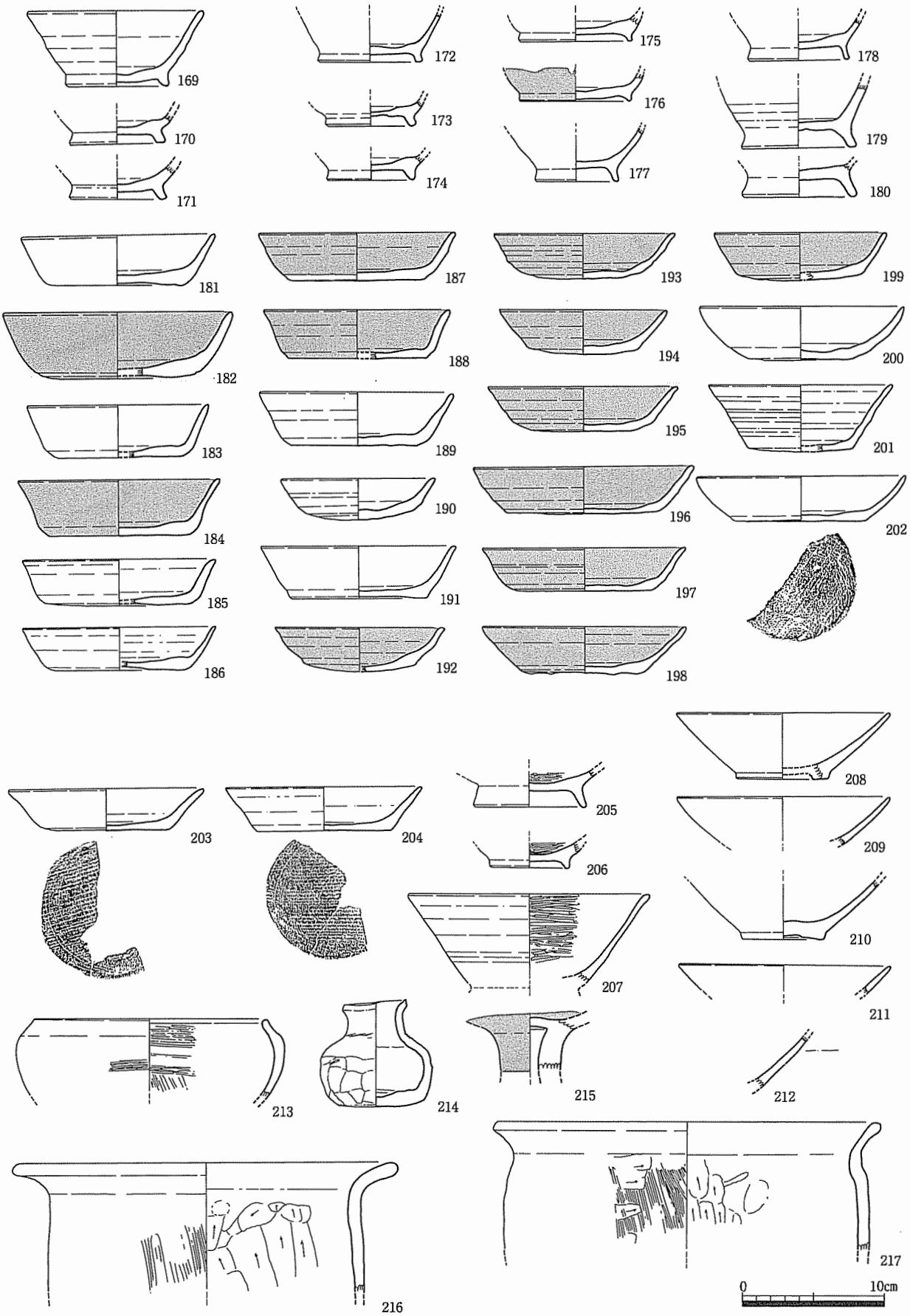


図13　9407調査地点出土遺物実測図 6 （1/4）

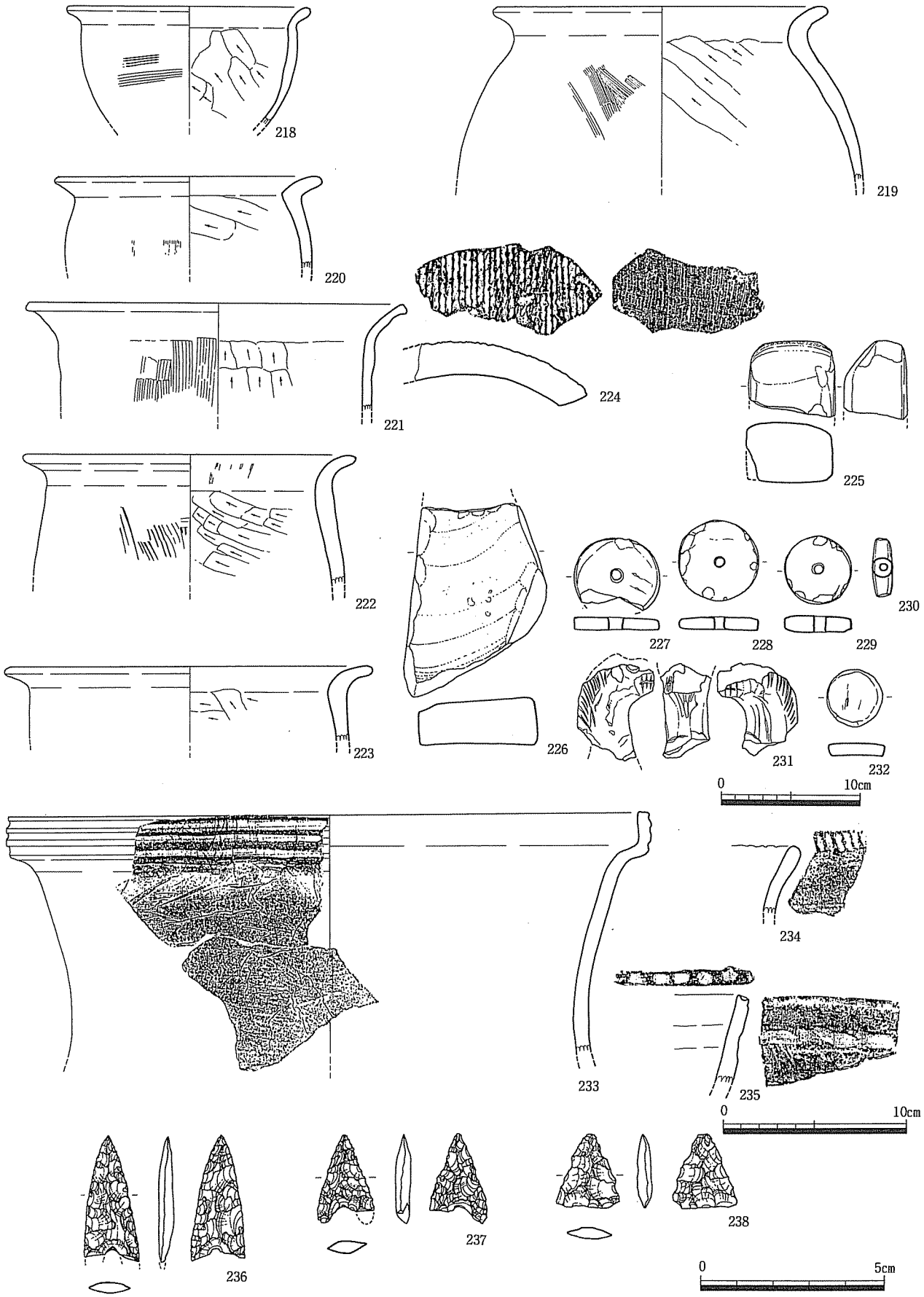


図14　9407調査地点出土遺物実測図７（1/4・1/3・2/3）

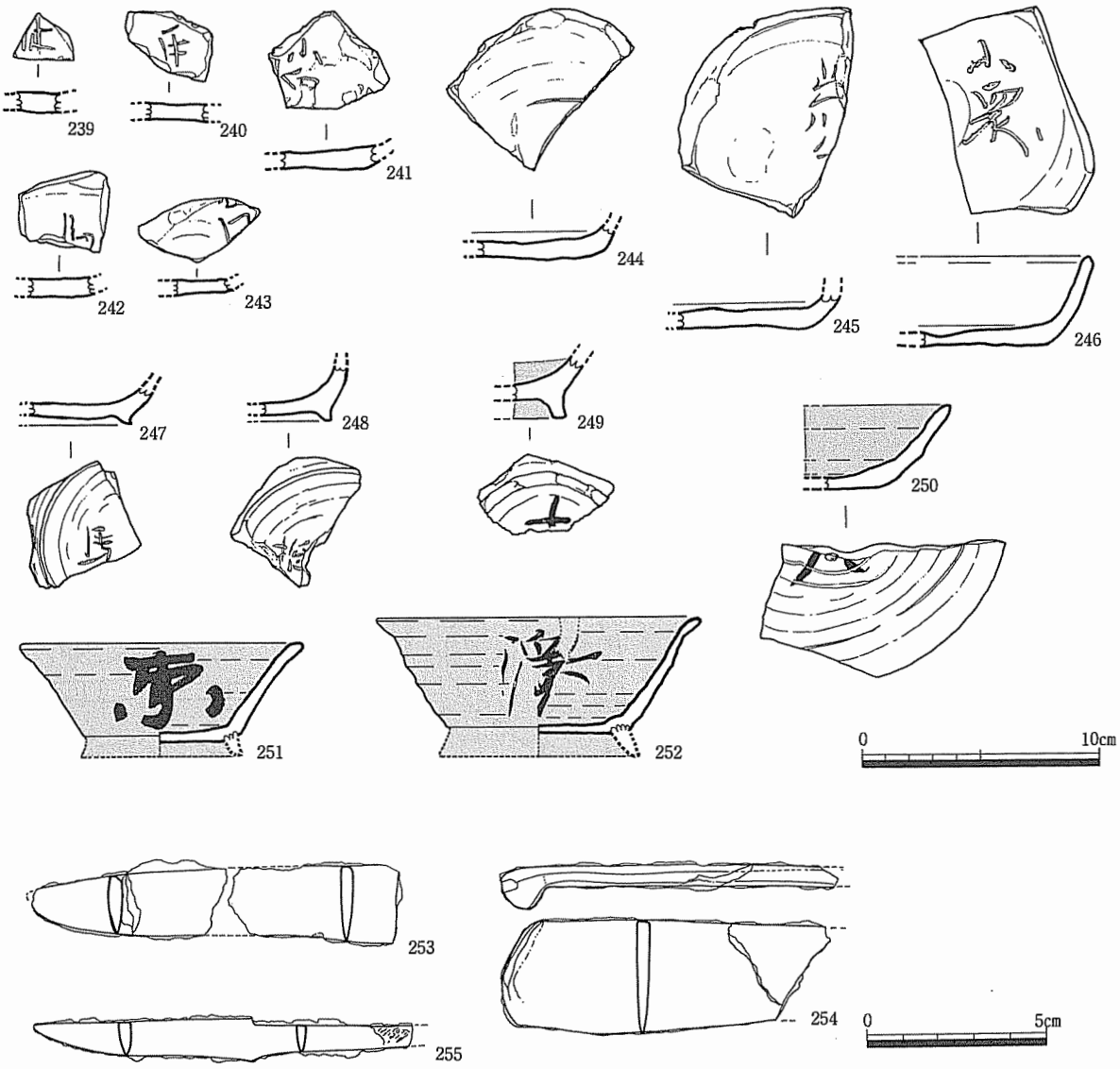


図15　9407調査地点出土遺物実測図 8 （1/3・1/2）

224は布目瓦の平瓦の破片である。225・226は砥石である。225は天草産の砂岩を使用している。砥石はこのほか３点ほど出土している。227から229は紡錘車であるが、227が土器片再利用のもので、229は砂岩製である。232は同じく土製の円盤であるが、整形焼成で、再利用品ではない。用途不明。230は土製漁網錘である。

231は須恵製の土馬である。頸～頭部の破片であるが、鬣上部と頭部、鼻面を欠損している。目は粘土を貼りつけて形作っており、鬣や耳はつまみ出して整形している。鬣および口（歯）をヘラによる沈線によって描き出している。

233から235は縄文土器片である。233は晩期初頭の深鉢形土器の口縁部片である。234は口唇部に刻み目をもつ。235は口唇部に丸い刺突文を連続して施すものである。236から238は石鏃である。236は安山岩製、237は黒曜石製、238はチャート製である。

表3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
8	1	須恵器	碗	口径 12.0 底径 7.4 器高 5.0	口縁3/4欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/1	1号住居址	
	2	須恵器	碗	底径 8.4	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/1 外：Hue2.5Y6/1	1号住居址	
	3	須恵器	坏	口径 12.0 底径 8.3 器高 3.6	1/3欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/1 外：Hue5Y7/1	1号住居址付近	
	4	須恵器	坏	口径 12.6 底径 6.9 器高 3.2	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/1 外：Hue5Y7/1	1号住居址	ヘラ記号
	5	土師器	碗	底径 11.3 最大径 14.3	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/3 外：Hue7.5YR7/3	1号住居址付近	内外丹塗
	6	土師器	鉢	口径 29.4	口縁部1/3・底部欠	内：削り・ナデ 外：ハケ目	内：Hue10YR7/3 外：Hue7.5YR6/6	1号住居址竈	
	7	土師器	坏	口径 8.0 底径 8.2 器高 3.2	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	1号住居址竈	内外丹塗
	8	土師器	坏	口径 13.4 底径 9.0 器高 2.6	口縁一部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/8 外：Hue5YR6/8	1号住居址竈	内外丹塗
	9	土師器	皿	口径 15.0	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/8 外：Hue5YR6/8	1号住居址付近	内外丹塗
	10	須恵器	坏	口径 12.9 底径 7.6 器高 3.4	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y5/1 外：Hue7.5Y5/1	2号住居址	墨書（記号）
	11	須恵器	坏	底径 8.4 最大径 10.8	1/2・口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/1	2号住居址	
	12	須恵器	坏	口径 12.9 底径 6.8 器高 3.0	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：HueN6/0 外：HueN6/0	2号住居址	
	13	須恵器	壺	口径 34.45	1/8	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/2 外：Hue5YR5/2	2号住居址	硬質
	14	土師器	坏	口径 13.3 底径 8.8 器高 2.5	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	3号住居址竈	
	15	土師器	坏	口径 13.4 底径 8.5 器高 3.6	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	3号住居址	灯明皿
	16	須恵器	碗	口径 23.7 底径 8.75 器高 4.1	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y5/1 外：Hue5Y5/1	100号ピット	
	17	土師器	坏	口径 13.3 底径 7.3 器高 3.0		内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR5/6	122号ピット	墨書・内外丹塗・内側煤付着
	18	土師器	坏	口径 14.1 底径 9.2 器高 2.8	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	101号ピット	糸切・板目
	19	土師器	坏	口径 14.5 底径 9.7 器高 4.0	口縁一部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR8/6	1号ピット	
	20	土師器	坏	口径 14.0 底径 7.6 器高 4.4	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR8/6	127号ピット	内底ヘラ書判読不能・灯明皿
	21	須恵器	有耳壺	最大径 18.0	肩部1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5GY5/1 外：HueN4/1	125号ピット	把手
	22	土師器	甕	口径 29.3	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR7/4 外：Hue7.5YR7/4	2号ピット	
	23	須恵器	碗	口径 13.2 底径 8.5 器高 4.3	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/2 外：Hue2.5YR5/1	西側遺物集中区	硬質

表3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
8	24	須恵器	碗	口径 12.5 底径 8.3 器高 4.3	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：HueN6/0 外：HueN6/0	西側遺物集中区	
	25	須恵器	碗	口径 17.2 底径 12.0 器高 5.2	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/1 外：Hue5Y8/1	西側遺物集中区	軟質
	26	須恵器	碗	底径 10.6	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/1 外：Hue5Y8/2	西側遺物集中区	軟質
	27	須恵器	碗	底径 8.0	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/2 外：Hue5Y8/2	西側遺物集中区	軟質
	28	須恵器	碗	底径 7.9	1/2・口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/1 外：Hue5Y7/1	西側遺物集中区	やや軟質
	29	須恵器	碗	口径 14.8 底径 8.8 器高 6.2	口縁大部分欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR5/1 外：Hue10YR5/1	西側遺物集中区	
	30	須恵器	碗	底径 5.8	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y5/1 外：Hue5Y5/1	西側遺物集中区	やや軟質
	31	須恵器	碗	底径 8.7	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue7.5Y6/1	西側遺物集中区	
	32	須恵器	碗	底径 7.0	底部のみ	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y7/2	西側遺物集中区	やや軟質
	33	須恵器	碗	底径 7.8	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y7/2	西側遺物集中区	墨書か？
	34	須恵器	坏	口径 13.2 底径 7.3 器高 3.7	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/1 外：Hue2.5Y5/1	西側遺物集中区	
	35	須恵器	坏	口径 12.3 底径 8.0 器高 2.8	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/2 外：Hue5Y7/2	西側遺物集中区	
	36	須恵器	坏	口径 12.6 底径 7.2 器高 2.2	口縁部1/4欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/2 外：Hue2.5Y6/2	西側遺物集中区	
	37	須恵器	坏	底径 5.6	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y6/1 外：Hue5Y6/1	西側遺物集中区	
	38	須恵器	壺	口径 10.0 最大径 24.7	口縁部1/2	内：同心円文 外：平行叩き	内：Hue7.5Y7/1 外：Hue7.5Y5/1	西側遺物集中区	
	39	須恵器	甕	底径 10.9 最大径 13.2	底部1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/4 外：Hue2.5YR5/6	西側遺物集中区	底部付近叩き
9	40	土師器	碗	口径 12.1 底径 8.7 器高 3.9	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	西側遺物集中区	
	41	土師器	碗	底径 7.6	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	西側遺物集中区	
	42	土師器	碗	口径 12.9 底径 7.3 器高 6.4	口縁部一部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR6/4	西側遺物集中区	
	43	土師器	碗	口径 11.9 底径 7.9 器高 5.4	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR5/8 外：Hue2.5YR5/8	西側遺物集中区	内外丹塗
	44	土師器	碗	口径 12.0 底径 7.2 器高 5.4	口縁部1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	西側遺物集中区	
	45	土師器	碗	口径 13.4 底径 7.2 器高 5.45	口縁部1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/6 外：Hue5YR5/6	西側遺物集中区	内外丹塗
	46	土師器	碗（坏）	口径 13.5	口縁1/8	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR4/2 外：Hue10TE4/2	西側遺物集中区	

表3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
9	47	土師器	碗	底径　7.9	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR6/4	西側遺物集中区	内外丹塗
	48	土師器	碗	底径　6.7	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	西側遺物集中区	
	49	土師器	碗	底径　6.7	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR5/3 外：Hue7.5YR5/3	西側遺物集中区	
	50	土師器	碗	底径　8.2	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/6 外：Hue5YR5/6	西側遺物集中区	内外丹塗
	51	土師器	碗	底径　7.1	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR5/3	西側遺物集中区	
	52	土師器	碗	底径　6.9	高台	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 外：Hue10YR7/4	西側遺物集中区	
	53	土師器	碗	底径　7.2	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR6/4	西側遺物集中区	底裏板目
	54	土師器	碗	底径　6.8	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	西側遺物集中区	
	55	土師器	碗	底径　6.4	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/3 外：Hue7.5YR7/3	西側遺物集中区	
	56	土師器	碗	底径　6.8	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR7/6	西側遺物集中区	
	57	土師器	碗	口径　14.2	口縁部1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/4 外：Hue7.5YR7/6	西側遺物集中区	外面煤付着
	58	土師器	碗	底径　8.8	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR6/4	西側遺物集中区	外面煤付着
	59	土師器	碗	底径　9.3	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/3 外：Hue7.5YR7/4	西側遺物集中区	
	60	土師器	碗	底径　9.0	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	西側遺物集中区	
	61	土師器	坏	底径　8.8	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	西側遺物集中区	
	62	土師器	坏	口径　12.2 底径　8.0 器高　3.2	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue5YR6/6	西側遺物集中区	内外丹塗
	63	土師器	坏	口径　12.9 底径　8.2 器高　2.7	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR7/6	西側遺物集中区	内外丹塗
	64	土師器	坏	口径　10.9	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	西側遺物集中区	内外丹塗
	65	土師器	坏	口径　10.6 底径　6.9 器高　4.8	口縁2/3欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/4 外：Hue5YR7/8	西側遺物集中区	
	66	土師器	坏	口径　11.8 底径　6.6 器高　4.5	口縁2/3欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	西側遺物集中区	
	67	土師器	坏	口径　11.3 底径　6.0 器高　4.6	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	西側遺物集中区	
	68	土師器	坏	底径　7.5	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/4 外：Hue7.5YR7/4	西側遺物集中区	
	69	土師器	坏	底径　6.0	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR8/3	西側遺物集中区	

表3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
9	70	土師器	坏	底径　6.7	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR7/6	西側遺物集中区	
	71	土師器	坏	底径　6.5	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue	西側遺物集中区	
	72	土師器	甕	口径　30.1	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue10YR6/4	西側遺物集中区	煤付着
	73	土師器	鉢	口径　27.2	口縁1/5	内：ハケ目 外：削り	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR6/3	西側遺物集中区	煤付着
	74	土師器	甕	口径　28.0	1/2・底部欠	内：削り・ナデ 外：ハケ目	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR8/6	西側遺物集中区	
	75	土師器	甕	口径　18.0 最大径　19.0	口縁1/5	内：削り 外：ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	西側遺物集中区	外面煤付着
	76	土師器	把手付甕	最大径　29.4	把手部分	内：格子叩き 外：ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	西側遺物集中区	把手
10	77	瓦	平瓦	長さ　26.0 幅　19.0 厚さ　2.0		内：布目 外：縄目	内：Hue10YR6/1 外：Hue10YR6/1	西側遺物集中区	
	78	瓦	平瓦	長さ　14.5 幅　10.5 厚さ　2.5		内：布目 外：縄目	内：Hue7.5YR7/3 外：Hue7.5YR7/3	西側遺物集中区	
	79	瓦	平瓦	長さ　9.0 幅　6.5 厚さ　2.0		内：布目 外：縄目	内：Hue10YR6/3 外：Hue10YR6/3	西側遺物集中区	
	80	瓦	平瓦	長さ　9.2 幅　6.8 厚さ　2.5		内：布目 外：縄目	内：Hue7.5YR7/3 外：Hue7.5YR7/3	西側遺物集中区	
	81	石器	砥石	長さ　5.1 幅　4.5 厚さ　3.1	約1/2		Hue10YR7/4	西側遺物集中区	天草産
	82	石器	石杵	長さ　15.8 幅　5.2 厚さ　4.7	完形		青緑色	西側遺物集中区	
	83	土師器	坏	口径　13.2 底径　8.0 器高　3.6	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/8 外：Hue5YR7/8	焼土1	
	84	土師器	坏	口径　14.4 底径　10.0 器高　4.0	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR7/8 外：Hue5YR7/8	焼土1	
	85	須恵器	把手付甕(甑？)	口径　27.0 最大径　27.6	1/2・底部	内：ナデ 外：格子叩き	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	焼土1	把手
	86	土師器	碗	底径　6.5	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR8/6	トレンチ遺物集中区	
	87	土師器	坏	底径　12.4	1/2・口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	トレンチ遺物集中区	内外丹塗
	88	須恵器	坏	底径　7.05	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/2 外：Hue2.5Y6/2	トレンチ遺物集中区	板目
	89	須恵器	甕	底径　12.3	底部1/2	内：回転ナデ 外：格子叩き	内：Hue5Y8/1 外：Hue10YR7/3	トレンチ遺物集中区	
	90	須恵器	甕	底径　15.9	底部1/2	内：同心円 外：格子叩き	内：Hue7.5YR6/2 外：Hue7.5YR5/1	トレンチ遺物集中区	
	91	土師器	鉢	口径　27.0	1/4・底部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	焼土3	外面煤付着
11	92	須恵器	高台付皿	口径　18.4 底径　14.0 器高　3.6	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：HueN5/0 外：Hue2.5Y6/1	Ⅱ層	

表３　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
11	93	須恵器	碗	口径　18.1 底径　11.5 器高　5.3	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y6/1 外：HueN5/0	Ⅱ層	
	94	須恵器	碗	底径　11.2	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/3 外：Hue2.5YR6/4	Ⅱ層	硬質
	95	須恵器	碗	口径　13.6 底径　9.1 器高　4.1	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：HueN7/0 外：HueN6/0	Ⅱ層	
	96	須恵器	碗	口径　14.4 底径　8.4 器高　3.8	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y5/1 外：Hue2.5Y5/1	Ⅱ層	
	97	須恵器	碗	口径　13.6 底径　8.5 器高　4.0	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue2.5YR5/2	Ⅱ層	硬質
	98	須恵器	碗	底径　9.2	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/1 外：Hue5Y7/1	Ⅱ層	
	99	須恵器	碗	底径　7.0	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/1 外：Hue5Y5/1	Ⅱ層	軟質
	100	須恵器	碗	口径　11.0 底径　7.1 器高　4.5	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR6/2 外：Hue5Y7/1	Ⅱ層	外面中心に自然釉
	101	須恵器	碗	口径　12.2 底径　8.6 器高　4.15	口縁1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/3 外：Hue5YR4/2	Ⅱ層	硬質
	102	須恵器	碗	底径　8.8	1/2・口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5T6/1 外：Hue5Y8/1	Ⅱ層	軟質
	103	須恵器	碗	底径　8.6	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y7/2	Ⅱ層	外面一部煤付着
	104	須恵器	碗	底径　7.2	底部のみ	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y7/2	Ⅱ層	軟質
	105	須恵器	碗	底径　7.0	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/1 外：Hue5Y7/1	Ⅱ層	軟質
	106	須恵器	碗	口径　13.7 底径　9.4 器高　3.7	1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y5/1 外：Hue2.5Y4/1	Ⅱ層	
	107	須恵器	碗	底径　8.8	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y4/1 外：Hue5Y6/1	Ⅱ層	軟質
	108	須恵器	碗	底径　11.2	1/2・口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR7/1 外：Hue2.5YR5/1	Ⅱ層	軟質
	109	須恵器	碗	底径　9.2	1/2・口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：HueN5/0 外：HueN5/0	Ⅱ層	
	110	須恵器	碗	口径　13.2	口縁部1/5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	Ⅱ層	墨書「北ヵ」
	111	須恵器	碗	口径　12.4	口縁1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/3 外：Hue10R4/2	Ⅱ層	硬質
	112	須恵器	坏	口径　12.8 底径　7.1 器高　3.2	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/1 外：Hue2.5Y6/1	Ⅱ層	墨書か？
	113	須恵器	坏	口径　12.4 底径　7.4 器高　3.3	口縁3/4欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/2 外：Hue5Y8/2	Ⅱ層	軟質
	114	須恵器	坏	口径　13.4 底径　8.3 器高　3.1	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y5/1 外：Hue2.5Y5/1	Ⅱ層	やや軟質
	115	須恵器	坏	口径　12.05 底径　8.0 器高　3.0	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/2 外：Hue5Y7/2	Ⅱ層	

表3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
11	116	須恵器	坏	口径 12.3 底径 6.6 器高 3.7	口縁部1/3欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/1 外：Hue5Y7/1	Ⅱ層	
	117	須恵器	坏	口径 13.1 底径 7.2 器高 3.35	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/1	Ⅱ層	
	118	須恵器	坏	底径 7.3	3/5口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/2 外：Hue2.5Y6/1	Ⅱ層	底部板目
	119	須恵器	坏	口径 12.8 底径 8.2 器高 3.9	1/5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10Y5/1 外：Hue10Y5/1	Ⅱ層	
	120	須恵器	坏	口径 13.0 底径 8.2 器高 3.4	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/1 外：Hue5Y7/1	Ⅱ層	
	121	須恵器	坏	口径 13.4 底径 8.4 器高 3.3	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/2 外：Hue2.5Y8/2	Ⅱ層	軟質
	122	須恵器	坏	口径 14.0 底径 9.0 器高 3.6	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y8/1 外：Hue7.5Y8/1	Ⅱ層	軟質
	123	須恵器	坏	口径 14.0 底径 8.5 器高 3.9	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/2 外：Hue5Y7/2	Ⅱ層	軟質
	124	須恵器	皿	口径 18.0 底径 14.0 器高 1.4	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/1 外：Hue7.5Y6/1	Ⅱ層	
	125	須恵器	坏	口径 13.0 底径 6.9 器高 3.8	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y5/2 外：Hue2.5Y6/1	Ⅱ層	断面 Hue10Y7/6 硬質
	126	須恵器	坏	底径 7.0	1/3・口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR5/1 外：Hue10YR6/1	Ⅱ層	硬質
	127	須恵器	坏	口径 14.3 底径 9.3 器高 3.7	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y6/2 外：Hue7.5Y6/1	Ⅱ層	
	128	須恵器	碗	底径 9.2	1/3口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/3 外：Hue2.5YR5/4	Ⅱ層	硬質
	129	須恵器	碗	口径 15.4 底径 8.6 器高 5.8	1/4	内：回転ナデ 外：一部ヘラ切	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue10YR5/1	Ⅱ層	硬質 断面 Hue7.5YR7/4
	130	須恵器	高台付皿(蓋？)	口径 17.4 底径 12.0 器高 3.2	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR6/3 外：Hue5YR6/4	Ⅱ層	硬質
	131	須恵器	蓋	口径 14.1 天井部径4.1	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/2 外：Hue5YR7/6	Ⅱ層	硬質
	132	須恵器	蓋	最大径 6.0 天井部径3.4	鈕のみ	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR5/2 外：Hue7.5YR5/3	Ⅱ層	
	133	須恵器	蓋	最大径 12.6 天井部径2.2	1/3・口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y6/1	Ⅱ層	つまみ
	134	須恵器	蓋	最大径 12.3 天井部径 2.4	鈕	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y8/2 外：Hue2.5Y8/2	Ⅱ層	軟質
	135	須恵器	蓋	最大径 13.6 天井部径2.4	1/4・口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y5/1 外：Hue2.5Y5/1	Ⅱ層	
	136	須恵器	蓋	口径 20.1 天井部径2.0	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/2 外：Hue5Y8/2	Ⅱ層	やや軟質
	137	須恵器	蓋	最大径10.9 天井部径 2.5	鈕のみ	内：回転ナデ 外：回転ヘラ削り	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue5Y6/1	Ⅱ層	
	138	須恵器	蓋	天井部径3.2	鈕のみ	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/1 外：Hue2.5Y6/2	Ⅱ層	外面自然釉

表 3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
11	139	須恵器	蓋	口径　16.0 器高　1.4	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR5/2 外：Hue5YR4/1	Ⅱ層	硬質・外面自然釉
	140	須恵器	蓋	口径　14.5 器高　1.5	1/2	内：回転ナデ 外：一部ヘラ削り	内：Hue7.5Y6/1 外：Hue5Y6/1	Ⅱ層	硯転用か
	141	須恵器	蓋	口径　16.0 器高　1.3	1/3・鈕欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR5/1 外：Hue2.5Y6/1	Ⅱ層	
	142	須恵器	蓋	口径　16.6 器高　2.2	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y5/1 外：Hue5Y5/1	Ⅱ層	
	143	須恵器	蓋	口径　14.35 器高　2.2	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y5/2 外：Hue5Y6/2	Ⅱ層	
	144	須恵器	蓋	口径　16.4 器高　2.6	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/1 外：Hue5Y8/2	Ⅱ層	軟質
	145	須恵器	蓋	口径　14.0 器高　1.35	1/2	内：回転ナデ 外：一部ヘラ削り	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue5Y6/2	Ⅱ層	
	146	須恵器	蓋	口径　14.15 器高　3.25	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR5/2 外：Hue5YR5/4	Ⅱ層	外面自然釉・硬質
	147	須恵器	小壷	口径　6.3 最大径　9.4	1/3・底部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y7/1	Ⅱ層	
	148	須恵器	高坏	底径　6.1	脚1/4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue7.5Y5/1 外：Hue7.5Y5/1	Ⅱ層	
	149	須恵器	高坏	底径　8.05	脚1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR4/4 外：Hue2.5YR4/4	Ⅱ層	断面5Y8/1・硬質
	150	須恵器	壺	口径　11.1	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/2 外：Hue5YR6/4	Ⅱ層	硬質
	151	須恵器	壺		口縁部片 1/8	内：ナデ 外：波状文	内：Hue5Y4/1 外：Hue7.5Y5/1	Ⅱ層	内側自然釉
	152	須恵器	有耳壺	最大径　21.0	把手部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue10YR5/1	Ⅱ層	
12	153	須恵器	甕	口径　13.0	口頸部1/4	内：同心円文 外：	内：Hue5Y5/1 外：Hue5Y6/2	Ⅱ層	
	154	須恵器	甕	口径　13.0 最大径　17.6	口縁1/2	内：同心円文 外：平行叩き	内：Hue7.5Y6/1 外：Hue7.5Y6/1	Ⅱ層	
	155	須恵器	甕	口径　20.05	口縁1/6	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue2.5Y5/2 外：Hue10YR5/2	Ⅱ層	
	156	須恵器	甕	口径　20.2	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue7.5Y5/1 外：Hue2.5Y5/2	Ⅱ層	緑色自然釉
	157	須恵器	甕	口径　24.6 最大径　34.0	口縁1/6	内：同心円文 外：平行叩き	内：HueN7/0 外：Hue7.5Y7/1	Ⅱ層	
	158	須恵器	甕	口径　18.8	口頸部1/4	内：同心円文 外：平行叩き	内：Hue2.5YR4/2 外：Hue7.5Y7/1	Ⅱ層	自然釉
	159	須恵器	甕	口径　21.3 最大径　27.4	口頸部2/3	内：同心円文 外：格子目叩き	内：Hue5Y6/1 外：Hue2.5Y5/1	Ⅱ層	頸部のみ赤焼
	160	須恵器	甕	口径　19.5 最大径　28.0	口頸部1/4	内：同心円文 外：平行叩き	内：Hue5Y5/1 外：Hue5Y4/1	Ⅱ層	自然釉
	161	須恵器	甕	口径　22.2 最大径　24.1	口頸部1/4	内：同心円文 外：平行叩き	内：Hue5Y7/1 外：Hue5Y7/1	Ⅱ層	

表 3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
12	162	須恵器	甕	口径 23.2 最大径 34.7	口頸部2/3	内：同心円文 外：平行叩き	内：Hue5Y7/2 外：Hue5Y6/1	II層	
	163	須恵器	壺	最大径 27.0	頸部	内：同心円文 外：	内：Hue2.5Y5/1 外：Hue10YR5/3	II層	内外緑色 自然釉
	164	須恵器	長頸壺	底径 12.4 最大径 19.1	胴・底部 1/4	内：同心円文 外：平行叩き	内：Hue2.5Y6/2 外：Hue5YR5/4	II層	
	165	須恵器	壺（甕）	底径 11.8 最大径 17.7	底部1/5	内：ナデ 外：ヘラ削り	内：Hue7.5YR5/3 外：Hue2.5Y6/1	II層	
	166	須恵器	壺（甕）	底径 9.6	底部2/3	内：ナデ 外：ヘラナデ	内：Hue5YR6/4 外：Hue5YR5/3	II層	赤焼
	167	須恵器	甕	口径 44.5	口縁部片	内：ナデ 外：波状文	内：Hue5Y7/1 外：Hue5YR4/3	II層	赤焼
	168	須恵器	甕	口径 61.1	口縁部片	内：ナデ 外：波状文	内：HueN3/0 外：HueN5/0	II層	自然釉
13	169	土師器	碗	口径 12.4 底径 7.3 器高 5.4	口縁部1/2 欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	II層	
	170	土師器	碗	底径 6.7	底部	内：ヘラナデ 外：ナデ	内：Hue7.5YR8/4 外：Hue10YR8/4	II層	
	171	土師器	碗	底径 6.7	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/4 外：Hue7.5YR8/4	西トレンチ住居址	
	172	土師器	碗	底径 7.5	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR4/2	II層	煤付着
	173	土師器	碗	底径 6.5	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/2 外：Hue5YR8/4	II層	
	174	土師器	碗	底径 6.3	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	II層	高台に煤付着
	175	土師器	碗	底径 8.1	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/3 外：Hue2.5Y7/3	II層	
	176	土師器	碗	底径 7.9	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	II層	外丹塗
	177	土師器	碗	底径 5.9	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外 Hue10YYR6/3	II層	
	178	土師器	碗	底径 8.5	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR6/4	II層	
	179	土師器	碗	底径 8.0	底部	内：ナデ 外：ヘラナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	II層	
	180	土師器	碗	底径 8.0	口縁部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 外：Hue7.5YR7/6	II層	
	181	土師器	坏	口径 13.7 底径 9.5 器高 3.7	口縁部一部 欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR8/6	II層	
	182	土師器	坏	口径 16.2 底径 10.5 器高 4.8	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR8/4	II層	内外丹塗・黒斑・ 煤付着
	183	土師器	坏	口径 12.8 底径 8.0 器高 3.8	口縁1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y5/1 外：Hue5YR6/6	II層	自然釉
	184	土師器	坏	口径 14.3 底径 9.5 器高 4.0	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	II層	内外丹塗

表 3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
13	185	土師器	坏	口径 13.65 底径 10.3 器高 3.3	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR8/6	Ⅱ層	
	186	土師器	坏	口径 13.6 底径 10.1 器高 3.1	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR7/8 外：Hue2.5YR7/8	Ⅱ層	
	187	土師器	坏	口径 14.0 底径 9.8 器高 3.4	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7 Y6:	Ⅱ層	内外丹塗
	188	土師器	坏	口径 13.2 底径 10.0 器高 3.6	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	Ⅱ層	内外丹塗
	189	土師器	坏	口径 13.9 底径 8.9 器高 3.8	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	西トレンチ住居址	
	190	土師器	坏	口径 11.0 底径 7.4 器高 3.0	ほぼ完形	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue2.5YR6/8	Ⅱ層	灯明皿
	191	土師器	坏	口径 13.9 底径 9.7 器高 3.7	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	Ⅲ層	
	192	土師器	坏	口径 12.0 底径 7.75 器高 3.2	1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	Ⅱ層	内外丹塗
	193	土師器	坏	口径 13.8 底径 6.0 器高 3.3	口縁部1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ヘラ磨き	内：Hue5YR7/6 外：Hue2.5YR6/8	Ⅱ層	丹塗・外面煤付着
	194	土師器	坏	口径 11.8 底径 7.5 器高 3.2	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue7.5YR7/6	Ⅱ層	内外丹塗・煤付着
	195	土師器	坏	口径 13.7 底径 7.2 器高 3.0	口縁1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue5YR6/6	Ⅱ層	内外丹塗・煤付着
	196	土師器	坏	口径 15.6 底径 10.8 器高 3.4	2/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	Ⅱ層	内外丹塗
	197	土師器	坏	口径 14.4 底径 9.8 器高 3.1	1/4	内：ヘラ磨き 外：ナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue5YR6/6	Ⅱ層	内外丹塗
	198	土師器	坏	口径 14.35 底径 7.45 器高 3.45	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	Ⅱ層	内外丹塗
	199	土師器	坏	口径 12.2 底径 8.5 器高 3.5	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	Ⅱ層	内外丹塗
	200	土師器	坏	口径 14.4 底径 7.6 器高 3.9	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR8/6	Ⅱ層	外面煤付着
	201	土師器	坏	口径 13.0 底径 7.7 器高 4.8	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/4 外：Hue7.5YR7/4	Ⅱ層	
	202	土師器	Ⅲ	口径 14.8 底径 9.3 器高 3.3	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/4 外：Hue5YR7/4	Ⅱ層	糸切
	203	土師器	Ⅲ	口径 13.8 底径 9.0 器高 3.0	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue Hue5YR7/8 外：Hue	Ⅱ層	回転糸切・板目
	204	土師器	Ⅲ	口径 13.9 底径 9.6 器高 3.1	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	Ⅱ層	回転糸切・板目
	205	土師器	碗	底径 7.9	底部	内：黒色磨研 外：ナデ	内：HueN1.5/1 外：Hue10YR8/4	Ⅱ層	内黒
	206	土師器	碗	底径 5.6	口縁欠	内：黒色磨研 外：回転ナデ	内：HueN1.5/0 外：Hue5YR6/6	Ⅱ層	内黒
	207	土師器	碗（坏）	口径 17.0	口縁1/4	内：黒色磨研 外：ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5YR6/6	Ⅱ層	内黒

表3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
13	208	青磁	越州・碗	口径　15.0 底径　6.5 器高　4.7	1/6	内： 外：	内：Hue2.5Y6/4 外：Hue2.5Y6/4	Ⅱ層	
	209	青磁	越州・碗	口径　15.0	口縁部片	内： 外：	内：Hue5Y6/3 外：Hue5Y6/3	Ⅱ層	
	210	青磁	越州・碗	底径　5.8 最大径　13.3	底部	内： 外：	内：Hue5Y6/3 外：Hue5Y6/3	Ⅱ層	高台に砂目跡
	211	青磁	越州・碗	口径　15.0	口縁部片	内： 外：	内：Hue5Y5/2 外：Hue5Y5/2	Ⅱ層	
	212	青磁	越州・碗		胴部片	内： 外：	内：Hue5Y5/3 外：Hue7.5YR6/2	Ⅱ層	見込みに砂目跡
	213	土師器	碗	口径　16.5 最大径19.0	口縁1/4	内：黒色磨研 外：ナデ	内：HueN1.5/0 外：Hue2.5Y8/3	Ⅱ層	内黒
	214	土師器	壺	口径　4.5 底径　6.3 器高　7.2	完形	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	Ⅱ層	
	215	土師器	高坏	最大径6.8	脚部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/6 外：Hue2.5YR6/6	Ⅱ層	内外丹塗
	216	土師器	甕	口径　27.25	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR8/4	Ⅱ層	
	217	土師器	甕	口径　27.3	口縁1/5	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR5/4 外：Hue10YR7/4	Ⅱ層	
14	218	土師器	甕	口径　17.6	口縁1/5	内：削り 外：ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/3	Ⅱ層	煤付着
	219	土師器	甕	口径　24.0 最大径　29.0	口縁1/5	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR7/8	Ⅱ層	煤付着
	220	土師器	甕	底径　19.2	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/8	Ⅱ層	
	221	土師器	甕	口径　27.5	口縁1/5	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	Ⅱ層	煤付着
	222	土師器	甕	口径　24.05	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR6/3 外：Hue10YR7/4	Ⅱ層	煤付着
	223	土師器	甕	口径　26.5	口縁1/5	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR7/6	Ⅱ層	煤付着
	224	瓦	平瓦	長さ　13.0 幅　7.3 厚さ　2.31		内：布目 外：縄目	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	Ⅱ層	
	225	石器	砥石	長さ　6.0 幅　5.2 厚さ　4.3	完形		Hue2.5Y8/4	Ⅱ層	天草産
	226	石器	砥石	長さ　13.5 幅　9.3 厚さ　3.7	約1/2		Hue5Y6/2	Ⅱ層	砂岩
	227	土製品	紡錘車	直径　6.03 厚さ　0.97 孔径　0.78	2/3		Hue10YR7.4	Ⅱ層	
	228	土製品	紡錘車	直径　5.8 厚さ　1.03 孔径　0.63	完形	研磨	Hue10YR7/6 Hue10YR8/6	Ⅱ層	
	229	石器	紡錘車	直径　4.84 厚さ　1.21 孔径　0.69	周辺部一部欠損	丁寧な研磨	Hue2.5Y5/2	Ⅱ層	砂岩
	230	土製品	土錘	長さ　4.09 最大径　1.42 孔径　5.2	完形	ナデ	Hue10YR7/6	Ⅱ層	

表 3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
14	231	土製品	土馬	長さ 6.98 首径 3.0	頭・首部		Hue2.5GY5/1	Ⅱ層	須恵質
	232	土製品	紡錘車	直径 3.91 厚さ 0.95	完形	面取	Hue5YR6/6	Ⅱ層	孔無し・未製品
	233	縄文土器	深鉢	口径 34.2	口縁1/8	内：磨き 外：磨き	内：Hue5Y6/1 外：Hue2.5Y6/2	P104	
	234	縄文土器			口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue7.5YR5/4 外：Hue7.5YR5/4	Ⅱ層	口縁刻目
	235	縄文土器			口縁部1/6	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue7.5YR5/3 外：Hue5YR5/4	Ⅱ層	口縁に刺突文
	236	石器	打製石鏃	長さ 3.38 幅 1.44 厚さ 4.1	脚部欠損			包含層下	安産岩
	237	石器	打製石鏃	長さ 2.4 幅 1.47 厚さ 0.42	片脚欠損			4区一括	黒曜石
	238	石器	打製石鏃	長さ 1.98 幅 1.69 厚さ 0.36	ほぼ完形			包含層一括	チャート
15	239	土師器	坏		破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/4 外：Hue10YR6 ¥4:	包含層一括	ヘラ書「馬」
	240	土師器	坏		破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR7/3	包含層一括	ヘラ書 「馬」？
	241	土師器	坏		破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR8/6	包含層一括	ヘラ書 「小衆」
	242	土師器	坏		破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/4	包含層一括	ヘラ書 「馬」？
	243	土師器	坏		破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	包含層一括	ヘラ書 「●口」？
	244	土師器	坏	底径 6.0	底部1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR8/6	包含層一括	ヘラ書
	245	土師器	坏	底径 4.9	底部1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR7/4	包含層一括	ヘラ書・灯明皿
	246	土師器	坏	口径 6.7 底径 5.0 器高 3.7	1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	包含層一括	ヘラ書 「小衆」
	247	土師器	碗	底径 3.95	底部1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR8/6	Ⅱ層	ヘラ書「馬」
	248	土師器	碗	底径 3.5	底部1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue7.5YR7/6	包含層一括	ヘラ書「捻（聡）」・外側丹塗
	249	土師器	碗	底径 5.0	底部1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.6YR6/6 外：Hue5YR6/6	包含層一括	内外丹塗・墨書
	250	土師器	坏	底径 5.15	1/4	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	包含層一括	内外丹塗・墨書
	251	土師器	碗	口径 12.0 底径 4.1	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR8/4	西側遺物集中区	内外丹塗・ 墨書「東」・灯明皿
	252	土師器	碗	口径 13.6 底径 器高	1/4	内：ナデ 外：削り・ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR7/6	西側遺物集中区	内外丹塗・ 墨書「澤」・灯明皿
	253	鉄製品	刀子	長さ 10.2 幅 2.3 厚さ 0.4	1/2			Ⅲ層一括	茎欠損

表3　9407調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
15	254	鉄製品	鎌	長さ 9.2 幅 3.3 厚さ 0.4	1/2				先端欠損
	255	鉄製品	刀子	長さ 10.6 幅 1.3 厚さ 0.4					茎欠損

239～250は包含層から出土したヘラ書き土器と墨書土器である。すべて土師器であり、239～246・250が坏、247～249が碗である。ヘラ書き土器の場合、坏は内底、碗は外底に文字が刻まれている。墨書の場合はいずれも外底である。文字は破片のため判読し難いものもあるが、明確に「小衆」(241・246)、「馬」(240・247) と読めるものがある。これらを参考にすると239と242も「馬」と判読が可能である。245は「小衆」とも似るが、ここでは不明としておく。248は「捻」と判読できる。これら「馬」字のヘラ書き土器は本調査地点が駅家の施設の一部であったことを暗示しているきわめて貴重な資料である。

253は鉄刀の切先である。やや厚めの刃部をもつことから、時期的に新しいものの可能性もある。254は鎌の破片である。切先が折れている。255は刀子である。背の部分において茎と段を作り出している。

2．まとめ

本調査区においては主な遺構として竪穴住居址9基・掘立柱建物址2基を検出することができた。遺跡の存続時期は出土遺物より8世紀末～9世紀前半代に相当するであろう。住居址が北側に集中していることより、集落の中心はさらに北に位置するものと考えている。

分布上3群に分かれる竪穴住居址群は、大型の1・2号竪穴住居址とやや小型の3～9号という構成からなる。周辺地での調査成果をみると、これらは規模の違いにより、時期差の可能性があり、大型から小型へと変化したものと考えられる。よって、8世紀後半～9世紀前半期を2時期に分けたとして、8世紀代に1・2号竪穴住居址を、9世紀前半代に3～9号竪穴住居址を当てることができる。掘立柱建物址がこれら竪穴住居址群のどちらに付属するかについては、少ない遺物で決めるのは問題ではあるが、1号掘立柱建物址も2号掘立柱建物址も8世紀後半代の土師器を伴っており、1・2号竪穴住居址に伴う可能性が大きい。しかし、これは建物の建設時期の上限を示すに過ぎないため、今後は周辺での調査状況を見守る必要があろう。

本遺跡の性格を考えるとき、布目瓦、墨書・ヘラ書き土器、土馬などの存在は、一般的な農村集落の遺物保有の様相以上のものがあることには注意を払わねばならない。その中でも注目すべきものは、包含層から出土した「馬」銘を書いたヘラ書き土器である。これはほぼ8世紀後半代～9世紀中ごろの時期を示す遺物である。この黒髪町遺跡群一帯に駅家の存在が指摘されていることと、ヘラ書き土器が当初より使用場所を特定した生産品であったことを考え合わせると、おそらく駅に関する施設の一部がこの調査区に存在した可能性が高い。とくに「馬」という字を考えるとき、蚕養（こかい）駅の「駅」自体を指すというよりも、馬に関連する飼育舎やそれを管理する人の居住区を意味する言葉として理解されよう。それは、本調査区において検出された遺構群が駅家の中心的な施設を示すような企画性も規模も有していないことからも裏付けられよう。掘立柱建物址の方位はこの付近を通る官

道の方位 W－6°－N ではなく、むしろ東に傾いている。また、1号と2号の建物の方位も揃っていない。これもまた、周囲の状況に期待する部分が大である。

しかし、包含層出土遺物中には越州窯青磁も含まれ、9世紀後半代以降の遺物も含まれることから、量的には少なくなるが、本地点にはこれら品を入手できる勢力がこの段階になっても残存していたことを示しており、付近一帯が駅制の変化とともにどのような道を辿ったかについても今後の大きな課題である。

Ⅲ　黒髪南地区の調査

1．工学部実験棟新営に伴う発掘調査（9412調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

今回の調査地区は、黒髪キャンパス南地区工学部1号館の南側にあたり、共同実験棟および中庭として利用されていた場所である。本調査は工学部研究実験棟新設工事に伴う発掘調査であり、総調査面積は東西49.2m、南北33.8mで約1663㎡となる。しかしながら旧実験棟として利用されていた部分はその建造物の基礎が地中深くにまで及んで、埋蔵文化財の遺物包含層および遺構が破壊されていることを確認したため、精緻な調査は必要ないと判断した。したがって実際に発掘を行った範囲は、かつて中庭であった部分（東西22m・南北33.8m）であり、その調査面積は743.6㎡である。

試掘の結果、遺物包含層は地表下60cmから約60cmの厚さにわたって堆積していることが判明した。しかし調査区においても旧建築物および樹木移植による撹乱、さらに鉄筋コンクリートの解体片等の産業廃棄物が埋められているため、遺物包含層がかなりの広範囲にわたって乱されていることが判明した。したがって包含層内における遺構の確認は非常に煩雑で不可能に近いと判断し、上層を大部分除去し、包含層下の遺構が掘り込まれる面において遺構の確認を行う方向を採った。

b. 調査の経過

8月30日　樹木移植開始。
9月8日　重機による表土層除去。旧建築物の基礎などの産業廃棄物の除去。包含層の保存状態が非常に悪いため、遺構掘り込み面にて遺構確認を行う方針を立てた。
9月12日　作業員投入。撹乱部分を徹底的に除去。
9月22日　撹乱部除去終了。
9月26日　残存する包含層の掘り下げ開始。ピット内より土製印出土。
9月29日　雨天のため中止。
10月5日　調査区南側で溝状の遺構確認。調査区北東部分の一角に包含層の落ち込む部分を確認（以下北東地区）。
10月7日　溝状遺構内より籾殻を検出。遺構確認できず。同遺構内にて集石を検出。
10月11日　北東地区において遺構確認のためトレンチを掘る。土器片が大量に出土。住居址3基を確認。
10月12日　雨天のため中止。
10月13日　北東地区においてピットを検出。
10月14日　焼土などの痕跡を検出。住居には伴わない。
10月19日　図面作業開始。溝状遺構内の集石より採図。遺構配置図作成。
10月21日　雨天のため中止。
10月24日　層序確認のため3箇所を深掘りする。
10月26日　土層断面図作成。住居址5基を検出。かなり破壊されている。
10月27日　住居址さらに2基確認、検出。
10月28日　遺構検出状況・全景写真撮影。図面が完了した住居より地山整形面まで掘り下げる。
10月31日　掘り下げを完了し、採図を行い、調査を終了。

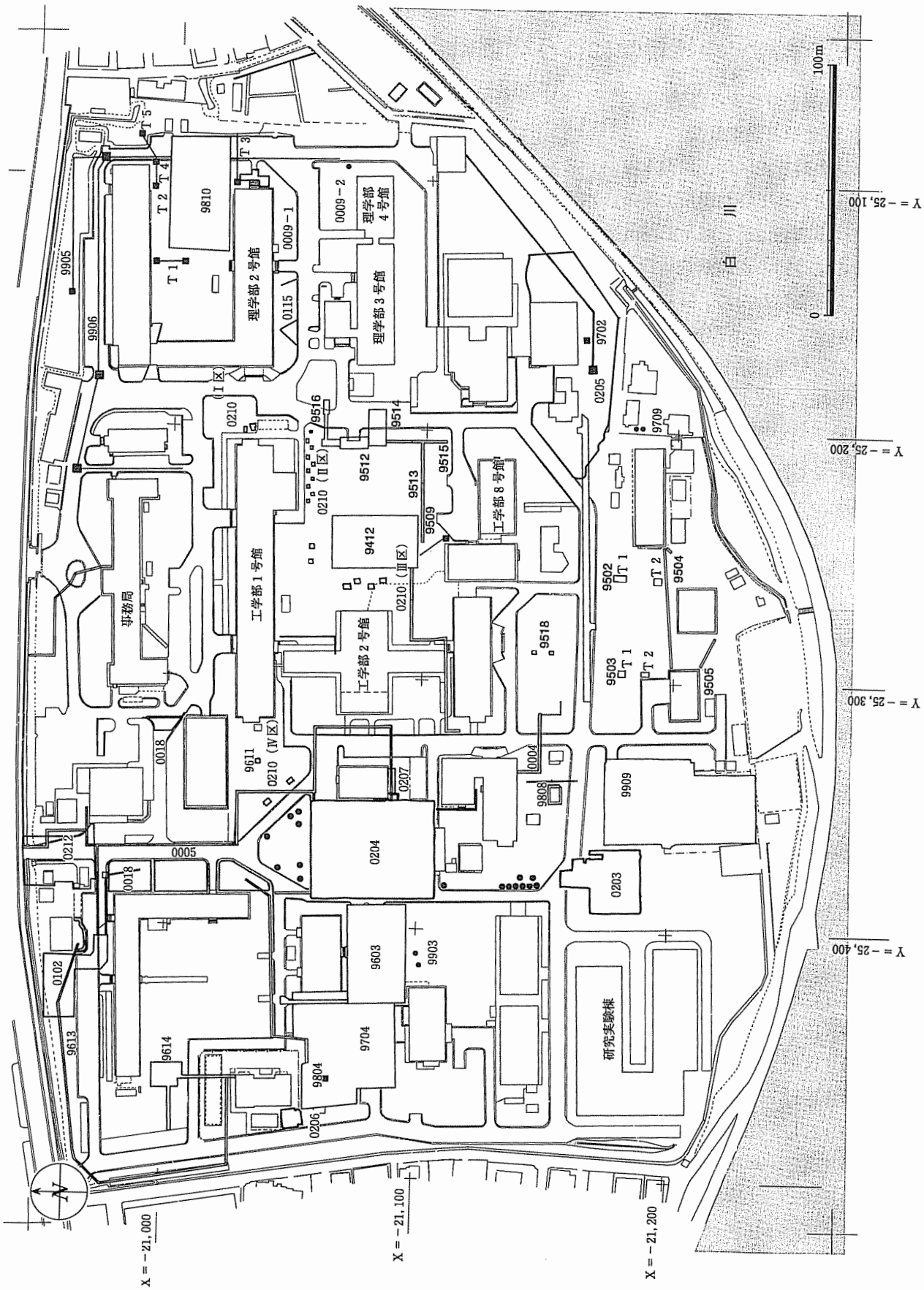


図16　黒髪南地区における既往調査地点と9412調査地点の位置図（1/2000）

c. 調査の組織

調　査　員：原田範昭（現熊本市文化課）

事 務 担 当：矢野希久代

発掘作業員：相川奈美・飯田孝俊・稲田和加・今村佳子・岩谷史記・内薗拓也・大塚宏之・大坪志子・岡部是央・岡本久美子・甲斐美紀代・甲斐田末男・川野博之・清田志野・蔵冨士寛・古賀敬子・後藤郁子・小深田ナオ・佐藤タエ子・澤田まり子・柴田やよひ・高崎芳美・高松幸一・田崎末人・田中末光・田中聡一・田中大介・田中レイ・土田ちえみ・中嶋由起子・中村さつき・中村哲史・橋本みどり・花田誉宣・林田恵子・春木藤美・番山明子・東真一・藤田實千代・藤岡泰江・古屋俊英・本田晶子・本田浩二郎・槇林啓介・益永武史・松井昭子・松浦一之介・松里健一・丸岡恵子・美浦雄二・村山志穂・山口健剛・山下直哉・吉岡和哉・若杉あずさ・若杉竜太

整理作業員：甲斐美紀代・古賀敬子・柴田やよひ・田中レイ・土田ちえみ・橋本みどり・林田恵子・春木藤美・藤岡泰江・松井昭子

（2）調査区の基本層序（図17）

今回の発掘調査において確認された本調査区の基本的な層序は以下のとおりである。

1層：褐色土層（10YR6/8）　表土及び撹乱層である。2度の整地が施されている。瓦・石など多く含む。厚さ80～100cm。

2層：a　黒褐色土層（10YR3/2）　二次堆積の包含層である。焼土粒・砂粒・小石など多く含む。乾燥した質感で、固くしまっている。厚さ30cm。

b　黒褐色土層（10YR2/2）　一次堆積の包含層である。焼土粒などわずかに含む。やや湿気

図17　9412調査地点土層断面実測図（1/30）

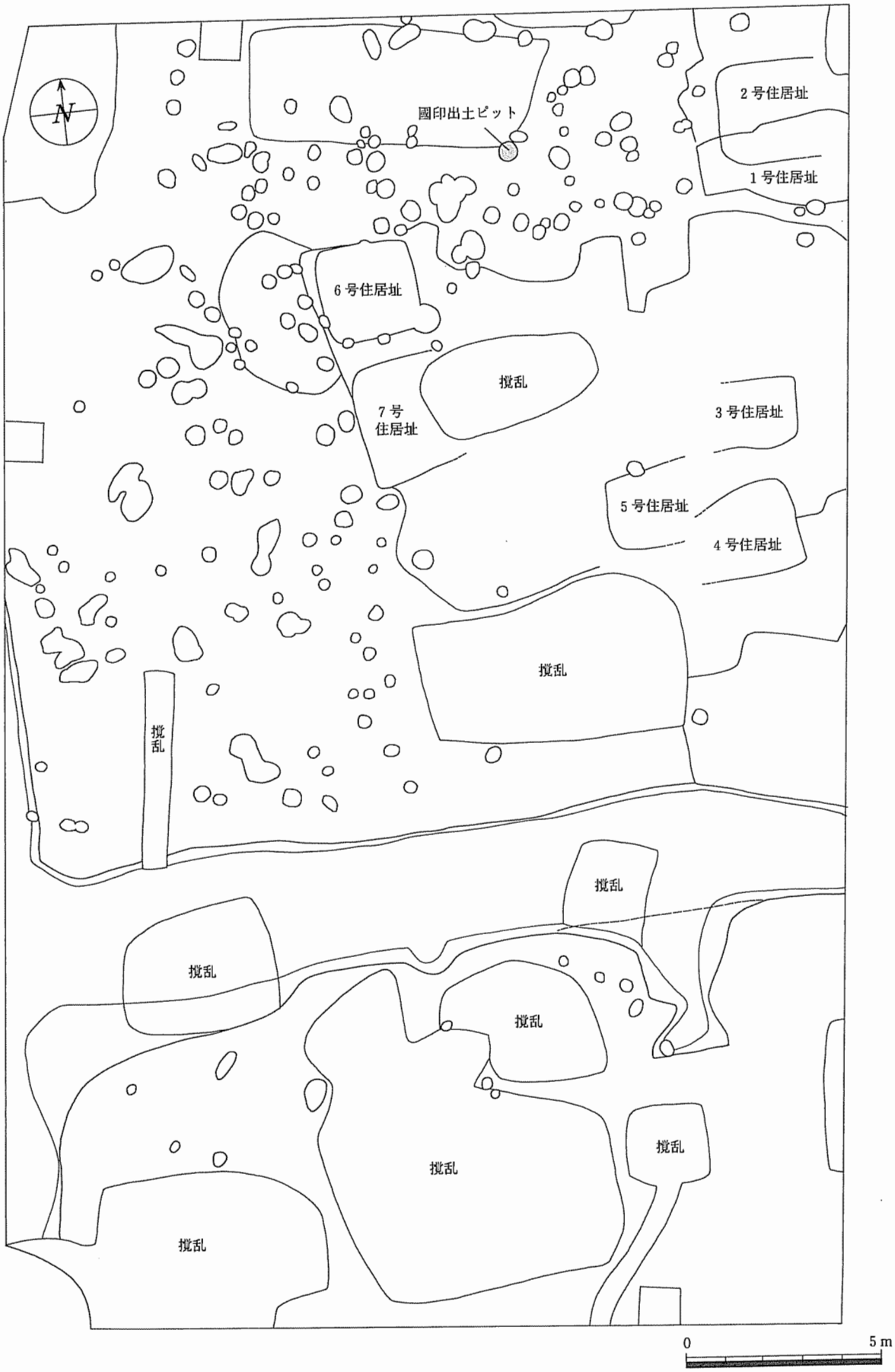


図18　9412調査地点遺構配置図（1/150）

のある質感で、粒子が細かく、柔らかい層である。厚さ15～50cm。

3層：明黄褐色土層（10YR6/8）　遺構はこの層に掘り込まれる。ローム層である。混入物はない。やや乾いた質感で粒子は細かい。厚さ20～40cm。

4層：明褐色土層（7.5YR5/8）　質的には3層と同様だが、色調が異なる。層と同質の塊がブロック状にはいる。厚さ15cm。

5層：明黄褐色土層（10YR6/6）　質的には3層と同様で、さらに固くしまる。混入物はない。厚さ20cm。

6層：にぶい黄橙色土層（10YR6/4）　3層同様の土質で4層がわずかに混入する。厚さ30cm。

7層：にぶい黄色土層（2.5Y6/3）　岩盤である。非常に硬質である。表面には細かい凹凸が激しい。

（3）検出遺構

今回の調査では、竪穴式住居址7基、溝状遺構1条、集石遺構1条を検出した。溝状遺構が近世以降のものである以外は古代のものと思われる。竪穴住居址は破壊を受け詳細の明らかでないものを含めて計7基が検出された。本調査区においては遺物包含層の保存状態が不良であったため、包含層下のⅢ層上面まで重機による削平を行い、Ⅲ層上面において残存する遺構の確認を行った。調査区北東部分にⅢ層を掘り込んで包含層が保存される一帯があり、住居址はすべてこの地区より検出された。上記の一帯は南北14m、東西14mにわたってL字状に確認でき、面積は約135㎡におよぶ。本来は今調査で検出した住居数以上の住居址が存在したものと推定している。

1号竪穴住居址（図19・図版12－3）

調査区の北東隅に位置する。一部旧建築物の攪乱による破壊を受けるが、基本とする平面プランは2×2mの隅丸方形を呈する。また住居西側に1.2×1.2mの方形の突出部が付設される。住居内におけるものと同様の硬化した床面をもち、壁体も一連のものである。したがって方形を主とする通例とは異なるが、1号住居址の一部として認定している。住居入口部分に相当するのではないかと考えられる。主軸はW－5°－Sである。残存する壁高は15cmである。柱穴は突出部西端に1個、住居外南壁際に1個を検出したが、全容は明らかではない。柱穴規模は、前者が直径63cmの円形で深さ55cm、後者が長軸65cm、短軸45cmの楕円形で深さ65cmである。

2号竪穴住居址（図19・図版12－4）

1号住居址の下に掘り込まれている。南側1/3が1号住居址と重複する。床面が柔らかいため確認が遅れ、掘方のみの検出となった。平面プランは、残存部と他の住居の例より2.2mの方形を想定している。主軸は東西方向である。残存する壁高は15cmである。柱穴は住居の周囲を廻る5個と住居内の1個を検出した。柱穴直径はいずれも30～35cmであり、深さは15～35cmとやや統一性を欠く。

3号竪穴住居址（図20・図版12－5）

調査区東側中央付近に位置する。破壊を受け詳細は明らかではないが、2.0×1.7mの長方形のプランを想定している。主軸はW－4°－Nである。非常に小規模の住居である。残存する壁高は16cmである。柱穴は確認できなかった。

4号竪穴住居址（図20・図版12－6）

3号住居址から約1mの距離をおいて南側に位置する。やはり破壊を受けており、詳細は明らかでない。2.5×2.3mの方形プランを想定している。主軸はW－10°－Sである。残存する壁高は20cmである。柱穴は東壁際に2個を検出した。直径20cm・深さ22cmのものと、長軸30cmの楕円形で深さ20cmのものである。3・4号ともに竈および炉跡は残存しない。

5号竪穴住居址（図20・図版12－7）

調査区の東側中央部分、3・4号住居址の西に位置する。確認が遅れたことと、破壊を受けていることより、詳細は明らかではない。残存部より1.8×2.0mの小規模の住居を想定している。主軸はW－5°－Sである。残存する壁高は25cmである。柱穴は住居内中央に直径30cm、深さ25cmのものを1基、住居北壁際に直径30cm、深さ60cmのものを1個検出した。

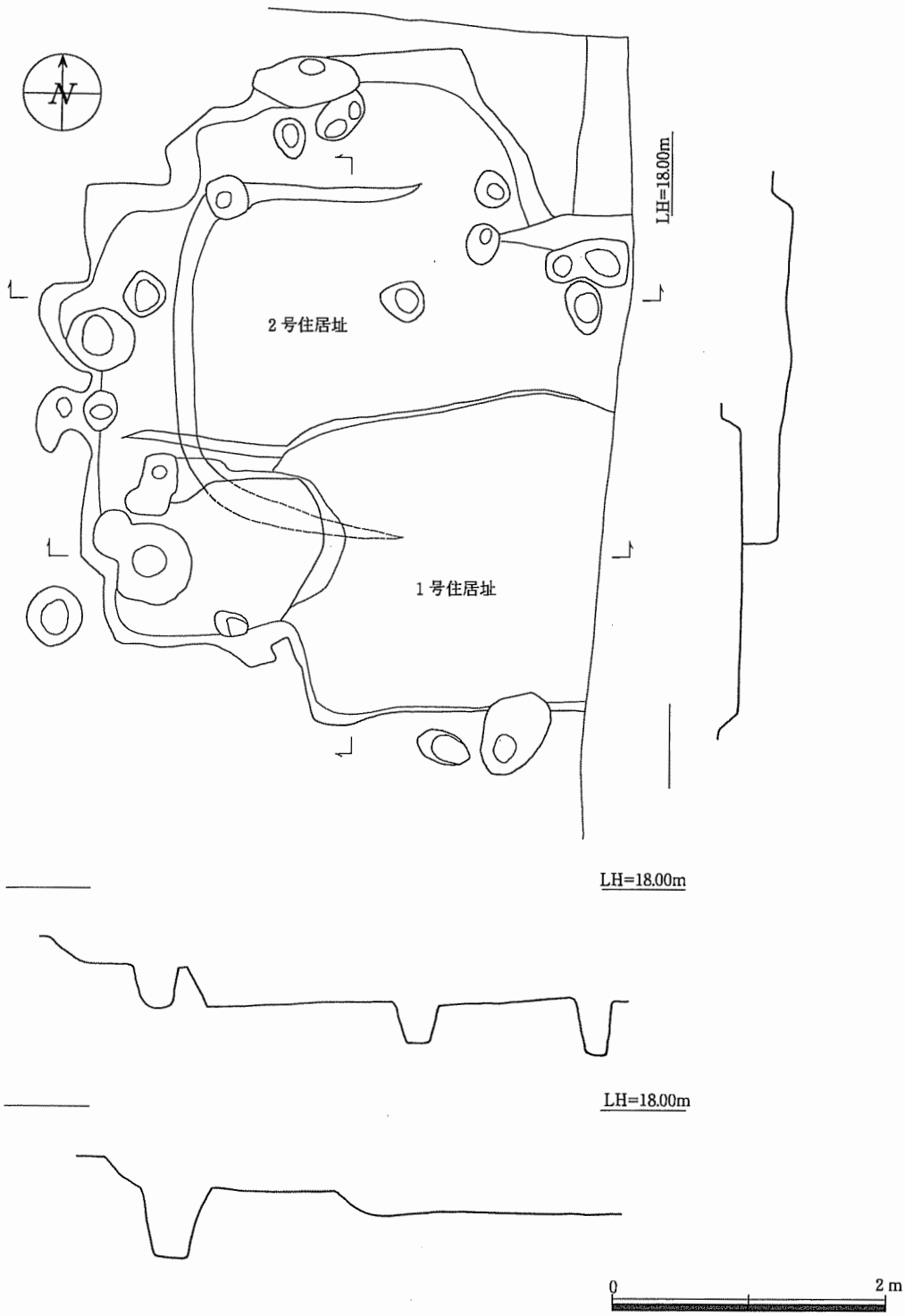


図19　1・2号竪穴住居址実測図（1/50）

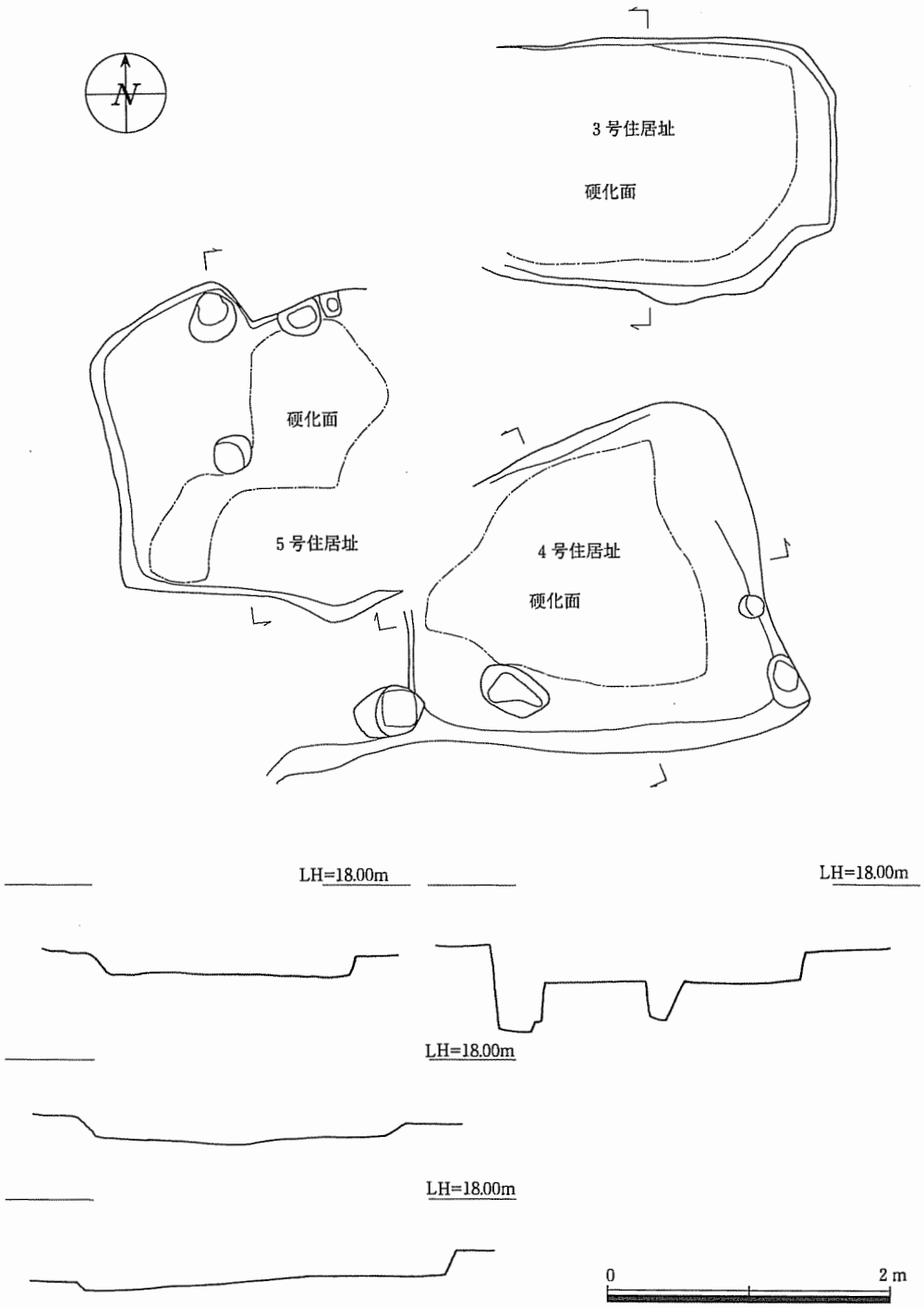


図20　3～5号竪穴住居址実測図（1/50）

6号竪穴住居址（図21・図版12－8・9）

調査区北側中央に位置する。平面形は2.5×2.4mの方形を呈する。主軸はW－4°－Sである。残存する壁高は35cmである。柱穴は住居壁に半分かかるような形で4個、いずれも直径20～25cmであるが、床面よりの深さ10～50cmとばらつきをもって検出されている。また住居外にも住居を廻るよ

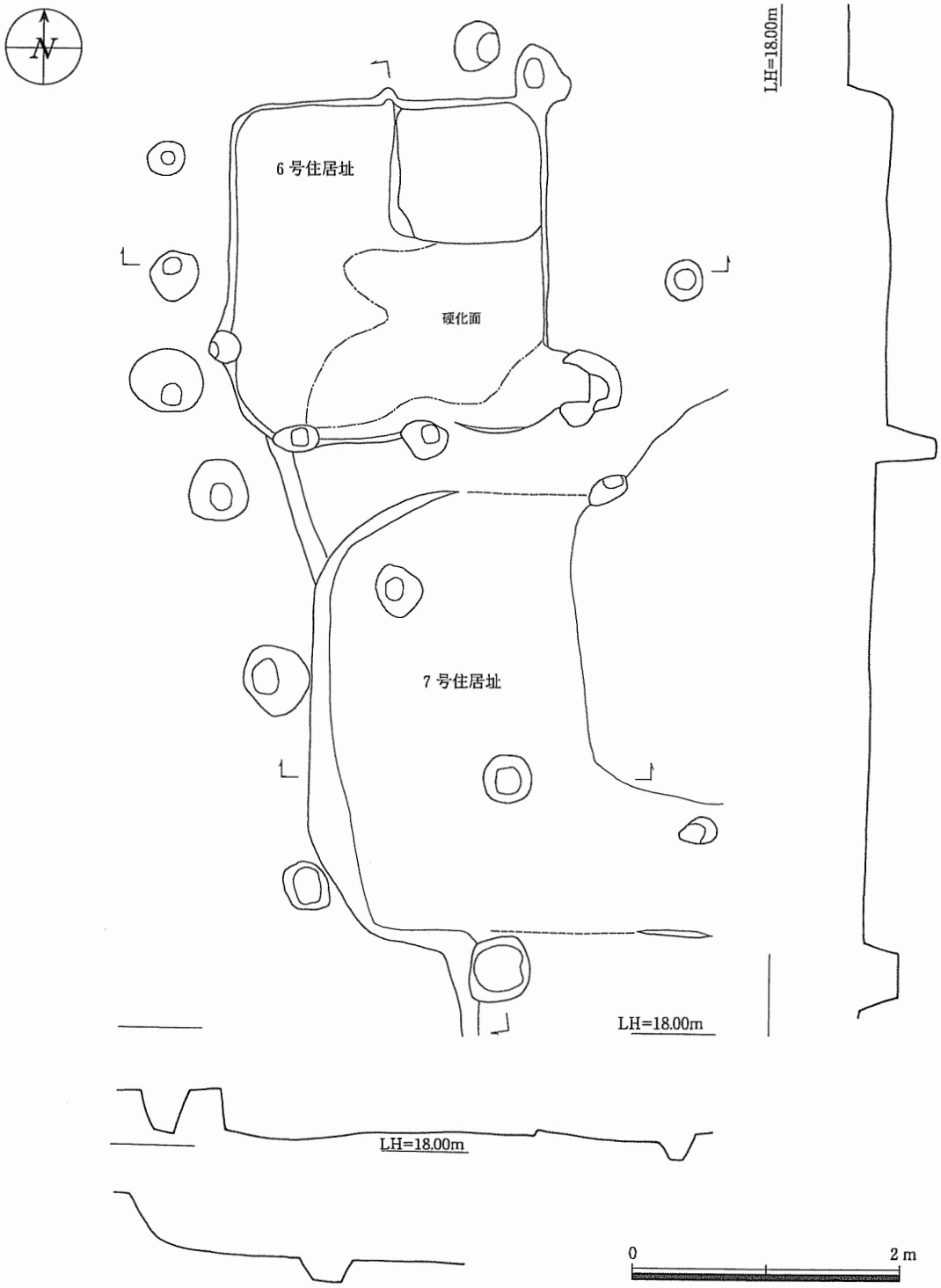
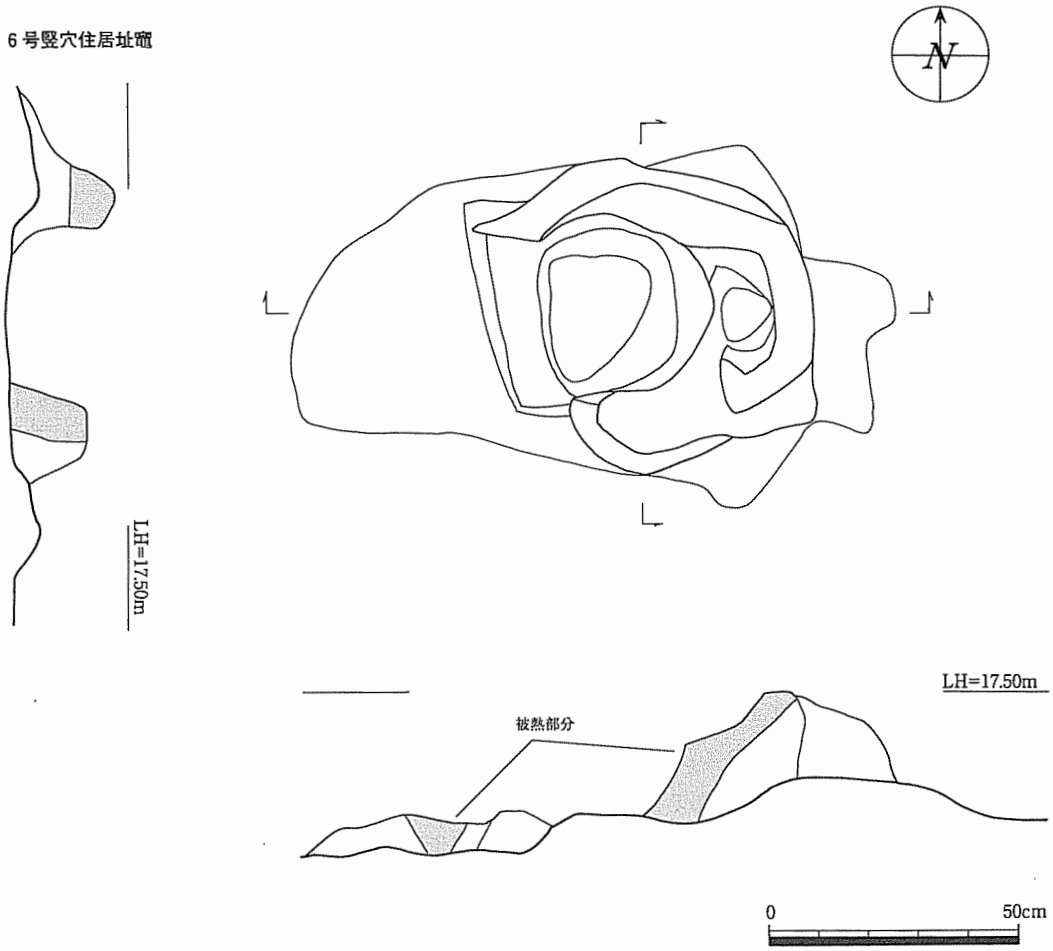


図21　6・7号竪穴住居址実測図（1/50）

うに、直径30～50cmのピットを6個検出した。深さは35～65cmある。住居南東隅には竈が付設する（図22・図版12－9）。住居の壁体の一部を掘り込んで構築したものであり、竈壁体は粘土をもって作られる。幅100cm、長さ115cm、高さ50cm、焚口幅50cm、奥行55cmである。住居内北東隅に竈とは別に灰が集中する。1×1mの正方形の範囲に広がっており、床面より5cm程度高く段を形成する。

6号竪穴住居址竈



集石遺構

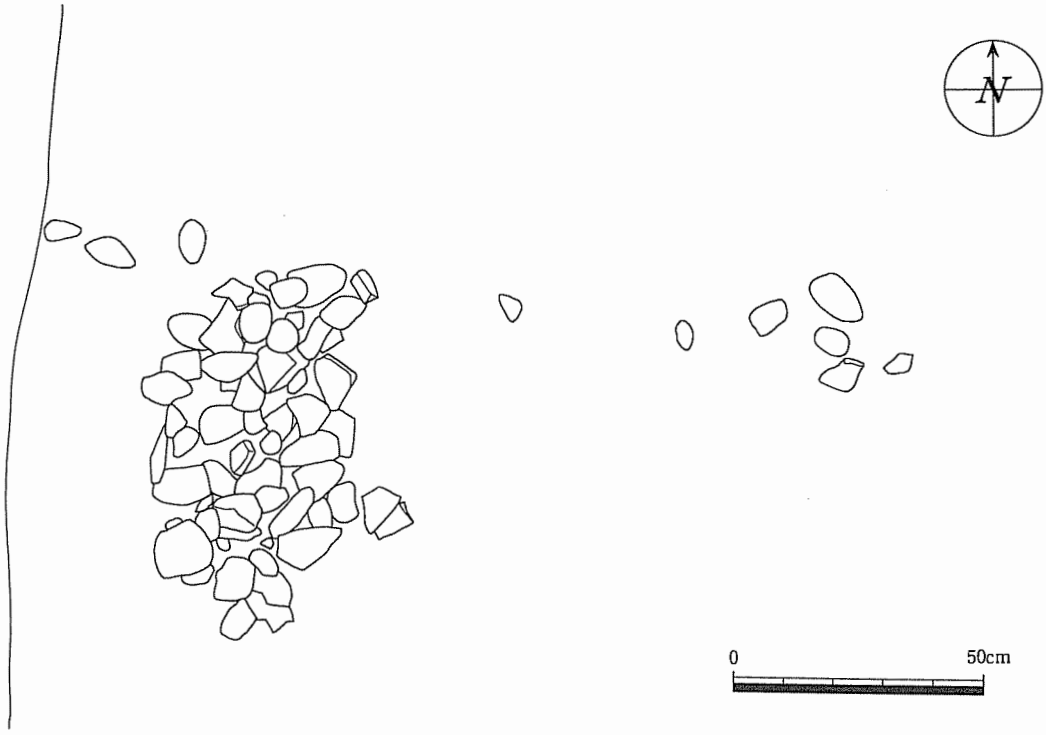


図22　6号竪穴住居址竈実測図・集石遺構実測図（1/15）

灰の広がる面を除去すると、下には直径50cm、深さ20cmの円形のピットが存在する。ピット内には灰が多量に混入する土が充填されており、竈より排出される灰の廃棄場所であるいわゆる灰坑と考えられる。

7号竪穴住居址（図21・図版12—10）

6号住居址との間に50cmの間隔をおいてすぐ南に存在する。東側の大部分が破壊を受けており、全容は明らかではない。西壁3.0mを確認している。主軸は東西に沿う。残存する壁高は35cmである。柱穴は住居壁際に相当する部分に2個、住居内に2個、住居外に3個を検出した。壁際のものは長軸30cmの楕円形で深さ20～30cm、住居内のものは直径40cmの円形で深さ30～35cmである。住居外には直径50cm、深さ30cmのもの2個、直径35cm、深さ35cmのもの1個をそれぞれ検出した。6号・7号を通じて柱穴の大きさにばらつきがある。これは住居内壁際に沿って細い柱を並べ、住居外に比較的太い柱を配置し、住居上屋部を支えたものと考えている。

溝状遺構（図18・図版13—11）

溝状の掘り込みは調査区南半部において確認した。幅約3 m、深さ60～80cmの逆台形状を呈する。調査区を横切るように東西に延び、現状では調査区西端付近でT字に分岐する。分岐点の西側は調査区外になるため、実際には十字、またはそれ以上に分岐する可能性も考えられる。溝底より籾殻が出土した（図版13－12）。遺構および遺物の密度が、この溝を境界として極端に異なる。溝内の堆積土は基本的にすべて火山灰土層である。遺物は少ない。本調査では古代の遺物のみしか出土していないが、周辺の一連の調査結果から、台地の地形変換点に掘られた近世期の堀である可能性が高い。

集石遺構（図22・図版13—13）

溝状遺構の分岐点底部に5～10cm程度の河原石を集めた集石遺構を検出した。百数十個の石を積み、範囲は東西40cm、南北70cmの楕円状に広がる。石の間には須恵器・土師器片が混在する。集石の性格は判然としない。

（4）出土遺物（図23・図版17）

出土遺物はパンケース30箱程である。遺構出土のものを中心に、時期比定可能なものと特記すべきものを抽出し紹介する。包含層からは近世の遺物も出土している。

1号竪穴住居址出土遺物

本住居址からは須恵器碗（1）、蓋（2）が出土している。いずれも破片である。5は1号住居址と2号住居址の間から出土した須恵器蓋である。また6の土師器鉢も同じところから出土した。

2号竪穴住居址出土遺物

7は須恵器碗、8・9は土師器の坏の破片である。土師器坏は赤いスリップがかかる。

4号竪穴住居址出土遺物

14・15は土師器の甕の口縁部片である。

5号竪穴住居址出土遺物

10は須恵器の碗である。高い器高に広い底部をもつ。

7号竪穴住居址出土遺物

12・13の土師器坏がある。12は回転ヘラミガキの坏で、赤いスリップがかかる。

ピット・包含層出土遺物

16は13号ピットから出土した土師器甕、17は205号ピットから出土した須恵器坏である。見込みに「井」のヘラ書きがある。31は調査区北部の撹乱と接する部分にあったピット（図18参照）の埋土中

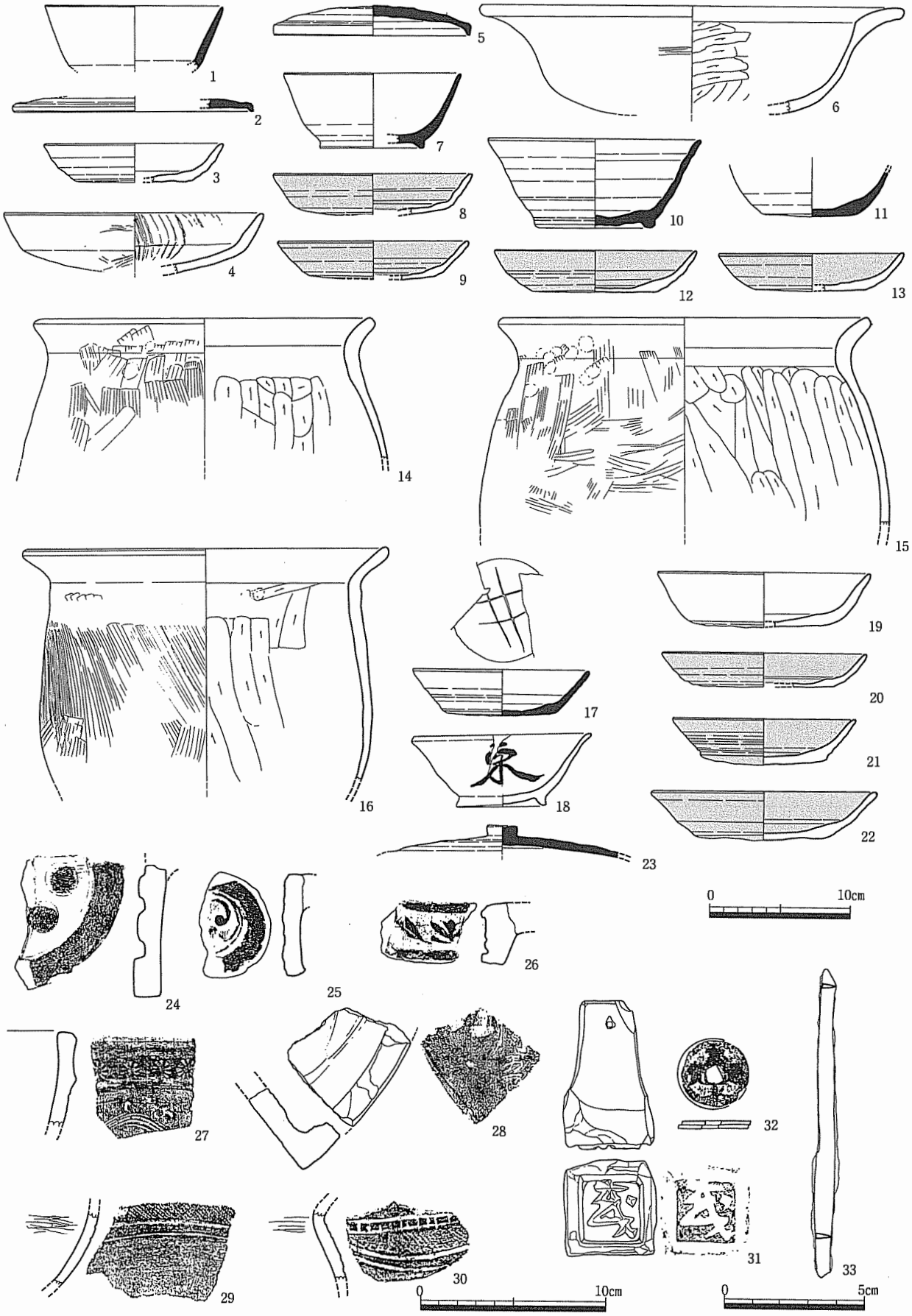


図23　9412調査地点出土遺物実測図（1/4・1/3・1/2）

表4　9412調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
23	1	須恵器	坏（碗）	口径　12.6	口縁1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue10YR6/2	1号住居址	
	2	須恵器	坏蓋	口径　16.9	口縁1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/3 外：Hue5Y7/3	1号住居址	
	3	土師器	坏	口径　12.7 底径　7.8 器高　2.8	1/4	内：ヘラ磨き 外：磨き	内：Hue7.5YR7/4 外：Hue5YR6/6	1号住居址	煤付着
	4	土師器	高坏	口径　18.4	坏部口縁 1/4	内：ヘラ磨き 外：磨き	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR7/6	1号住居址	
	5	須恵器	坏蓋	口径　14.9 器高　2.15	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/1 外：Hue5Y7/1	1・2号住居址間	自然釉
	6	土師器	浅鉢	口径　30.0	口縁1/3	内：削り 外：ヘラナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR6/3	1・2号住居址間	
	7	須恵器	碗	口径　12.5 底径　7.4 器高　5.4	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/1 外：Hue7.5Y7/1	2号住居址	
	8	土師器	坏	口径　14.0 底径　11.0 器高　2.95	口縁1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR5/8 外：Hue2.5YR6/6	2号住居址	内外丹塗
	9	土師器	坏	口径　13.6 底径　8.8 器高　2.8	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue3.5YR6/8	2号住居址	内外丹塗
	10	須恵器	碗	口径　15.2 底径　8.6 器高　6.4	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y8/1 外：Hue7.5Y7/1	5号住居址	
	11	須恵器	坏	器高　6.2	低部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y7/1 外：Hue7.5Y7/1	7号住居址	
	12	土師器	坏	口径　14.4 底径　9.0 器高　3.0	1/2	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	7号住居址	内外丹塗
	13	土師器	坏	口径　13.2 底径　8.0 器高　2.7	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	7号住居址	内外丹塗
	14	土師器	甕	口径　24.1	口縁1/6	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5Y7/3 外：Hue10YR7/4	4号住居址	
	15	土師器	甕	口径　26.3	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR7/4	4号住居址	
	16	土師器	甕	口径　25.4 最大径　23.8	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	P13	
	17	須恵器	坏	口径　12.6 底径　8.0 器高　3.3	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	P205	ヘラ記号格子
	18	土師器	碗	口径　12.6 底径　6.4 器高　5.1	完形	内：黒色磨研 外：ナデ	内：Hue　N1.5/0 外：Hue10YR6/4		内黒・ 墨書「東」
	19	土師器	坏	口径　15.0 底径　8.2 器高　3.95	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	Ⅱ層	
	20	土師器	坏	口径　14.6 底径　10.1 器高　2.45	口縁1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	Ⅱ層	内外丹塗
	21	土師器	坏	口径　13.05 底径　9.0 器高　3.3	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	Ⅱ層	内外丹塗
	22	土師器	坏	口径　16.1 底径　9.0 器高　3.5	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	Ⅱ層	内外丹塗・煤付着
	23	須恵器	坏蓋		天井部1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y7/1 外：Hue7.5Y7/1	Ⅱ層	

表４　9412調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
23	24	瓦	軒丸・瓦当	直径　16.0 厚さ　1.7			表：Hue5Y5/1 裏：Hue5Y5/1	Ⅱ層	珠文
	25	瓦	軒丸・瓦当	直径　3.4 厚さ　1.45	1/2		表：Hue7.5Y5/1 裏：Hue7.5Y5/1	Ⅱ層	左巴文
	26	瓦	軒平・瓦当	幅　4.0 厚さ　2.25	1/4		表：Hue2.5Y7/2 裏：Hue2.5Y7/2	Ⅱ層	均整唐草文
	27	瓦器	火舎		口縁部片		内：Hue7.5Y5/1 外：Hue7.5Y5/1	溝	
	28	瓦	軒丸・瓦当？	厚さ　1.65	1/4		表：Hue5Y4/1 裏：Hue5Y4/1	Ⅱ層	文字あり
	29	縄文土器	（深）鉢形土器		胴部片	内：磨き 外：擦消縄文	内：Hue10YR4/3 外：Hue7.5YR6/4	Ⅱ層	
	30	縄文土器	（深）鉢形土器		胴部片	内：磨き 外：擦消縄文・刺突文	内：Hue5YR5/1 外：Hue10YR5/4	Ⅱ層	
	31	土製品	印	長さ　5.34 幅　3.26 厚さ　3.45	完品		Hue10YR7/6	ピット	「國」
	32	銅製品	銅銭（2枚）	直径　2.45 厚さ　0.15				包含層	1枚は寛永通宝
	33	鉄製品	鉄鏃	長さ　11.1 幅　0.68 厚さ　0.3				包含層	

位から出土した土製印である。粘土を堅く焼き締めたものを整形し、彫刻刀のような工具で陰刻を施している。大きさは全長53mm・使用面34×32.5mm である。使用面は角がとれ破損しているが、「口」（くにがまえ）のあった痕跡があり、恐らく「國」の正字と考えられる。把手部分には径２ mm の穿孔がなされている。

18は内黒碗であり、外面に「東」を墨書する。23は須恵器蓋、19～22は土師器坏である。24～25は近世以降の瓦である。巴文と草花文が施される。27は瓦質火舎である。28は瓦当と思われるが、裏面に「月カ五」の文字が見える。32は寛永通寶銅銭が２枚重なったものである。29・30は縄文時代後期の磨消縄文系深鉢形土器の胴部と肩部の破片である。33は鉄鏃である。包含層（２層）から出土した。

２．工学部研究実験棟共同溝建設工事に伴う発掘調査（9501調査地点）

（１）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

工学部研究実験棟の共同溝を設営するために、発掘調査を実施した。実験棟の東側の道路部分に相当する。幅６ m、長さ14m にわたって調査を実施した。

b. 調査の経過

４月25日　重機による表土除去。遺構検出。

４月27日　１号溝掘削。近世以降の堀であることを確認。平行して遺構実測。

４月28日　遺構掘下げ。住居址確認。

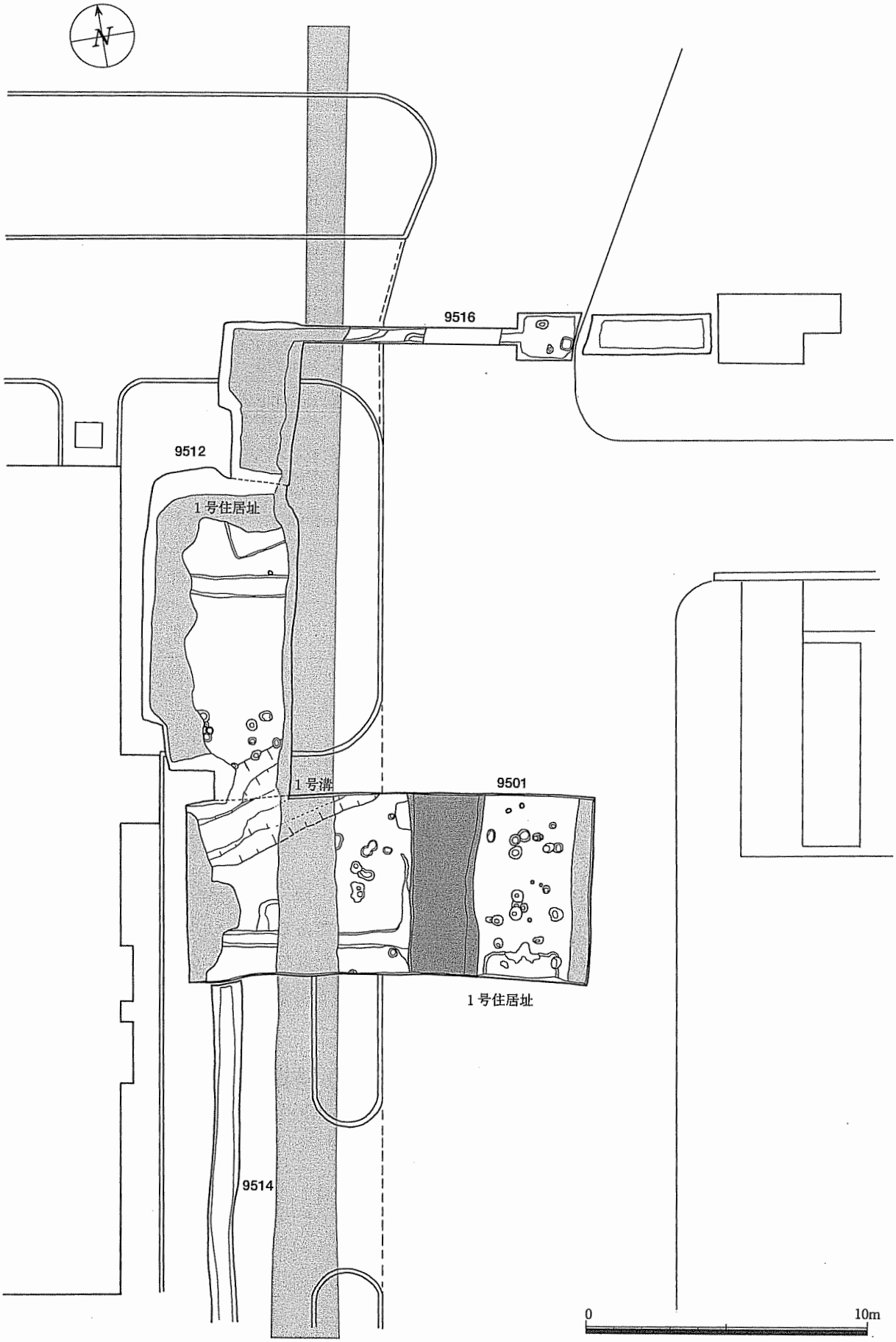


図24　9501・9512・9514・9516調査地点遺構配置図（1/200）

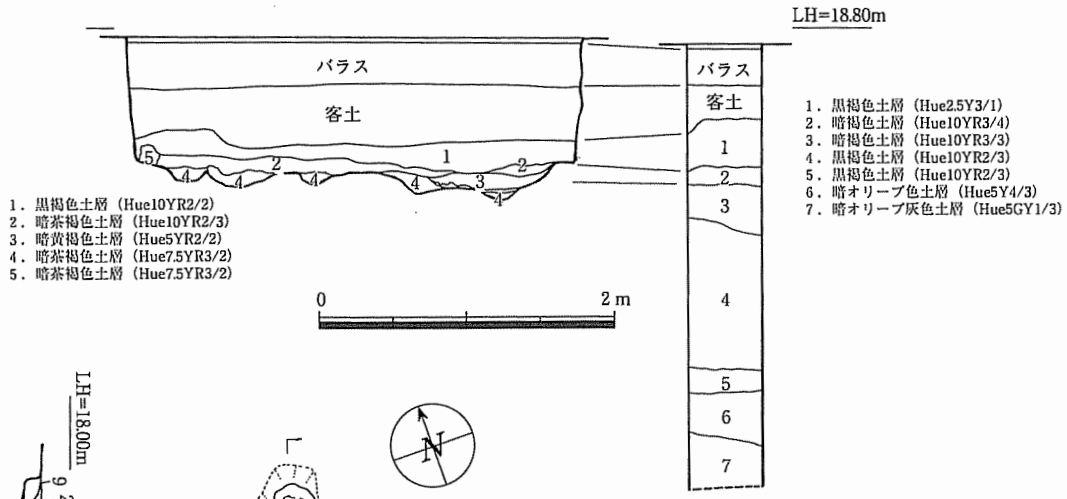


図25　9501調査地点土層断面実測図（1/50）

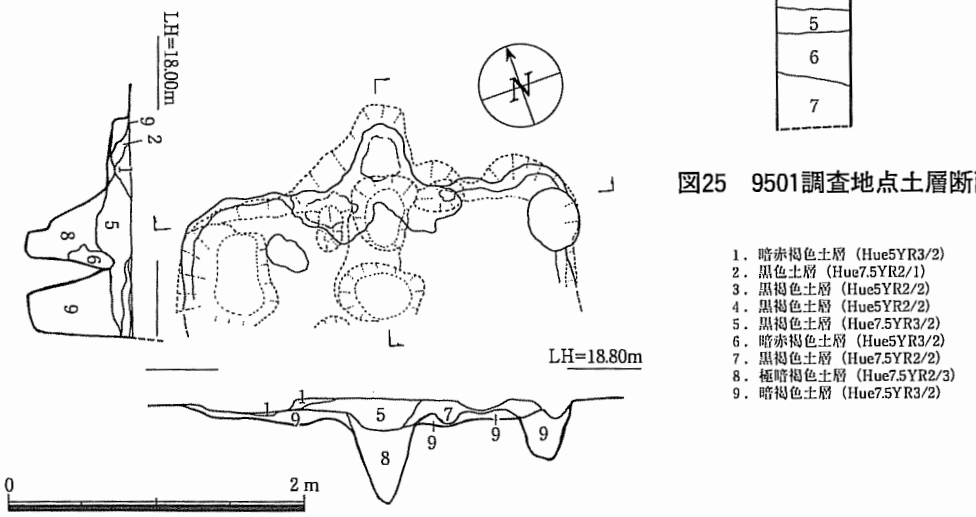


図26　9501調査地点１号住居址実測図（1/50）

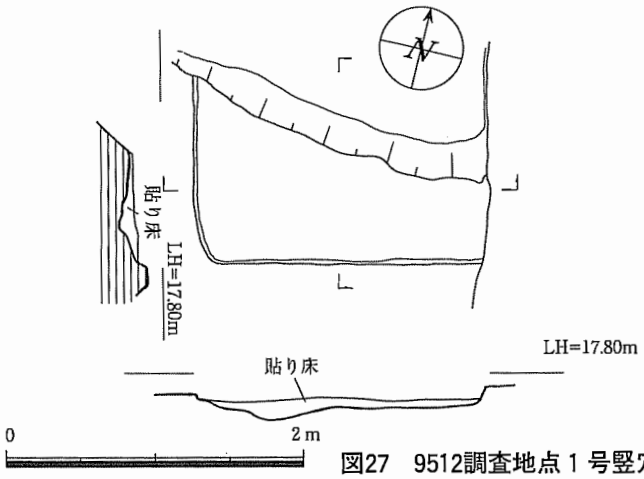


図27　9512調査地点１号竪穴住居址実測図（１ /50）

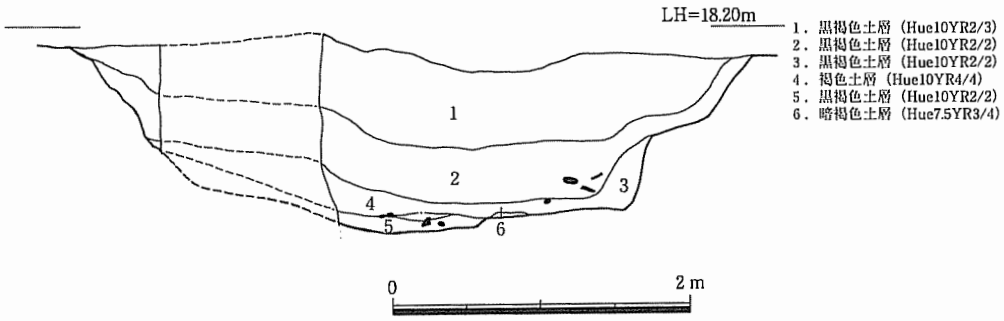


図28　9501調査地点１号溝土層断面実測図（1/50）

5月2日　住居址土層断面、竈断面実測。調査終了。

c. 調査の組織

調　査　員：小畑弘己
事 務 担 当：矢野希久代
発掘作業員：飯田孝俊・今村佳子・大坪志子・原田範昭・東真一
整理作業員：古賀敬子・藤岡泰江

（2）調査区の基本層序（図25）

調査区の大部分を占める道路部分の土層の堆積状況は、道路の基盤土である砂層直下に遺物包含層である黒褐色（2.5Y3/1）土層（厚さ20cm）が堆積している。その下は暗褐色（10YR3/4·3/3）の火山灰土となり、この面で遺構を検出した。調査終了後の工事による掘削断面の観察によると、この暗褐色火山灰土層は厚さ30cmほどで、その下部は厚さ1mほどの黒褐色（10YR2/3）土層へと移行する。この層の下部にはスコリアが混じり、以下砂礫層となる。

（3）検出遺構

1号溝（図24・図版15－7）

調査区の北西部で検出した溝である。この溝は実験棟本体の調査（9412）の際検出された1号溝状遺構と連接する可能性が大きい。調査区をかすめるため、幅については建築工事掘削の壁面で確認した。その後、貯水桝工事にともなう発掘調査（9512調査地点）において北壁部分を調査することができた。断面形が台形を呈し、その幅は溝底部で2.5m、検出面で4mである。溝の方位は東西方向よりやや北に振れる。溝中の堆積土は5層に分けられ、上から1層－黒褐色土（厚さ60cm）、2層－黒褐色土（40cm）、3層－黒褐色土（20cm）、4層－褐色土（8cm）、5層－暗褐色土（10cm）である。5層と4層の間には拳大の礫が挟まる部分があり、この基底部（5層上面）に粘質の褐色土層（4層）が薄く堆積している（図28）。これらの層は水成の堆積土であり、溝底はわずかに水が流れる状態であったことが推定される。出土遺物は1層から3層までは18世紀後半以降の近世陶磁器および陶器を主体とするが、4層は古代の須恵器や土師器を多く含む。

1号竪穴住居址（図26・図版15－3・4）

調査区南東隅に約半分を検出した。検出部分での幅は2.5mである。北辺中央部に竈の混戦木をもつ。壁の残りはわずかで、15cmしか検出できなかった。竈は中央に若干の焼土と白色粘土の混じる土が残るのみで、明確な壁の立ちあがりや焚口なども検出できなかった。焚口に相当する部分には直径40cm、深さ70cmの穴があり、防湿を意図した掘りこみとも考えがたく、時期の異なる遺構の可能性が高い。しかし、土層観察において上部より切り込んだ痕跡は認められなかった。出土遺物としては土師器・須恵器の坏や甕などの小片が少量出土した。

3．工学部研究実験棟貯水桝建設工事に伴う発掘調査（9512調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

工学部研究実験棟北東角にあたり、一連の外溝工事にともなう立会調査を実施していたところ、地表下80cmに保存状態のよい遺物包含層を検出した。また、1994年度調査において旧建物の基礎があ

り、埋蔵文化財はすでに破壊されていると判断した地点まで、破壊を免れて広がることが判明し、建設中建物の基礎用の掘削部分間際まで範囲を広げ発掘調査に切り替えた。調査は２日間を要した。遺物包含層まで機械力によって掘削し、表土および撹乱層を除去した後、人力による包含層の調査を開始した。遺物包含層の下の黄褐色土上面において、遺構を検出した。その結果、竪穴住居址１基、溝１条、柱穴（根穴）数個を発見した（図24）。

b. 調査の経過

11月13日　貯水槽設置のための立会調査中、包含層が残るため発掘調査に切替。

11月15日　表土剥ぎ。遺構検出。

11月16日　１号溝掘り上げ。１号竪穴住居址床面状態実測。掘り上げ状況実測。全体測量。終了。

c. 調査の組織

調　査　員：小畑弘己

事 務 担 当：矢野希久代

発掘作業員：飯田孝俊・今村佳子・大坪志子

整理作業員：古賀敬子・藤岡泰江

（２）調査区の基本層序

土層の堆積状況は、ほぼ9501調査地点と同じであるが、遺物包含層の上に淡茶褐色の土層が堆積している。これは近世以降の遺物を含む層である。

（３）検出遺構

１号竪穴住居址（図27・図版16－２・３）

調査区北隅で検出した竪穴式の住居址である。北半は撹乱によって破壊されている。残存部の１辺の長さは２ｍである。検出面が低かったため、壁の残り具合は悪く、５cmほどである。床を精査したが残存部分において柱穴らしき痕跡は認められなかった。出土遺物は内面に削り痕のある土師器２片があるのみである。時期は周辺の状況から古代であろう。

１号溝（図版16－４）

共同溝建築部分（9501調査地点）において検出した溝の北壁部分に相当する。深さ1.4mほどである。土層の堆積状況や出土遺物の性格も上記溝の所見に一致する。

（４）出土遺物（図29）

１～４は9512調査地点から出土した縄文時代後期末の深鉢形土器の口縁および粗製深鉢形土器の口

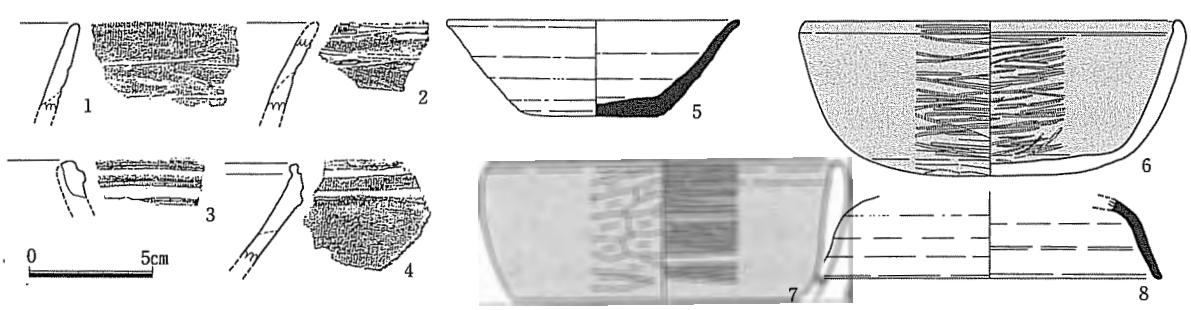


図29　9501・9512調査地点包含層出土土器実測図（1/3）

表5　9501・9512調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
29	1	縄文土器	深鉢形土器		口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：褐色～暗褐色 外：褐色～暗褐色	包含層	
	2	縄文土器	深鉢形土器		口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：茶褐色 外：茶褐色	包含層	
	3	縄文土器	深鉢形土器		口縁部片	内：磨き 外：黒色磨研	内：茶褐色 外：茶褐色	包含層	
	4	縄文土器	浅鉢形土器		口縁部片	内：磨き 外：黒色磨研	内：暗褐色 外：暗褐色	包含層	
	5	須恵器	坏蓋	口径　13.95	1/8	内：ナデ 外：ナデ・ヘラ削り	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/1	Ⅱ層	
	6	須恵器	坏	口径　11.95 底径　5.2 器高　3.9	1/4	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	Ⅱ層	
	7	土師器	鉢	口径　15.15 底径　7.6 器高　6.3	2/3	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue2.5YR5/6 外：Hue2.5YR5/6	Ⅱ層	内外丹塗
	8	土師器	鉢	口径　14.65	口縁部片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue2.5YR5/6 外：Hue2.5RY4/6	Ⅱ層	内外丹塗

縁部片である。5は須恵器の坏、6・7は丹塗り磨研の坏、8は須恵器の蓋である。5～8は9501調査地点の包含層から出土した。

4．まとめ

この94・95年度に実施した黒髪南地区における調査は、ほぼ南地区の中央部の東側一帯に集中し、工学部研究実験棟建設地の発掘調査（9412）地点を中心にその周辺を調査した状況となった。その結果、当地点の中心となる遺構群の形成時期は、出土遺物よりみて8世紀後半に比定できた。この時期の遺構はその規模がほぼ2 m四方の方形竪穴住居址であり、これらが散漫ではあるが調査区内に満遍なく広がる様子を把握することができた。調査区が断片的であることと、破壊が著しいため、同時期の掘立柱建物群は検出できていないが、おそらくその後に行った周辺地の調査からみて、セットとしてこれらに倉庫としての高床建物が伴う可能性が高い。この地点の古代における性格は、遺構のあり方からみて、官衙域ではない一般的な集落を想定せざるを得ないが、9世紀前半ごろの「東」銘の墨書土器、さらに図示していないが、9412調査地点から「飯」銘のヘラ書きをもつ土師器坏が出土していること、さらに「國」銘の土製印が存在することは、周辺に識字層の存在を窺わせ、農民だけが居住する農村域でないことだけは確かである。この地域も蚕養駅関連の施設の周辺部にあたることから、郡家や駅家へ出仕する下層役人の居住区であった可能性が高い。

9412調査地点の南側に存在する堀は、台地の地形変換点（端部）にあたり、9501・9512調査地点で北側へ迂回するように延びることが明かになった。この延長は、その後実施した理学部の自然研究棟建設にかかわる発掘調査でもその一端を検出している。さらに、この溝の弧状の西側の一端は、工学部研究棟（9603調査地点）および事務棟（9704調査地点）建設に先立つ発掘調査で確認されている。これは台地周辺を巡る堀であり、これを南へ下ると急に地形が低くなる。江戸後期の掘削と思われる。

Ⅳ　京町地区の調査

1．熊本大学附属中学校校舎建設に伴う発掘調査（9405調査地点）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

熊本大学では、関係施設の大規模な設備の新設、改修が計画され、それに対応するための学内遺跡調査委員会の設置の検討が始まった。この新組織は平成6年度から正式に発足したが、すでに事業の完成年度の計画はなされており、熊本大学附属中学校コンピューター教育施設地の発掘調査については、大学の現有人員では対応ができない状況であった。大学との協議の結果、発掘調査は熊本大学において行うものの、調査作業は熊本県教育庁文化課が応援することとなった。

本調査に先立つ確認調査は熊本市教育委員会文化課において実施され、弥生時代の遺構の存在が予想されていた。これを受けて本調査は、コンピューター教育施設の敷地範囲約400㎡を対象に平成6年5月17日から同年6月25日に行った。

b. 調査の経過

5月17日　重機による表土剥ぎ開始。
5月19日　表土撹乱除去。1号竪穴住居址確認。
5月25日　土坑（江戸時代）、ゴミ穴（明治時代）発見。
6月8・9日　井戸および住居址の実測。
6月15日　井戸・住居址の遺物取り上げ。
6月20・21日　平板測量。
6月24日　調査区全体写真撮影。
6月25日　作業終了。

c. 調査の組織

調査主体：熊本県文化課　桑山裕好課長　文化財調査第1係（島津義昭係長）
調　査　員：吉田正一
発掘作業員：熊本県文化課雇用発掘作業員
整理作業員：熊本県文化財収蔵庫整理作業員

（2）調査区の基本層序（図30）

遺跡の基本層位は次のとおりである。

1層　表土であるが、現代の瓦礫混じりであり、ほとんどの地点で同層はⅢ層まで切り込みが達している。この層位には近現代の新旧の建物の基礎、塵穴が包含される。厚さ40cm。

2層　黒褐色土であるが、ほとんど自然層は失われ、藩政時代に大規模な整地と客土がなされている。同層もかなりの部分が1層の撹乱を被るとともに、同層自体も3層の上層を広範囲にわたり撹乱している。主として近世の遺物を包含する。厚さ80cm。

3層　暗褐色ないし黒褐色土である。弥生時代の遺物を包含するが、かなりの部分がⅠ、Ⅱ層からの撹乱を受けている。厚さ30～50cm。

4層　褐色土でわずかな粘性がある。微細な軽石状の粒子を含み、ややクラックを有する。厚さ30cm。

5層　黄褐色土で強い粘性を有する。無遺物層である。厚さ120cm。

6層　淡赤色味のある黄褐色土で強い粘性を有する。無遺物層である。

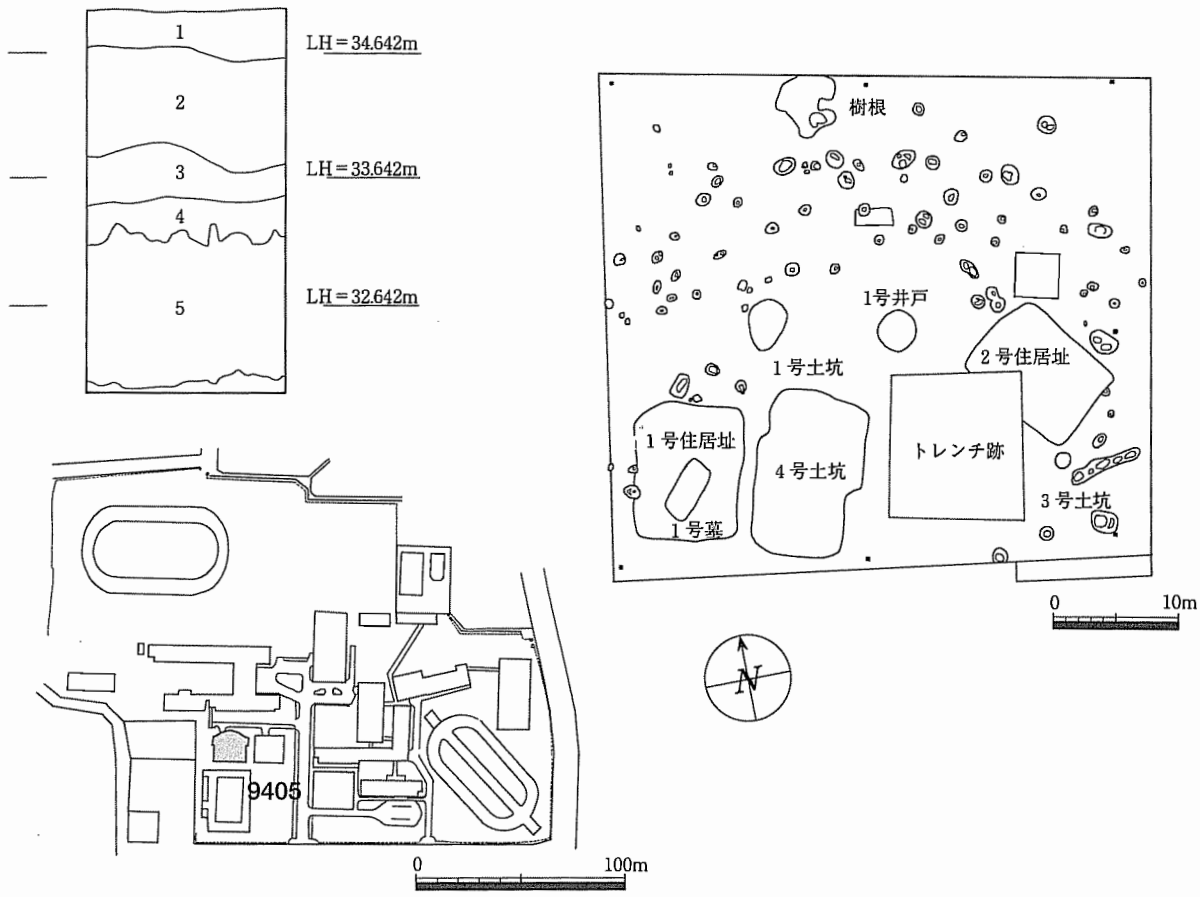


図30　京町地区における既往調査地点と9405調査地点位置図（1/3600）・基本層序（1/60）・遺構配置図（1/30）

（3）検出遺構

調査の結果、弥生時代後期の竪穴住居址２基と墓壙１基のほか、江戸時代の土坑と井戸の遺構を検出し、いずれも多数の遺物が出土した。附属中学校敷地は、東隣の同小学校敷地とともに旧肥後藩の家老職を勤めた澤村家の屋敷跡にあたるため、このような江戸期の遺構が多いものと思われる。さらに明治、大正時代以降の学校関係の遺物が古いゴミ穴から多く出土した。

＜竪穴住居址＞

竪穴住居址は、弥生時代後期のものである。いずれも床面まで削平を受け、遺構の残りが悪く、壁溝により辛うじて規模を窺い知ることができる。

１号竪穴住居址（図31・図版18－２）

調査区の南西に所在し、平面形態は壁溝の配列から想定して長方形をなすとみられる。長軸方向は5.2m、短軸方向は4.1m を測り、主軸の方位はＮ－６°－Ｅである。主柱穴は４個であり、柱の囲む床面には若干の硬化が観察された。炉は住居址の中心部より西寄りにあり、隅丸長方形で、その規模は、長軸方向は88cm、短軸は71cm、深さは21cm を測り、主軸の方位はＮ－43°－Ｗである。

２号竪穴住居址（図31・図版19－３）

調査区のやや東寄りに所在し、一部を後世の撹乱により切られる。ほぼ連続する壁溝の残存状況からみて平面形態は長方形であり、長軸方向は5.08m、短軸方向は3.78m を測る。主軸の方位はＮ－36°－Ｗであり、主柱穴は２個である。北隅には床面の硬化の差が観察され、削平により失われたベッド状遺構が設けられていたとみられる。住居址の中心部から南西寄りの床面に、円形の炭化物の

集中部分があり、炉の痕跡であろう。その規模は、長軸方向は48cm、同じく短軸は43cm を測る。

＜墓＞

1号墓（図32・図版19－4、20－5）

1号竪穴住居址と切り合っている。住居址の硬化面上に乾燥しない長方形の部分を検出した。発掘すると、床面は平坦であり、その縁辺に重なりがちに並行する長方形の深い溝列が現れた。板石の抜き取りか、短幅の板材の抜き取りあるいは腐朽により生じた棺材の配列痕と判断した。遺物の出土はなかったが、検出状況よりみて住居址より古い時期の遺構である。規模は、長軸方向が2.46m、短軸方向が99cm を測る。主軸の方位はN－31°－Eであり、床面までの比高差は9 cm、溝の最深部までは同じく15cm である。

＜土坑＞

1号土坑（図33）

平面形態は楕円形で、長軸方向は1.95m、短軸方向は1.44m、深さは30cm を測る。主軸方位はN－14°－Eである。出土遺物は多く、土器溜め状を呈する。瓦の破片を主体に、陶磁器の小破片を含む。

3号土坑（図33・図版20－10）

平面形態は円形であり、直径は92cm を測る。主軸の方位はN－2°－Eである。深さは6 cm を測る。埋土は硬くしまっており若干の遺物を混じえる。

4号土坑（図33・図版20－11・12）

調査区内には新旧とりまぜて数カ所の長方形の塵捨穴があり、この中から附属中学校の前身である旧熊本師範学校当時の古い学用品、瓶類などが出土した。その中の一つを図示した。長さ4.2m、幅3.7m、深さ20cm である。明治から昭和初期の遺物である。

＜井戸＞

1号井戸（図32・図版20－6～9）

調査区の中央に所在し、平面形態は円形であり、長軸方向は1.47m、短軸方向は1.45m を測る。深さは6 m を測る。井戸穴に随伴して井戸を覆う建屋のものと思われる一対の柱穴を検出した。この柱穴を結ぶ線を主軸としての方位はN－82°－Eである。井戸壁面には垂直方向に柾目板の圧痕が観察され、7～8枚の板で井桁を構成したとみられる。多くの遺物が浅いレベルに偏在し、これに混じえて2枚の銅銭が出土したことは注目される。1枚は寛永通宝と判読でき、廃絶の際、井戸埋めの祭祀に供されたものであろう。浅いレベルに遺物が集中するのは埋没後に地盤の沈下で生じた窪みが掃き溜めと化したためであろう。

（4）出土遺物（図34～37・図版21・22）

1号竪穴住居出土遺物

1は柱穴より出土した壷形土器の口縁から肩部にかけての資料である。胴部は長球状をなし頸部にて強く外湾して開き口縁を形成する。頸部に断面が三角形の突帯を有する。

2号竪穴住居出土遺物

出土遺物は、重弧文と平行の沈線を施す壷形土器の肩部破片（2・3）である。

1号土坑出土遺物

本土坑からは巴文の軒丸瓦（4・5）、白磁碗（6・15）、青磁皿（8）、網目文染付碗（9・10）、花草文染付瓶（12）、蛸唐草文染付皿（13）、陶器碗（7・14）、陶製擂鉢（21）、陶製急須（17・18）、

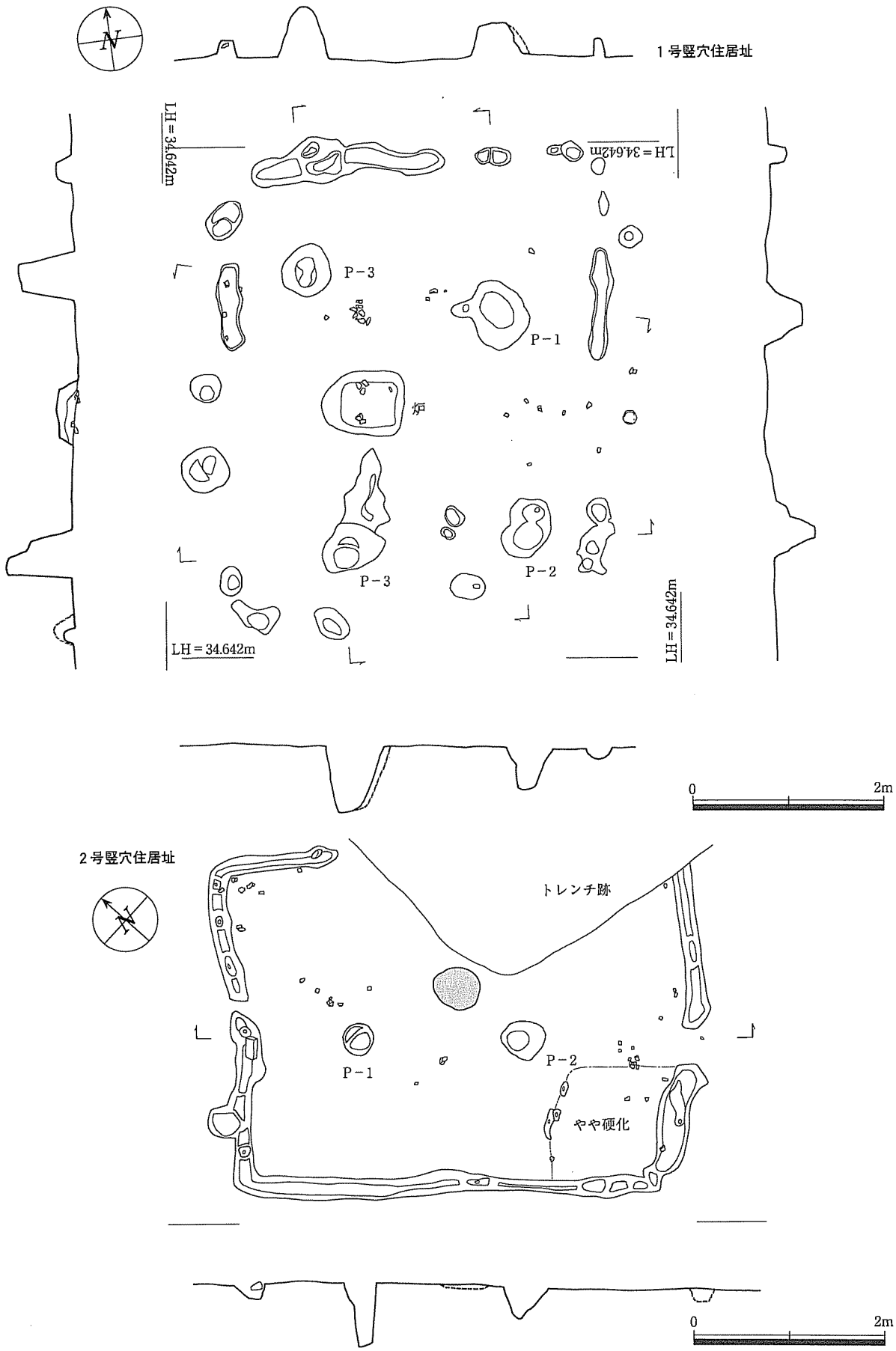
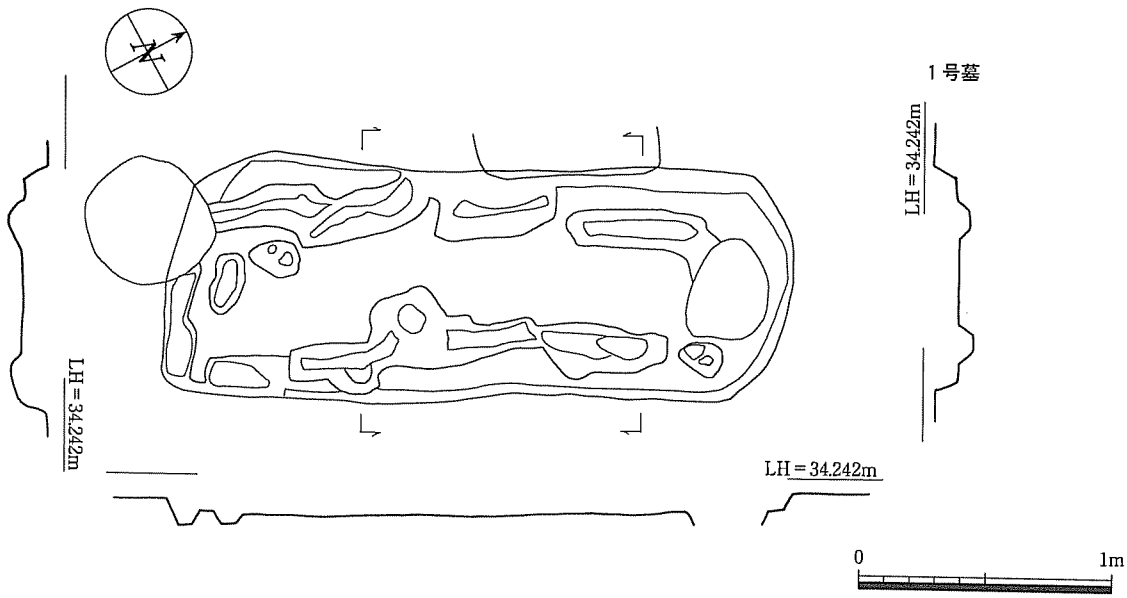


図31　1・2号竪穴住居址実測図（1/60）



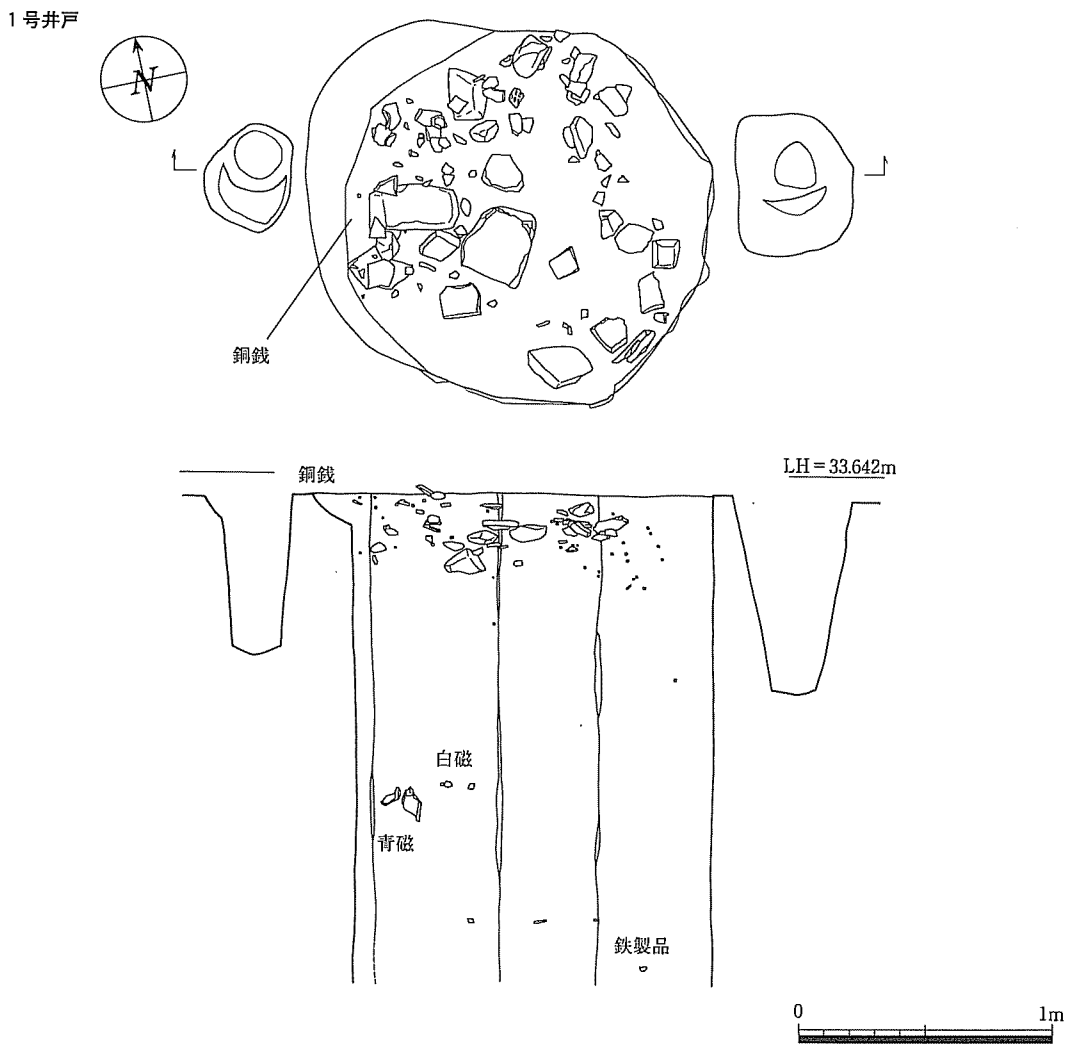


図32　1号墓実測図・1号井戸実測図（1/30）

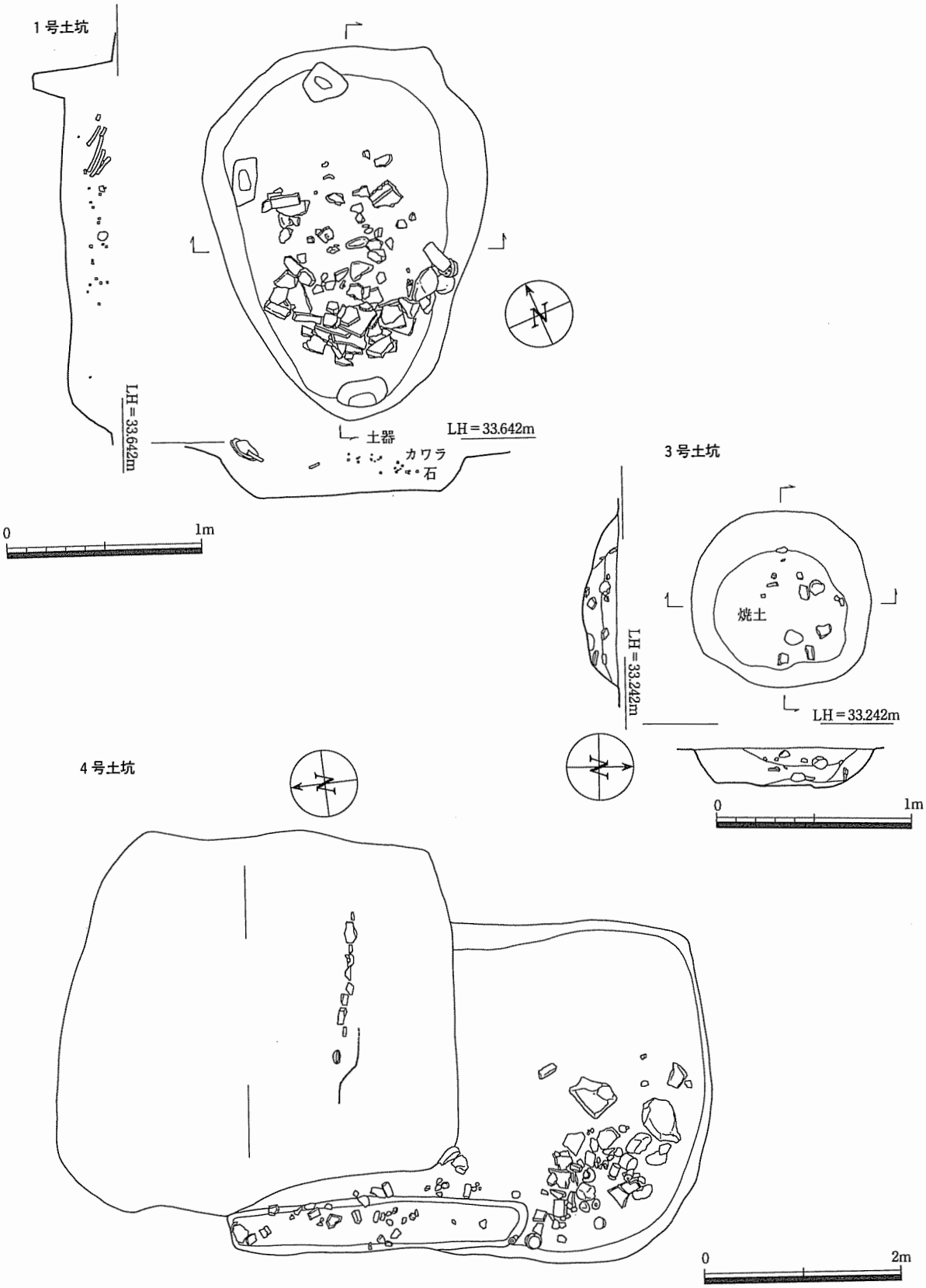


図33　1・3・4号土坑実測図（1/30・1/60）

磁器鉢（11・20）などの陶磁器の他、煙管の吸口（22）や蛤の殻（19）が出土した。

1号井戸出土遺物

本井戸からは、青磁碗（27・58）、白磁坏（30）、磁器碗（28・29）、磁器皿（33）、磁器鉢（31）、網目文染付碗（25）、染付碗（32）、染付皿（34～37）、陶器碗（39・40）、陶器鉢（41・42）、陶器片口鉢（45・46）、陶製擂鉢（24・38）、瓦質火舎（51）、瓦質甕（56）、瓦質擂鉢（57）、土師器皿（52～54）などの各種容器の他、寛永通寶銅銭（48）、不明銅銭（49）、不明土製品（47）、軽石製の有孔円盤（50）、砂岩製の砥石（55）などが出土した。

4号土坑出土遺物

本遺構からは、磁器碗（59・60）や型刷染付碗（62・63）など各種容器が出土した。この他、薬瓶（70～74）、糊瓶（68）、インク瓶（69）、硯（65）などがある。最も多いのは石板であった。

その他の遺物

82は深鉢土器の口縁部である。口縁端部の外面には、横方向にヘラ状工具で粗くナデ痕を残す。77は重弧文を有する長頸壷形土器の胴部破片で、83はジョッキ型土器の底部破片であり、弥生時代後期の所産である。81は瓦である。外面は縦方向に磨かれ、内面は布目の圧痕が残る。1号井戸より流入遺物として出土した。京町台地南端のこの一帯には布目瓦の出土事例が報告されており、かつて存在したとされる古代寺院「大道寺」に関する遺物とみられる。

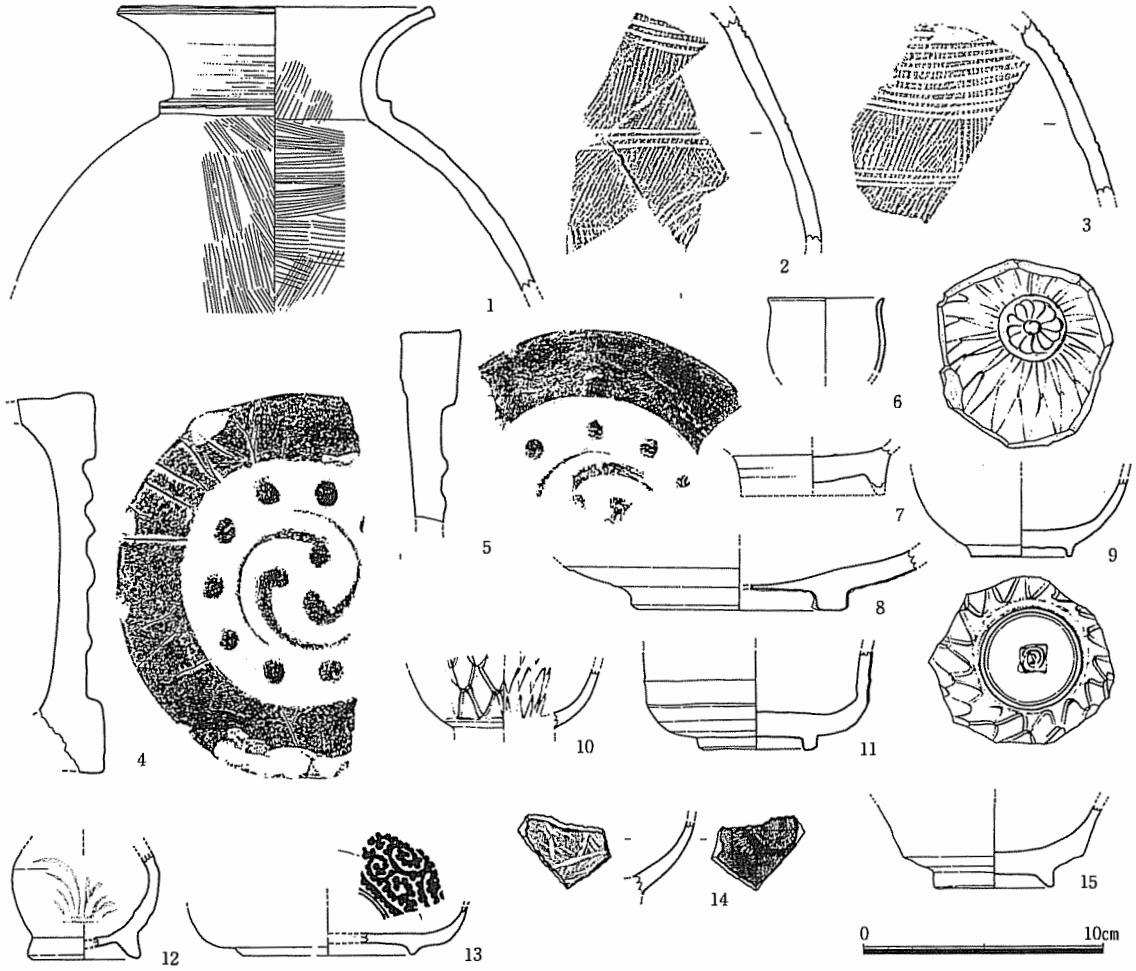


図34　9405調査地点出土遺物実測図1（1/3）

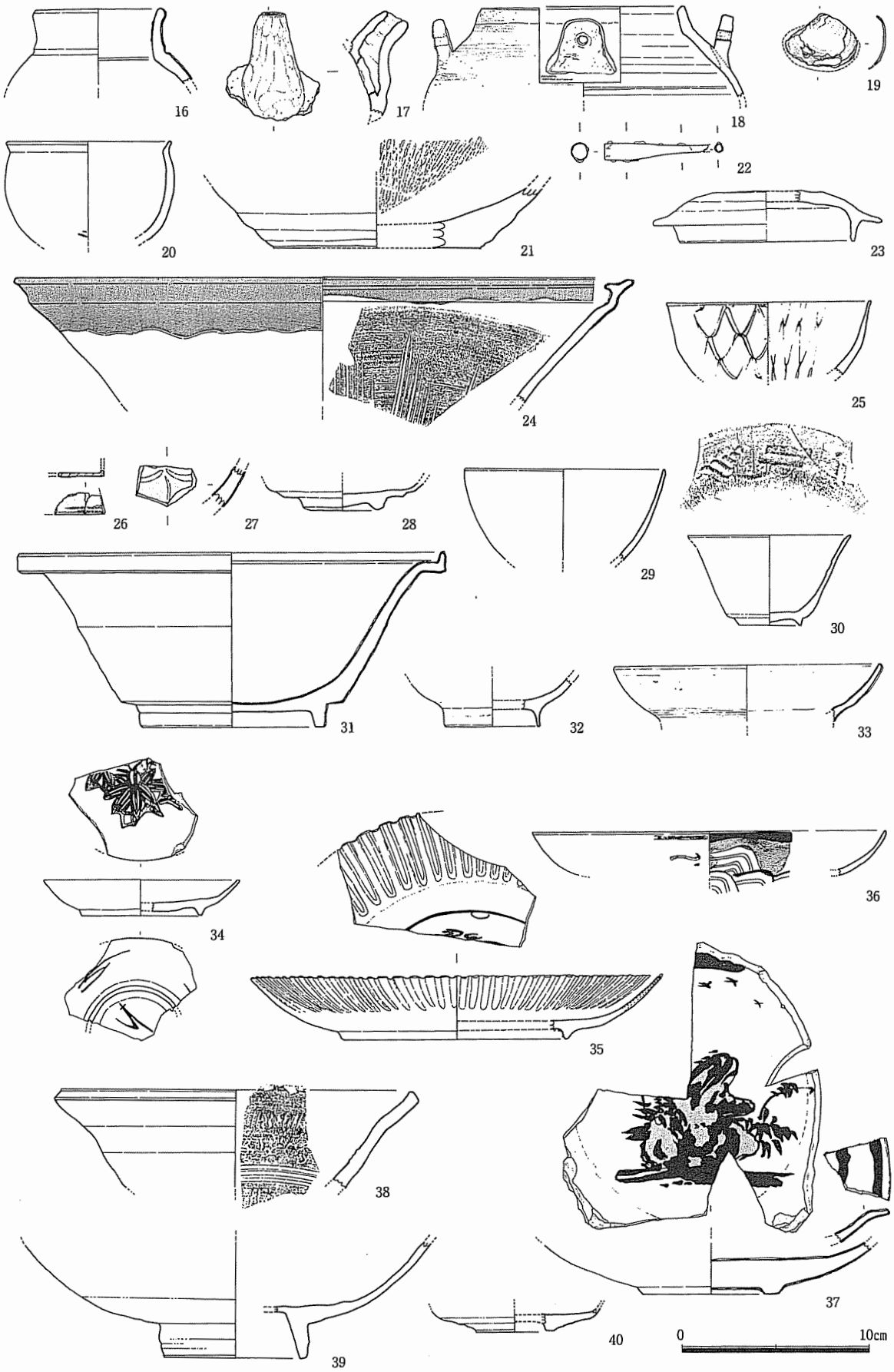


図35　9405調査地点出土遺物実測図２（1/3）

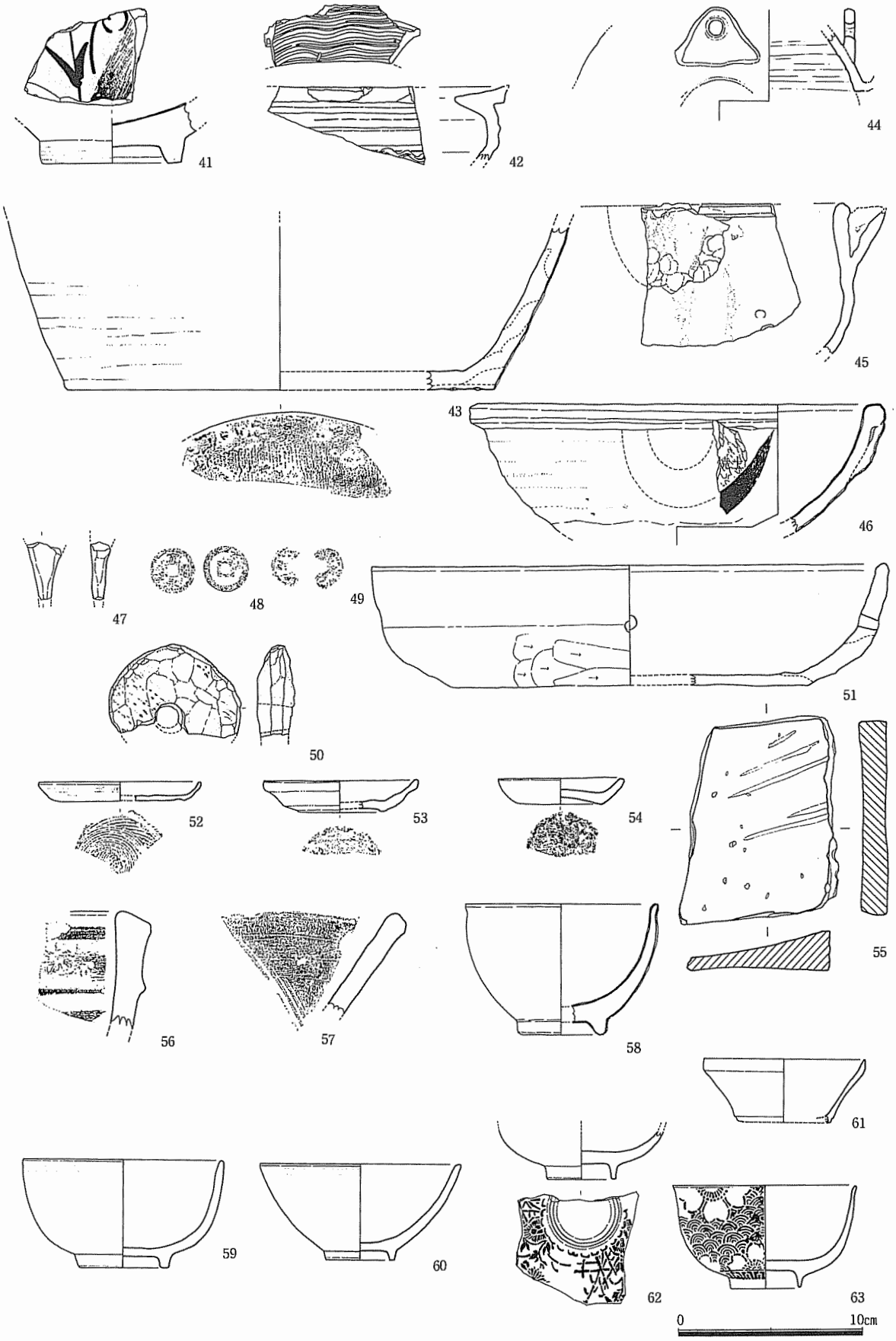


図36　9405調査地点出土遺物実測図３（1/3）

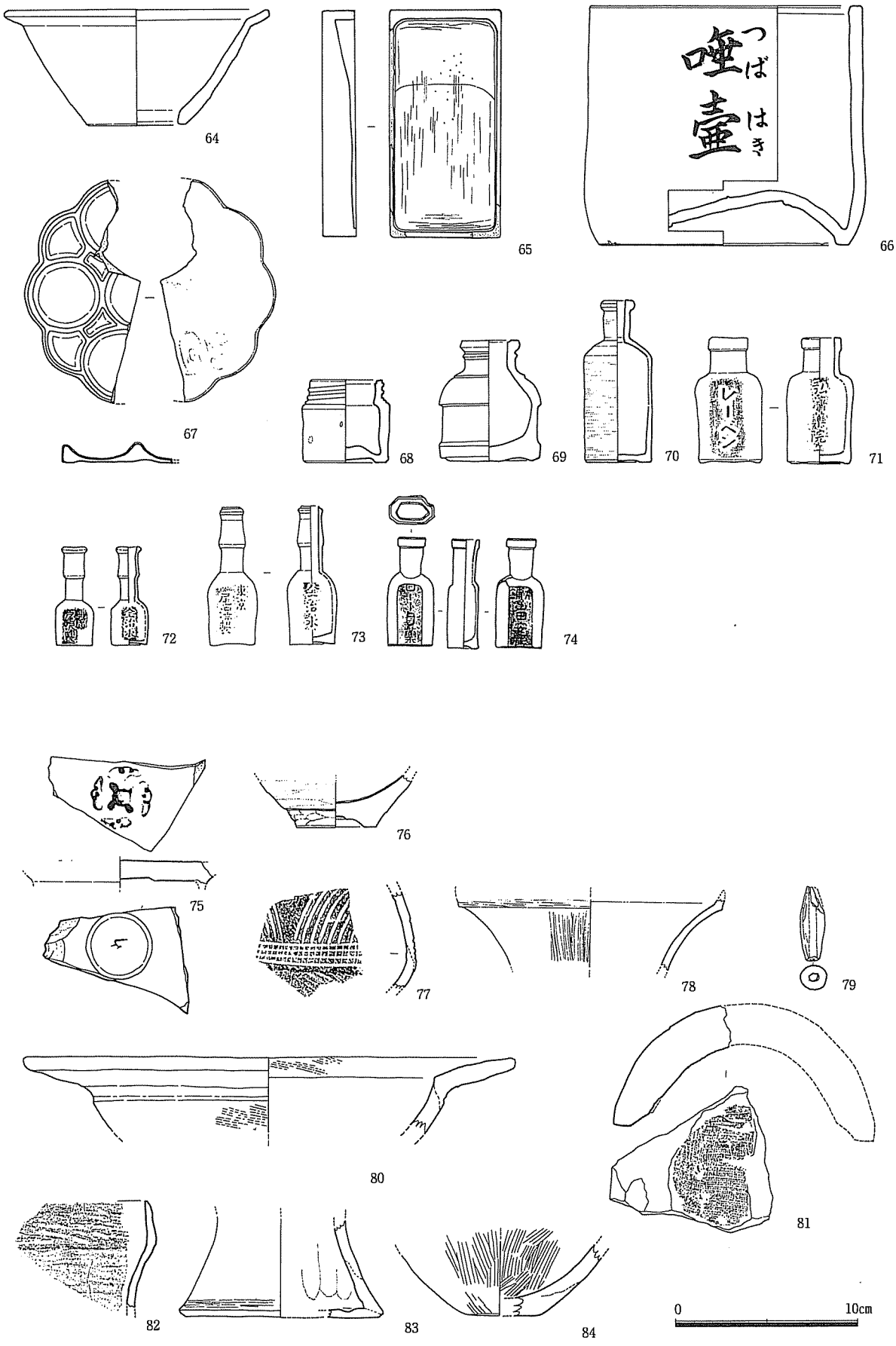


図37　9405調査地点出土遺物実測図 4 （1/3）

表6　9405調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
34	1	弥生土器	壺形土器	口径　12.9	1/2・底部欠	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue5YR8/4 外：Hue7.5YR7/4	1号住居址	
	2	弥生土器	壺形土器		胴部片	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue7.5YR8/4 外：Hue7.5YR7/3	2号住居址	
	3	弥生土器	壺形土器		胴部片	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/4	2号住居址	
	4	瓦	軒丸瓦・瓦当	直径　15.8 厚さ　3.3	1/2		内：HueN4/0 外：HueN4/0	1号土坑46	珠文左三つ巴紋
	5	瓦	軒丸瓦・瓦当	長さ　11.4 幅　7.8 厚さ　3.0	1/3		内：HueN4/0 外：HueN4/0	1号土坑32	珠文右三つ巴紋
	6	白磁	壺	口径　4.8 底径 器高	口縁部片	内： 外：	内： 外：	1号土坑60	
	7	陶器	碗	口径 底径 器高	底部1/2片	内： 外：無釉（底）	内： 外：	1号土坑64	
	8	青磁	皿	口径 底径　8.1 器高	底部片1/4	内：無釉 外：	内： 外：オリーブ釉	1号土坑72	畳付釉拭取・砂目
	9	染付	碗	底径　4.2	口縁欠	内：網状紋 外：	内： 外：	1号土坑49	
	10	染付	碗	長さ　2.8 幅　3.8 厚さ　0.7	破片	内：網状紋 外：網状紋	内： 外：	1号土坑7	
	11	染付	鉢	底径　4.5 器高	1/2破片 口縁欠	内： 外：	内：無釉 外：緑色釉	1号土坑5	
	12	染付	瓶	口径　4.4	口縁欠 ・1/2	内： 外：草花紋	内： 外：	1号土坑	内面無釉
	13	染付	皿	底径　7.1	1/4・口縁部欠	内：蛸唐草紋 外：唐草文	内： 外：	1号土坑13	
	14	陶器	碗		破片	内：白色巴紋 外：白色線紋	内：黒褐色釉地 外：	1号土坑73	唐津系蛍手
	15	白磁	碗	口径 底径　4.8 器高	口縁部欠	内： 外：	内：灰色釉 外：	1号土坑53	
35	16	陶器	壺	口径　7.0 底径 器高	口縁部片	内： 外：	内： 外：緑色釉	1号土坑	
	17	陶器	急須		注口のみ	内： 外：	内： 外：黒褐色釉	1号土坑	
	18	陶器	急須	口径　10.8	口縁部1/6 破片	内： 外：	内： 外：褐釉	1号土坑6	耳部あり
	19	貝殻		口径 底径 器高		内： 外：		1号土坑	蛤：風化により白色を呈する
	20	磁器	鉢	口径　8.6	口縁1/4	内： 外：鉄絵	内： 外：	1号土坑40	
	21	陶器	擂鉢	口径 底径　11.1 器高	底部片	内： 外：回転ナデ	内：Hue10R5/4 外：Hue10R5/4	1号土坑4	擂目は密
	22	煙管	吸口	長さ　5.6 直径　1.0	一部欠損	内： 外：		1号土坑58	銅製
	23	陶器	蓋	口径　9.2 器高　2.6	1/2	内： 外：	内：無釉 外：褐釉	1号土坑2	

表6　9405調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
35	24	陶器	擂鉢	口径　33 底径 器高	口縁1/3 破片	内： 外：	内：Hue2.5YR5/3 外：Hue2.5YR5/3	1号井戸	口縁に鉄釉・擂目単位10本
	25	染付	碗	口径　10.8 底 器高	口縁1/4 破片	内： 外：網状紋	内： 外：	1号井戸37	
	26	磁器	蓋	口径 底径 器高	破片	内： 外：	内： 外：	1号井戸下層	緑色釉
	27	青磁	碗	口径 底径 器高	破片	内：浮彫 外：	内：オリーブ色 外：オリーブ色	1号井戸5	
	28	磁器	碗	口径 底径　3.6 器高	破片	内： 外：	内：灰色釉 外：灰色釉	1号井戸75	見込砂目
	29	磁器	碗	口径　10.7 底径 器高	口縁1/4	内： 外：	内： 外：	1号井戸40	
	30	白磁	坏	口径　8.7 底径　3.4 器高　4.7	口縁一部欠	内： 外：	内： 外：	1号井戸90	薄手内面に浮彫紋・型作
	31	磁器	鉢	口径　22.7 底径　9.8 器高　9	1/2	内： 外：	内：オリーブ釉 外：オリーブ釉	1号井戸87	花器・内底に剣山による擦痕
	32	染付	碗	口径 底径　5 器高	底部片	内： 外：	内： 外：	1号井戸86	
	33	磁器	皿	口径　14.1 底径 器高	口縁部1/8 破片	内： 外：	内：灰色釉 外：	1号井戸47	
	34	染付	皿	口径　10.5 底径　6.4 器高　1.8	1/2片	内：笹の葉紋 外：松葉紋	内： 外：	1号井戸31	
	35	染付	皿	口径　22.1 底径　11.9 器高　3.4	1/4破片	内： 外：	内： 外：	1号井戸下層	口縁端は花弁状
	36	染付	皿	口径　18.8 底径 器高	口縁部片	内：波状紋 外：唐草文	内： 外：	1号井戸71	
	37	染付	皿	口径 底径　7.2 器高	1/2	内：山水画 外：	内： 外：	1号井戸	畳付砂目
	38	陶器	擂鉢	口径　18.6 底径 器高	口縁部片	内： 外：	内：乳白色釉 外：	4号井戸76	
	39	陶器	碗	口径 底径　7.7 器高	1/2破片・ 口縁欠	内：白色刷毛目 外：	内：茶褐色釉 外：茶褐色釉	4号井戸45	高台内は無釉・見込釉拭取
	40	陶器	碗	底径　4.1	底部1/2片・ 口縁欠	内： 外：	内：淡灰褐色釉 外：淡灰褐色釉	4号井戸69	見込・畳み付き砂目
36	41	陶器	鉢	口径 底径　7.6 器高	底部片	内：鉄絵唐草文 外：	内： 外：	4号井戸下層	
	42	陶器	鉢	口径 底径 器高	口縁部1/8 破片	内：白色波状紋 外：	内：褐色釉地 外：	1号井戸	
	43	陶器	甕	口径 底径 器高	底部1/6	内： 外：	内：Hue10YR3/2 外：Hue2.5YR3/3	1号井戸下層	外面施釉　底部に板圧痕・胎土目
	44	陶器	急須	口径 底径 器高	把手部のみ	内： 外：	内： 外：褐釉	1号井戸28	
	45	陶器	片口鉢	口径 底径 器高	口縁部1/6 破片	内： 外：	内：梨地状黒褐釉 外：梨地状黒褐釉	1号井戸下層	
	46	陶器	片口鉢	口径　21.8 底径 器高	口縁1/6 破片	内： 外：	内：褐釉 外：褐釉	1号井戸中層	外面に鉄絵

表6　9405調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
36	47	土製品	ミニチュア杓子	口径 底径 器高	破片	内： 外：	内： 外：Hue10YR7/3	1号井戸下層	柄部分　土師質
	48	銅銭	寛永通宝	直径　2.53 厚さ　0.16	完形	内： 外：	内：	1号井戸上層	
	49	銅銭		長さ　2.22 幅　9.1 厚さ　0.12	2/3	内： 外：	内：	1号井戸上層	錆・破損により銘不明
	50	石製品	有孔円盤	直径7.0 厚さ1.5	1/2	内： 外：	内：	1号井戸下層	軽石
	51	瓦器	火舎	口径　27.8 底径　18.5 器高　6.4	1/3破片	内： 外：	内：HueN4/0 外：Hue10YR4/2	1号井戸88	胴部中位に孔・煤付着
	52	土師器	皿	口径　8.6 底径　6.6 器高　1.1	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	1号井戸	回転糸切
	53	土師器	皿	口径　8.2 底径　4.7 器高　1.7	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/3	1号井戸	回転糸切
	54	土師器	皿	口径　6.7 底径　4.5 器高　1.4	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	1号井戸	回転糸切
	55	石製品	砥石	長さ　10.3 幅　8.2 厚さ　1.8		内： 外：		1号井戸7	天草産
	56	瓦器	甕		口縁部片	内： 外：	内：Hue10YR7/1 外：Hue10YR7/1	1号井戸中層	七花紋スタンプあり
	57	瓦器	擂鉢	口径 底径　23.1 器高	口縁部片	内： 外：	内：HueN5/0 外：HueN5/0	1号井戸下層	
	58	青磁	碗	口径　9.5	1/3	内： 外：	内：淡いオリーブ 外：淡いオリーブ	1号井戸下層	畳付に砂粒付着
	59	磁器	碗	口径　10.7 底径　4.8 器高　5.7	完形	内： 外：	内： 外：	4号土坑23	口縁端部外面に緑色の条線・日陶製
	60	磁器	碗	口径　10.8 底径　3.8 器高　5	口縁1/4欠	内： 外：	内： 外：	4号土坑22	口縁端部外面に緑色の条線・日陶製
	61	磁器	碗	口径　8.7 底径　4.5 器高　3.3	口縁部1/4破片	内： 外：鉄絵	内：オリーブ色釉 外：	4号土坑39	
	62	染付	碗	口径 底径　3.8 器高	底部1/2片	内： 外：	内： 外：	4号土坑41	高田焼・型紙刷・見込釉拭取
	63	染付	碗	口径　9.9 底径　3.8 器高　5.4	口縁部一部欠	内： 外：桜花と波状紋	内： 外：	4号土坑	型紙刷
37	64	磁器	漏斗	口径　14.2 底径　5.3 器高　6	完形	内： 外：	内： 外：	4号土坑	痰壺とセット
	65	石製品	硯	長さ　12.3 幅　6.2 厚さ　1.8	完形	内： 外：		4号土坑	粘板岩
	66	磁器	壺	口径　14.9 底径　13.7 器高　14.3	完形	内： 外：	内： 外：	4号土坑	痰壺 「唾壺・つばはき」
	67	陶器	顔料皿	口径 底径 器高		内： 外：	内： 外：	4号土坑	絵皿・裏に墨書「園師」「宅」
	68	瓶	糊瓶	口径　3.3 底径　4.4 器高　4.5	完形	内： 外：	淡緑色	4号土坑	ガラス
	69	瓶	インク瓶	口径　2.4 底径　4.5 器高　6.6	完形	内： 外：	淡緑色	4号土坑	ガラス

表6　9405調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
37	70	瓶	薬瓶	口径　0.9 底径　3.5 器高　8.7	完形	内： 外：	濃紺色	4号土坑	ガラス
	71	瓶	薬瓶	口径　1.7 底径　3.1 器高　6.7	完形	内： 外：	褐色	4号土坑	ガラス 「レーベン」 「弘済薬院」
	72	瓶	薬瓶	口径　0.9 底径　1.9 器高　5.3	完形	内： 外：	透明	4号土坑	ガラス 「全治水・東京小沢製」
	73	瓶	薬瓶	口径　0.9 底径　2.5 器高　7.4	完形	内： 外：	透明	4号土坑	ガラス 「全治水・東京小沢製」
	74	瓶	薬瓶	口径　1.5 底径　5.9 器高　2.85	完形	内： 外：	青色	4号土坑	「ロート目薬」「本舗山田安民」
	75	磁器	皿		底部片	内：草花文 外：	白色	調査区一括	染付外底「ウ」銘
	76	陶器	碗	口径 底径　4.4 器高	底部片	内： 外：	内：黒褐釉 外：黒褐釉（上半）	調査区一括	
	77	弥生土器	壺形土器		胴部片	内：ナデ 外：重弧文	内：5YR6/6 外：2.5YR6/8	2号住居址	
	78	弥生土器	壺形土器		口縁1/8	内：ナデ 外：ナデ	内：5YR5/3 外：5YR6/3		
	79	土製品	土錘	長さ　4.0 幅　1.2	一部欠	内： 外：	Hue7.5YR8/4	調査区一括	土師質
	80	弥生土器	鉢	口径　26.7	口縁1/6	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue7.5YR8/3 外：Hue7.5YR8/3		
	81	瓦	丸瓦	長さ　8.0 幅　9.2 厚さ　2.3	破片	内：布目 外：ナデ	内：Hue10YR5/3 外：Hue5Y6/1	1号井戸一括	布目圧痕
	82	縄文土器	深鉢		口縁部1/8	内：ナデ 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR7/3	1号住居址	
	83	弥生土器	ジョッキ形土器	底径　10.5	底部1/5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR8/2 外：Hue10YR8/2	2号住居址	
	84	弥生土器	壺形土器	底径　3.8	底部1/3	内：ハケ目 外：ハケ目	内：Hue7.5YR8/3 外：Hue5YR7/4		

2．まとめ

近世以降、様々な造成工事によって大きく改変されていたと考えられていた校庭に弥生時代の遺構が残存していたことは予想外のことであった。検出した竪穴住居址は2基であったが恐らく周辺にも住居址は広がっており、弥生集落がこの一帯に存在していたことは疑いない。土器の特徴からみて弥生時代後期の所産であろう。縄文、古墳時代の包含層は今回発掘した部分では既に削平されていたが、多くの事例からみて周辺にこれらの時期の遺跡が存在する可能性が高い。

思いがけず多かったのは江戸時代の遺物である。江戸時代には、この地は熊本城へ通じる街道の要衝であり、古地図によると、附属中学校敷地の北辺には大地を横断する広い堀切が描かれ、その北には街道を挟み、往生院をはじめ妙教寺、光永寺などの現在も残る3寺院が配置される。一方、堀切の南は肥後藩の家老澤村家の広大な屋敷を置き、有事に備えた陣型をなす。屋敷は附属小中学校敷地の全域を占め、小学校敷地は下屋敷跡、中学校敷地は上屋敷跡である。今回の調査地点は上屋敷の南西部にあたる。遺物は日用雑器に混じえて優品が相当含まれ当時の上級階級の生活がしのばれる。

V　渡鹿地区の調査

1．渡鹿グラウンド整備に伴う発掘調査（9408・9413）

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

本調査は熊本大学渡鹿団地野球場等整備工事に伴うものである。Ⅰ次・Ⅱ次にわたる調査であり、Ⅰ次調査は集水桝設置のため、Ⅱ次調査は透水管埋設のために実施した。それぞれ9408地点、9413地点と称する（図38）。

本調査区は1977年に現在の運動場造成に伴い発掘調査がなされている。調査主体は熊本大学を中心としたものであり、現運動場の南東部分を中心に調査を行ない、13基の住居址が確認された。奈良朝から平安中期にわたる住居址であり、大小それぞれ相違があり、北側またはそれに近い箇所の外壁中央に炉跡をもつことが住居址の特徴であるという結果を得ている（熊本市教育委員会1980）。また同調査区域内において、縄文時代晩期初頭のものを主体とする土器片が多数出土している。

b. 調査の経過

以上の調査結果を踏まえ、以下の日程の通り調査を実施した。

＜Ⅰ次調査日程＞

Ⅰ次調査は平成6年8月1日より実質8日間に渡る調査である。集水桝設置箇所に、必要な掘削範囲をもって11箇所のトレンチを設け、掘削の及ぶ深度までの調査を行った。遺物包含層および遺構の保存状態の確認を目的としたものである。調査面積は総計で40.4㎡であった。

8月1日　調査開始。第1～11トレンチを設定。重機による掘り下げを開始。第1トレンチにおいて遺物の集中がみられる。

8月2日　手作業による掘り下げ。第11トレンチにおいて土師器壷の一部が出土。

8月4日　全トレンチ完掘。

8月5日　電気配線工事立会調査。

8月8日　包含層の傾斜確認の為、グラウンド内を東南より北西に向かって10m間隔で試掘を開始。

8月9日　写真撮影、実測作業。

8月10日　全調査終了。

＜Ⅱ次調査日程＞

Ⅰ次調査の結果より、かなり上位において遺物包含層が確認され、配管工事による影響を受けると考えられる運動場内東南部を調査するに至った。透水管が交差する地点を中心に、透水管の走る方向に沿って、5×10mのトレンチを3箇所に設定し、発掘調査を行った。また第1～3トレンチの調査から、より東側および南側の地区においての工事による遺跡破壊の可能性が浮かび上がり、該当地区に第4トレンチおよび任意トレンチを設定し、調査するに至った。調査の総面積は200㎡であった。

11月10日　重機にて表土より50cmを掘り下げる。遺物包含層に到達。

11月14日　作業員投入。手作業にて掘り下げ開始。第2トレンチにおいて遺物が多量に出土。

11月18日　自動車部練習場試掘。

11月21日　第2トレンチにおいて古代の道路跡を検出。

11月24日　第1トレンチにおいて住居址床面を検出。第3トレンチにおいて住居址を確認。検出進行。

11月25日　第2トレンチの道路遺構を断面確認のため断ち割る。

11月30日　第1トレンチ住居址完掘。

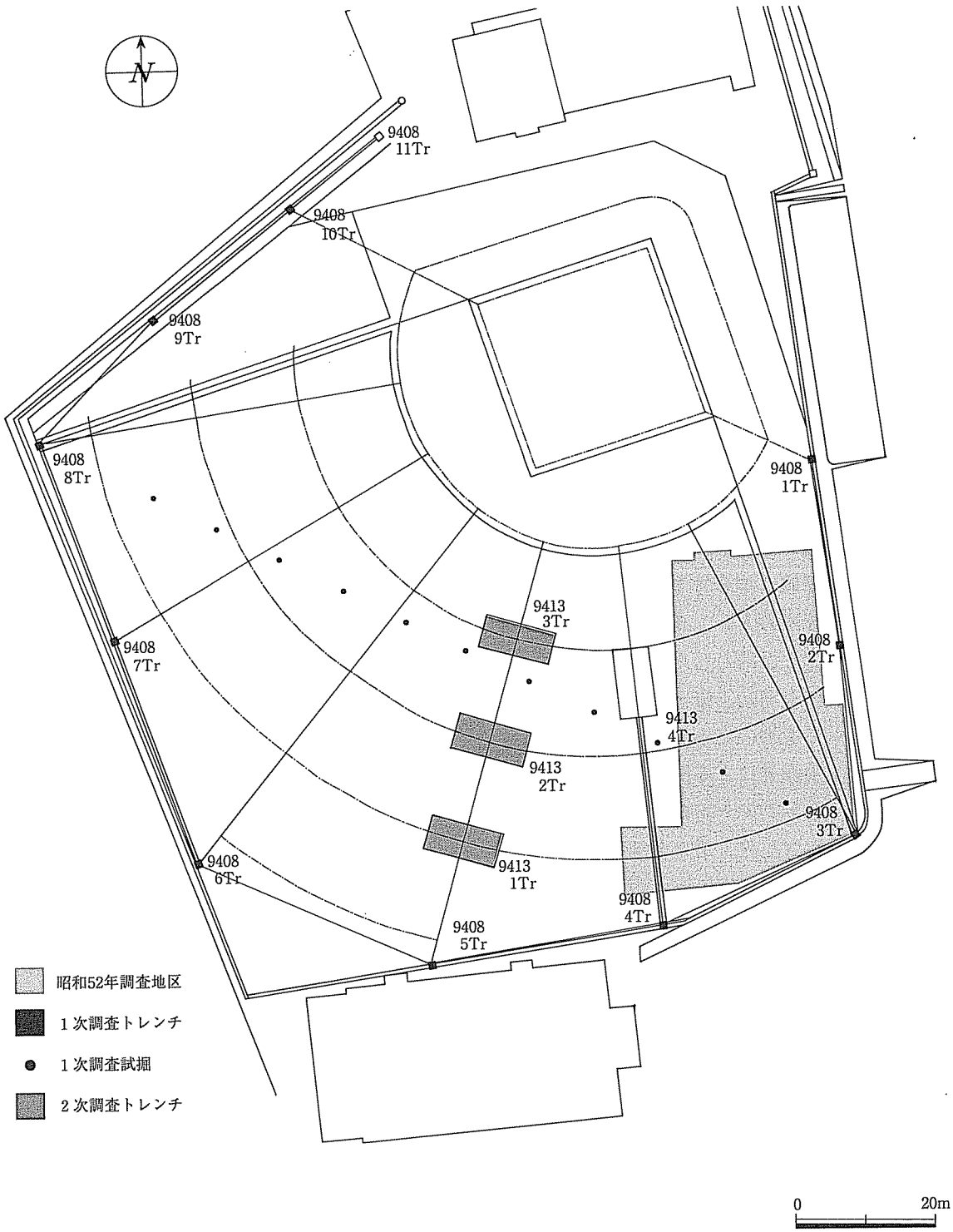


図38　9408・9413調査地点配置図（1/910）

12月２日　第２・３トレンチ完掘。

12月７日　第１・２トレンチ図面終了。調査の結果より、工事によって影響を受けると考えられる位置に第４トレンチを設定。掘り下げ開始。

12月８日　第３トレンチの住居址において竈を検出。

12月９日　第３トレンチ図面終了。第４トレンチにおいて住居址３基を確認。検出進行。

12月14日　第４トレンチの住居が２基ずつの重複で、計４基であることを確認。第４トレンチより

南へ向かって、透水管埋設部分に確認のためトレンチを掘る。

12月16日　住居址完掘。竈を断ち割る。

12月19日　竈完掘。トレンチ調査終了。

12月22日　竈実測の終了をもって、全調査終了。

c. 調査の組織

調　査　員：原田範昭（現熊本市文化課）

事 務 担 当：矢野希久代

発掘作業員：相川奈美・飯田孝俊・稲田和加・今村佳子・岩谷史記・中薗拓也・大塚宏之・大坪志子・岡部是央・岡本久美子・甲斐美紀代・甲斐田末男・川野博之・清田志野・蔵冨士寛・古賀敬子・後藤郁子・小深田ナオ・佐藤タエ子・澤田まり子・柴田やよひ・高崎芳美・高松幸一・田崎末人・田中末光・田中聡一・田中大介・田中レイ・土田ちえみ・中嶋由起子・中村さつき・中村哲史・橋本みどり・花田誉宣・林田恵子・春木藤美・番山明子・東真一・藤田實千代・藤岡泰江・古屋俊英・本田晶子・本田浩二郎・槇林啓介・益永武史・松井昭子・松浦一之介・松里健一・丸岡恵子・美浦雄二・村山志穂・山口健剛・山下直哉・吉岡和哉・若杉あずさ・若杉竜太

整理作業員：甲斐美紀代・古賀敬子・柴田やよひ・田中レイ・土田ちえみ・橋本みどり・林田恵子・春木藤美・藤岡泰江・松井昭子

（2）調査区の基本層序（図39・40）

渡鹿グラウンドにおける調査で確認された層序は、以下のとおりである。

1層：黄褐色土層（2.5Y5/3）　運動場造成時の客土である。整地によって非常に堅くしまっている。石・砂・炭・焼土粒などの混入物を多く含む。厚さ10～30cm。

2層：オリーブ褐色土層（2.5Y4/3）　整地前の表土層である。土質は1層と同様である。混入物は少ない。遺物をわずかに含む。厚さ20～30cm。

3層：黒褐色土層（2.5Y3/2）　遺物包含層である。しまりはなく、柔らかい。橙色の焼土粒を含む。厚さ40～50cm。

4層：暗褐色土層（10YR3/3）　無遺物層である。緻密であり、住居址が掘り込まれる。混入物はほとんどない。厚さ30～80cm。

5層：黒褐色土層（10YR3/1）　Ⅳ層と同様の土に黒ニガと呼ばれる黒色の土が混じる。上面における凹凸が激しい。混入物はない。厚さ10～80cm。

6層：黄褐色土層（10YR5/6）　ローム層である。粘性があり、緻密である。

（3）検出遺構

＜Ⅰ次調査：9408調査地点トレンチ所見＞

今調査は集水桝設置場所に、必要な広さおよび深さのトレンチを11箇所に設け、遺物包含層および遺構の保存状況確認を目的として行った。トレンチは東側側溝沿いより運動場を一周して同場北端まで、右回りで第1～11トレンチとする（図38）。

第1トレンチ　1.8×1.7mのトレンチである。東側は運動場造成時に撹乱を受けている。また西側は配管による撹乱を受けている。残存部において地表下10cmにて遺物包含層を確認。

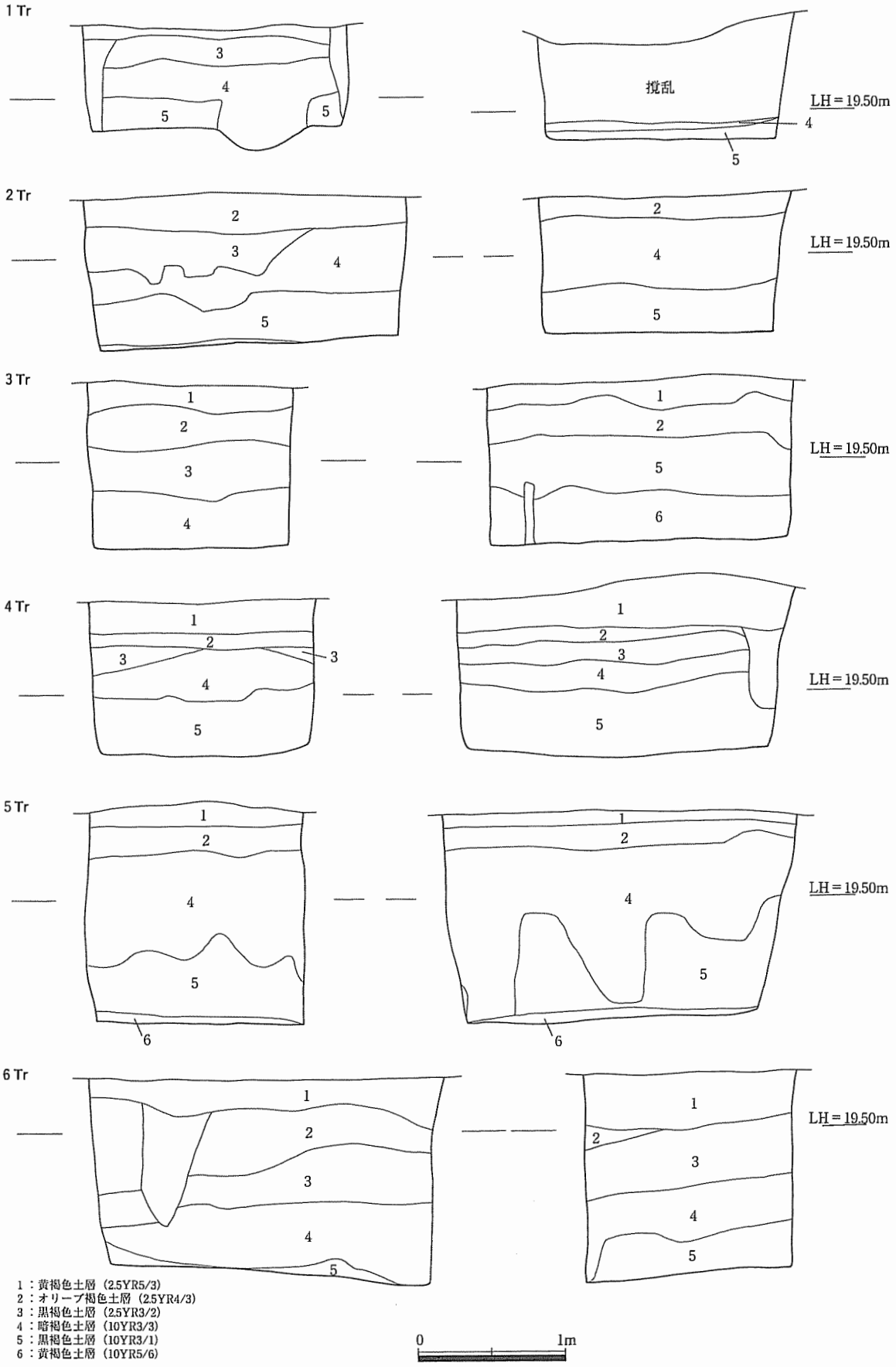


図39　9408調査地点トレンチ土層断面実測図１（1/40）

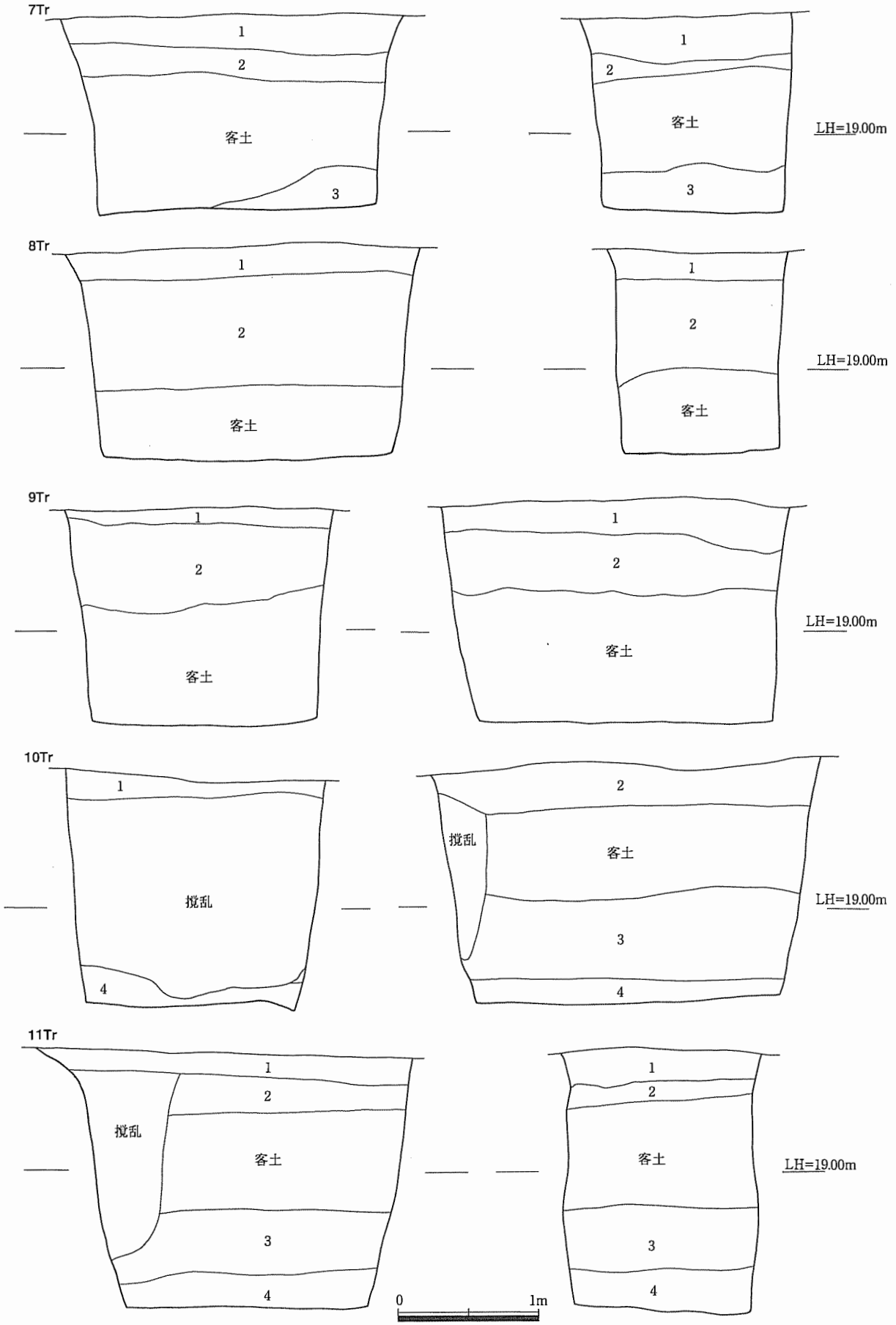


図40　9408調査地点トレンチ土層断面実測図２（1/40）

須恵器・土師器片が多数出土（図45）。遺構は確認できなかった。

第2トレンチ 2.2×1.7mのトレンチである。地表下20cmにおいて遺物包含層を確認。運動場内に広がる遺物包含層の東端である。したがってトレンチ東壁に包含層は確認できない。遺構は存在しない。

第3トレンチ 1.4×2.0mのトレンチである。遺物包含層は確認できない。グラウンド造成時に既に削平されたものと考えられる。地表下75cmにおいてローム層を確認。これより上層は客土である。

第4トレンチ 1.5×2.3mのトレンチである。南側は撹乱を受ける。地表下30cmにおいて遺物包含層を確認。しかし包含層の上部は、造成時に大部分削平されている。遺構は存在しない。

第5トレンチ 1.4×2.4mのトレンチである。遺物包含層は確認できない。大部分が造成時に削平されたと考えられる。包含層下の自然堆積土層を確認。

第6トレンチ 2.4×1.4mのトレンチである。地表下30～80cmにて遺物包含層を確認。部分的に撹乱を受けている。遺構は確認できない。

第7トレンチ 2.5×1.5mのトレンチである。地表下1.1mにて遺物包含層を確認。遺構は確認できない。

第8トレンチ 2.5×1.3mのトレンチである。深さ1.5mまで調査を行ったが、包含層は確認できない。1.5m以下に堆積するものと考えられる。

第9トレンチ 1.9×2.5mのトレンチである。深さ1.5mまで調査を行ったが、包含層は確認できない。第8トレンチ同様、1.5m以下に堆積すると考えられる。

第10トレンチ 1.9×2.7mのトレンチである。地表下1.55mにおいて遺物包含層を確認。現段階では遺構は確認できず、工事による遺構への影響はない。

第11トレンチ 2.7×1.4mのトレンチである。西側はフェンス設営時に撹乱を受けている。地表下1.1mにおいて遺物包含層を確認。遺構は存在しない。

以上が各トレンチにおける所見である。また第3トレンチと第8トレンチを結ぶ直線上に、10m間隔で0.5×0.5mの試掘を11箇所行った（図38）。方向は南東から北西である。南東側では地表下18cmにおいて包含層を確認でき、北西に進むにしたがって次第に深くなり、最も北西では地表下82cmで確認できる。トレンチ調査の結果と総合した場合、遺物包含層は南東から北西に向かって傾斜して堆積していると考えられる。これは旧地形の起伏によるものと考えている。

＜Ⅱ次調査：9413調査地点の検出遺構＞

1977年の調査より本調査区が奈良から平安時代の集落跡であることが確認されているが、今回の調査でも竪穴住居址7基と道路跡1条を検出した（図41～44）。竪穴住居址はすべて4層に掘り込まれている。また出土遺物により住居址はすべて同時期に属するものと考えている。住居内の覆土は黒褐色（2.5Y5/3）の土であり、3層と同質のものである。住居内における分層はできない。住居外に比べ焼土粒や灰がより多く含まれることが、平面における住居址の確認の手掛かりとなる。住居址は、第1トレンチより確認された順に1～7号とした。

＜竪穴住居址＞

1号竪穴住居址（図41・図版25－8）

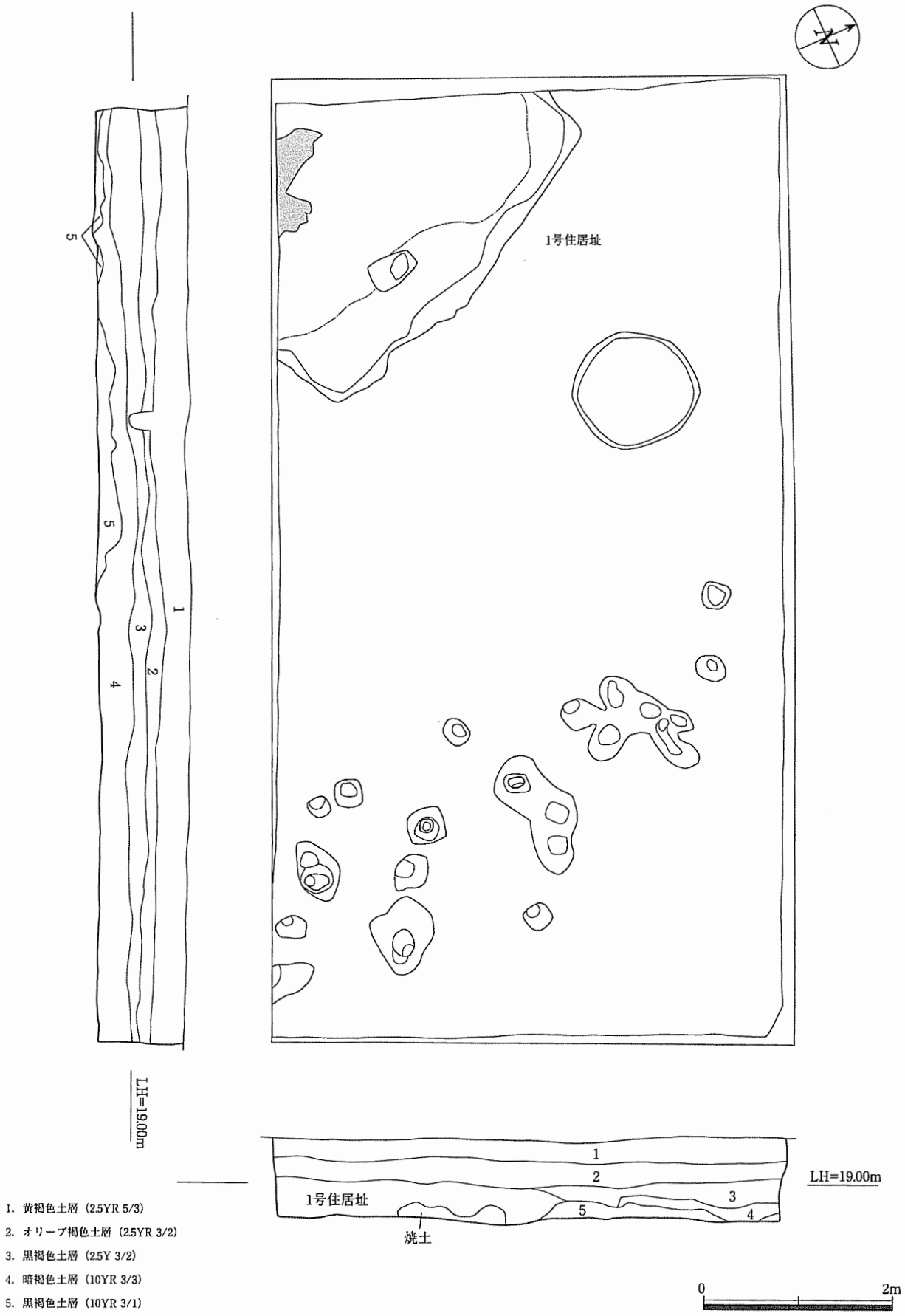


図41　9413調査地点第１トレンチ遺構配置図・北壁・西壁土層断面実測図（1/60）

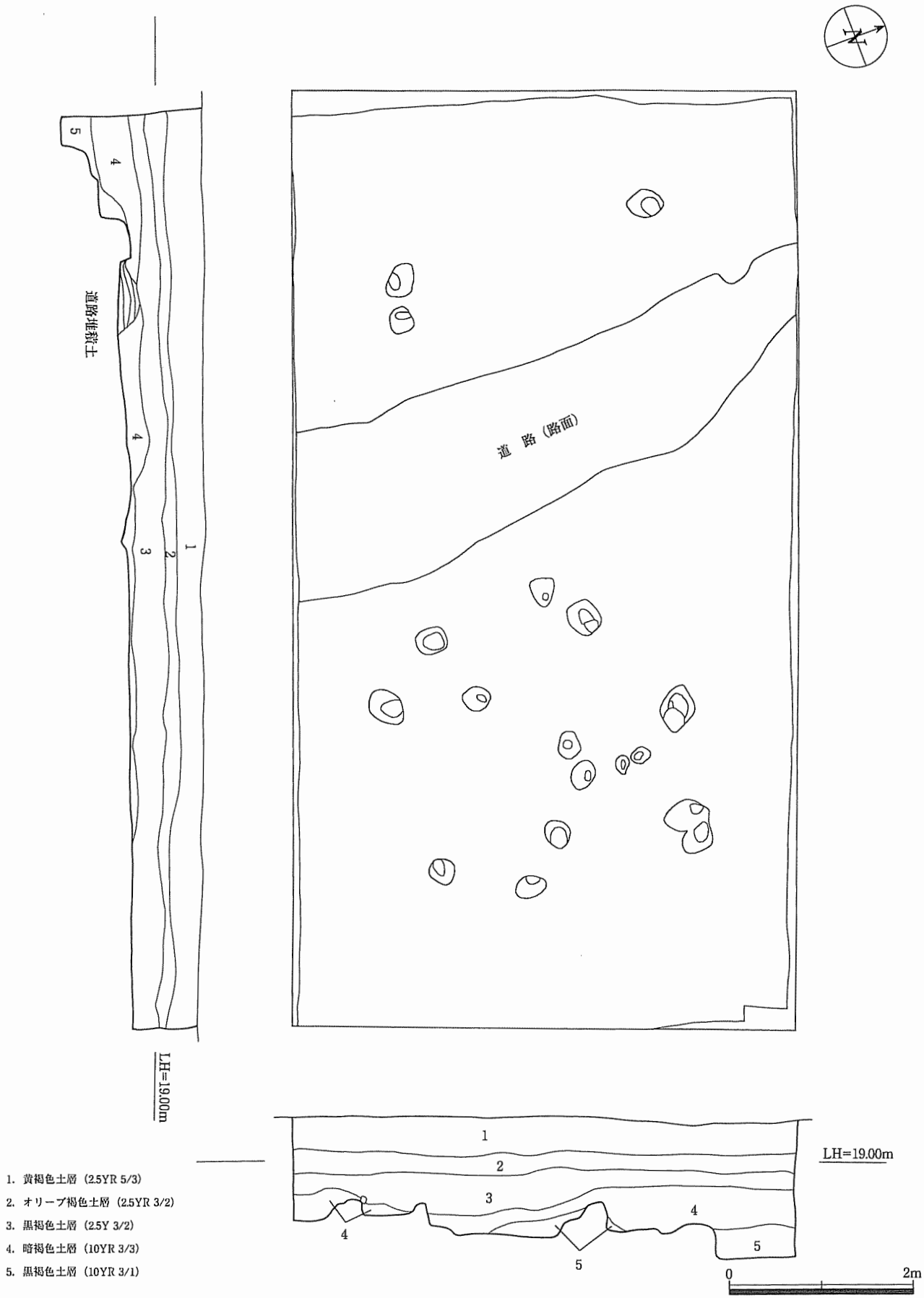


図42　9413調査地点第２トレンチ遺構配置図・北壁・西壁土層断面実測図（1/60）

第１トレンチ内南西隅において検出した。住居址の大部分は調査区外にあるため、住居址1/4程度の調査となった。東壁のみを完全に調査することができ、他のトレンチにおける調査結果を考え合わせた場合、プランは一辺４ｍの正方形を推定することができる。主軸はＮ－34°－Ｗである。残存する壁高は20cmである。柱穴は確認できなかった。住居内東側に長軸50cm、短軸30cmの楕円形を呈する凹みがあるが、深さ13cmと浅いため、柱穴とは考え難い。住居内床面には被熱した粘土塊が広がっているため、竈をもつものと考えられる。他の調査結果から竈は北壁寄りに付設するであろう。

２号竪穴住居址（図43・図版25－９）

第３トレンチの北東隅より検出。一部分が調査区外となるため、全容は明らかではない。２号住居址は大部分が調査区外にあることや、３号住居址内の覆土に掘り込まれていることなどより確認が遅れ、床面のみの確認となった。

３号竪穴住居址（図43・図版25－９）

第３トレンチの北東隅において、２号住居址と重複して存在する。３号住居址は東壁部分が調査区外となり、約２/３程度の検出となったが、完全に把握することができた西壁より推定した場合、そのプランは１辺４ｍの正方形を呈すると考えられる。主軸はＮ－32°－Ｗである。残存する壁高は26cmである。３号住居址内では７個の柱穴を検出した。直径20～30cmの円形ピットであり、深さは20～30cmである。床面の硬化した部分を囲むように配列されているようである。住居北西隅の灰や焼土が集中する地点において、被熱した砂岩のようなブロックが床面直上に散在する。また同地点より直径45cm、深さ30cmの、内部に灰や焼土を充填する掘り込みを検出した。前者は破壊をうけた竈の構築材の一部であり、後者は竈内の掘り込みと想定している。

４号竪穴住居址（図44・図版25－10）

第４トレンチの中央東寄りに存在する。トレンチ東壁部分にひっかかり、５号住居址の上に重複して掘りこまれている。プランは西壁１辺2.8mを検出したが、全容は把握できない。主軸はＮ－16°－Ｗである。残存する壁高は12cmである。住居内に柱穴を４個検出した。規模は直径20～50cm・深さ20～95cmと不揃いである。全容は判然としないが、住居の軸に沿って、それぞれの壁際中央部と住居の中心部とに、十字に柱が配列されていたのではないかと想定している。竈は北壁の西隅を一部掘り込む形で構築されている。整形された砂岩製のブロックを中央の支柱および両袖部に用い、壁体は粘土を貼り付けることによって形成されている。焚口幅80cm、奥行50cmの規模をもつ。上部構造は確認できない。

５号竪穴住居址（図44・図版25－12）

第４トレンチのほぼ中央において、４号住居址にその東側の一部を切り取られる形で存在する。平面プランは3.5×3.8mの隅丸方形を呈する。主軸はＮ－45°－Ｗである。残存する壁高は18cmである。柱穴は住居内に５個、住居外に３個検出したが、位置的にすべてが住居に伴うものとは考え難い。規模は直径30～40cmであり、深さは住居中央付近と南西隅のものが60～95cmと深く、その他が15～40cmと比較的浅い。竈は住居北壁の中央を一部掘り込み、砂岩製ブロックと粘土を用いて構築されている。破壊を受けているが、残存部よりの推定規模は焚口幅1.5m、奥行1.0mと大きなものとなる。竈内部に堆積した土より土師器坏片が出土している。

６号竪穴住居址（図44・図版25－14）

第４トレンチの北東隅に位置する。東壁と南壁の一部が調査区外となる。平面プランは2.5×3.5mの方形プランである。主軸はＮ－22°－Ｗである。残存する壁高は15cmである。柱穴は住居内に４個、住居外に１個を検出した。規模は直径25～40cmであり、深さは15～65cmと統一を欠く。竈は住

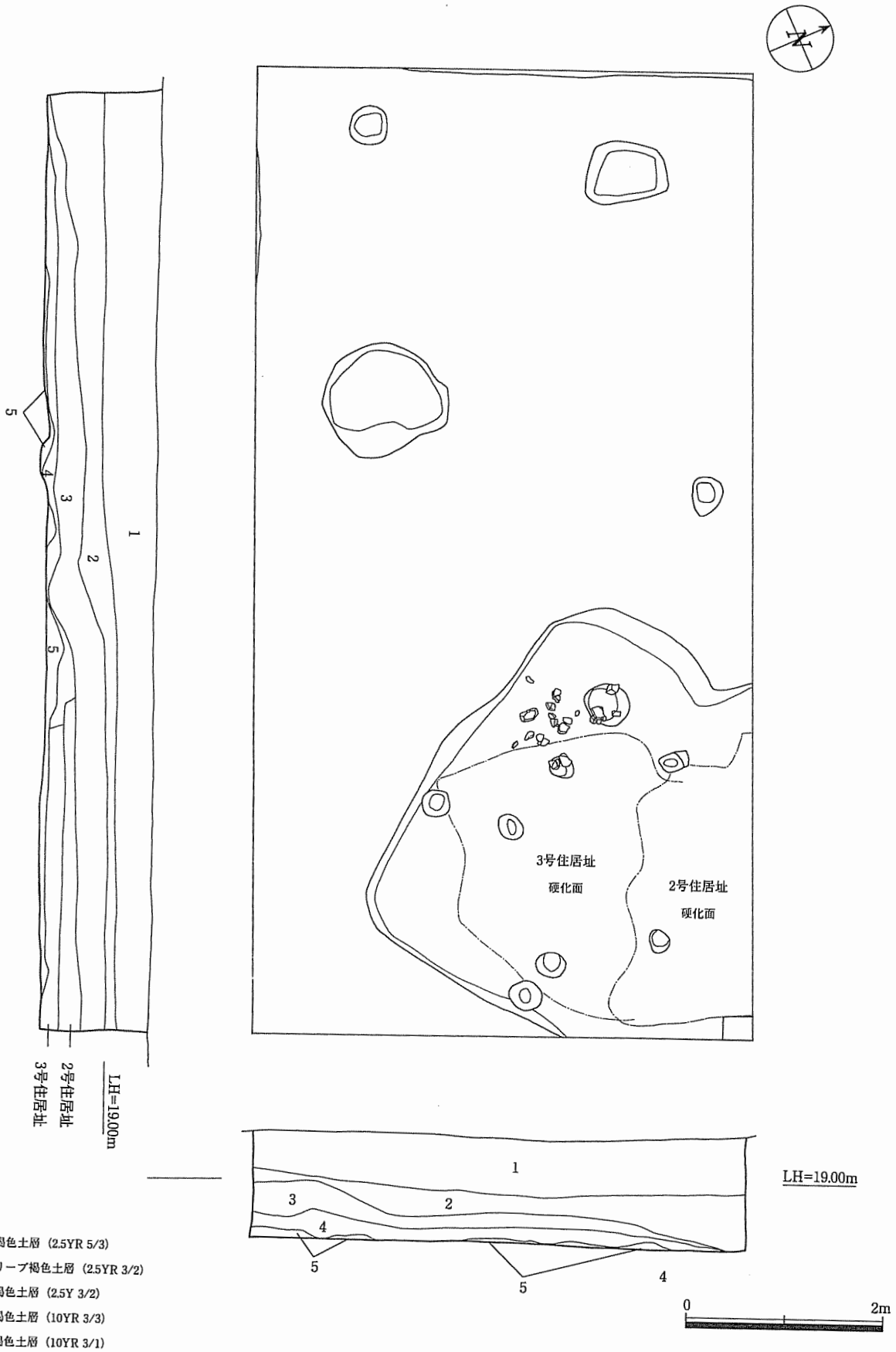
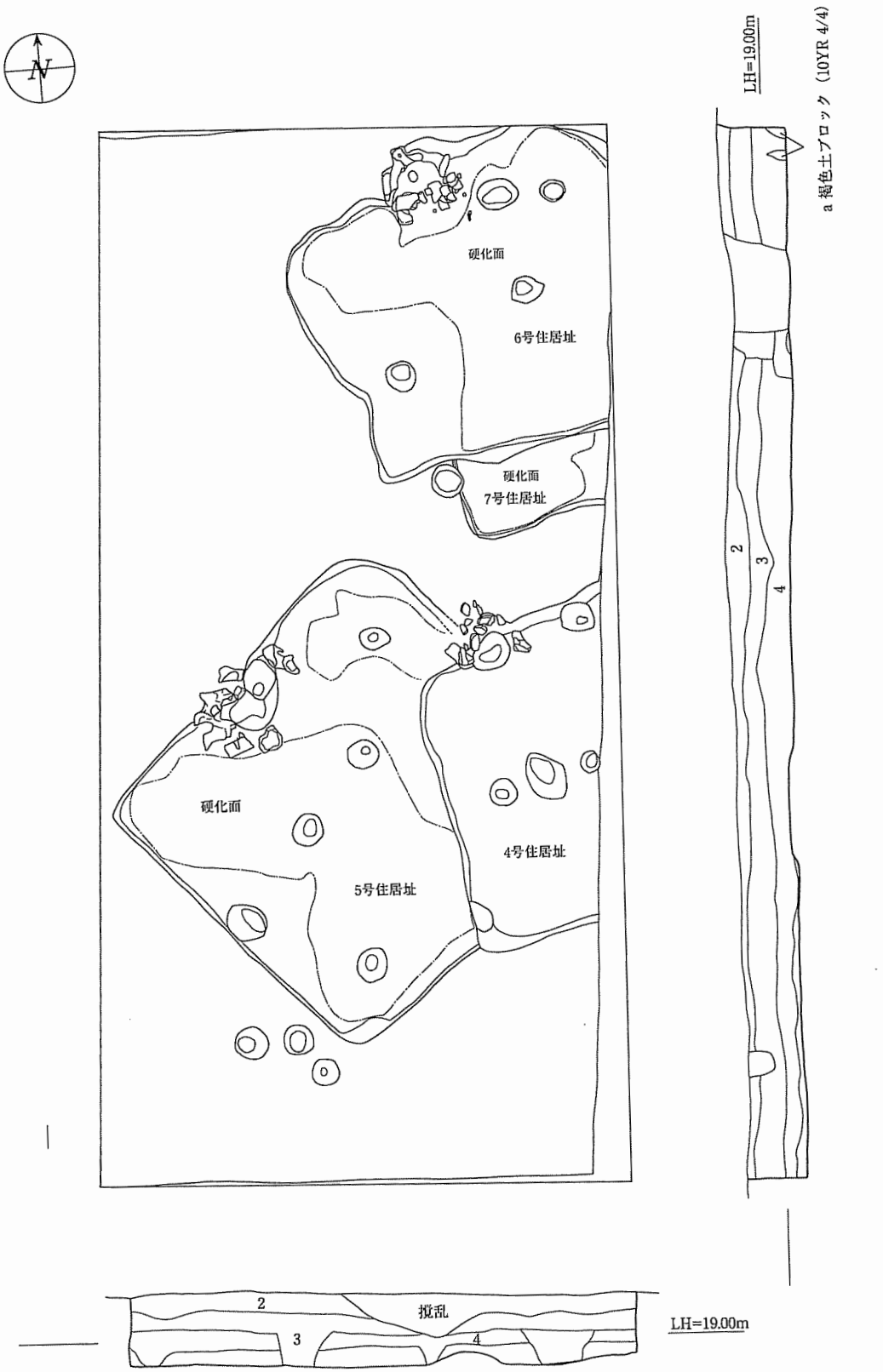


図43　9413調査地点第３トレンチ遺構配置図・北壁・西壁土層断面実測図（1/60）



1. 黄褐色土層（2.5YR 5/3）
2. オリーブ褐色土層（2.5YR 3/2）
3. 黒褐色土層（2.5Y 3/2）
4. 暗褐色土層（10YR 3/3）
5. 黒褐色土層（10YR 3/1）

図44　9413調査地点第４トレンチ遺構配置図・北壁・西壁土層断面実測図（1/60）

居址北壁中央に位置する（図版25－15）。両袖部及び支柱に柱状に加工した砂岩製ブロックを用い、燃焼部には高さを揃えた同質のブロックを敷きつめている。竈壁体は粘土を用いて形成されている。煙道部は確認できなかった。焚口幅1.0m・奥行1.0mの規模である。

7号竪穴住居址（図44）

第4トレンチの南東隅において6号住居址にその大部分を切られる形で存在している。また東半分は調査区外に位置する。したがって検出範囲は1.5×0.7mというほんの一部のみの調査となり、規模などの大容は不明である。残存する壁高は8 cmである。

＜道　路＞

道路遺構（図42・図版24－7）

第2トレンチ中央やや西寄りに、帯状に伸びる硬化した土層の堆積を検出した。ほぼ南北に沿ってやや西に湾曲しながら、幅1.0mから1.8mをもってトレンチを横断する。Ⅴ層上面からⅢ層の下部に渡って、焼土粒・砂粒・細かい土器片を多量に含む土（にぶい黄褐色・Hue10YR4/3）の堆積によって形成される。断面観察の結果、4枚の層序を確認した。すべて土質は同じだが、それぞれの層の上面が硬化していることより分層が可能である。人為的に整地が施された結果と考えている。以上よりこれを古代の道路跡と認定した。

（4）出土遺物（図45～48・図版26－28）

出土遺物はパンケース20箱程である。紹介する遺物は遺構出土のものを中心に、時期比定の行いやすいものを抽出した。

9408地点第1トレンチ出土遺物

1次調査の第1トレンチから纏まって出土した遺物群である。ここでは土師器皿・坏の類を図示し

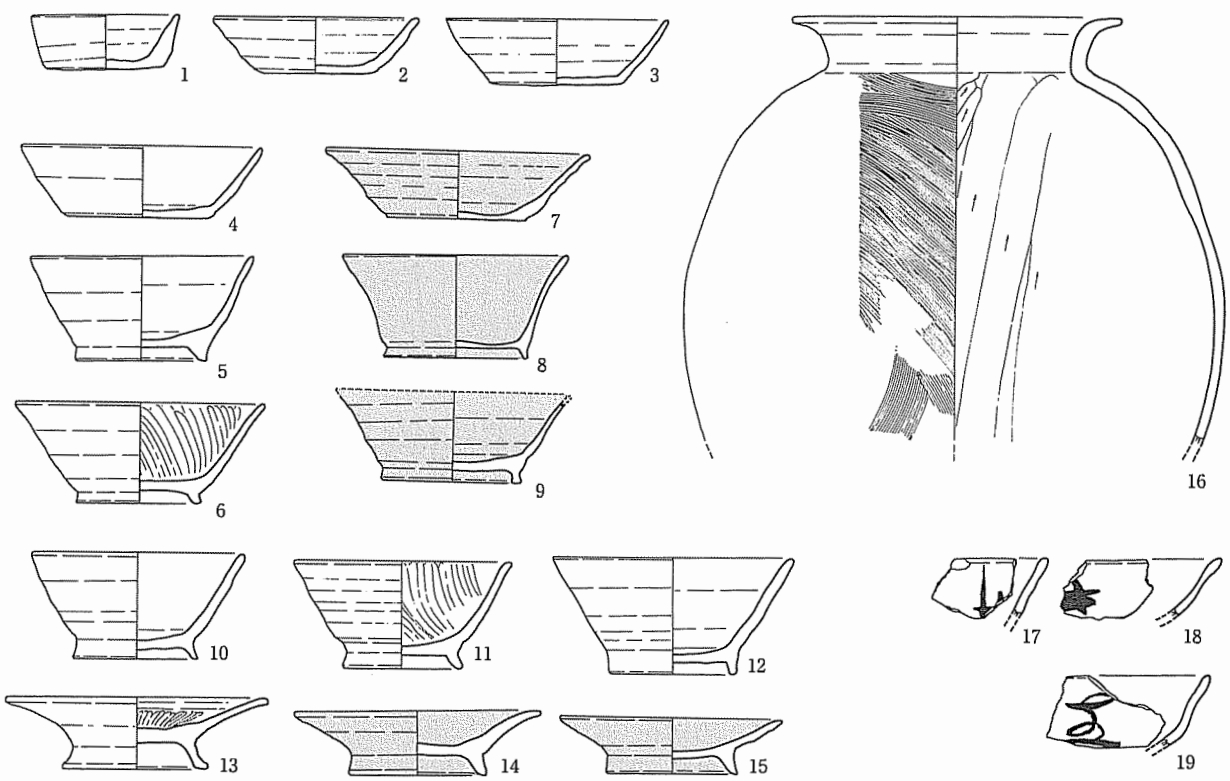


図45　9408調査地点出土遺物実測図（1/4）

表７　9408調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
45	1	土師器	皿（灯明皿）	口径　7.7 底径　6.2 器高　2.9	完形	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/3	1Tr Ⅱ層	煤付着
	2	土師器	坏（灯明皿）	口径　10.8 底径　5.5 器高　3.0	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	1Tr Ⅱ層	煤付着
	3	土師器	坏	口径　11.8 底径　7.0 器高　3.5	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR8/4	1Tr Ⅱ層	
	4	土師器	坏	口径　12.7 底径　7.9 器高　3.8	2/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	1Tr Ⅱ層	
	5	土師器	碗	口径　11.8 底径　7.0 器高　5.5	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue7.5YR8/6	1Tr Ⅱ層	
	6	土師器	碗	口径　13.25 底径　6.6 器高　5.4	1/3	内：磨き 外：回転ナデ	内：HueN1.5/0 外：Hue10YR7/4	1Tr Ⅱ層	
	7	土師器	坏	口径　14.0 底径　7.3 器高　3.6	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	1Tr Ⅱ層	内外丹塗
	8	土師器	碗	口径　12.0 底径　7.7 器高　5.5	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/6 外：Hue10YR8/6	1Tr Ⅱ層	内外丹塗
	9	土師器	碗	口径　11.9 底径　7.4	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR5/6 外：Hue5YR5/6	1Tr Ⅱ層	内外丹塗
	10	土師器	碗	口径　11.3 底径　6.7 器高　5.6	底部・口縁一部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	1Tr Ⅱ層	
	11	土師器	碗	口径　11.4 底径　6.35 器高　5.7	1/3	内：磨き 外：回転ナデ	内：Hue　N1.5/0 外：Hue10YR8/3	1Tr Ⅱ層	
	12	土師器	碗	口径　12.1 底径6.8 器高　6.2	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue7.5YR7/6	1Tr Ⅱ層	
	13	土師器	高台付皿	口径　13.85 底径　7.7 器高　3.85	1/2	内：磨き 外：回転ナデ	内：HueN1.5/0 外：Hue10YR8/2	1Tr Ⅱ層	
	14	土師器	高台付皿	口径　13.0 底径　7.2 器高　3.4	口縁一部欠損	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue5YR6/6	1Tr Ⅱ層	内外丹塗
	15	土師器	高台付皿	口径　11.7 底径　6.9 器高　3.0	口縁一部欠損	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR7/6	1Tr Ⅱ層	内外丹塗
	16	土師器	甕	口径　17.2 最大径 28.35	1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue10YR7/4	1Tr Ⅱ層	
	17	土師器	碗		口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue7.5YR6/6	1Tr Ⅱ層	墨書
	18	土師器	碗		口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue7.5YR7/4	1Tr Ⅱ層	墨書
	19	土師器	碗		口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue7.5YR6/6	1Tr Ⅱ層	墨書

た。１は小型の皿である。外底をヘラで切り離している。２～４・７は坏、５・６・８～12は碗、13～15は高台付きの皿である。６・11・13は黒色土器Ａ（内黒土器）である。７～９・14・15には丹が塗彩してある。１と２は灯明皿として使用されている。時期的には９世紀中頃の比較的まとまった一群であり、完形品に近いものが多く、何らかの遺構内の遺物であった可能性が高い。

9408地点包含層出土遺物

16は土師器甕の口縁部から胴部にかけての比較的大きな破片である。17～19はおそらく土師器の碗

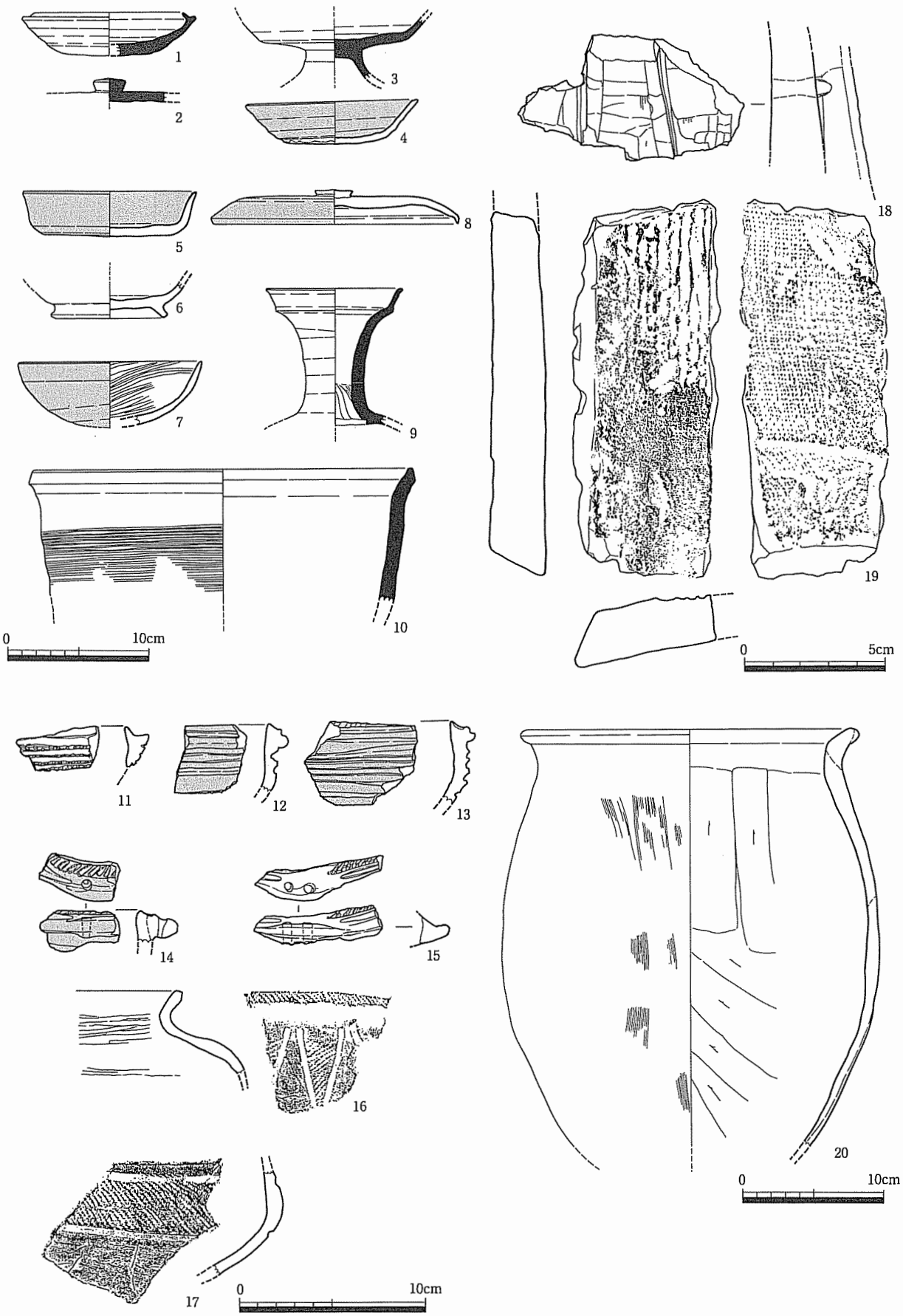


図46　9413調査地点出土遺物実測図１（1/4・1/2・1/3）

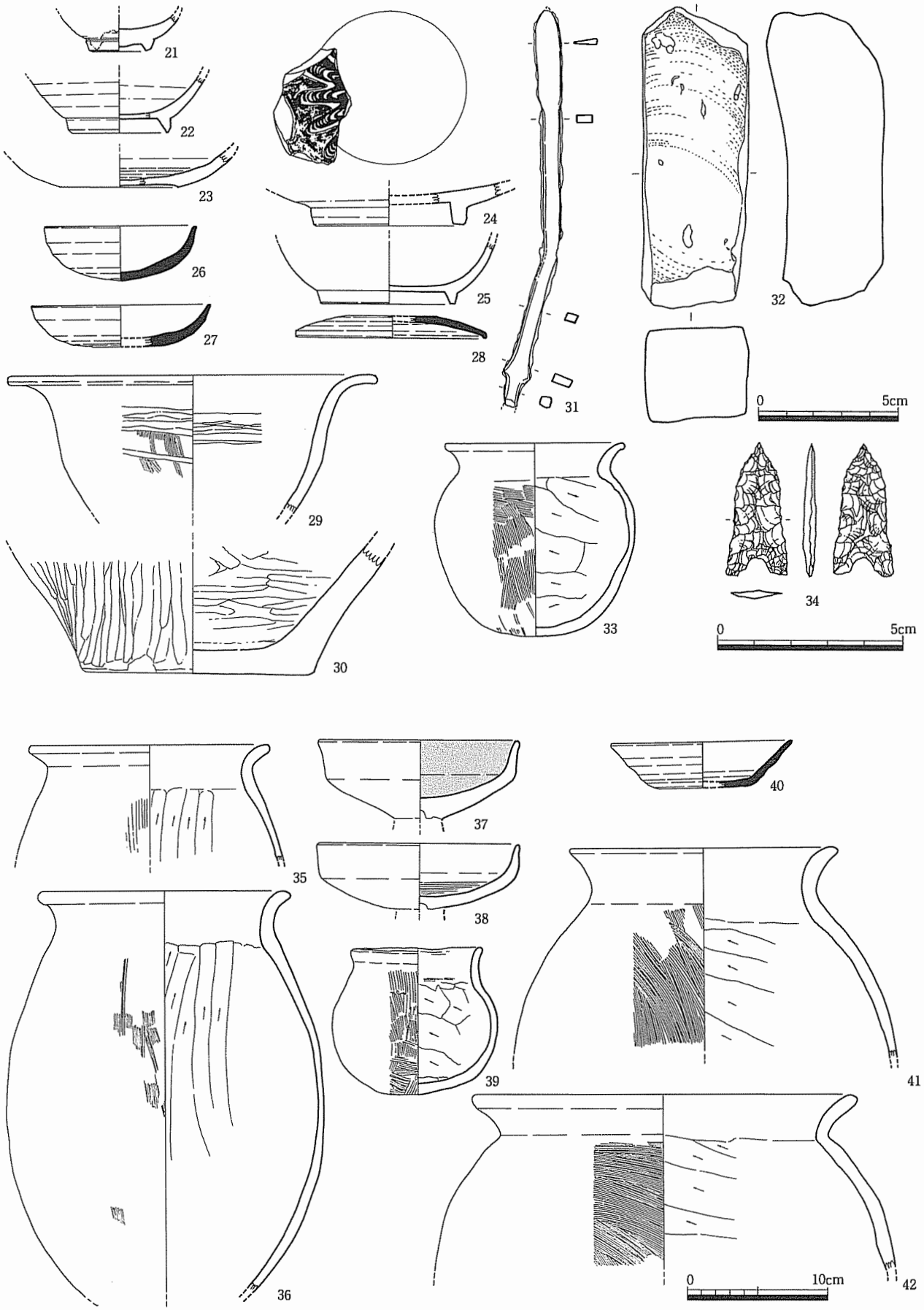


図47　9413調査地点出土遺物実測図２（1/4・1/2・2/3）

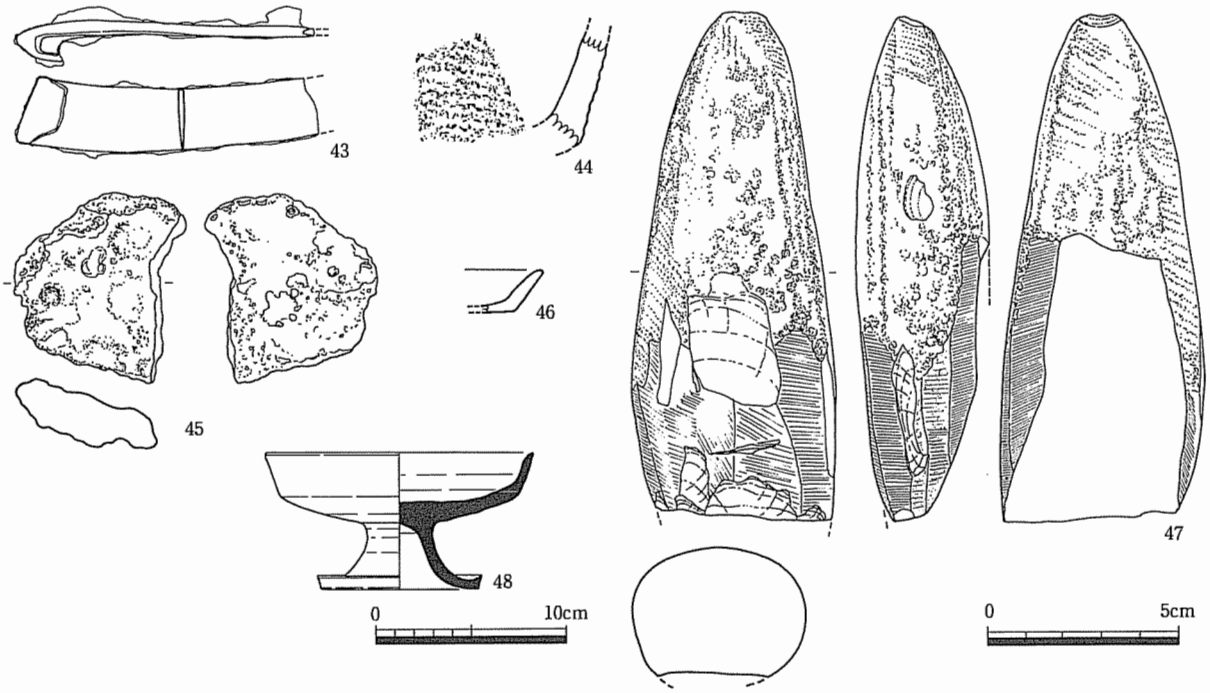


図48　9413調査地点出土遺物実測図３（1/4・1/2）

の破片であり、外面に墨書が施されているものである。いずれも字の内容については不明である。

9413地点第１トレンチ出土遺物

２～４は第１トレンチの包含層から出土した須恵器の蓋、高坏、坏である。

１号竪穴住居址出土遺物

１は１号竪穴住居址から出土した須恵器の坏身である。中央より半分に割れていた。６世紀末～７世紀初の時期であろう。

9413地点第２トレンチ出土遺物

本トレンチからは多様な時期の遺物が出土している。中心は５～10・18～20のような古代遺物であるが、11～17のような縄文時代後期を中心とした時期の土器なども出土している。

５は土師器の坏である。６は土師器の碗の底部である。道路面から出土しており、道路の時期の上限を示す資料である。７は土師器の坏であるが、内外面をヘラ磨きする。外面の丹色が鮮やかである。８は土師器の蓋である。外面の風化が著しい。９は須恵器の長頸壷の頸部～口縁部である。10は赤焼き須恵器の鉢の口縁部片である。18は滑石製石鍋の把手部分の破片である。19は布目瓦の平瓦の破片である。20は土師器の甕形土器であり、底部を欠く。口縁部が窄まらないスマートな器形である。11～17は縄文時代後期の鐘ヶ崎式土器および磨消縄文系土器の鉢形土器の破片である。

9413地点第３トレンチ出土遺物

21～25は近世の施釉陶器の碗・皿の類である。26・27は須恵器の坏、28は須恵器の蓋である。31は鉄鏃、32は天草産砂岩製の砥石である。30は縄文時代の深鉢形土器の底部であり、34はサヌカイト製の石鏃である。これらはすべて２層を中心に出土した。

３号竪穴住居址出土遺物

29と33がそれにあたる。29は土師器の鉢形土器で、厚めの壁と丁寧ではないがヘラ磨き状の調整痕をもつ。33は土師器の小型甕形土器である。ほぼ完形であるが、一部欠損している。「住居址下」の注記があるが、本遺構に伴うものと思われる。

表8　9413調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
46	1	須恵器	坏	口径　12.4 底径　5.9	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/2	1号住居址	
	2	須恵器	坏蓋		鈕	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/1	1Tr Ⅱ層	
	3	須恵器	高坏		坏部1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y5/1	1Tr Ⅱ層	
	4	土師器	坏	口径　12.2 底径　7.2 器高　3.0	口縁一部欠損	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	1Tr Ⅱ層	丹塗
	5	土師器	坏	口径　12.3 底径　9.0 器高　3.3	2/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/8 外：Hue7.5YR8/6	2Tr	丹塗痕あり
	6	土師器	碗	底径　3.9	底部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	2Tr 道	
	7	土師器	坏	口径　13.1	1/4	内：磨き 外：磨き	内：Hue5YR6/6 外：Hue2.5YR5/8	2Tr	外面丹塗
	8	土師器	坏蓋	口径　17.6 器高　2.4	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR8/6	2Tr	外面丹塗
	9	須恵器	長頸壺	口径　9.7	頸部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	2Tr	
	10	須恵器	甕	口径　27.3	口縁1/4	内：ナデ 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue7.5YR7/5	2Tr	
	11	縄文土器			口縁部片	内：磨き 外：	内：Hue10YR4/1 外：Hue	2Tr	刺突文
	12	縄文土器			口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue10YR4/2 外：Hue7.5YR3/1	2Tr	沈線・丹塗
	13	縄文土器			口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue10YR4/2 外：Hue10YR3/2	2Tr	沈線・刺突文・丹塗
	14	縄文土器	(鉢)		口縁部片	内：磨き 外：	内：Hue10YR5/3 外：Hue	2Tr	刺突文・貫通孔・丹塗
	15	縄文土器	(鉢)		口縁部片	内：磨き 外：	内：Hue10YR3/1 外：Hue	2Tr	刺突文 貫通孔
	16	縄文土器			口縁部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue2.5Y5/1 外：Hue2.5Y7/2	2Tr	
	17	縄文土器	鉢		胴部片	内：磨き 外：磨き	内：Hue10YR4/1 外：Hue10YR4/1	2Tr	
	18	石製品	石鍋	長さ　8.0 幅　4.5 厚さ　1.85	把手部片	内： 外：	Hue10Y6/1	2Tr	
	19	瓦	平瓦	長さ　13.1 幅　5.5 厚さ　2.01		内：布目 外：縄目	内：Hue3.5Y7/2 外：HueN5/0	2Tr Ⅱ層	
	20	土師器	甕	口径　24.0 最大径　26.8	1/4	内：削り 外：	内：Hue5Y5/1 外：Hue7.5YR8/6	2Tr	煤付着
47	21	陶器	碗	底径　4.4	底部1/2	内：黒褐釉 外：黒褐釉	内：Hue10YR2/2 外：Hue2.5Y7/4	3Tr	
	22	陶器	碗	底径　6.8	底部1/4	内：黒褐釉 外：黒褐釉	内：Hue5Y5/1 外：Hue10YR2/2	3Tr	
	23	陶器	碗	底径　8.5	底部1/4	内：灰釉 外：	内：Hue7.5Y5/1 外：Hue7.5YR5/3	3Tr	

表8　9418調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
47	24	陶器	皿	底径　10.9	底部片	内：緑色釉 外：	内：Hue 外：Hue2.5Y6/3	3Tr	
	25	陶器	碗	底径　9.7	底部1/6	内： 外：黒褐釉	内：Hue2.5Y6/2 外：Hue7.5YR 1.7/7	3Tr	
	26	須恵器	坏	口径　10.9 器高　3.9	1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue7.5Y5/1	3Tr	
	27	須恵器	坏	口径　12.9	1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y5/1 外：Hue5Y5/1	3Tr	
	28	須恵器	蓋	口径　13.8	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y5/2 外：Hue5Y5/1	3Tr	
	29	土師器	鉢	口径　26.4	口縁1/5	内：磨き 外：磨き	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue3.5YR5/8	3Tr 住居址	
	30	縄文土器	深鉢	底径　8.2	底部1/4	内：ヘラナデ 外：ヘラナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue5YR6/6	3Tr Ⅱ層	
	31	鉄製品	鉄鏃	長さ　14.35 幅　0.85 厚さ　3.2				3Tr Ⅱ層	
	32	石製品	砥石	長さ　10.9 幅　3.75 厚さ　6.8		内： 外：	Hue10YR8/3	3Tr Ⅱ層	
	33	土師器	甕	口径　13 器高　13.9	1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR8/6 外：Hue7.5YR7/6	3Tr 住居下	
	34	石器	打製石鏃	長さ　3.6 幅　1.65 厚さ　3.4		内： 外：	Hue5Y4/1	3Tr Ⅱ層下層	サヌカイト
	35	土師器	甕	口径　15.0	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR6/4 外：Hue7.5YR6/4	4Tr4号住居址	
	36	土師器	甕	口径　18.2 最大径 22.75	口・肩部 1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5Y6/1 外：Hue7.5YR6/6	4Tr4号住居址	煤付着
	37	土師器	高坏	口径　14.3	坏部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	4Tr5号住居址	内丹塗
	38	土師器	高坏	口径　14.6	坏部3/4	内：磨き 外：磨き	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	4Tr5号住居址	
	39	土師器	小壷	口径　9.5 器高　10.6	完形	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	4Tr5号住居址	
	40	須恵器	坏	口径　12.9 底径　6.0 器高　3.4	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/1 外：Hue2.5Y7/1	4Tr6号住居址	
	41	土師器	甕	口径　19.1	口・肩部 1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR7/4 外：Hue7.5YR6/6	4Tr7号住居址	
	42	土師器	甕	口径　26.9	口・肩部 1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/3	4Tr7号住居址	
48	43	鉄製品	鎌	長さ　7.95 幅　1.7 厚さ　0.16	一部欠損		Hue10YR2/3	4Tr4号住居址竈	
	44	縄文土器	深鉢		胴部片	内：押型文 外：ナデ	内：Hue5Y4/1 外：Hue10YR7/4	4Tr	
	45	鉄製品	鉄滓				Hue10YR4/3	4Tr5号住居址竈	
	46	土師器	坏		破片	内：磨き 外：磨き	内：HueN1.5/0 外：Hue2.5Y8/4	3Tr	

表8　9413調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
48	47	石器	磨製石斧	長さ　13.3 幅　　5.4 厚さ　3.45	刃部欠損		Hue5GY5/1	4Tr Ⅱ層	
	48	須恵器	高坏	口径　14.2 底径　8.4 器高　7.2	2/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y8/2 外：Hue2.5Y6/1	グリッド 外	

9413地点第4トレンチ出土遺物

44は山形押型文土器の破片である。47は磨製石斧であるが、刃部を大きく破損している。頭部から胴部にかけて敲打を施し、刃部側は平坦な面をなすように研磨している。形態からみて縄文時代後・晩期の所産であろう。

4号竪穴住居址出土遺物

35は土師器の甕形土器の破片である。36も同じく甕形土器であるが、35に比べやや大きめ破片である。肩の張らないスマートな体部をもち、外面の刷毛目や内面の削り調整も丁寧である。口縁部は外反しない。43は手鎌である。片側を欠損している。45は鉄滓である。

5号竪穴住居址出土遺物

37～39が本住居より出土した遺物である。37・38は土師器の高坏の坏部であり、ほぼ脚部を欠くのみである。ヘラ磨き状の調整があった痕跡はあるが、器表面の風化が激しく、不明瞭である。竈よりの出土であり、本住居址の時期を示す遺物である。39は土師器の小型の甕形土器で、完形品である。住居直上から出土している。

6号竪穴住居址出土遺物

40は須恵器の坏の破片である。

7号竪穴住居址出土遺物

41と47は土師器の甕形土器口縁部の大型破片である。口縁部の反り具合が両者で異なる。外面の刷毛目は非常に細かい。

2．まとめ

本調査地点は旧詫麻郡の中でも中心的な位置を占める大江遺跡群の北端に位置する。昭和52年の調査において7世紀初頭から9世紀にかけての竪穴住居址13基が検出されているところから、今回遺構として確認した竪穴住居址6基を加えて19軒が確認されたことになる。今回検出した竪穴住居址の時期については、時期を明確に示す遺物に乏しいため判断が難しいが、5号住居址が8世紀前半ごろと考えると、それに近接した時期である8世紀後半ごろまでの時期を想定しておきたい。

また、今回特筆すべきは2次調査第2トレンチで確認した幅2ｍの道路跡であろう。検出幅が短いので正確ではないが、磁北から西にわずかに振れており、この方位は本地点の西100mのところを通ると推定されている官道（駅道）と同じ方位である。条里制を考慮するとこの地点との距離からみて1町に相当し、この道の示すラインが坪境の可能性が高い。時期的には8世紀後半ごろと思われる。

集落の性格を考えるとき、本地点はいずれもグラウンド東南部よりの検出であり全容は明らかではないが、かなり大規模な集落が存在したことが予想される。住居の形成年代は、先に述べたように、8世紀中葉から後半を中心にしているものの、7世紀前半代に遡る資料も含まれており、若干長い時

間幅でおさえておく必要があろう。昭和52年の調査においても同様の状況が認められる。

消滅の時期は9世紀代まで下る資料を欠いていることから、大江遺跡群の既往の調査でも明らかになったように、9世紀中葉以降は、郡家や国府の移転などにより集落の縮小傾向が見られる。したがって当調査地点に展開した集落も大江遺跡群内の集落と同じく、託麻郡家及び郡寺に関する拠点集落の一端を担うものとして捉えられよう。今回の調査の成果は、このような大江遺跡群の傾向を追認した結果となり、さらに部分的ではあるが道路跡および竪穴住居群は当時の集落景観の復元において貴重な資料となろう。

Ⅵ　本荘南地区の調査

1．医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査(9511調査地点)

（1）調査の目的と経過

a. 調査地と調査経緯

医学部再開発計画に基づき、医学部校舎中庭（駐車場として使用）にRI総合センター遺伝子実験施設の建設が1995年度より開始されることとなった。施設部よりこの旨の報告があり、埋蔵文化財の調査が必要か否かの打診があった。これを受けて埋蔵文化財調査室では、遺跡周辺部でもあり、その存在が予想されるため試掘調査が必要であると判断し、その旨を両者で協議した。

調査室では、理学部臨海実験所内の発掘調査中であり、その終了をまって試掘調査を行うこととなった。1995年11月6日～同年11月8日にかけて2日間試掘調査を実施した。その結果、地表下1.3mに奈良時代～平安時代前半期の遺物包含層とその下に竪穴住居址を中心とする遺構が存在することが判明した。これを受けて、1995年11月27日に埋蔵文化財調査委員会の三者会議を開き、本調査を実施することとなった。先行して樹木伐採および移転、取排水管切り替え工事に伴い、立会調査を実施した。後の調査経緯に関しては、以下のとおりである。調査総面積は1,277㎡である。

b. 調査の経過

1995年11月24日　排水管切り替え工事立会調査。
12月1日　排水管切り替え工事立会調査。
12月4日　樹木移植工事立会調査。
12月25日　調査開始。Ⅰ区撹乱部分の掘削、縄文土器片出土。
1996年1月9日　降雪の中撹乱掘り、遺構面掘下げ。縄文土器多数出土。
1月10日　遺構配置図平板測量。
1月26日　溝・住居址など掘り上げ。20号溝断面図作成。25号竪穴住居址土器集中検出。
1月31日　遺構面霜柱で凍る。各遺構調査。
2月2日　50号住居址・19号溝掘下げ。
2月13日　65号遺構遺物上げ。85号掘立柱建物確認。Ⅰ区南半部柱穴探し。
2月14日　Ⅰ区写真撮影。遺構面掘下げ最終確認。
2月15日　Ⅱ区掘下げ開始。遺構検出。
2月19日　30号溝掘り下げ、馬の歯出土。
2月20日　Ⅱ区写真撮影。
2月22日　発掘調査終了。

c. 調査の組織

調　査　員：小畑弘己
事務担当：矢野希久代
発掘作業員：飯田孝俊・今村佳子・岩谷史記・大坪志子・岡村久美子・押方富江・甲斐美紀代・甲斐田末男・窪田千代子・古賀敬子・小細工洋子・柴田やよひ・白石美智子・田中大介・土田ちえみ・橋本キヨカ・林田恵子・原田範昭・番山明子・福田久美子・藤岡泰江・堀川貞子・本田浩二郎・松井昭子・松浦一之介・水上順子・森田ミドリ・若杉竜太
整理作業員：古賀敬子・藤岡泰江

（2）調査区の基本層序（図51）

堆積土壌および性質については、同じ白川右岸にある黒髪町遺跡群（黒髪南地区）によく似た様相を示している。

表層　表層は近・現代の撹乱層である。厚さ80～120cm。

1層　黒褐色土層（10YR2/3）。埋め土。厚さ40cm。

2層　暗褐色土層（10YR3/3）肉眼的には淡茶褐色に見える。近世～明治時代の遺物を含んでいる。厚さ30cm。

3層　黒褐色土層（10YR2/2）。奈良～平安時代の遺物を多く含み、縄文時代後期後半から晩期初頭の土器および石器を若干を含んでいる。厚さ30cmあまり。大江遺跡群ではこの縄文時代の包含層は単層として分層可能であるが、本調査地点では分離できなかった。

4層　明黄色土層（10YR6/8）。基盤層である。上部にわずかに縄文時代の遺物を含む。遺構は3層中および4層面で検出した。

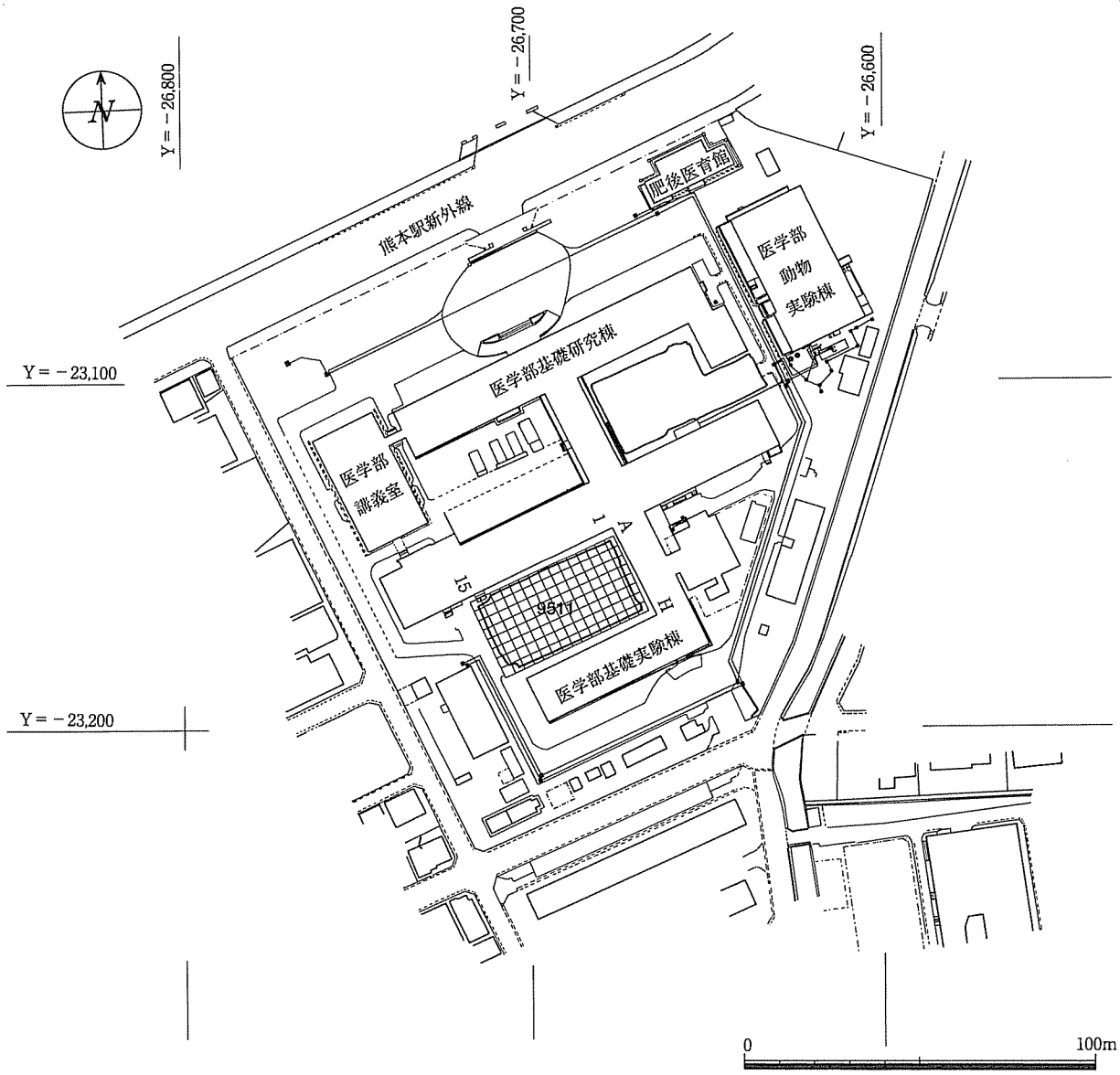


図49　本荘南地区における既往調査地点と9511調査地点の位置図（1/2000）

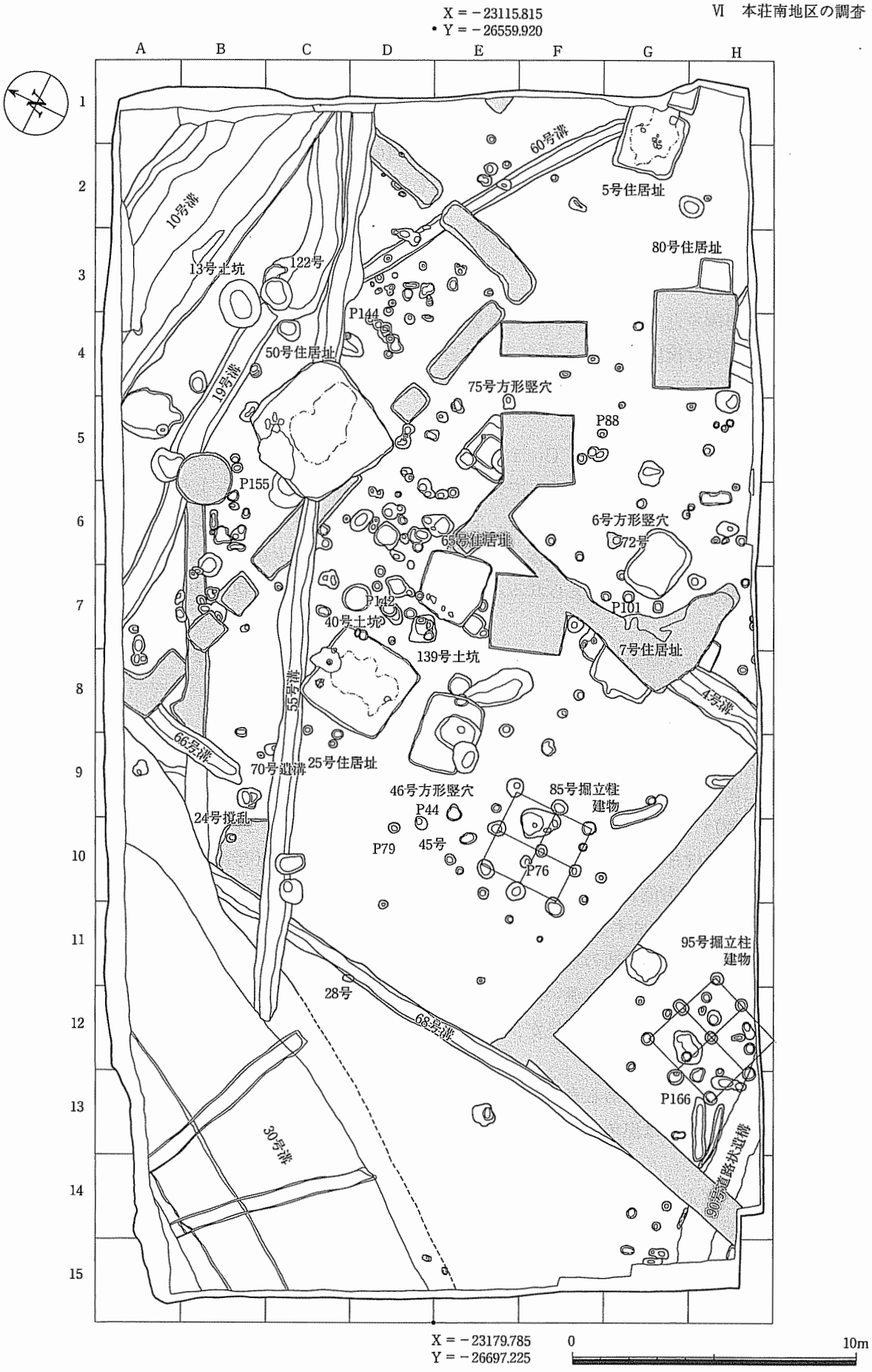


図50　9511調査地点遺構配置図（1/200）（アミ部分は撹乱）

（3）検出遺構

今回の調査区（954㎡）では、戦国時代～近世の堀2条、近世土坑6基、奈良～平安時代前半の竪穴住居址5基、方形竪穴遺構4基、同期溝3条、古墳時代後期溝1条を検出した（図50）。遺物包含層からは、D－6区において縄文時代後・晩期の石皿や磨石、土器片が集中する箇所もあり、遺構の存在した可能性もある。

＜溝＞

30号溝

調査区の北西隅を北東－南西方向に走る幅8 mあまりの溝である。本来は幅10m以上であったと考えられる。深さは検出面で1 mあまりである。西側に幅2.6mあまりの一段深い部分があり、ここから大型の獣の骨などが出土した。掘り込みは基盤の砂岩層まで達している。近世初期の遺物を含む。

10号溝（図52・図版30－3）

10号溝は調査区の北東部、A～C・1～4区で検出した幅7 m、深さ1.5mの断面形逆台形の堀である。基底部は岩盤の砂岩層まで達している。溝の肩部はゆるやかに立ち上がり、その変換点には浅い幅30cm、深さ5 cmあまりの溝がある。下部は水の流れた痕跡が認められ、その部分から馬の歯や骨が数点出土した。古代の遺物が主体で、掘削時期を示す資料は少ないが、青磁片や瓦質の火舎片などから、16世紀後半の掘削と考えられる。また、北宋銭「熙寧元寶（初鋳1168年）」が出土している。

4号溝

H－8区で検出した断面レンズ状の浅い溝である。幅1.4m、深さ40cmほどである。撹乱によって破壊され、溝の行方は不明である。近世以降の時期であろう。

19号溝（図52）

C－1区からA－7区にかけて流れる幅1.2m、深さ80cmの断面逆台形の溝である。C－3区においてわずかに南へ蛇行するが、この部分において基底に20cmあまりの段差が認められる。

55号溝（図52）

C－3区からほぼまっすぐに南西方向へ延びる溝である。端部は30号溝の掘削によって破壊されており、その延長部の方向は不明である。現状で32mあまりを確認した。形状は幅75～100cmで深さ60cmあまりの逆台形を呈する。基底部と下から30cmの部分に鉄分の沈殿硬化した厚さ2 cmほどの赤黒色層が認められ、2時期の水の流れがあったことが窺える。この硬化層はかなり硬く、通常の水路として機能していたとは考え難い。最終的には砂岩や泥岩などの小礫を含む白色の土で埋められている。出土遺物は少なく、土師器片が少量出土している。

60号溝

G－1区からD－3区にある東南－北西方向の溝である。幅50cm、深さ10cmほどの断面形U字形の浅い溝である。覆土は黒色のやわらかい土である。5号竪穴住居址および55号溝に切られる。

68号溝

ほぼ南北方向に走る幅60cm、深さ60cmあまりの断面形逆台形の溝である。覆土は単一で黒色の硬く締まった土である。土師器の甕形土器の破片が少量出土している。D－12区の検出した面より10cmほど上部で須恵器坏身（99）が出土しており、切り合いからみても、本遺跡の最古期に属することから、この坏が示す6世紀末がこの溝の掘削時期と考えられる。

＜道路状遺構＞

調査区南西隅で検出した幅1.4mほどの道路状の遺構である（90号道路状遺構）。黒色土下に黒褐色の硬い面が認められる。方向はほぼ東西方向である。道路面除去後に北辺に幅20cm、深さ5 cmほど

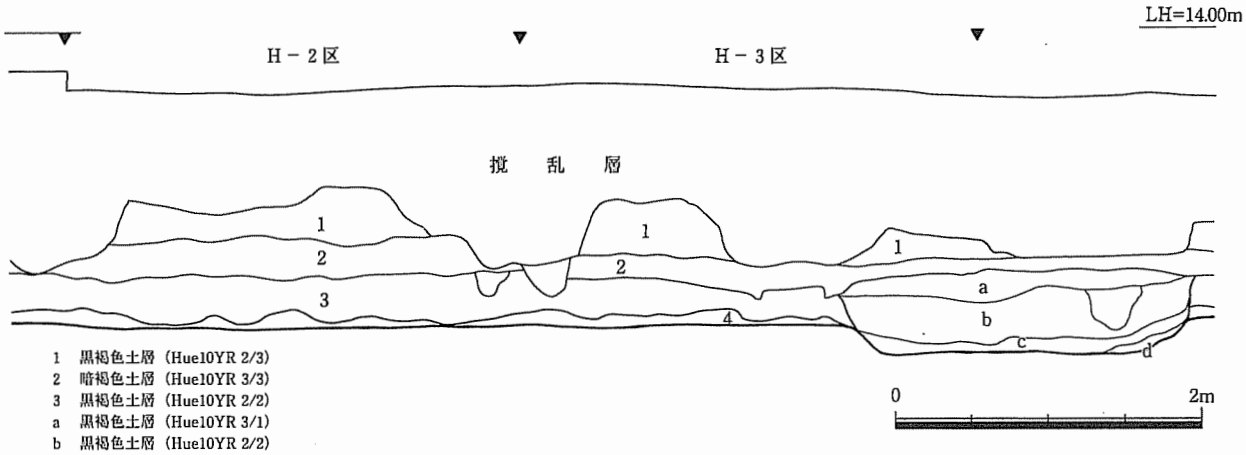


図51　9511調査地点土層断面実測図（1/50）

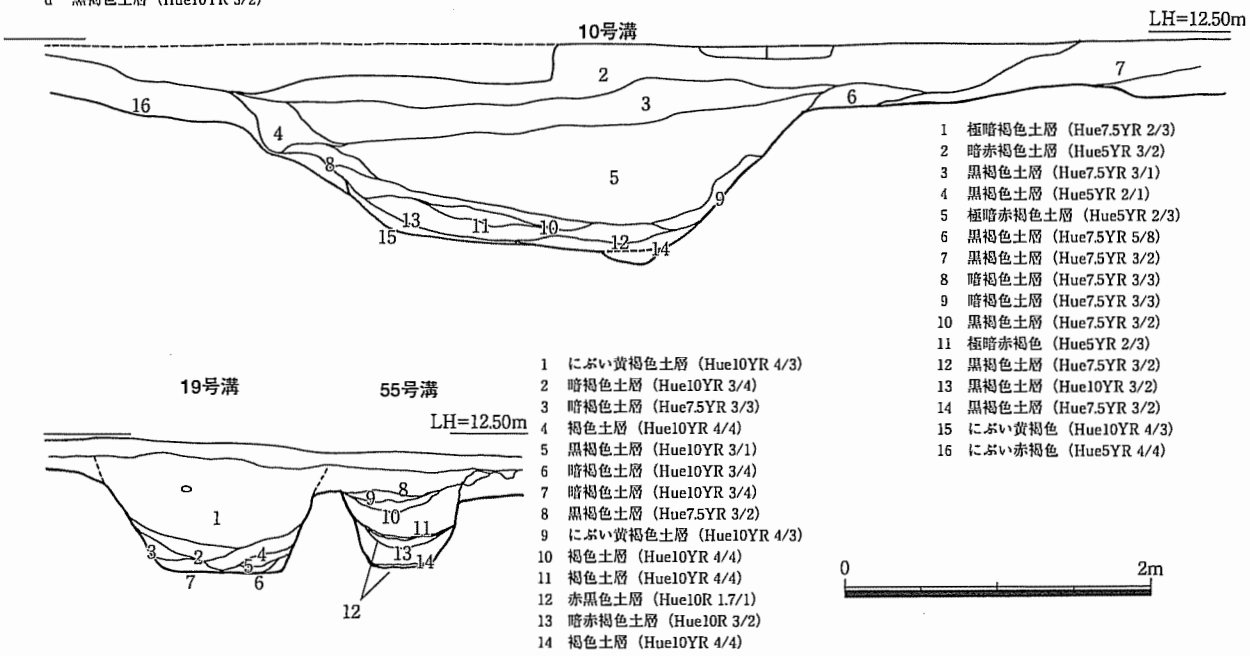


図52　10・19・55号溝土層断面実測図（1/50）

の溝を部分的ではあるが検出した。95号掘立柱建物址の柱穴の一つがこの遺構の下に検出され、95号掘立柱建物より新しい時期であることがわかる。竪穴住居址群と同じか近接した時期と考えられる。

＜竪穴住居址＞

50号竪穴住居址（図53・図版30―10）

C・D－4・5区で検出した長辺4.1m、短辺4.05m、深さ30cmあまりの竪穴住居址である。北西辺の中央に造り付けの竈をもつ。竈は破壊されており、竈東側に砂岩ブロックと粘土混じりの土が堆積していた。竈前面から対面方向にむけて幅1.5mほどの床の硬化した面が認められた。柱穴は竈両脇に検出した2つの穴以外は、整然とした配置をもつものはなかった。出土遺物としては住居北隅と竈周辺の床上から甕形土器の破片が、南東隅の覆土上面から須恵器高杯の脚部が出土した。本調査区で最も大きな竪穴住居址である。55号溝を切っており、床面下に溝の覆土が認められる。

25号竪穴住居址（図53・図版30―5～10）

C・D－7・8区で検出した長辺3.3m、短辺3.2m、深さ30cmの隅丸方形の竪穴住居址である。覆

土の上部には土師器の甕形土器や甑などが多量に投棄されていた。断面図をみると北西隅から投棄されており、住居址の中心部に向かってわずかに傾斜している。住居の断面図からみて、レンズ状に窪みとして残っていた住居に投棄したことがわかる。

本住居の竈は北辺の中央部に設けられているが、残り具合が良好であった。竈上部は潰れた状態であったが、竈の主体はほとんど壊されておらず、甕形土器（図55－12）を支脚にのせたまま残存していた。また、竈の両脇には完形の壷形土器（同10）と潰れた状態の甑（同11）が各１点残存していた。これは、他の住居址の竈がほとんど壊され、土器も破壊されるか持ち去られているのとは対照的である。竈の焚口部分に竈の天井部の粘土が崩落していた。両袖の先端には角柱形の砂岩製支柱が深さ20cmほど地中に埋めこまれていた。竈袖の奥からは刀子状の鉄器やＵ字形の不明鉄器が出土した。竈構築の祭祀に関わるものであろう。竈前面から対面の南辺に向けて幅1.6mほどの床の硬化した面が認められた。その端には20cm角の方形の礫石が埋めこまれ、その上面は擦れて皿状になっていた。また、その北側には直径40cm、深さ５cmほどの窪みが石礫を囲むように存在していた。これは、出入り口の踏み石とその前面にできた窪みと考えられ、竈の対面に入り口を想定できる。

５号竪穴住居址（図54・図版31－11）

Ｇ－１・２区で検出した長辺2.4m、短辺2.2m、深さ32cmの竪穴住居址である。東辺中央に竈をもつ。竈は焚き口に若干の焼土層と焼けた面をを残すのみで、上部の構築部は破壊されていた。住居中央に砂岩ブロック数個と磨石状の丸い礫、上面が皿状に擦れた扁平礫各１点が投棄してあった。また、竈右の覆土上面にも大きな砂岩の板石が１点廃棄されていた。住居中央を中心として床の硬化が認められた。柱穴は検出できなかった。覆土中から須恵器片や土師器片が若干出土している。うち判読不明であるが、底部外面に墨書をもつ土師器杯片（図58－49）がある。

65号竪穴住居址（図54・図版31－12）

Ｅ－６・７区で検出したやや不整形な長方形の竪穴住居址である。長辺2.4m、短辺2.3m、深さ10～20cmである。西辺中央に竈の痕跡を残す。竈には２本の砂岩製の角柱形の支柱が残っており、右側の１点は10cmほど床面から掘り込まれた穴に据えられていた。その右側には砂岩ブロック２点が倒壊した状態で廃棄されており、その下から土師器甕の破片が出土した。竈本体部は焼けてわずかに赤く変色していた。遺物は破片になって床面全体から散漫に出土するが、須恵器の坏２点（図58－56・58）はほぼ完形であった。

７号竪穴住居址（図54・図版31－13）

Ｇ－７・８区で検出した竪穴住居址である。大半を現代の撹乱に破壊されるため、全形は不明である。残存部の辺の長さは2.6m、深さは25cmである。覆土上面から砂岩ブロック１点、床面直上から土師器皿１点（図59－67）が出土した。竈や柱穴の位置は不明である。西辺に竈らしい張り出しはあるが、竈とは確定できない。しかし、東西方向に竈が存在した可能性は高い。

80号竪穴住居址

Ｈ－３・４区で検出した竪穴住居址である。そのほとんどが調査区外に存在し、西隅は現代の基礎により破壊されているので、規模については不明である。深さは検出面で20cmほどであるが、調査区南壁の土層断面によると包含層（４層）を切り込んだ50cmほどの壁の立ち上がりを確認できる。

＜方形竪穴遺構＞

６号方形竪穴（図54・図版31－14）

Ｇ－６・７区で検出した長さ2.4m、幅1.9m、深さ80cmの隅丸長方形の竪穴である。床面は硬い。他の遺構に比べてかなり深い。遺物は覆土上面から出土し、窪みに投棄されたものがほとんどである。

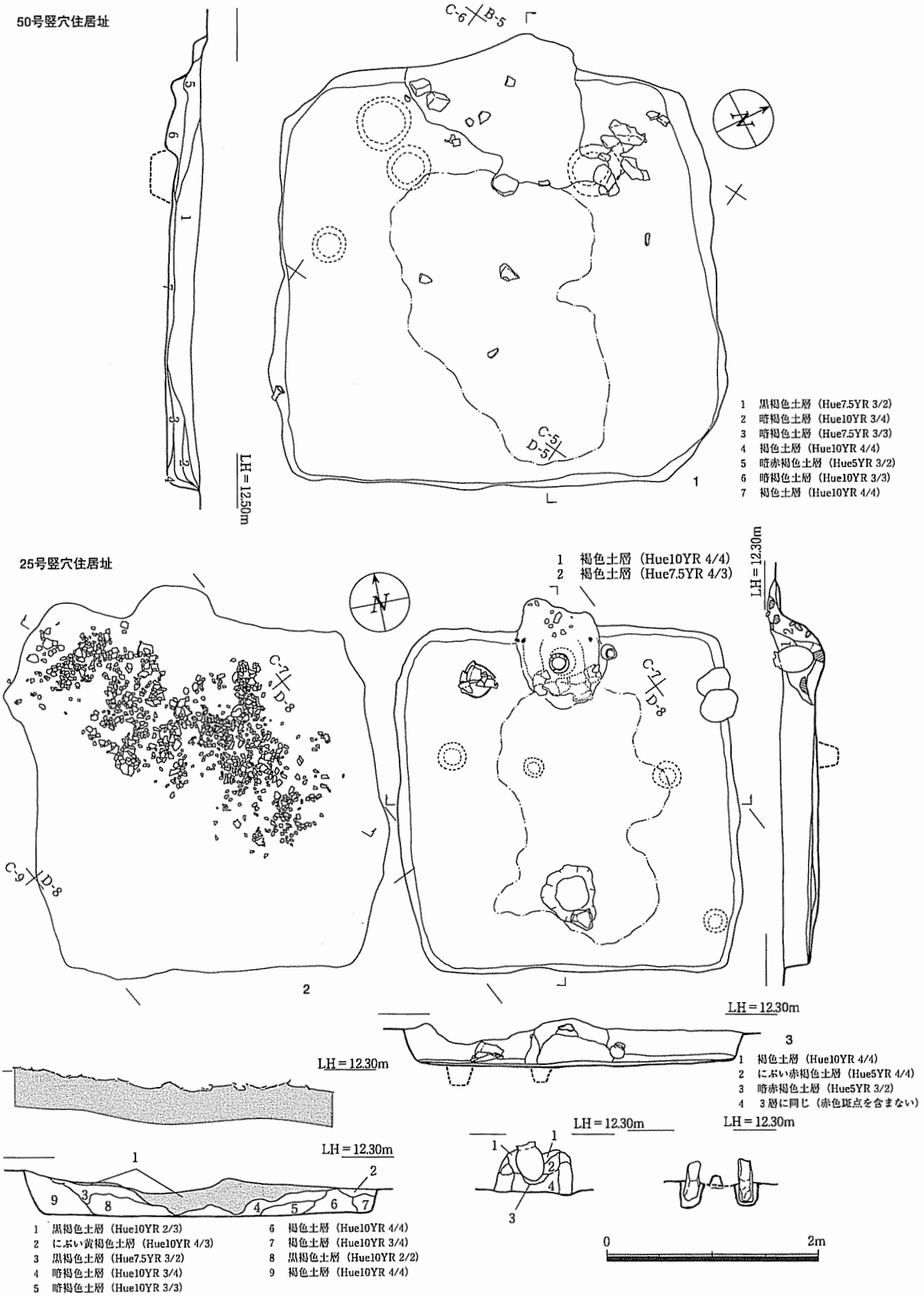


図53　50号・25号住居址実測図（1/50）

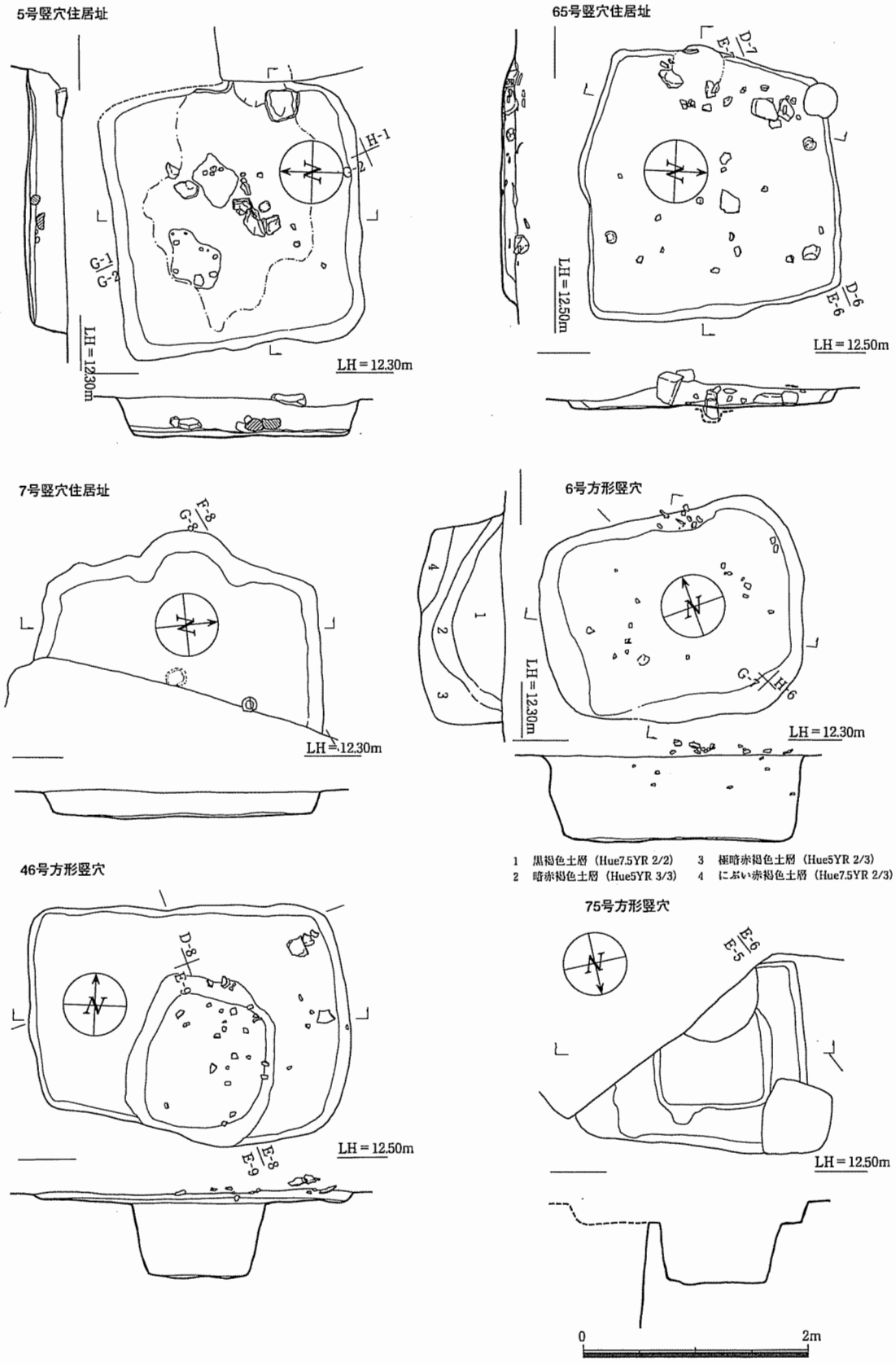


図54　5・7・65号住居址・6・46・75号方形竪穴遺構実測図（1/50）

床面近くから鉄製の刀子１点（図59－77）が出土した。

46号方形竪穴（図54・図版31－15）

Ｄ・Ｅ－８・９区で検出した長さ2.9m、幅2.2m、深さ10cmの隅丸長方形の竪穴である。中央南辺寄りに1.5×1.3×0.7mの略長方形の竪穴がある。時期の異なる遺構とも考えたが、土層の堆積状況からは、区別することはできなかった。遺物は主に覆土上面から出土する。そのうち、須恵器の高台付坏（図59－78）の底部に「風」に似た字の墨書がある。

75号方形竪穴（図54・図版31－16）

Ｅ－５区で検出した2.1m、幅1.8m、深さ20cmの隅丸長方形の方形竪穴である。約半分を撹乱で破壊されている。これも46号方形竪穴と同じく中央部に1.0×0.8×0.6mの長方形の竪穴をもつ。

＜掘立柱建物＞

85号掘立柱建物址（図版31－17）

E･F－９・10区で検出した２×２間の総柱の掘立柱建物である。建物規模は3.2×3.0mほどで、柱間は柱穴の真芯で最短1.4m、最長1.75m、平均1.5mである。柱穴は直径70cm、深さ50cmである。やや柱筋のとおらない辺もある。柱痕跡は検出できなかった。

95号掘立柱建物址（図版31－18）

Ｇ・Ｈ－11～13区で検出した２×２間の総柱の掘立柱建物址である。柱穴の一つは調査区外にあり、未検出である。想定される建物規模は3.2×3.0mほどで、85号掘立柱建物址と同規模である。柱間は柱穴の真芯で最短1.3m、最長2.0m、平均1.58mである。柱穴は直径50～60cm、深さ55cmである。やはり、柱筋のとおらない辺もあり、方向がやや東に振れる以外は85号掘立柱建物址ときわめてよく似た規模と構造をもつ。柱痕跡は検出できなかった。

＜その他の遺構＞

70号遺構

Ｂ－９区で検出した遺構である。上部に口縁部を欠いた完形に近い須恵器の壷１点（図60－104）が据えてあった。壷の外面は風化が著しく、器面が剥落する部分もある。壷の下には直径60cm、深さ50cmほどの柱穴があり、柱の抜き跡に壷を置いたものと考えられる。しかし、建物の廃棄に伴う祭祀跡としてもそれに付随する建物はこの地点には存在しない。意味不明の遺構である。

これによく似た完形に近い須恵器を置いたものは、Ａ－７区（同一113）やＤ－４区（同一112）でも認められ、包含層の破片になった個体とは性格がまったく異なることから、何らかの埋置行為の結果であろうが、残念ながら明確な遺構に伴って検出することはできなかった。

（４）出土遺物（図55～62・図版33～36）

出土遺物は総量でコンテナに70箱ほどになる。古代の土師器・須恵器の類を中心とするが、縄文時代の土器・石器なども一定量含まれている。縄文土器は破片数にして100点ほどである。

10号溝出土遺物

１は青磁碗、２・３は須恵器の甕の口縁部片である。

19号溝出土遺物

４は土師器甕の口縁部の小片である。

50号溝出土遺物

５は土師器の高坏の口縁部片である。６は土師器碗の高台部分である。７は須恵器高坏の脚部である。８・９は土師器甕の口縁部片である。

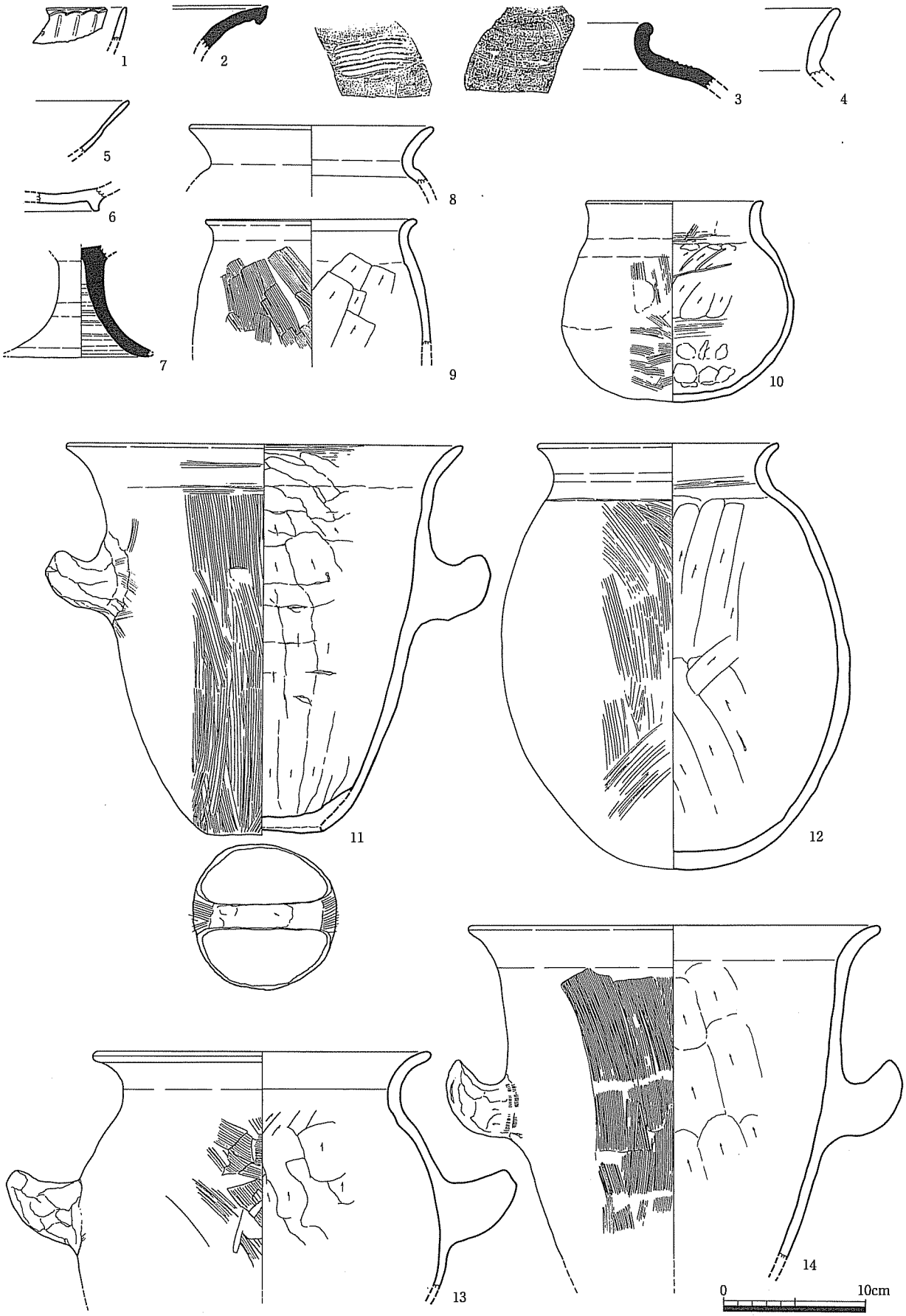


図55　9511調査地点出土遺物実測図１（1/4）

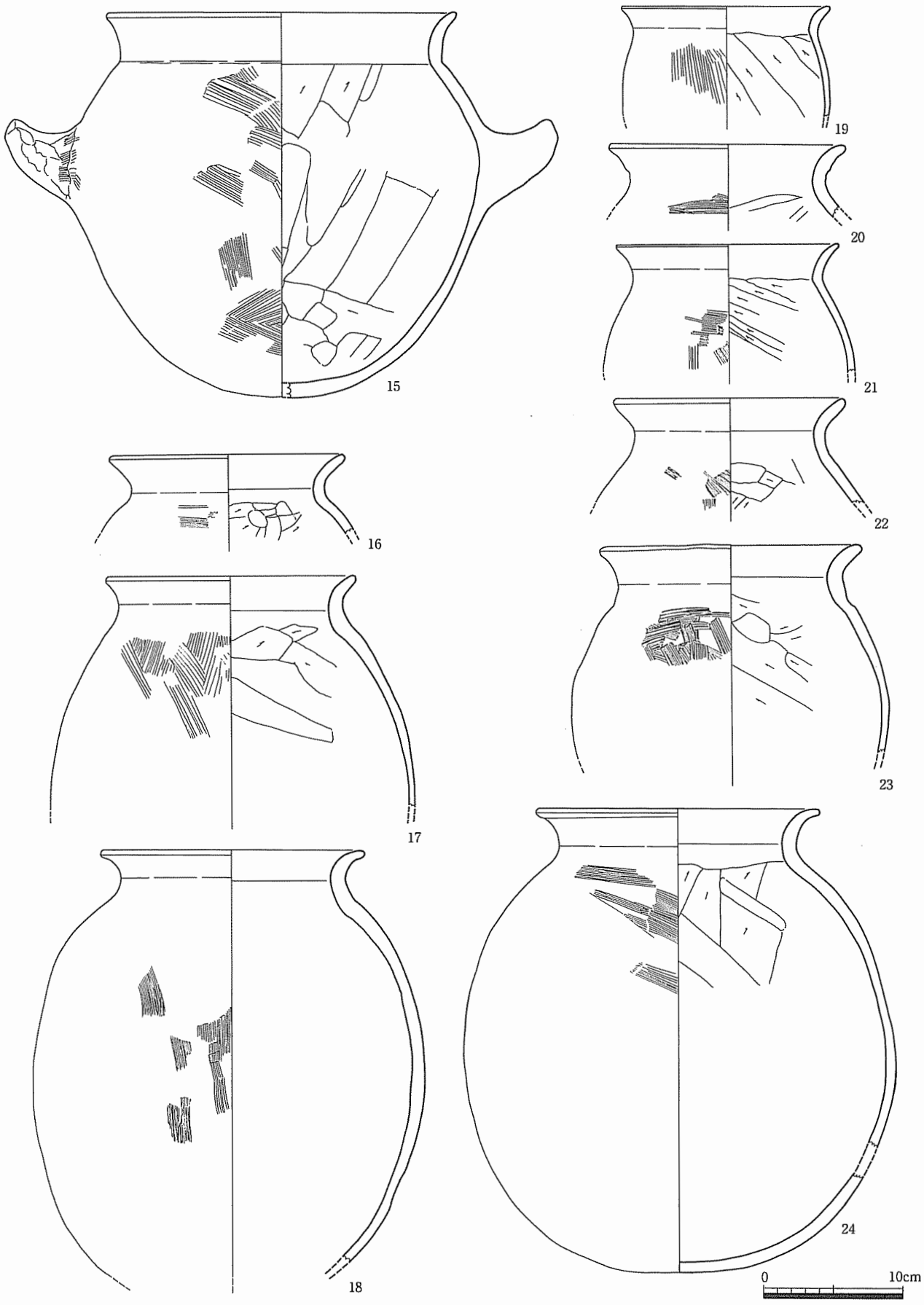


図56　9511調査地点出土遺物実測図２（1/4）

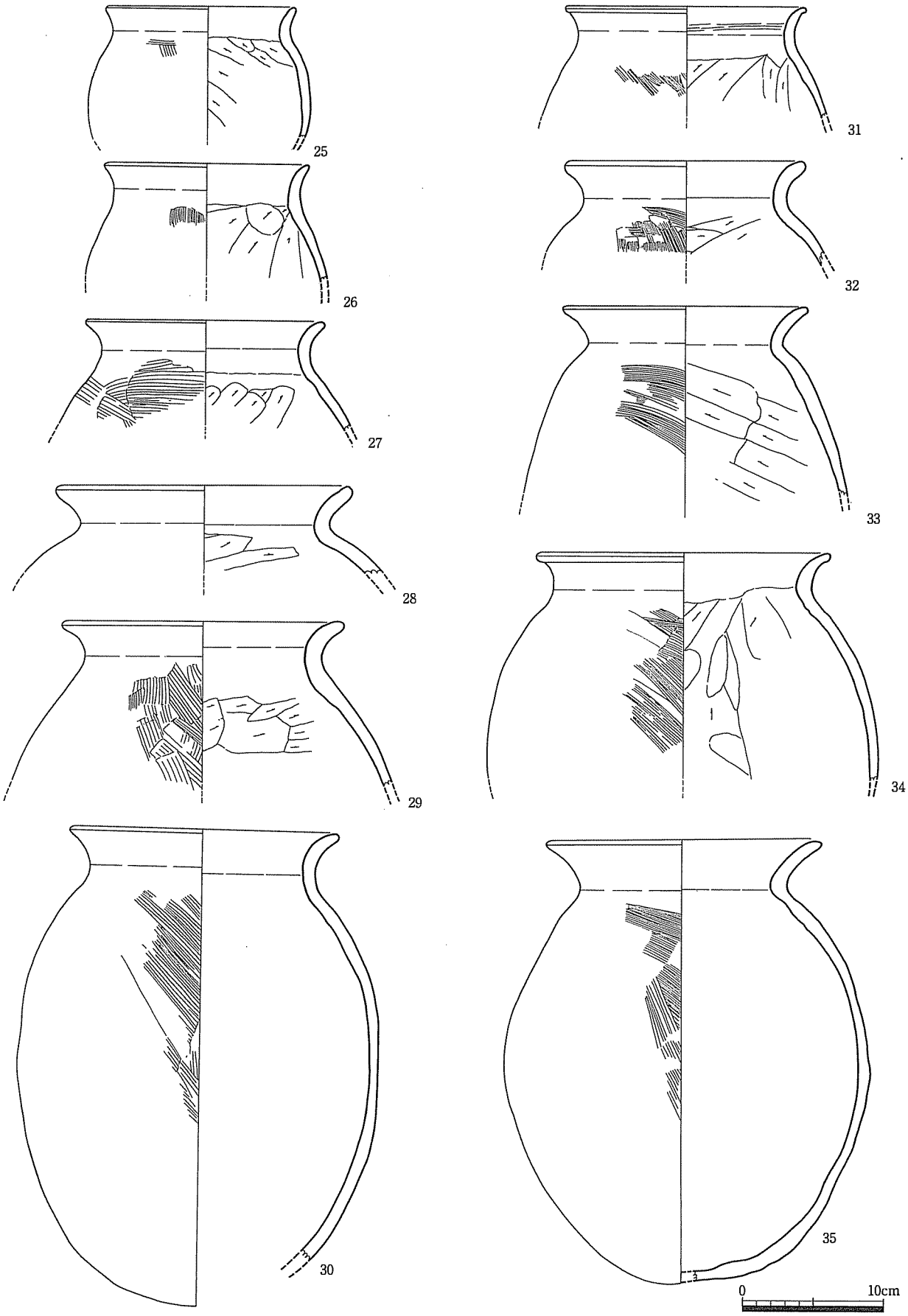


図57　9511調査地点出土遺物実測図3（1/4）

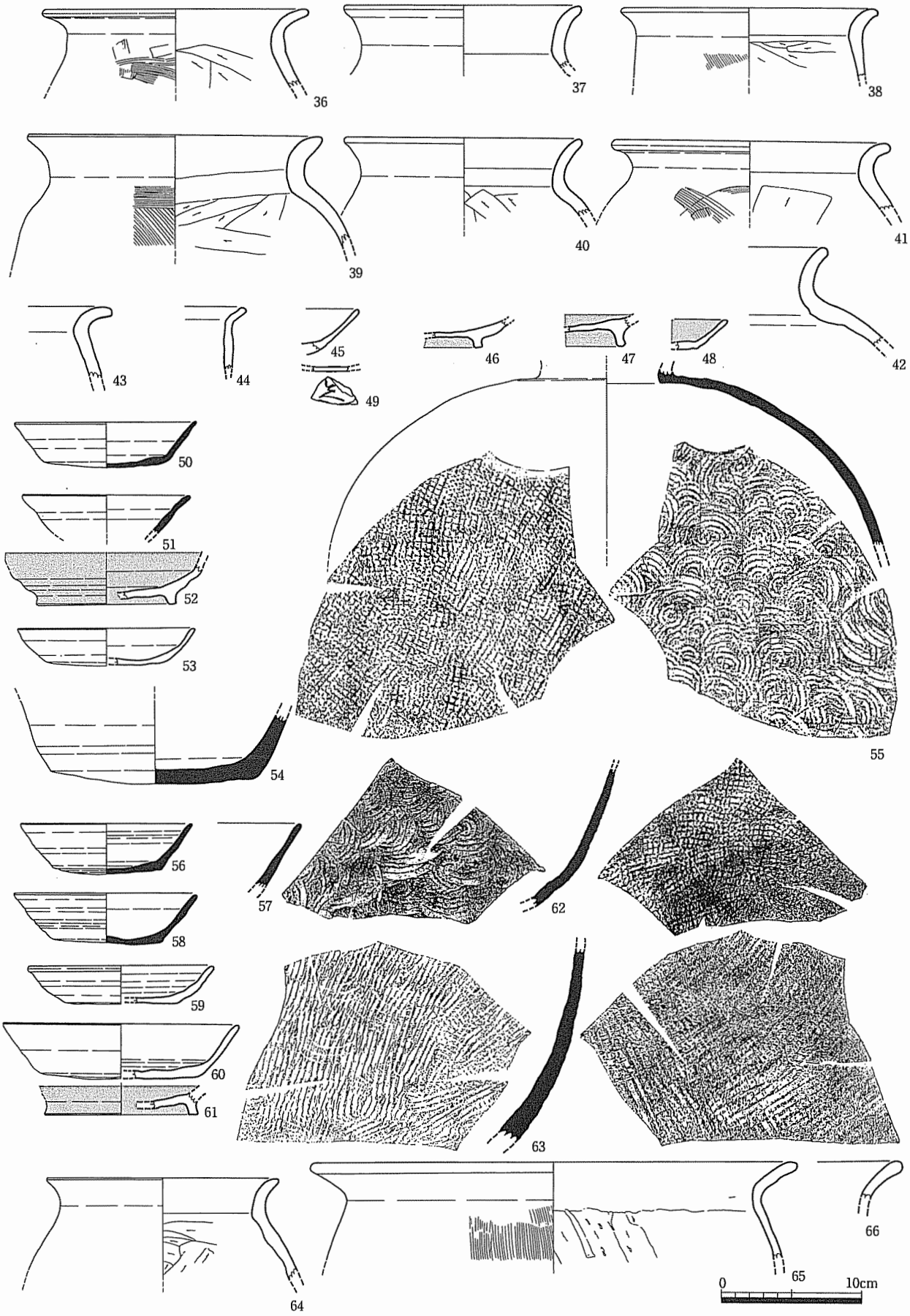


図58　9511調査地点出土遺物実測図４（1/4）

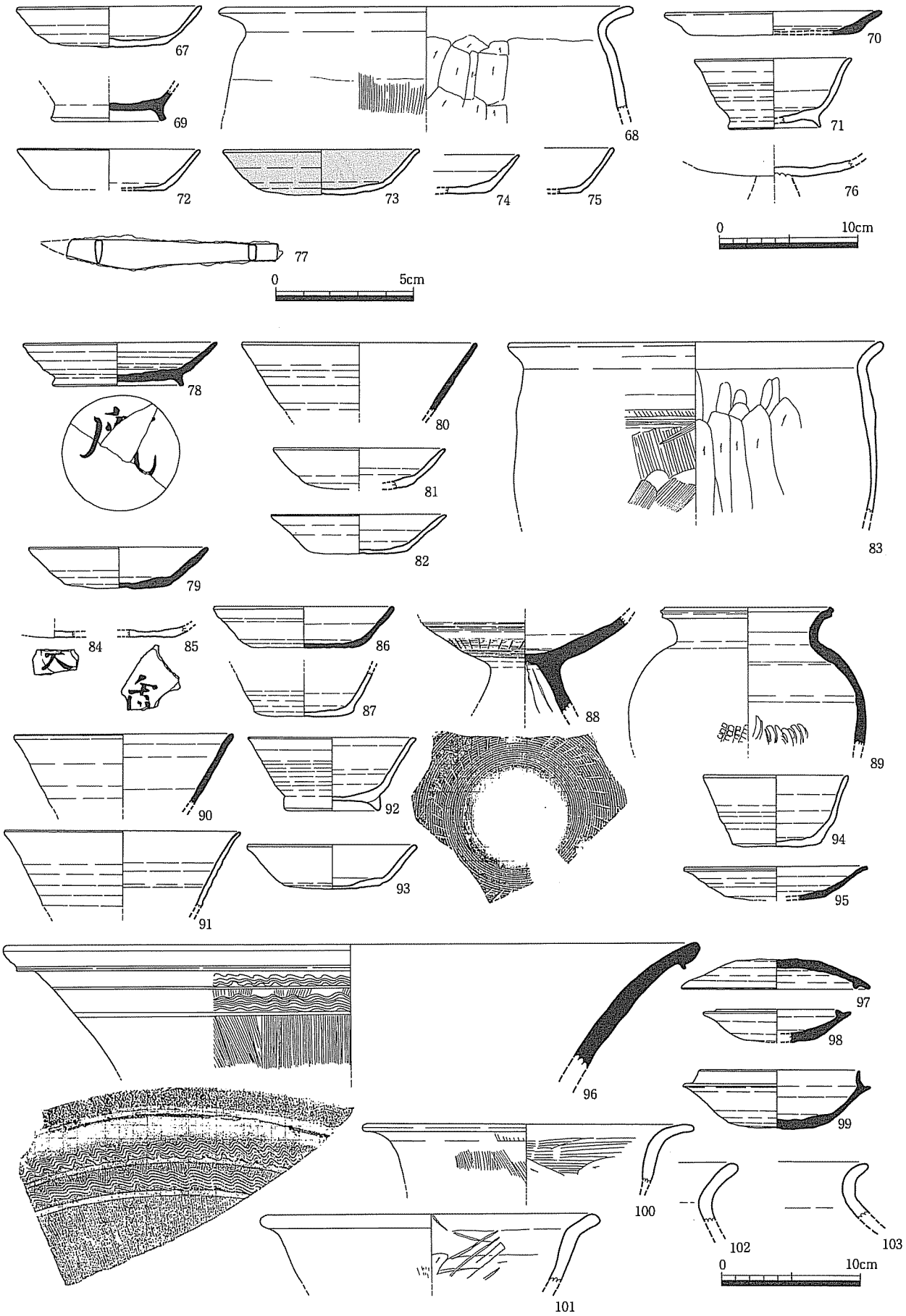


図59　9511調査地点出土遺物実測図 5 （1/4・1/2）

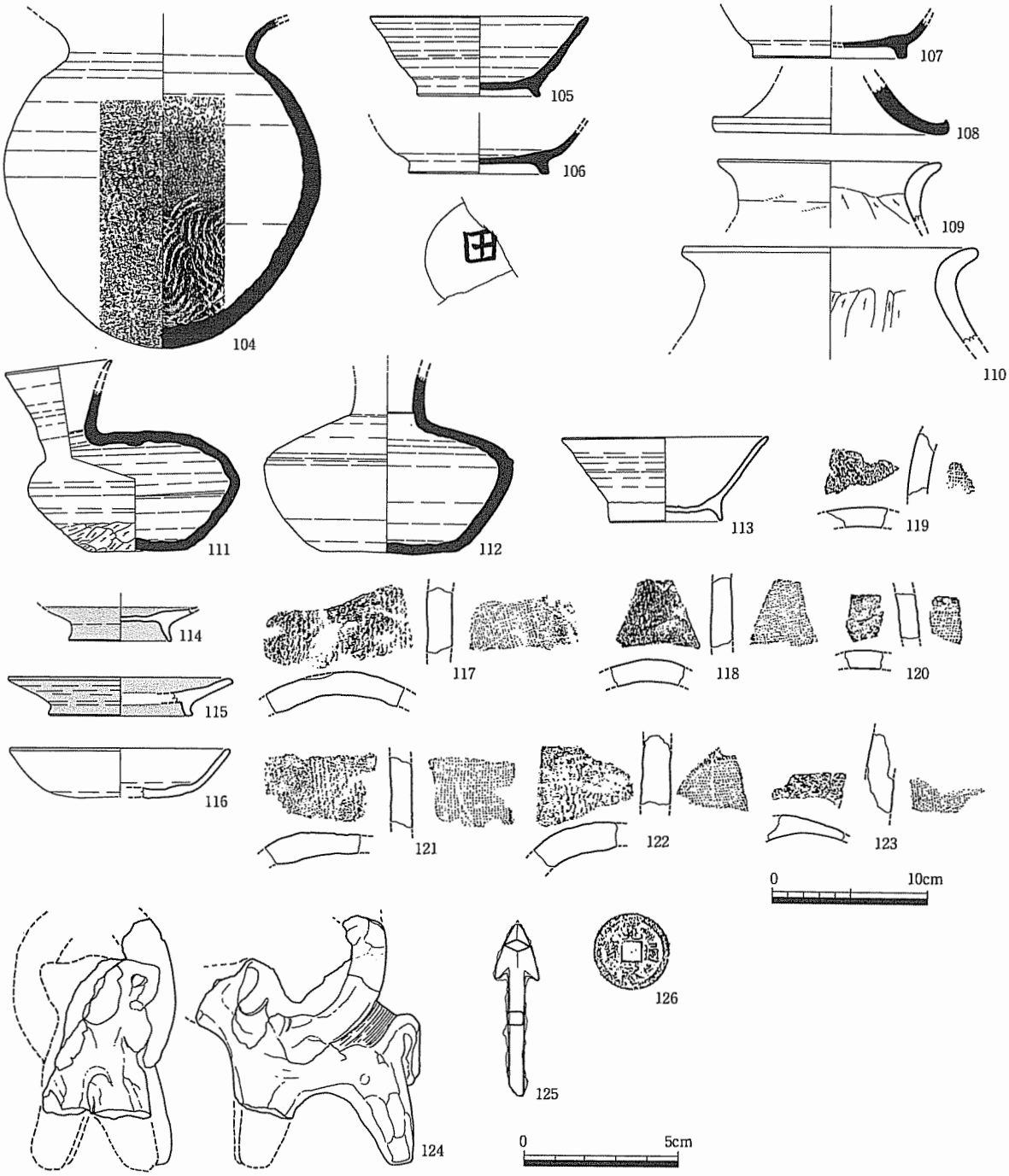


図60　9511調査地点出土遺物実測図６（1/4・1/2）

25号竪穴住居址出土遺物

本遺構からは覆土上面に廃棄された状態で土師器甕・甑がおよそ50個体ほど出土した。遺構の時期を示すものは、甕およびその周囲に遺棄された状態で出土した土師器甕・甑（10～12）である。10は竈のすぐ右横から出土した土師器の小型壷である。外面のほとんどと内面の下半部に煤が付着している。12は土師器の甕であるが、竈に据えられた状態で出土した。外面のおよそ半分と底部付近に煤が付着している。11は底部中央を橋梁状に残して穿孔した甑である。これらの土器は一部欠損する箇所があるがいずれもほぼ完形品であった。

覆土上部に廃棄された土器は大小の甕形土器（19～42）がほとんどで、わずかに把手付甕２点（13・15）、甑１点（14）が含まれるだけであった。

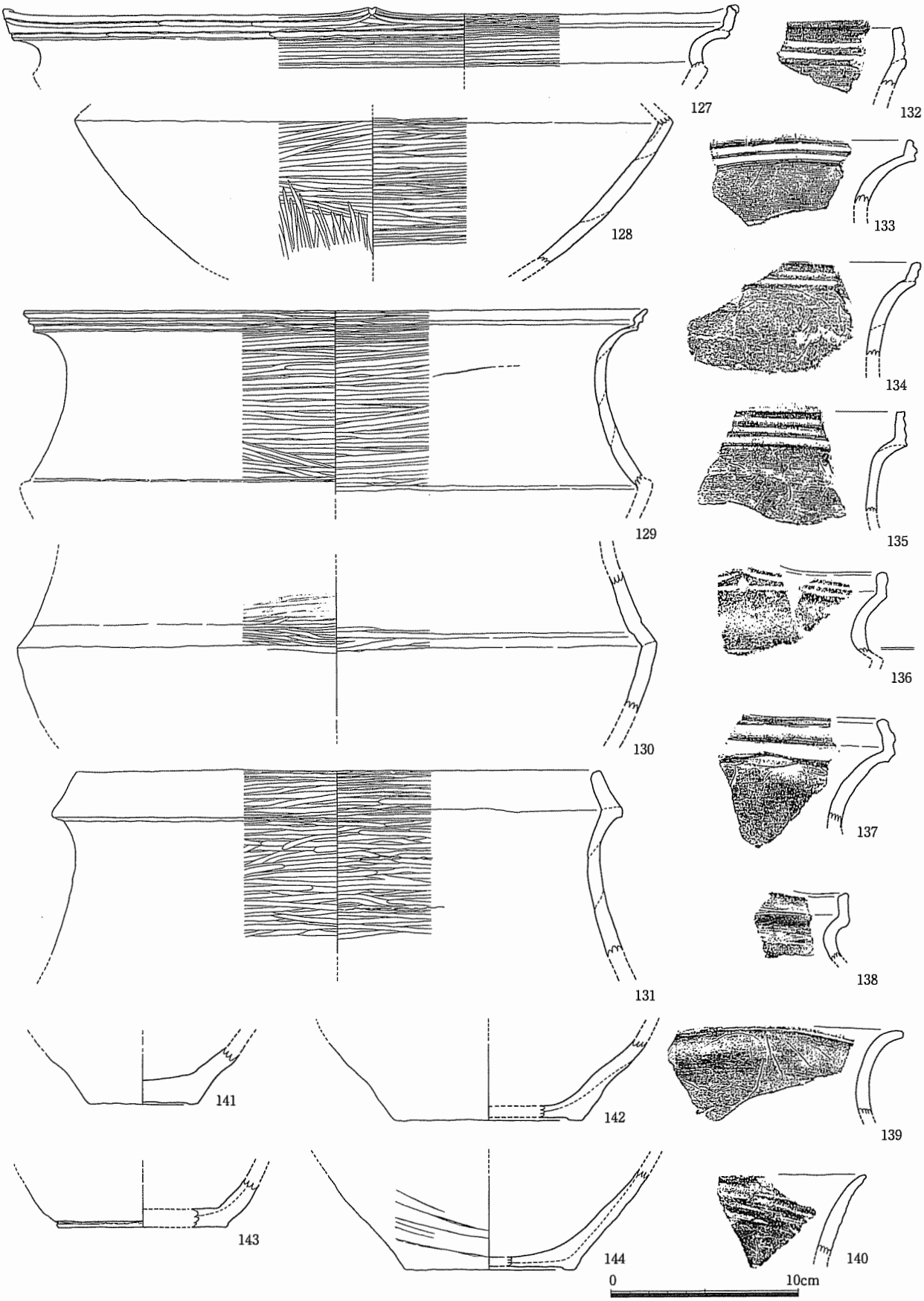


図61　9511調査地点出土遺物実測図７（1/3）

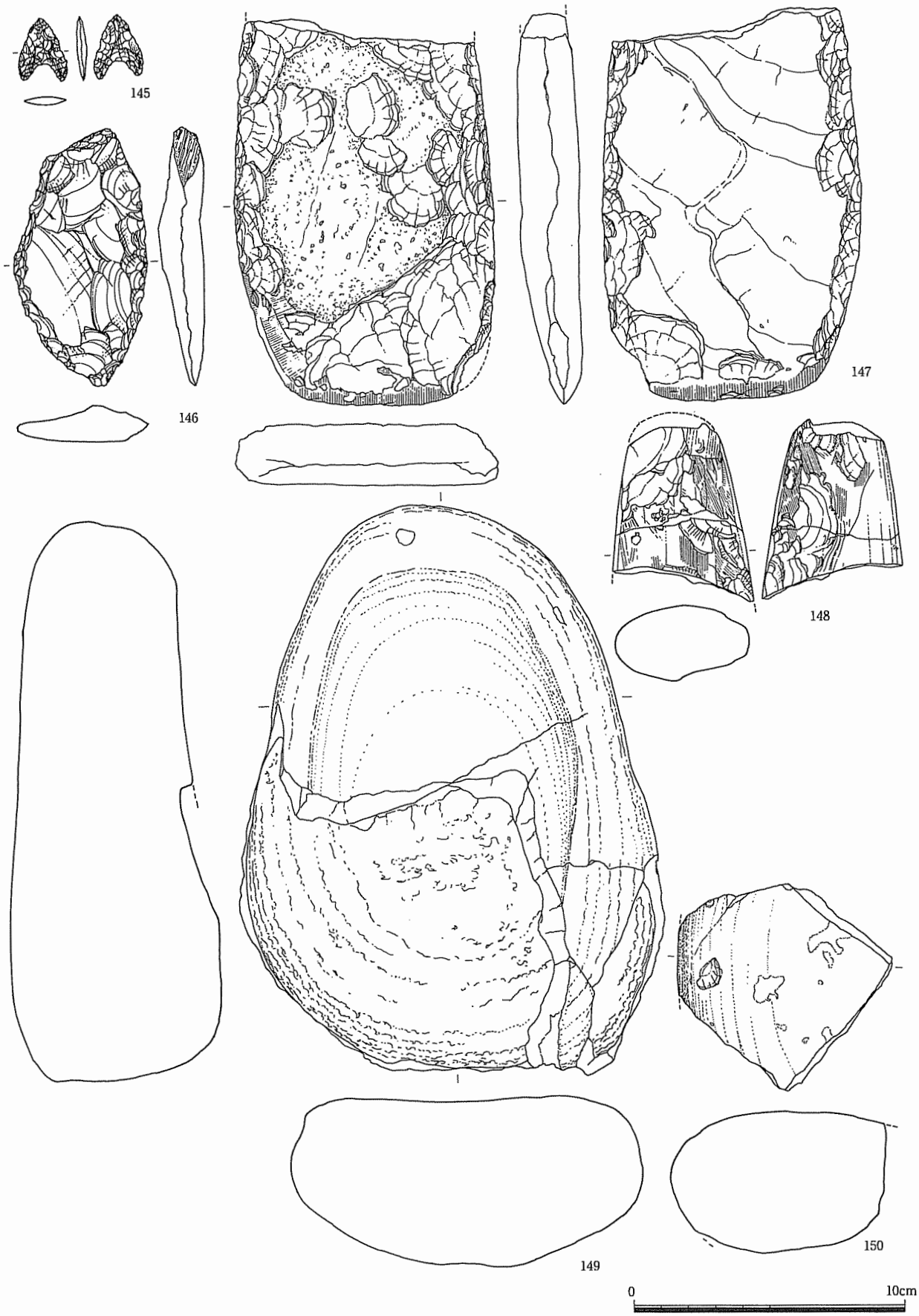


図62　9511調査地点出土遺物実測図８（1/2）

表9　9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
55	1	青磁	碗		口縁部片	内： 外：	内：青緑色 外：青緑色	10号溝	
	2	須恵器	甕		口縁1/6破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y7/2 外：Hue5B3/1	10号溝	
	3	須恵器	甕		口縁1/5破片	内：回転ナデ 外：ハケ目	内：HueN4/0 外：Hue2.5YR5/1	10号溝	
	4	土師器	甕		口縁1/4破片	内：回転ナデ 外：ナデ	内：Hue5YR6/8 外：Hue5YR6/8	19号溝	
	5	土師器	高坏？		口縁1/8破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/3 外：Hue5YR7/8	50号住居址覆土	
	6	土師器	碗		底部1/4破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/8 外：Hue7.5YR6/4	50号住居址	
	7	須恵器	高坏		脚部	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y7/1 外：Hue7.5Y7/1	50号住居址　P－8	やや軟質
	8	土師器	甕	口径　17.4	口縁1/4破片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue5YR4/1 外：Hue5YR6/8	50号住居址　P－1	
	9	土師器	甕	口径　15	口縁1/2	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR7/6 外：Hue5YR7/8	50号住居址　P－6	
	10	土師器	小型壺	口径　12.6 最大径16.3 器高　14.3	完形	内：削り・ナデ 外：ハケ目	内：Hue5YR6/8 外：Hue5YR6/8	25号住居址	外面煤付着
	11	土師器	甑	口径　28.1 底径　8.4 器高　28	完形	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/8 外：Hue5YR6/8	25号住居址	
	12	土師器	甕	口径　17.0 器高　30.6	完形 口縁一部欠	内：削り 外：ハケ・ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	25号住居址竈	外面煤付着
	13	土師器	甑（把手付甕）	口径　24.0	口縁・肩1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	14	土師器	甑	口径　29.0	口縁1/2欠・底部欠	内：削り 外：ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue7.5YR6/4	25号住居址	
56	15	土師器	把手付甕	口径　25.1 最大径　30 器高　28.0	口縁1/3欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	25号住居址	把手あり
	16	土師器	甕	口径　16.9	口縁1/3破片	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue5YR7/6	25号住居址	
	17	土師器	甕	口径　18.0 最大径　26.2	口縁1/3欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	25号住居址	
	18	土師器	甕	口径　19.0 最大径28.2	口縁一部欠・底一部欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR7/4 外：Hue2.5YR7/4	25号住居址	
	19	土師器	甕	口径　15.0 最大径 14.95	1/2欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/3 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	20	土師器	甕	口径　17.0	口縁1/2破片	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	25号住居址	
	21	土師器	甕	口径　16.0	口縁1/4欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	25号住居址	
	22	土師器	甕	口径　16.6	口縁1/4欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR7/6 外：Hue2.5YR7/6	25号住居址	外面煤付着
	23	土師器	甕	口径　18.9 最大径　22.6	胴部下欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	25号住居址	外面煤付着

表９　9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
56	24	土師器	甕	口径　20.4 底径　30.8 器高　34.0	胴・口縁1/2欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/4 外：Hue5YR6/4	25号住居址	
57	25	土師器	甕	口径　13.6 最大径　14.6	口縁	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5Y6/4 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	26	土師器	甕	口径　14.6	口縁1/2	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR5/4 外：Hue7.5YR5/4	25号住居址	
	27	土師器	甕	口径　17.0	口縁2/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	28	土師器	甕	口径　21.0	口縁1/4	内：削り 外：ヨコナデ	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue10YR6/4	25号住居址	
	29	土師器	甕	口径　20.0	口縁1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	30	土師器	甕	口径　19.1 底径　25.4 器高　35.2	底部一部欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue10YR8/4	25号住居址	外面煤付着
	31	土師	甕	口径　17.0	口縁部	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	32	土師器	甕	口径　17.1	口縁1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	33	土師器	甕	口径　17.4	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/5 外：Hue7.5YR6/6	25号住居址	
	34	土師器	甕	口径　20.85 最大径　27.7	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR6/6	25号住居址	
	35	土師器	甕	口径　19.0 最大径　25.8 器高　32.0	胴半分欠	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR7/3 外：Hue7.5YR7/6	25号住居址	
58	36	土師器	甕	口径　19.0	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	37	土師器	甕	口径　17.0	口縁1/3	内：削り 外：	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	38	土師器	甕	口径　18.4	口縁1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue2.5Y5/3	25号住居址	
	39	土師器	甕	口径　21.1	口縁2/3	内：削り 外：	内：Hue10YR7/4 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	40	土師器	甕	口径　17.0	口縁1/2	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	25号住居址	
	41	土師器	甕	口径　19.9	口縁部	内：削り 外：	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue7.5YR6/6	25号住居址	
	42	土師器	甕		口縁1/6	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5Y5/2 外：Hue2.5Y6/3	25号住居址	
	43	土師器	甕		口縁部片	内：削り 外：ヘラなで	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/4	5号住居址	
	44	土師器	甕		口縁部片	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR4/2 外：Hue10YR6/4	5号住居址	煤付着
	45	土師器	碗		口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	5号住居址	
	46	土師器	碗	底径　10.0	底部1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue5YR6/6	5号住居址	外面丹塗

表9　9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
58	47	土師器	碗		底部1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR5/6 外：Hue2.5YR5/6	5号住居址	内外丹塗
	48	土師器	坏		1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	5号住居址	内外丹塗
	49	土師器	坏		底部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/8 外：Hue5YR5/8	5号住居址	墨書・内外丹塗
	50	須恵器	坏	口径　13.0 底径　8.6 器高　3.3	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/3 外：Hue5Y7/3	5号住居址	
	51	須恵器	坏	口径　12.0	口縁1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	5号住居址	
	52	土師器	碗	底径　10.0	底部1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	5号住居址	内外丹塗
	53	土師器	坏	口径　12.65 底径　8.7 器高　2.7	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	5号住居址	
	54	須恵器	甕	底径　14.8	底部3/4	内：ヘラなで 外：ヘラ削り	内：Hue10YR7/6 外：Hue7.5YR6/6	5号住居址	
	55	須恵器	甕		口縁欠1/4	内：同心円 外：格子叩き	内：Hue5Y6/1 外：Hue7.5Y6/1	5号住居址	
	56	須恵器	坏	口径　12.3 底径　7.7 器高　3.7	口縁1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/1 外：Hue2.5Y6/1	65号住居址	
	57	須恵器	坏		口縁部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y6/1 外：Hue2.5Y6/2	65号住居址	
	58	須恵器	坏	口径　13.1 底径　8.1 器高　3.7	口縁一部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y7/2	65号住居址	
	59	土師器	坏	口径　13.35 底径　7.3 器高　2.8	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	65号住居址	
	60	土師器	坏	口径　16.0 底径　11.5 器高　3.0	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue5YR5/3	65号住居址	
	61	土師器	碗	底径　11.0	底部1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	65号住居址	内外丹塗
	62	須恵器	甕		胴部片	内：同心円 外：格子叩き	内：HueN7/0 外：Hue5Y7/1	65号住居址	
	63	須恵器	甕		胴部片	内：同心円・平行 外：格子叩き	内：Hue5Y7/2 外：Hue7.5Y6/1	65号住居址	底部付近
	64	土師器	甕	口径　16.6	1/6	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	65号住居址	煤付着
	65	土師器	甕	口径　34.7	底部欠1/2	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue10YR6/6	65号住居址	
	66	土師器	甕		口縁1/5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR6/4 外：Hue7.5YR7/5	65号住居址	
59	67	土師器	坏	口径　13.35 底径　7.3 器高　3.0	口縁一部欠損	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	7号住居址	
	68	土師器	甕	口径　30.0	口縁1/4	内：削り 外：ハケ目	内：Hue10YR5/4 外：Hue2.5YR5/3	7号住居址	
	69	須恵器	碗	底径　8.3	底部2/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y5/1 外：Hue5Y5/1	80号住居址	

表９　9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　　徴	色　　調	出土遺構	備　考
59	70	須恵器	皿	口径　15.6 底径　12.4 器高1.7	口縁1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	6号方形竪穴	
	71	土師器	碗	口径　11.4 底径　6.8 器高　5.1	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR6/4 外：Hue10YR4/2	6号方形竪穴	
	72	土師器	坏	口径　13.2 底径　8.2 器高　3.0	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue10YR8/4 外：Hue10YR8/4	6号方形竪穴	
	73	土師器	坏	口径　14.2 底径　4.4 器高　3.3	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR7/6	6号方形竪穴	内外丹塗
	74	土師器	坏		1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	6号方形竪穴	底に板目
	75	土師器	坏	底径　3.4	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	6号方形竪穴	
	76	土師器	高坏		坏底部1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR5/6	6号方形竪穴	丹塗
	77	鉄　器	刀子	長さ　8.6 幅　1.3 厚さ　0.3				6号方形竪穴	
	78	須恵器	高台付皿	口径　14.5 底径　9.8 器高　3.3	一部欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y7/2	46号方形竪穴	墨書
	79	須恵器	坏	口径　13.1 底径　6.8 器高　3.0	1/4欠損	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/1	46号方形竪穴	
	80	須恵器	碗	口径　17.0	口縁1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/2 外：Hue5Y7/2	46号方形竪穴	
	81	土師器	坏	口径　12.4 底径　7.9	1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/6 外：Hue2.5YR5/6	46号方形竪穴	
	82	土師器	坏	口径　12.6 底径　7.0 器高　2.9	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue2.5YR5/6	46号方形竪穴	
	83	土師器	甕	口径　26.7 最大径　26.1	口縁1/3	内：削り 外：ハケ目	内：Hue2.5Y5/2 外：Hue10YR4/2	46号方形竪穴	
	84	土師器	坏		破片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue5YR6/4 外：Hue5YR6/4	13号土坑（B－3・4区）	墨書
	85	土師器	坏		破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	13号土坑（B－3・4区）	墨書・内外丹塗
	86	須恵器	坏	口径　13.1 底径　8.1 器高　3.0	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/3 外：Hue5Y6/3	76号ピット（86号掘立柱建物）	
	87	土師器	坏	底径　7.2	底部3/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	72号焼土（G－6区）	底に板目
	88	須恵器	高坏		坏・脚1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y7/2 外：Hue5Y7/2	155号ピット（B－6区）	
	89	須恵器	甕	口径　14.2 最大径 16.45	口・肩部 1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/3 外：Hue5Y6/2	155号ピット（B－6区）	
	90	須恵器	碗	口径　15.7	口縁1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	79号ピット（D－10区）	
	91	土師器	碗	口径　17.0	口縁1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR5/6 外：Hue5YR4/3	166号ピット（H－12・13区）	
	92	土師器	碗	口径　11.2 底径　7.0 器高　5.35	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR6/6 外：Hue7.5YR6/6	9号ピット（G－9区）	

表9　9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
59	93	土師器	坏	口径　12.3 底径　6.8 器高　3.2	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue5YR6/6	34号遺物集中部（65号住居址上）	
	94	土師器	碗	口径　10.9 底径　6.9 器高　5.2	1/4欠損	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5YR5/3 外：Hue10YR5/3	45号遺物集中部（E－10区）	
	95	須恵器	坏	口径　13.3 底径　7.3 器高　2.4	1/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/2 外：Hue5Y6/2	33号（E－8区包含層）	
	96	須恵器	大甕	口径　50.0	口縁1/6	内：ナデ 外：ハケ目	内：HueN5/0 外：Hue2.5Y6/2	29号（D－8区包含層）	
	97	須恵器	蓋	口径　13.1 器高　2.2	1/6	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/1 外：Hue5Y6/2	40号土坑（C・D－7区）	
	98	須恵器	坏	口径　10.2	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y5/1 外：Hue7.5Y5/1	144号ピット（D－4区）	
	99	須恵器	坏	口径　11.6 底径　7.2 器高　3.95	2/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y4/1 外：Hue10YR4/2	C11区（28号溝肩部）	自然釉付着
	100	土師器	甕	口径　24.0	口縁部片	内：ハケ・削り 外：ハケ目	内：Hue2.5Y7/4 外：Hue10YR7/6	101号ピット（G－7区）	
	101	土師器	鉢	口径　24.6	口縁1/6	内：ナデ 外：ヘラ削り	内：Hue10YR6/4 外：Hue7.5YR5/2	88号ピット（F－5区）	煤付着
	102	土師器	甕		口縁部片	内：削り 外：ナデ	内：Hue7.5YR6/6 外：Hue7.5YR6/6	43号土坑（E－9区）	
	103	土師器	甕		口縁1/5	内：削り 外：ハケ目	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	142号ピット（D－7区）	
60	104	須恵器	甕	最大径　20.5	口縁欠	内：同心・ナデ 外：格子叩き	内：Hue2.5Y8/3 外：Hue2.5Y8/3	70号遺構（B－9区）	外表皮剥落
	105	須恵器	碗	口径　14.0 底径　8.0 器高　5.2	口縁3/4欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5Y6/3 外：Hue5y6/3	包含層（E－7区）	
	106	須恵器	碗	底径　9.0	口縁1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR7/2 外：Hue2.5YR7/2	包含層（G－10区）	墨書「田」？
	107	須恵器	碗	底径　9.8	1/2・口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/4 外：Hue10YR7/1	包含層（E－8区）	やや軟質・外面煤付着
	108	須恵器	高坏	口径　15.1	脚部1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5Y7/2 外：Hue2.5Y7/2	包含層（E－9区）	
	109	土師器	甕	口径　14.4	口縁1/3破片	内：削り 外：ハケ目	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/8	57号（D－7区包含層）	
	110	土師器	甕	口径　19.0	口縁1/3破片	内：削り 外：ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue2.5YR6/8	122号（C－3区包含層）	
	111	須恵器	平瓶	口径　6.9 底径　6.3 器高　12.5	ほぼ完形	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：HueN6/0 外：HueN6/0	包含層（D－4区）	底部削り
	112	須恵器	壺	最大径　16 底径　8.7	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue7.5Y6/1 外：HueN7/0	包含層（D－7区）	
	113	土師器	碗	口径　13.3 底径　7.3 器高　5.5	口縁1/2欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	包含層（G－6区）	
	114	土師器	碗	底径　6.7	口縁欠	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	包含層（G－7区）	内外丹塗
	115	土師器	高台付皿	口径　14.5 底径　9.3 器高　2.5	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR6/8 外：Hue2.5YR6/8	包含層（G－1区）	内外丹塗

表９　9511調査地点出土遺物観察表

図	No	遺　物	種類(器種)	法量（cm）	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
60	116	土師器	坏	口径　14.2 器高　3.1	1/2	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue2.5YR7/8 外：Hue2.5YR7/8	包含層 (G－7区)	
	117	瓦	平瓦	長さ　9.0 幅　4.5 厚さ　1.4		内：布目 外：縄目	内：Hue10YR6/2 外：Hue5YR6/4	4号溝	
	118	瓦	平瓦	長さ　5.3 幅　5.0 厚さ　1.3		内：布目 外：ナデ	内：Hue5YR6/1 外：Hue5YR6/1	90号道路状遺構	
	119	瓦	平瓦	長さ　4.7 幅　3.0 厚さ　1.2		内：布目 外：縄目	内：Hue5YR6/6 外：Hue5YR6/6	撹乱	
	120	瓦	平瓦	長さ　3.3 幅　2.6 厚さ　1.2		内：布目 外：ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	包含層	
	121	瓦	平瓦	長さ　6.5 幅　4.2 厚さ　1.6		内：布目 外：縄目	内：Hue10YR6/2 外：Hue10YR6/2	撹乱	
	122	瓦	平瓦	長さ　5.8 幅　6.0 厚さ　1.6		内：布目 外：縄目	内：Hue5YR7/8 外：Hue5YR7/8	24号（B－10区撹乱）	
	123	瓦	平瓦	長さ　5.5 幅　5.2 厚さ　1.2		内：布目 外：ナデ	内：Hue5YR7/6 外：Hue5YR7/6	撹乱	
	124	土製品	木葉痕	高さ　8.1		内：ナデ 外：ナデ	Hue2.5YR5/6	44号ピット（E－9区）	
	125	鉄器	鉄鏃	長さ　5.7 幅　1.5 厚さ　0.5				包含層	基部欠損
	126	銅製品	銅銭	直径　2.45				包含層	寛永通宝
61	127	縄文土器	浅鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR8/3 外：Hue10YR8/3	包含層 (H－5区)	
	128	縄文土器	深鉢形土器	最大径33.0	胴部片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/3 外：Hue7.5YR6/6	包含層 (E－7区)	131と同一個体か
	129	縄文土器	深鉢形土器	口径33.0	口縁1/3	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR6/4	包含層 (E－7区)	
	130	縄文土器	深鉢形土器	最大径34.0	胴部片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR8/4 外：Hue7.5YR7/4	包含層 (G－4・5区)	
	131	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	47号（E－7区65号住居上）	
	132	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR7/3	包含層 (G－7区)	
	133	縄文土器	鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR6/2 外：Hue10YR6/2	包含層 (H－5区)	
	134	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue7.5YR6/4	139号土坑	
	135	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue7.5YR7/6 外：Hue7.5YR7/6	包含層 (H－3・4区)	
	136	縄文土器	鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/2 外：Hue7.5YR7/6	包含層 (D・E－7区)	
	137	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR6/2 外：Hue10YR6/2	包含層 (G－12区)	
	138	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR7/3 外：Hue10YR7/3	包含層 (E－7区)	

表9　9511調査地点出土遺物観察表

図	No.	遺　物	種類(器種)	法量 (cm)	残存量	特　徴	色　調	出土遺構	備　考
61	139	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue10YR4/1 外：Hue7.5YR7/3	50号住居址	
	140	縄文土器	深鉢形土器		口縁片	内：ヘラ磨き 外：ヘラ磨き	内：Hue7.5YR6/4 外：Hue5YR6/8	包含層 (A－6区)	
	141	縄文土器	深鉢形土器	底径　4.4	底部	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR7/4 外：Hue10YR7/4	包含層 (G－6区)	
	142	縄文土器	深鉢形土器	底径　9.9	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR6/3 外：Hue7.5YR7/6	包含層 (F－6区)	
	143	縄文土器	深鉢形土器	底径　9.0	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue7.5YR4/1 外：Hue7.5YR7/6	包含層 (H－5区)	
	144	縄文土器	深鉢形土器	底径　8.95	底部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue10YR7/2 外：Hue10YR8/4	包含層 (G－7区)	
62	145	石器	打製石鏃	長さ　2.4 幅　1.8 厚さ　0.3	完形			包含層	サヌカイト
	146	石器	スクレイパー	長さ　9.6 幅　5.0 厚さ　1.5	完形			30号溝	安山岩
	147	石器	刃部磨製石斧	長さ　14.5 幅　9.5 厚さ　2.0	頭部欠			包含層 (E－8区)	角閃石安山岩
	148	石器	磨製石斧	長さ　6.8 幅　5.3 厚さ　3.0	頭部			58号遺構	硬質頁岩
	149	石器	石皿	長さ　20.6 幅　15.6 厚さ　7.8	一部欠損			58号遺構	砂岩
	150	石器	磨石	長さ　7.5 幅　7.5 厚さ　6.0	破片			58号遺構	砂岩？

5号竪穴住居址出土遺物

43・44は土師器甕、45～47・52は土師器碗、48・49・53は土師器坏である。55は頸部の小さな須恵器壺である。丸い球状の体部が特徴的である。

65号竪穴住居址出土遺物

56～58は須恵器坏、62・63は甕、59・60は土師器の坏、61は碗、64～66は甕である。

7号竪穴住居址出土遺物

67は土師器の坏である。中央の土層ベルト部分から出土した。68は土師器の甕である。

6号方形竪穴出土遺物

72～75は土師器の坏、70は須恵器皿、71は土師器碗、76は丹塗りの土師器高坏である。77は鉄製刀子である。71から9世紀前半ごろの遺構と思われる。

46号方形竪穴出土遺物

78は「風」に似た字を外底に墨書した須恵器の高台付皿である。79は須恵器坏、80は碗である。81・82は土師器坏、83は甕である。

その他の遺構および包含層出土遺物

今回の調査では、上述した遺構以外にピットや土坑および包含層から多量の遺物が出土した。古代の土師器や須恵器などの容器の破片（84～114）がほとんどであるが、特徴的なものについて一部紹介しておく。124は44号土坑から出土した木の葉猿である。近世以降の所産であろう。126は「寛永通

寶（初鋳1636年）」である。84・85は13号土坑（近世）から出土した墨書土器（坏）（「不明」、「大」）である。125は鉄鏃である。基部を欠損する。105は完形に近い須恵器碗である。65号竪穴住居址に近接して出土した。これ以外に、包含層より100点ほどの縄文後期後半～晩期初頭の土器（図61）や石器（図62）が出土している。土器のほとんどは御領式土器の深鉢や浅鉢の破片であるが、天城式土器片（133）も一部含まれている。石器としては、サヌカイト製石鏃（145）、同スクレイパー（146）、硬質頁岩石斧頭部（148）、角閃石安山岩製刃部磨製石斧（147）、砂岩製石皿（149）、同磨石（150）などがある。

2．まとめ

今回の調査では、これまであまり内容の知られていなかった本庄遺跡の性格の一端を明らかにすることができた。本調査区においてもっとも古い遺物は、縄文時代後期後半のものである。該期の遺物は包含層からの出土がほとんどで、明確な遺構は伴っていない。しかし、石皿や磨石などが近接して出土する地点もあり、生活址の痕跡がわずかながら認められる。この地点では、古代の包含層と縄文時代の包含層を区別することはできなかったが、周辺部において、両層の分離と明確な遺構を発見することが今後の課題であろう。

古墳時代後期から古代にかけての遺構が、本調査区での検出遺構の主体をなすものである。最も古い遺構は、68号溝および13号溝である（Ⅰ期）。次の時期に属するのが、55号溝である（Ⅱ期）。次に25号竪穴住居址と50竪穴住居址で、他の竪穴住居址および方形竪穴遺構もこの時期に属する。19号溝および90号道路状遺構もこの時期もしくはそれ以降に属する可能性が高い。この時期はこの遺跡の主体をなし、８世紀後半から９世紀前半にあたり、かなり長期にわたる。住居址の方向や規模から25号竪穴住居址と50号竪穴住居址とその他の竪穴住居址の２時期もしくはそれ以上に細分ができそうである。85号掘立柱建物址および95号掘立柱建物址は方向および覆土の特徴が類似することからこのⅠ期もしくはⅡ期の前半に属する可能性が高い。これ以降、中世末期にいたるまで本調査区は生活の痕跡を留めていない。これは、集落としての繁栄と廃絶される時期が、みごとに大江遺跡群に展開した古代集落と一致していることを示している。このことは、国府などの政治機関の移転に伴う集落の廃絶の反映として捉えられ、この集落の村人が国府や郡家に出司していた下級役人であった可能性を示している。これはわずかながら出土する墨書土器片が傍証となろう。

次にこの地に生活の痕跡が認められるのは10号溝に代表されるように16世紀後半になってからである（Ⅲ期）。しかし、近世の大溝にも認められるように生活痕跡は溝などの遺構に限られる。近代以降の削平によるものなのか、集落の中心ではなく、周辺部の状況を示すものなのか、今後の調査の成果を待ちたい。

Ⅶ　まとめ

ま と め

1994・1995年度の調査は、本学の埋蔵文化財調査室が始動したばかりの頃に実施した調査であるため、体制的にも時間的にも余裕のない状況下で実施したものがほとんどである。よって、調査の記録や開示法に若干の不備を抱えている部分もないとは言えない。ただし、黒髪町遺跡群や本庄遺跡などのように本学を中心とする遺跡群における調査成果は、これまで明らかでなかった学術的な意義を見出す大きな端緒となった。

実際、黒髪町遺跡群における黒髪北・南地区の発掘調査の成果（9407・9412・9501・9512調査地点など）は、それまで断片的な情報しか存在しなかった古代の駅家に関連する施設や周辺の集落の状況を知る上できわめて有益な情報源となった。「馬」銘墨書や「國」銘印、各種墨書・ヘラ書き土器、布目瓦、土馬、越州窯青磁など、出土遺物にみる一般集落とは異なる官衙もしくはそれに相応する施設に関連する様相は、蚕養駅関連の施設が付近一帯に存在することを暗示するものであった。これを裏づけるように、最近の調査によって大学構内の古代官道の通過地点もほぼ明らかになってきており、今後は中心的な施設の追求および特定作業を残すのみである。

また、本庄遺跡における発掘調査（9511調査地点）では、古代を中心とした遺跡群がより南へ広がること、集落の存続時期が７世紀～９世紀であり、周辺の大江遺跡群などと同じように官衙や関連施設の移転とともに集落が衰退していく状況が明らかになったことは、古代詫麻郡の政治施設の配置やそれに付随した集落変遷を考える上で興味深い事実である。遺跡の全容についてはまだ不明な点が多いが、各時期の排水溝・用水溝などが多く存在し、水の管理が大変な地域であったようである。ただし、このような低い土地であっても竪穴住居や倉庫などを構える集落があったことは事実であり、今後は遺跡の広がりや地点ごとの状況の違いを細かく捉えていく必要があろう。

大江遺跡群内で行われた発掘調査（9408・9413調査地点）では、小規模な調査ではあったが、古代官道より東一坪の境の道路が検出されたこと、大江遺跡群の既往の調査で明らかにされていた集落構造に関連する資料を追加・補足したという点で大きな意義があったものと思われる。

これら熊本平野北東部の洪積世台地の裾部には、本書に収録したとおり、各調査地点から出土した縄文時代後期～晩期前半期の資料が示すように、縄文時代の集落址も点々と残されている。この白川中流域一帯の周辺地域には縄文時代早期の宇留毛神社遺跡、後期の渡鹿貝塚、北久根山遺跡など、熊本平野でも重要な遺跡が点在しており、本学内の資料も断片的ではあるが、これらとの関連の中で整理されれば、きわめて貴重な資料となり得るものと思われる。本地域は古代遺跡の密集地域であり、研究の主体も自ずからそちらに重点が置かれがちではあるが、今後は縄文時代集落の遺跡立地の研究も重要な課題となるであろう。今回は明確な遺構を捉えることはできなかったが、今後はこれらの精査に努めたい。

縄文時代といえば、今回本書では収録できなかったが、1995年度に合津地区で実施した理学部附属研究実験棟改築に伴う発掘調査（9509調査地点）の成果について最後に触れておきたい。今回の調査では、これまで後期の貝塚と推定されてきた前島貝塚の貝層の延長部にあたる部分を調査し、併せて丘陵直下にある海岸部の縄文時代早期～前期の遺物を含む遺物採集地点の年代測定・貝類の分析などを実施した。結果として、（１）前島貝塚は存在せず、貝層は近代以降の施肥としてもたらされた貝類・貝藻類付着微小貝とその下部にある縄文時代早期の包含層の遺物が開墾によって交じり合った結果形成されたものであること、（２）海岸部の遺跡は縄文時代前期の年代（歴年代：5035B.C.,

5290B.C.）をもち、当時の付近一帯はハイガイやシオヤガイなどが棲息する潮間帯の汽水域に近い環境、つまり岩礁と砂泥をもつ現在に似た波打ち際の景観であること、などが明かになった。（1）の結果に関しては、貝類の種構成や齢構成および出土貝の年代（歴年代：1680A.D.）から導き出した。しかし、かつて実験所の宿舎建設の際に建築業者が石斧7本を発見していることがその後の山口隆男助教授からの聞き取りによって明らかになっており、今回発見した礫群を伴う縄文時代早期の遺物包含層とともに、本地区に縄文時代の遺物包含層が良好に残っていることは確かである。

本学は以上のように多様な時期や性格の遺跡を包蔵し、しかもそれぞれが地域の埋蔵文化財包蔵地の中において重要な地点に位置するなど、本学の埋蔵文化財に対する責務は決して軽易なものではない。今回報告にあたって、あらためて本学の埋蔵文化財に携わる者の一人としてその責任の重大さを痛感した次第である。遺跡情報を高度かつ合理的に回収すべく、近年では写真測量システムやウォーターセパレイション法の導入など、調査法の改良に努めているが、スタッフの充実を含め、より効果的な調査法の開発、コストの低い整理法の採用など、さらなる改良を模索すべき段階にきていることを感じる。今後の課題としてつねに念頭におきながら実務に取り組んでいきたい。

【参考・引用文献】

網田龍生　1994「奈良時代肥後の土器」『』197－254頁．龍田考古会．

網田達生　1994「肥後における回転台土師器の成立と展開」『中近世土器の基礎研究』X．93－117頁．日本中世土器研究会．

網田達生　1997「肥後における竪穴住居の終焉」『肥後考古』10．51－69頁．肥後考古学会．

大江青葉遺跡調査団　1976『大江青葉遺跡』．

小畑弘己　2001「前島貝塚と海岸遺跡－熊本大学理学部附属臨海実験所内の調査より－」『CALANUS』13，28－46頁．熊本大学理学部附属臨海実験所．

木下　良　1975「肥後国府の変遷について」『古代文化』9－27．1－19頁．古代学協会．

木下　良　1995「肥後の古代交通路」『火の国の原像』．第10回熊本地名シンポジウム記録．13－35頁．

熊本市教育委員会　1980『熊本市中央北地区文化財調査報告書』．

熊本市教育委員会　1982『大江東原遺跡』．

熊本市教育委員会　1989『大江遺跡群Ⅰ』．

熊本市教育委員会　1993『大江遺跡群Ⅱ』．

熊本市教育委員会　2002『大江遺跡群Ⅳ』．

熊本市新熊本市史編纂室　1996『新熊本市史　史料編　第一巻考古資料』．

熊本市文化財調査会　1971『昭和44年度熊本市文化財調査報告書Ⅱ　北部地区』．

熊本県教育委員会　1968『熊本県文化財調査報告』第9集．

熊本県教育委員会　1977『熊本県の条里』，熊本県文化財調査報告第25集．

熊本大学埋蔵文化財調査室　1994『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』第1集．

熊本大学埋蔵文化財調査室　1995『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』第2集．

財団法人多士会館　1986『黒髪町遺跡・多士開館敷地発掘調査報告』．

田村　実　1995『熊本の土地の生い立ち－熊本市及びその周辺の地質－』．熊本地学会．

鶴嶋俊彦　1997「肥後国北部の古代官道」『古代交通研究』7．39－66頁．古代交通研究会．

郵政省九州郵政局　1986『大江東原遺跡』．

写　真　図　版

写真１　Ⅰ区（南より）

写真２　Ⅱ区（西より）

写真３　Ⅲ区（東より）

写真４　Ⅳ区（東より）

写真５　Ⅰ区（南より）

写真６　Ⅱ区（南より）

写真７　Ⅲ区（西より）

写真８　Ⅳ区（西より）

図版２　9407調査地点

写真９　１号竪穴住居址（西より）

写真10　１号竪穴住居址竈（南より）

写真11　２号竪穴住居址（東より）

写真12　２号竪穴住居址竈（東より）

写真13　２号竪穴住居址遺物出土状況

写真14　３～８号竪穴住居址（南より）

写真15　３号竪穴住居址（南より）

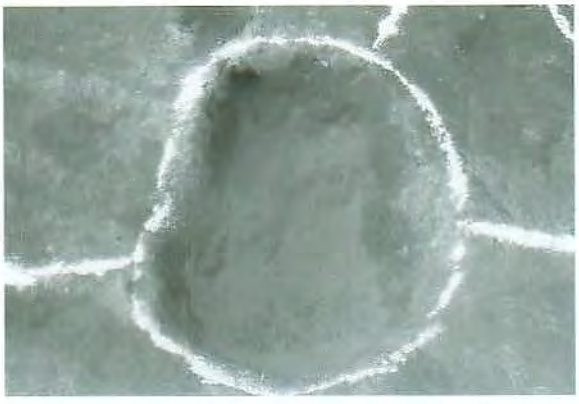


写真16　３号竪穴住居址竈（南より）

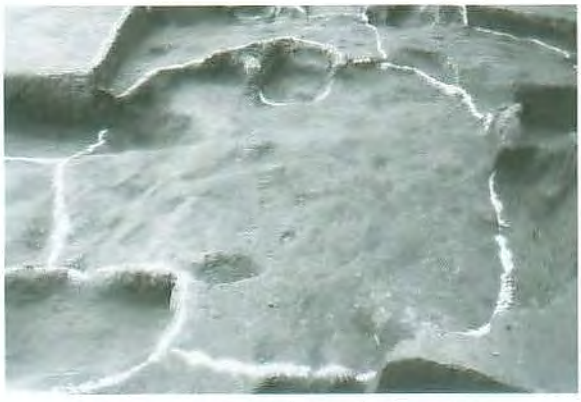


写真17　４号竪穴住居址（東より）

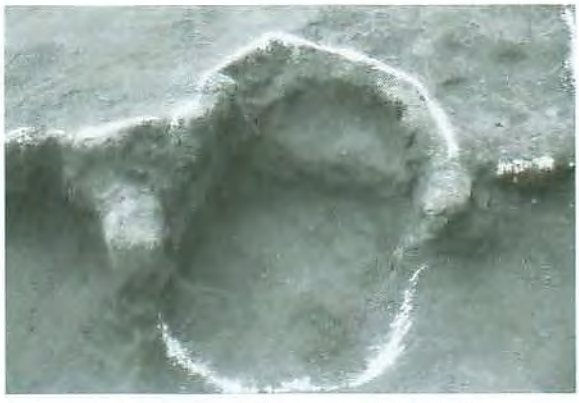


写真18　４号竪穴住居址竈（東より）

図版４　9407調査地点

写真19　５号竪穴住居址（東より）

写真20　５号竪穴住居址竈（東より）

写真21　６号竪穴住居址（東より）

写真22　６号竪穴住居址竈（東より）

写真23　７号竪穴住居址（西より）

写真24　７号竪穴住居址竈（西より）

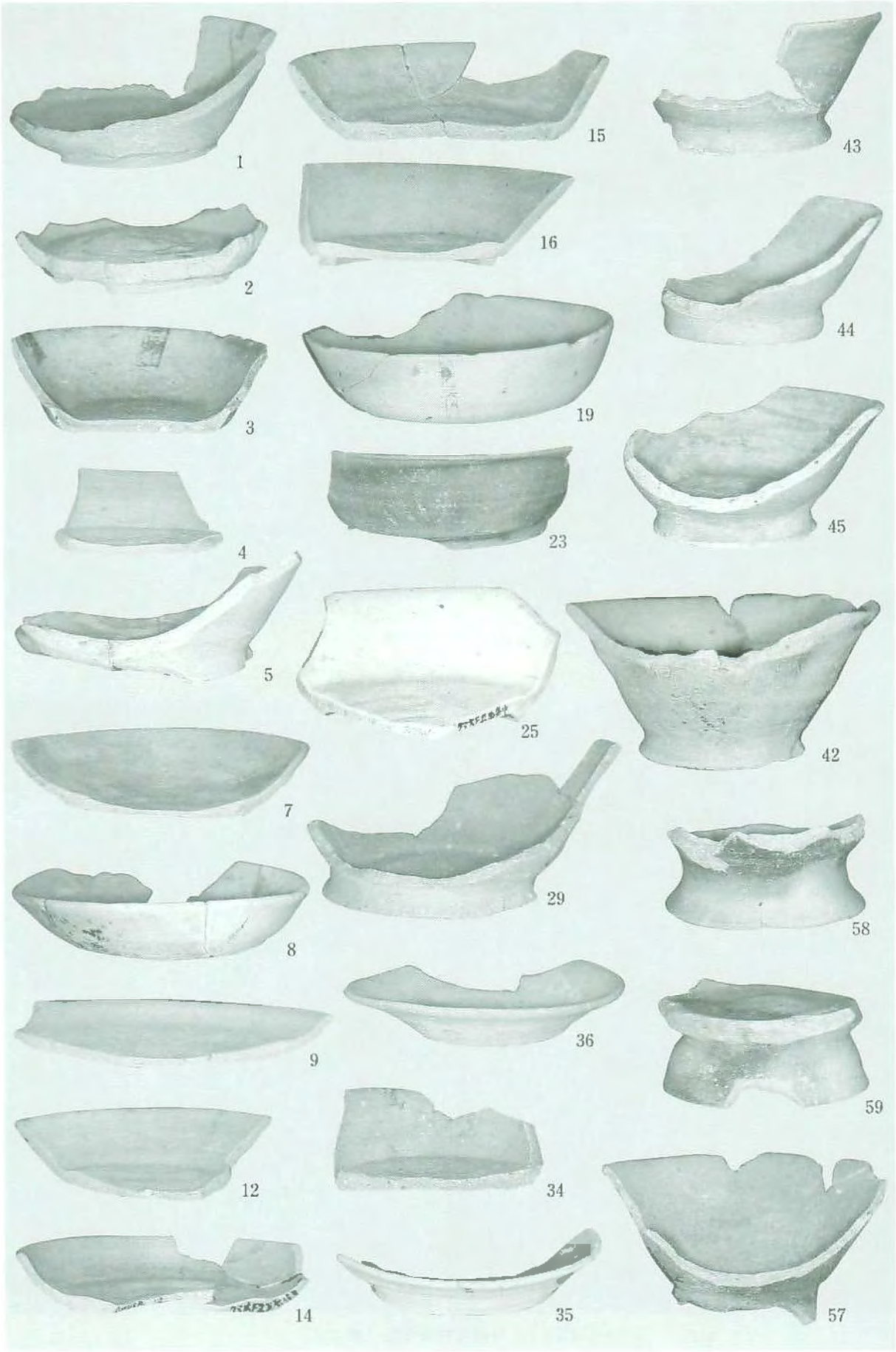
写真25　８号竪穴住居址（南より）

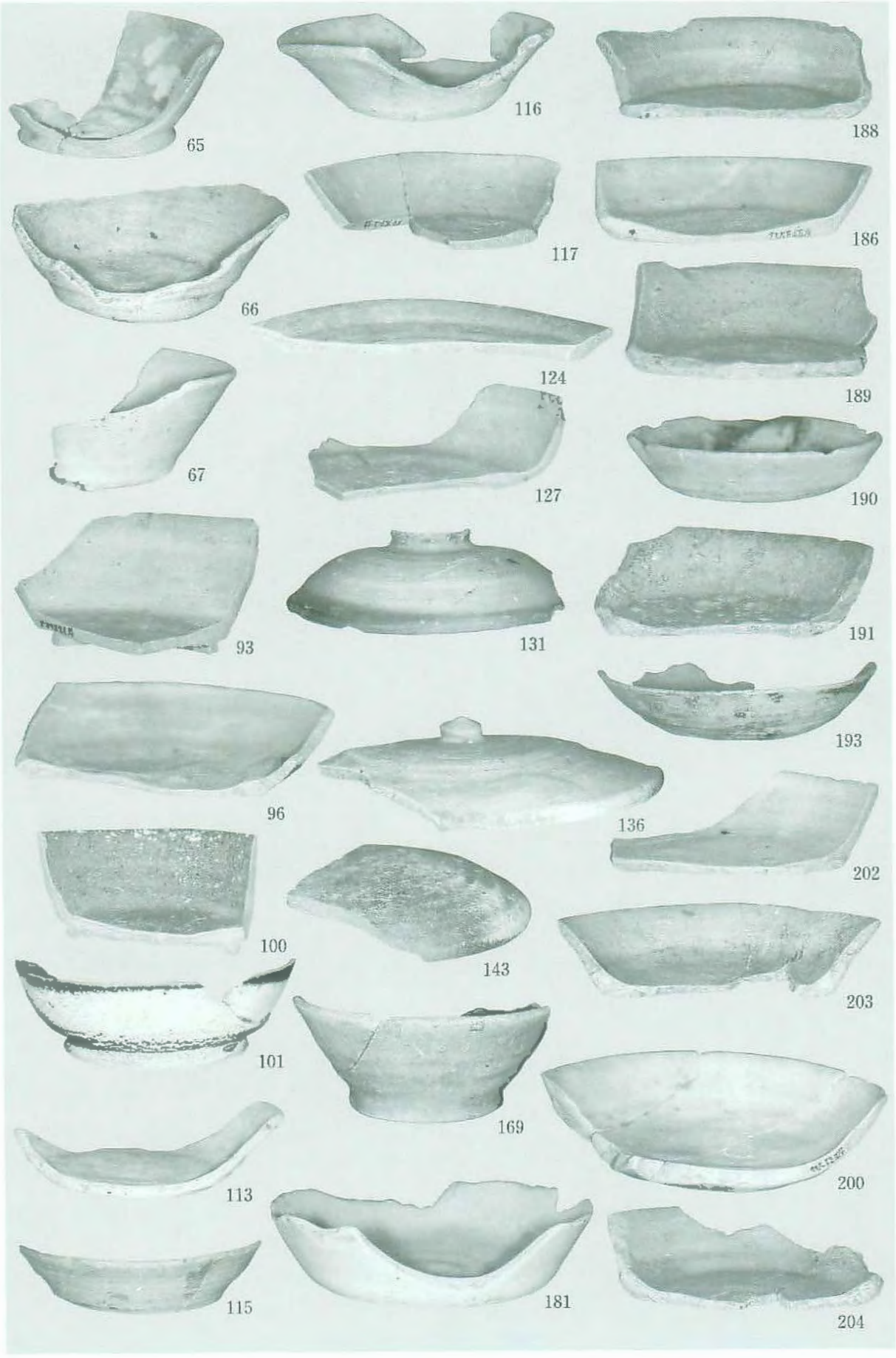
写真26　９号竪穴住居址（南より）

写真27　１号掘立柱建物址（南より）

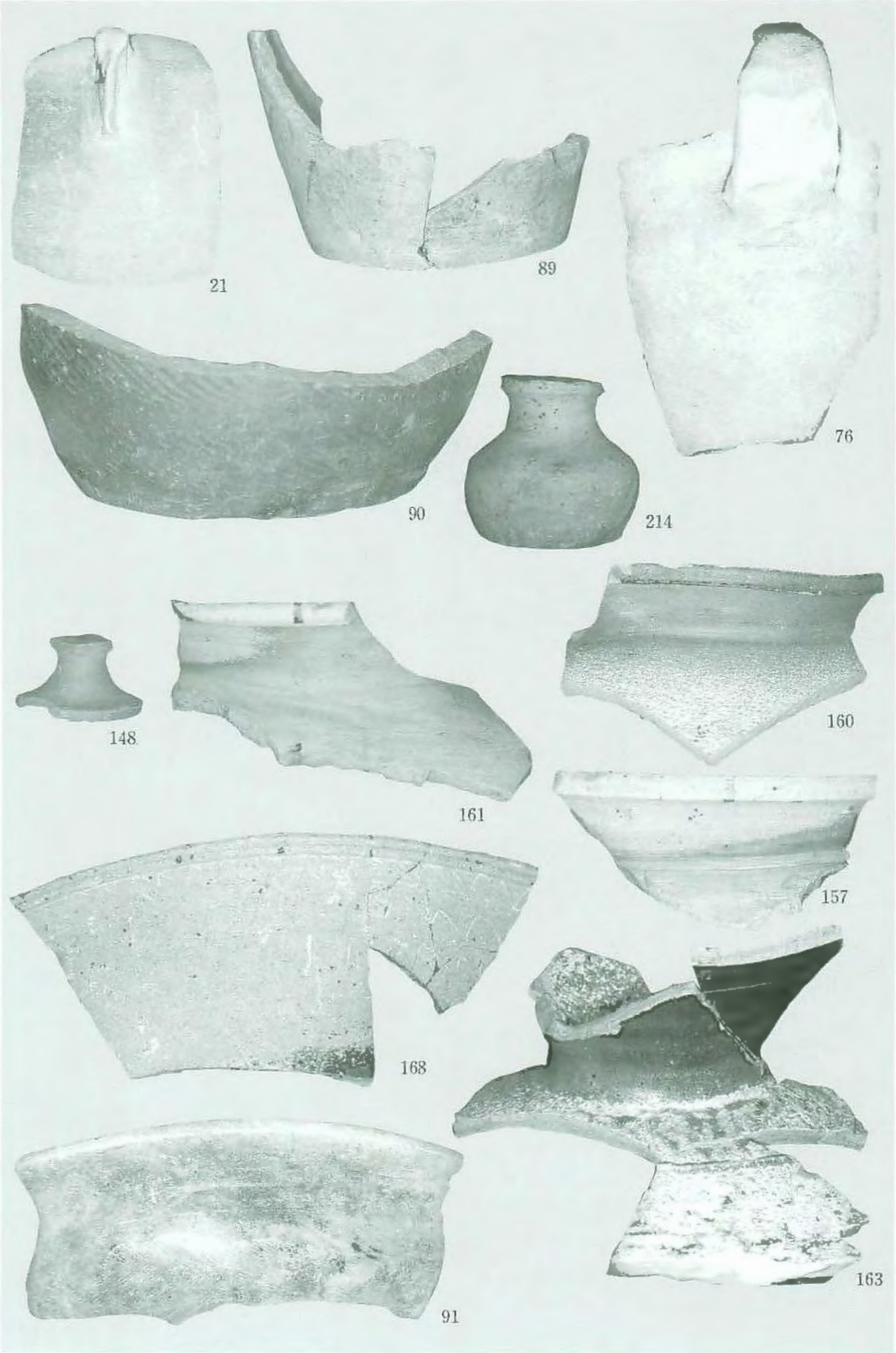
写真28　２号掘立柱建物址（南より）

図版 6　9407調査地点出土遺物 1




65
116
188
117
186
66
124
189
67
127
190
93
131
191
193
96
136
202
100
143
203
101
169
200
113
181
115
204

図版 8　9407調査地点出土遺物 3



164
221
220
159
222
162
154
73
231
85
74

図版10　9407調査地点出土遺物５

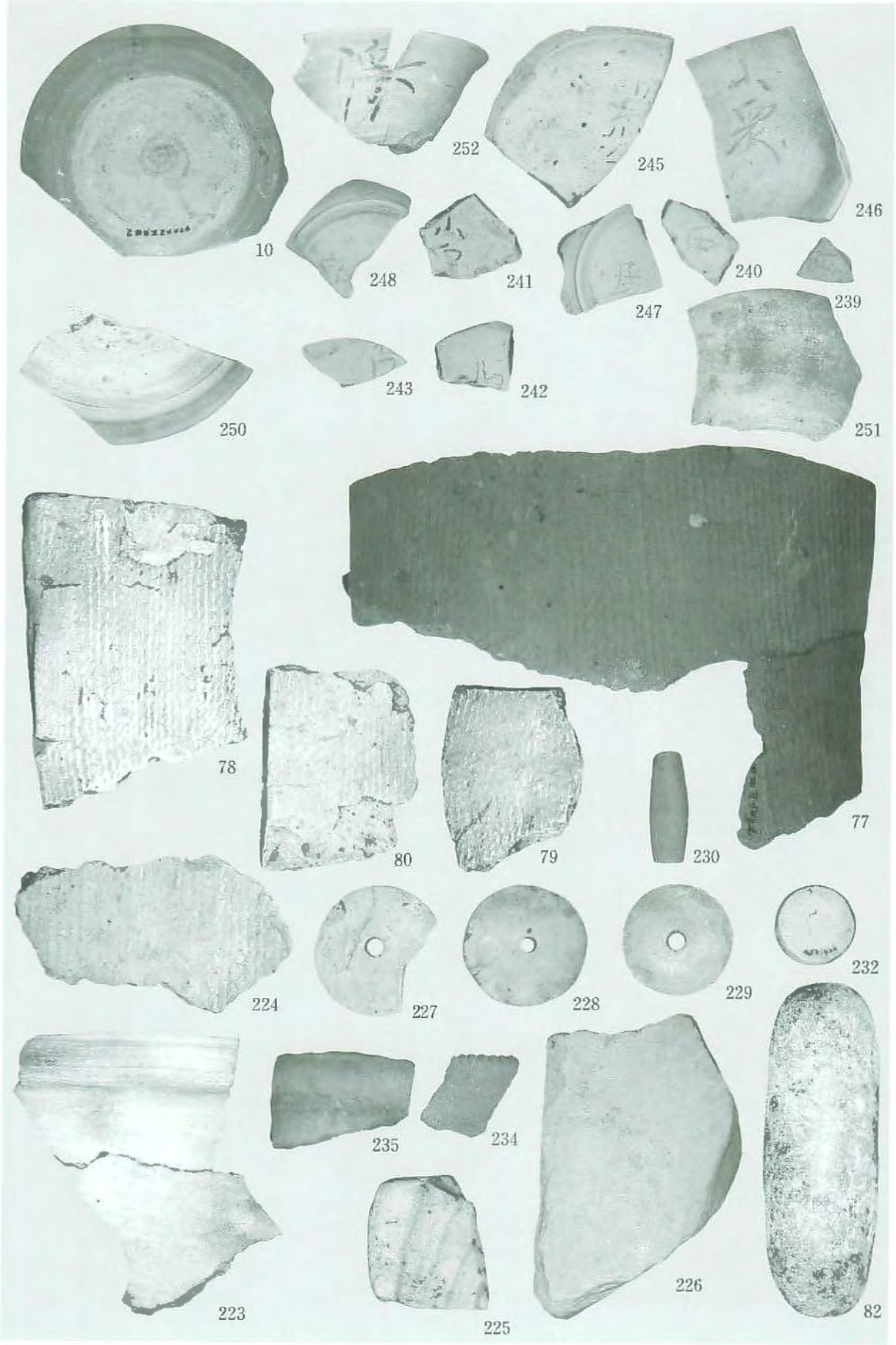


写真１　調査区近景（東より）

写真２　調査区全景（北より）

図版12　9412調査地点

写真３　１号竪穴住居址（東より）

写真４　２号竪穴住居址（西より）

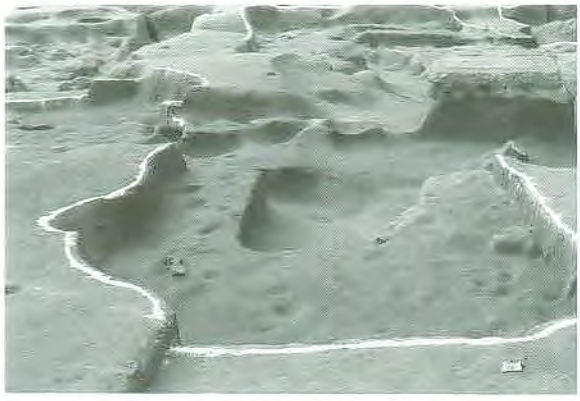


写真５　３号竪穴住居址（東より）

写真６　４号竪穴住居址（北より）

写真７　５号竪穴住居址（東より）

写真８　６号竪穴住居址（西より）

写真９　６号竪穴住居址竈（西より）

写真10　７号竪穴住居址（東より）

写真11　溝状遺構（東より）

写真12　籾殻出土状況

写真13　集石遺構（東より）

写真14　鉄製品出土状況

写真15　調査風景（北より）

図版14　9501調査地点

写真１　調査区全景（東より）

写真２　調査区全景（北西より）

写真３　１号竪穴住居址（南より）

写真４　１号竪穴住居址竈断面（西より）

写真５　柱穴検出状況（北より）

写真６　７号柱穴根石検出状況

写真７　１号溝土層断面（西より）

図版16　9512調査地点

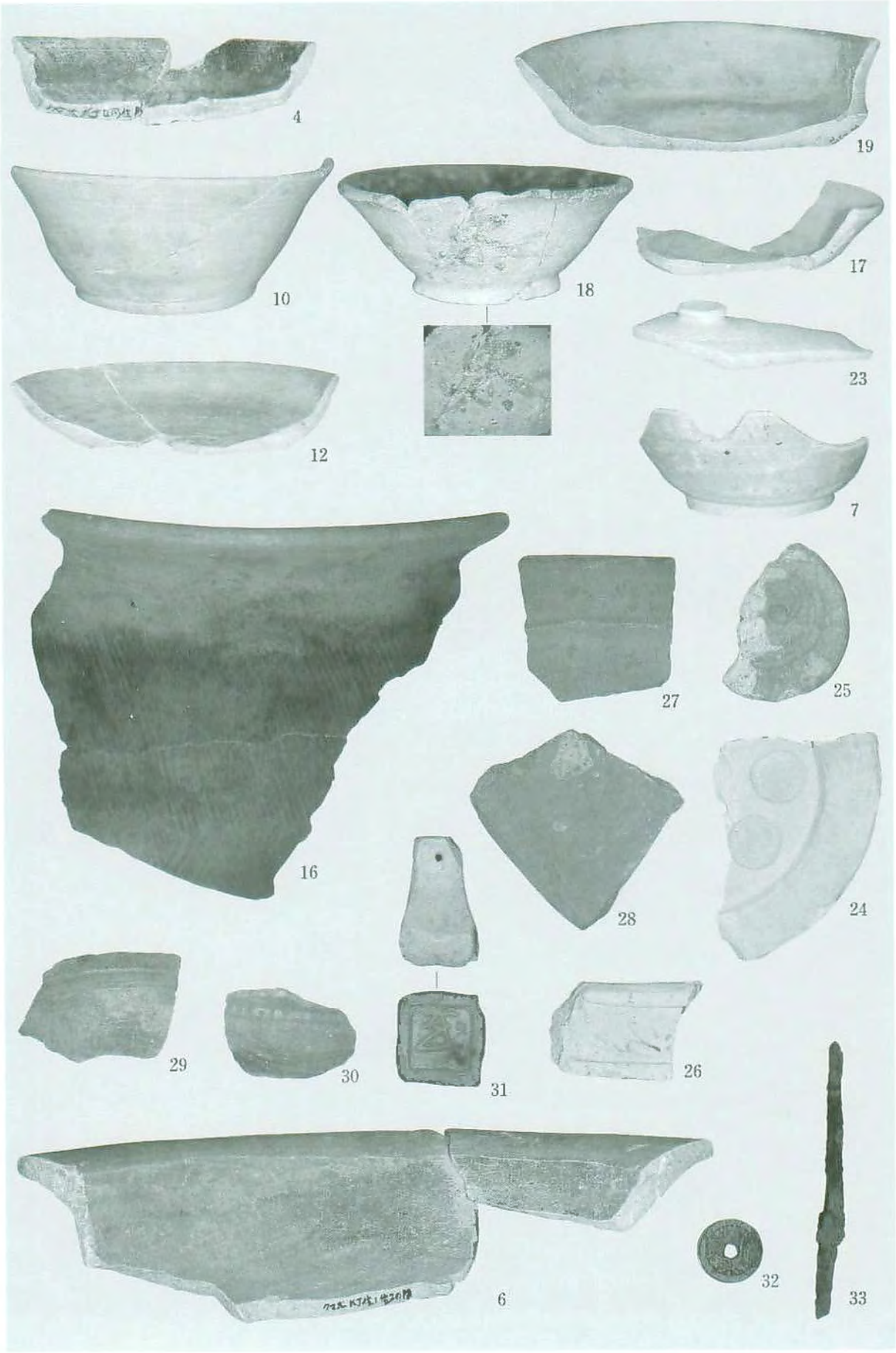
写真１　調査区全景（西より）

写真２　１号竪穴住居址（北より）

写真３　１号竪穴住居址完掘状況（東より）

写真４　１号溝断面（西より）

写真５　調査区西壁（東より）


4
19
10
18
17
23
12
7
16
27
25
28
24
29
30
31
26
6
32
33

図版18　9405調査地点

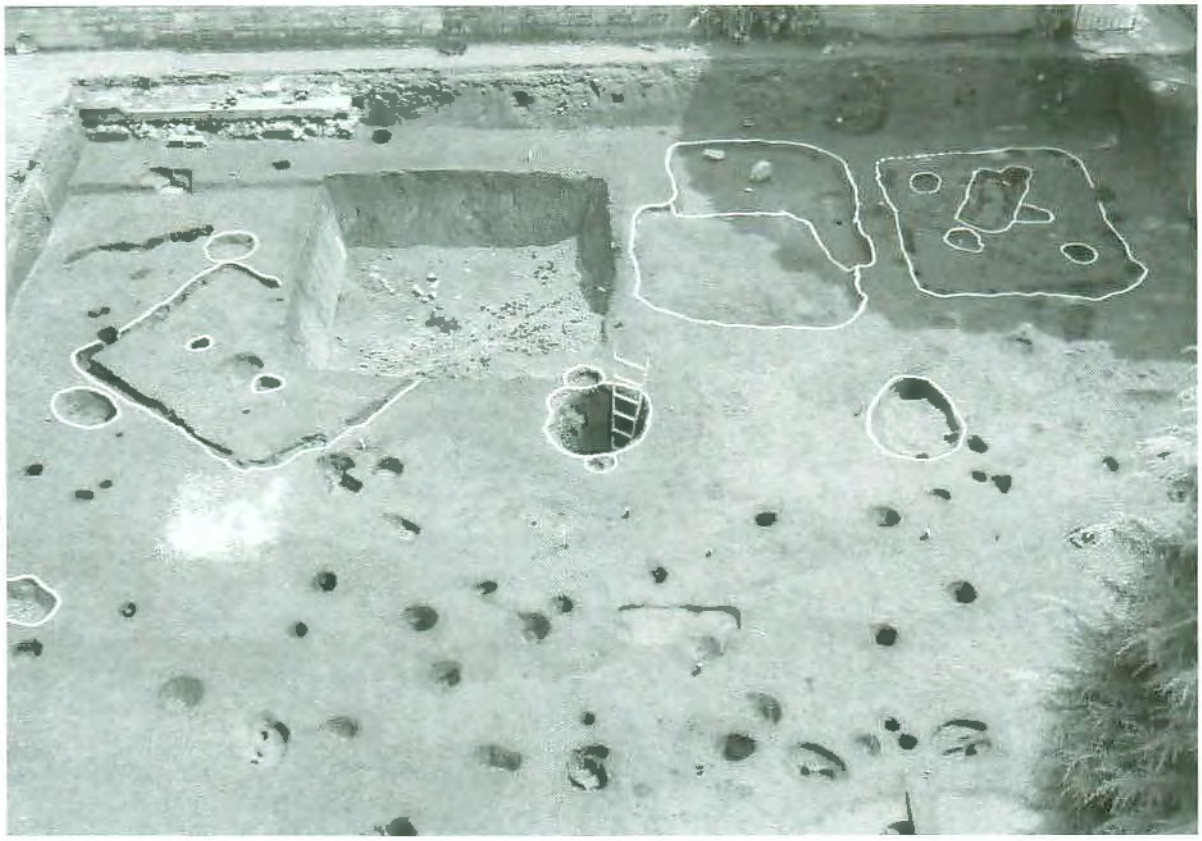


写真１　調査区全景（北より）

写真２　１号竪穴住居址（西より）

写真３　２号竪穴住居址（北東より）

写真４　１号墓（西より）

図版20　9405調査地点

写真５　１号墓（南より）

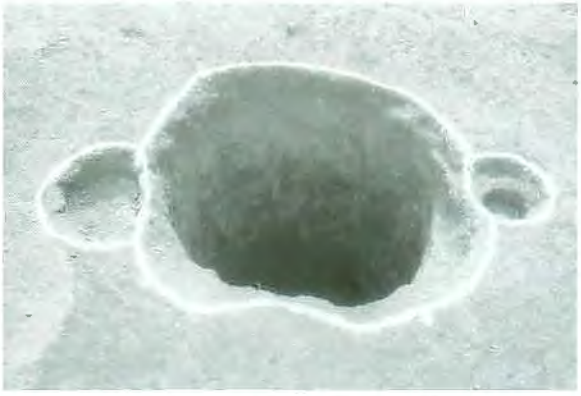


写真６　１号井戸（東より）

写真７　１号井戸上層出土状況（北より）

写真８　１号井戸青磁・瓦器出土状況

写真９　１号井戸銅銭出土状況

写真10　３号土坑（南より）

写真11　４号土坑（南より）

写真12　４号土坑遺物出土状況（北西より）

1
2
3
9
10
12
13
5
7
11
4
16
14
6
8
15
18
23
20
17
22
21
36
33
25
29
35
28
27
34
40
38
39
30
37

図版22　9405調査地点出土遺物 2

写真１　調査区近景（東より）

写真２　第１トレンチ全景（東より）

写真３　第２トレンチ全景（東より）

写真４　第３トレンチ全景（東より）

写真５　第４トレンチ全景（南より）

図版24　9408・9413調査地点

写真６　第２トレンチ遺物出土状況（南より）

写真７　第２トレンチ道路址検出状況（西より）

写真８　１号竪穴住居址（東より）

写真９　２・３号竪穴住居址（西より）

写真10　４号竪穴住居址（南より）

写真11　４号竪穴住居址竈（南より）

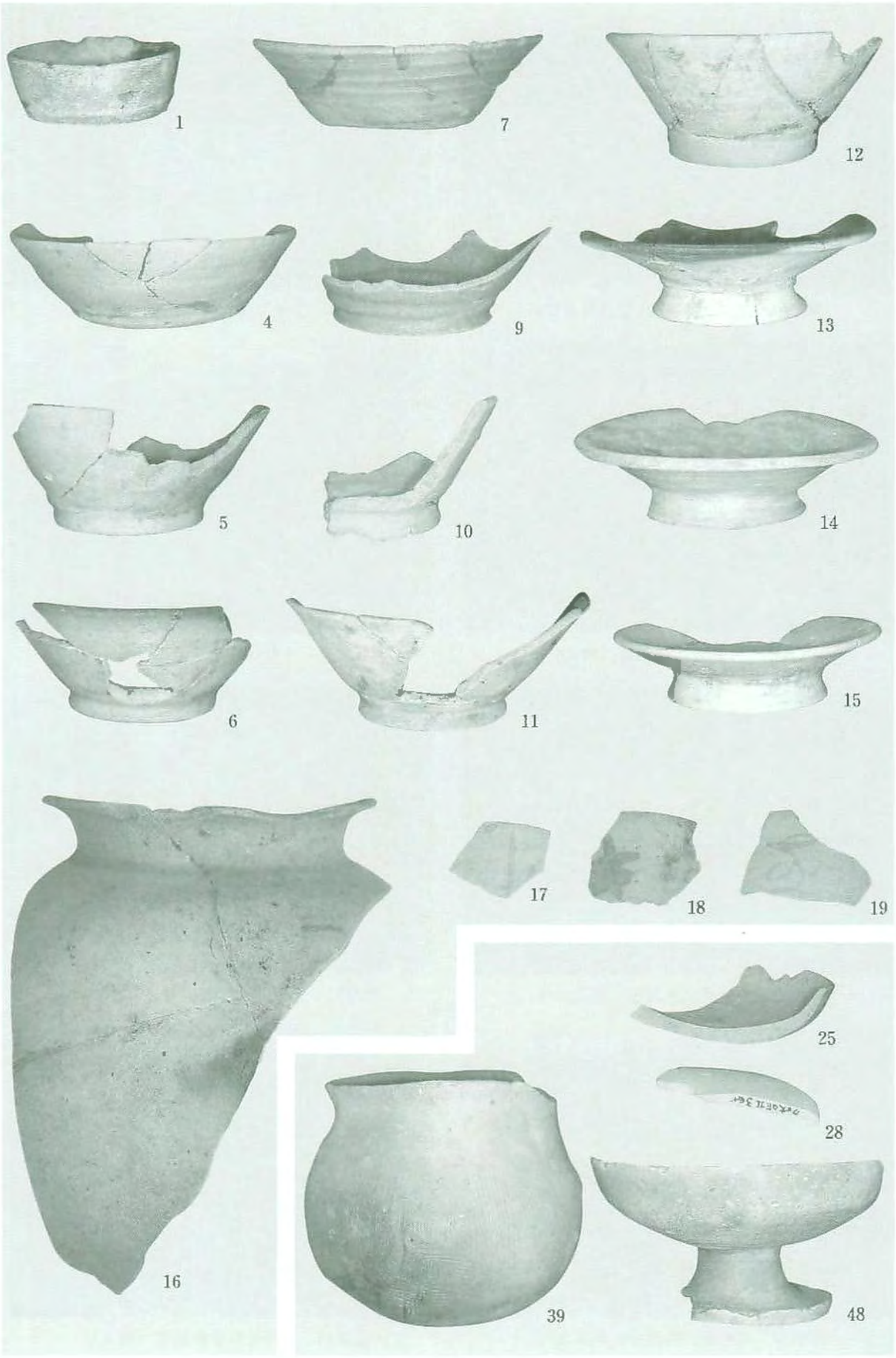
写真12　５号竪穴住居址（南東より）

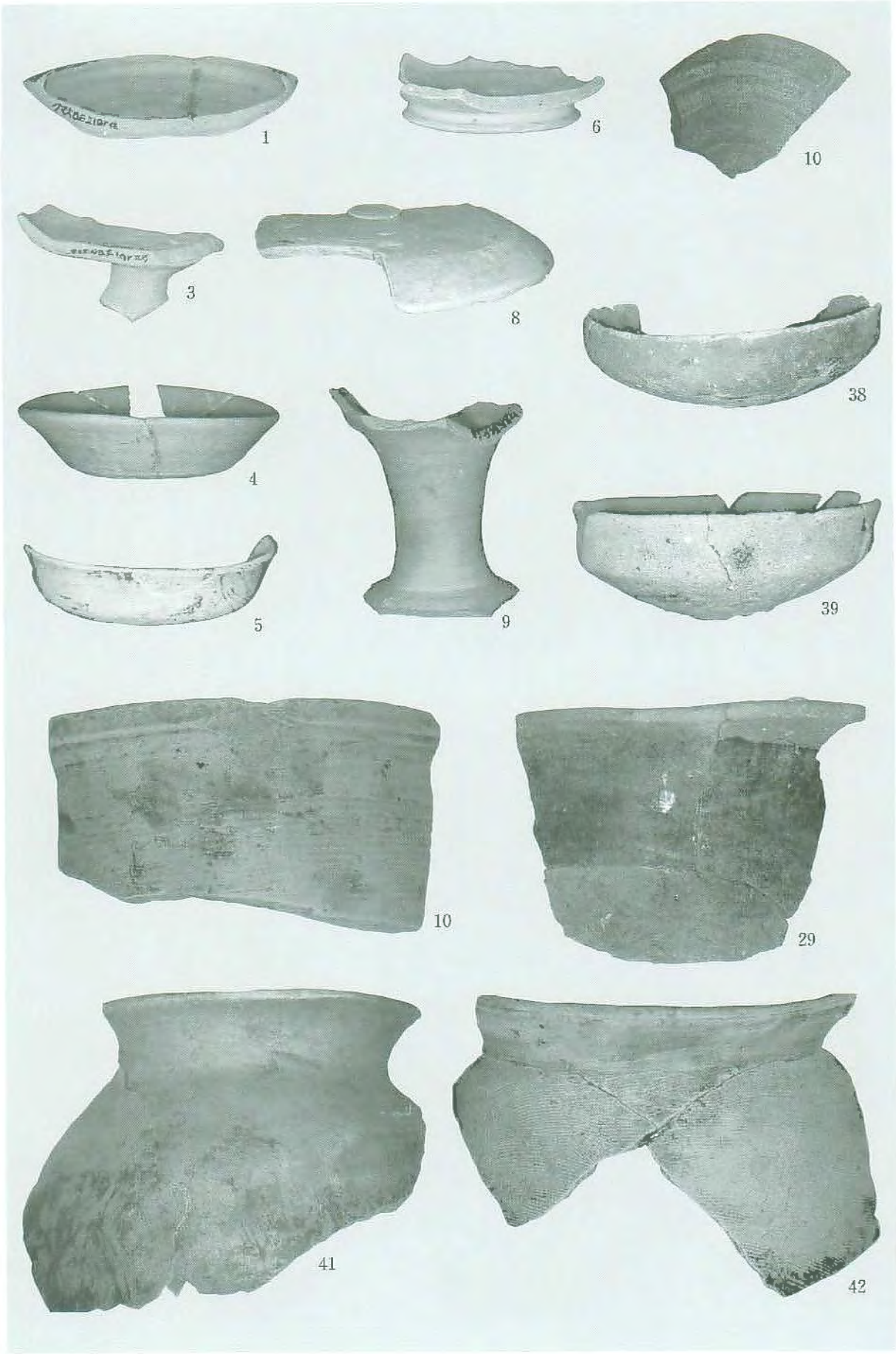
写真13　５号竪穴住居址竈（南東より）

写真14　６号竪穴住居址（南東より）

写真15　６号竪穴住居址竈（南より）

図版26　9408・9413調査地点出土遺物１




1
6
10
3
8
38
4
9
39
5
10
29
41
42

図版28　9413調査地点出土遺物 3

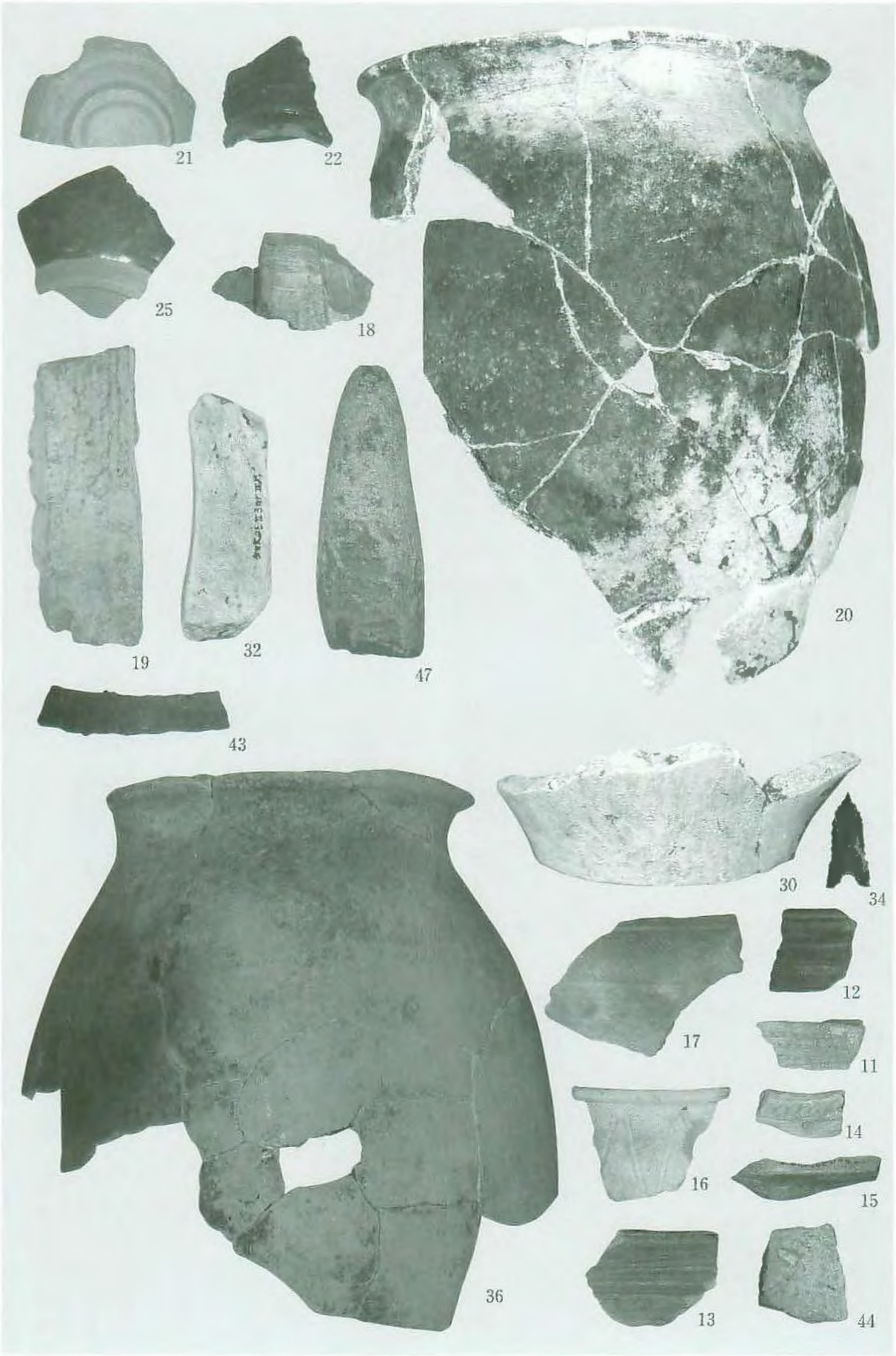


写真１　調査区東部全景（西より）

写真２　調査区西部全景（北西より）

図版30　9511調査地点

写真３　10号溝（北より）

写真４　19・55号溝切り合い状況（北東より）

写真５　25号竪穴住居址竈と周囲の土器（南より）

写真６　25号竪穴住居址甑出土状況（南より）

写真７　25号竪穴住居址と覆土廃棄土器（北西より）

写真８　25号竪穴住居址廃棄土器詳細（１）（東より）

写真９　25号竪穴住居址廃棄土器詳細（２）（東より）

写真10　25・50・65号竪穴住居址（北西より）

写真11　5号竪穴住居址（西より）

写真12　65号竪穴住居址（東より）

写真13　7号竪穴住居址（南より）

写真14　6号方形竪穴遺構（北より）

写真15　46号方形竪穴遺構（南より）

写真16　75号方形竪穴遺構（西より）

写真17　85号掘立柱建物址（西より）

写真18　95号掘立柱建物址（南東より）

図版32　9511調査地点

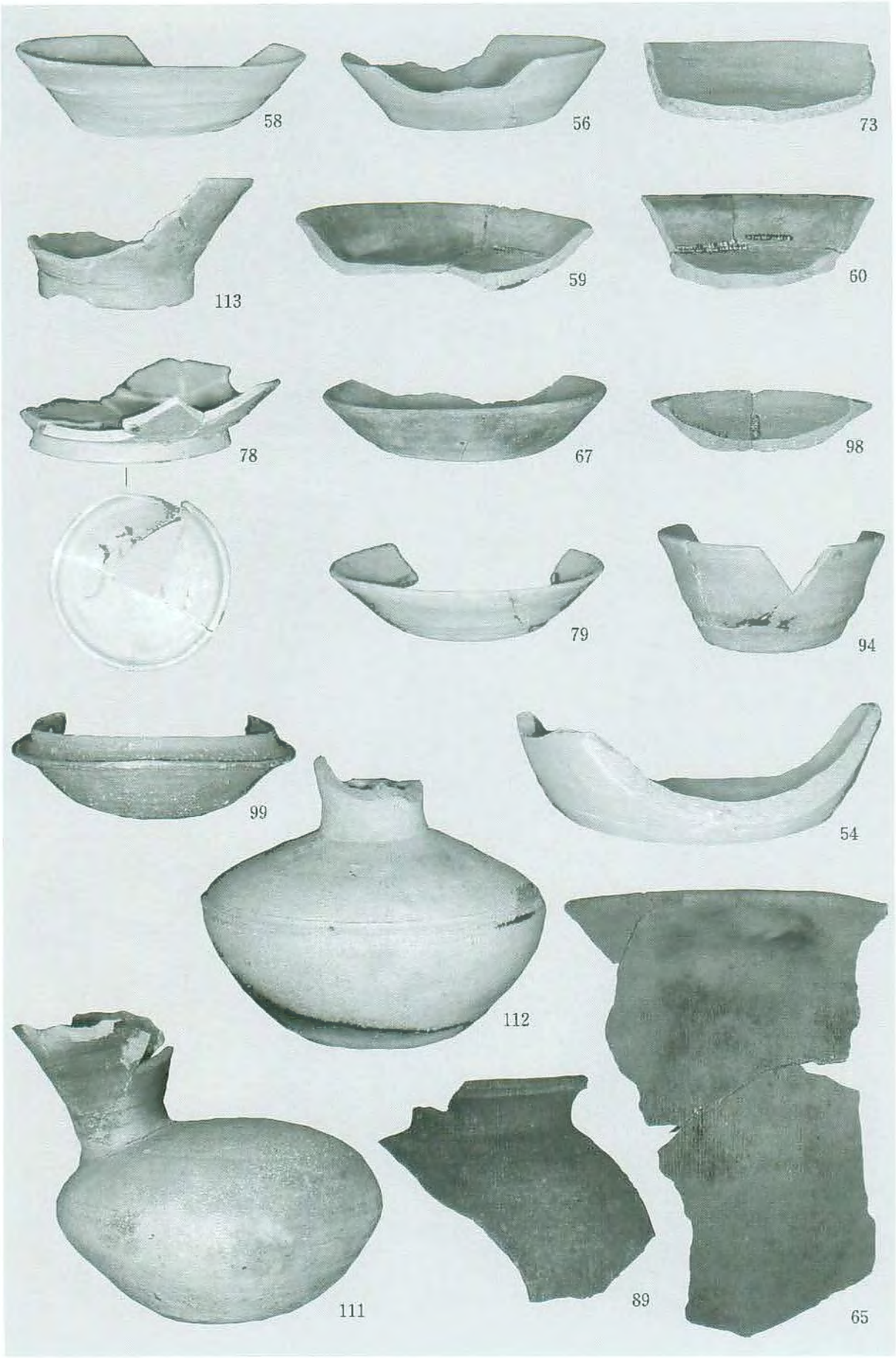
写真19　冠雪の現場（東南より）

写真20　調査区南壁（西より）

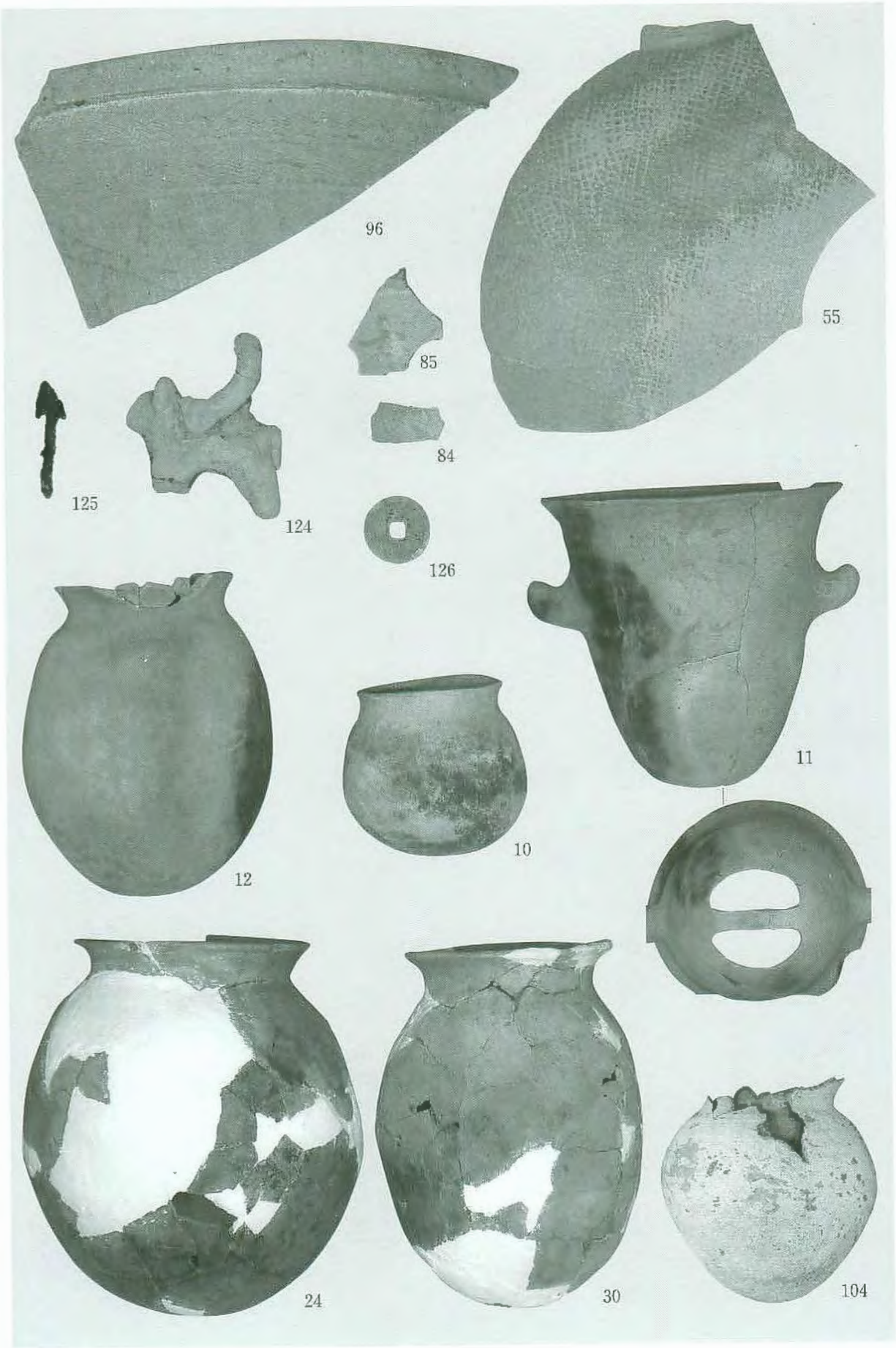
写真21　土層断面（H－1－3区）（北西より）

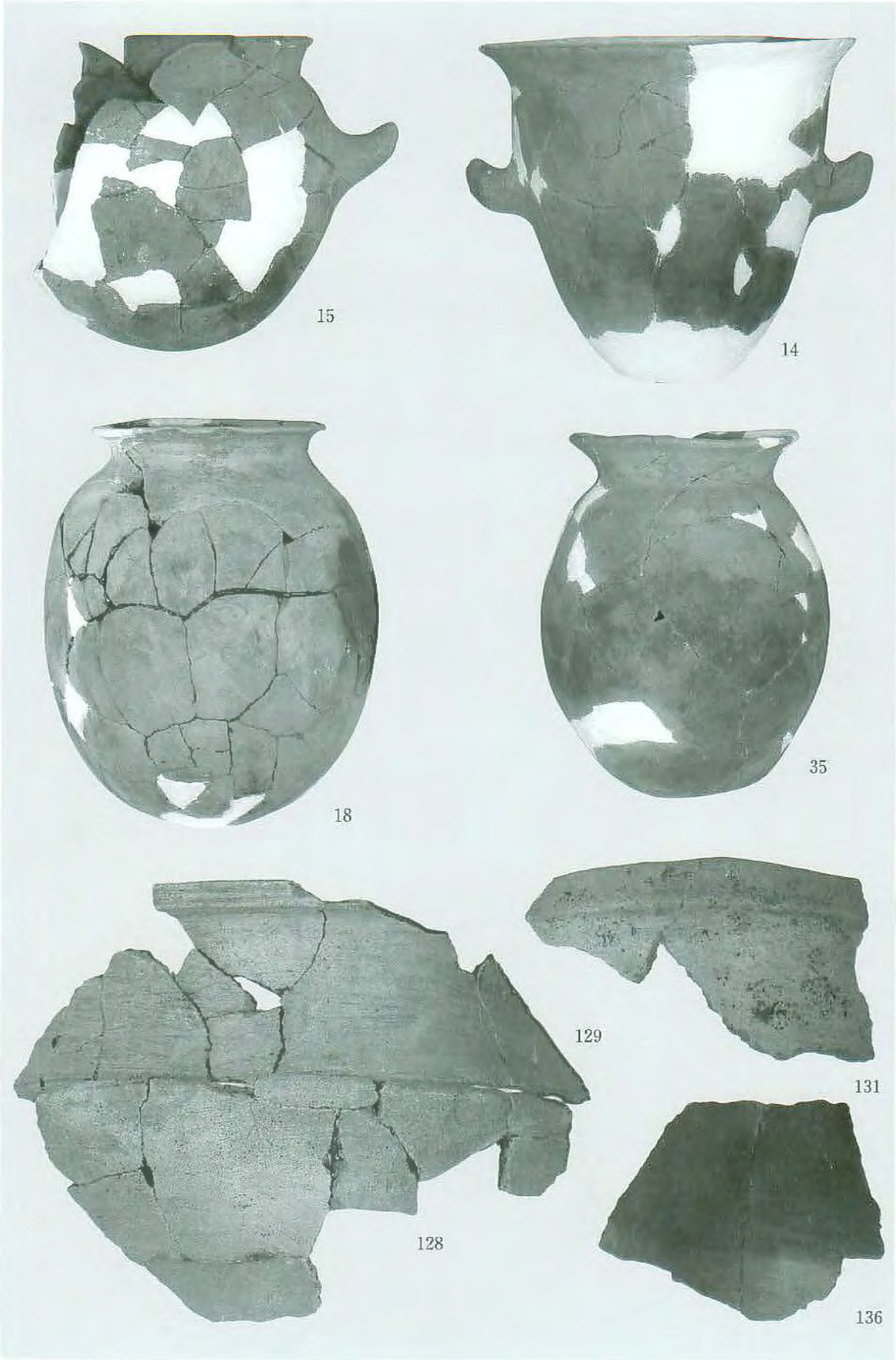
写真22　縄文土器出土状況（北より）

写真23　調査風景（西より）

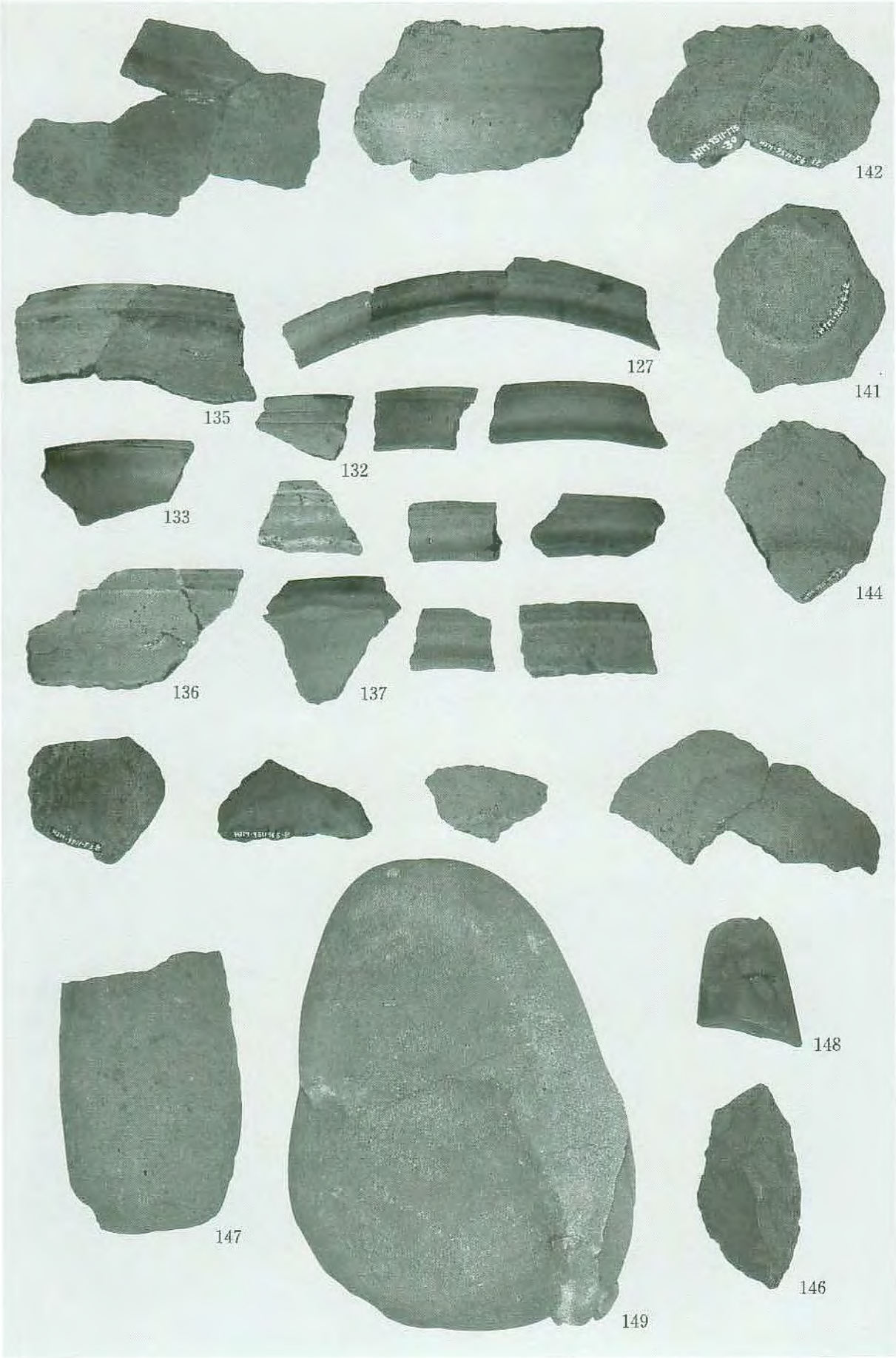

58
56
73
113
59
60
78
67
98
79
94
99
54
112
111
89
65

図版34　9511調査地点出土遺物 2




15
14
18
35
129
131
128
136

図版36　9511調査地点出土遺物 4



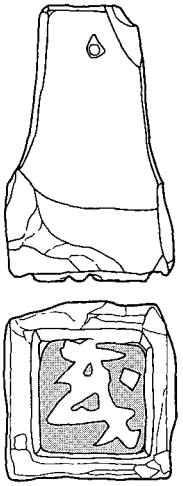
報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくこうないいせきはっくつちょうさほうこくⅠ
書名	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅰ
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査報告書
シリーズ号	1
編著者名	小畑弘己・大坪志子・坂元紀乃
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒860－8555　熊本県熊本市黒髪2－39－1　TEL.096－342－3832　FAX.096－342－3832
発行年月日	2003年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
黒髪町遺跡 (9407地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201		32° 48' 50"	130° 43' 42"	19940513 ～ 19940728	1,290m²	学校敷地内の開発事業に伴う
黒髪町遺跡 (9412・9501・9512地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43201		32° 48' 30"	130° 43' 40"	19940912 ～ 19951116	893.6m²	学校敷地内の開発事業に伴う
京町台遺跡 (9405地点)	熊本県 熊本市 京町本丁	43201		32° 48' 55"	130° 42' 22"	19940517 ～ 19940625	400m²	学校敷地内の開発事業に伴う
大江遺跡群 (9408・9413地点)	熊本県 熊本市 渡鹿	43201		32° 48' 20"	130° 42' 30"	19940801 ～ 19941222	240.4m²	学校敷地内の開発事業に伴う
本庄遺跡 (9511地点)	熊本県 熊本市 本荘	43201		32° 47' 25"	130° 42' 50"	19951225 ～ 19960222	976.9m²	学校敷地内の開発事業に伴う

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒髪町遺跡群 (9407地点)	散布地 集落址 官衙？	奈良・平安・縄文後期	竪穴住居址9 掘立柱建物址2	土師器・須恵器・墨書土器・ヘラ書き土器・土馬・布目瓦・越州窯青磁・鉄器縄文土器・石鏃	蚕養駅家の施設の一部か
黒髪町遺跡群 (9412・9501・9512地点)	散布地 集落址	奈良・平安・近世・縄文後期	竪穴住居址9 集石遺構1 溝状遺構（堀）1	土師器・須恵器・布目瓦・鉄器・「國」銘土製印・銅銭・鉄鏃・縄文土器	
京町台遺跡 (9405地点)	散布地 集落址 墓地	弥生後期・古墳・近世・近代	竪穴住居址2・石棺墓？1・土壙4・井戸1	弥生土器・近世陶磁器・寛永通寶銅銭・瓦・キセル・薬瓶・インク瓶・糊瓶・硯	
大江遺跡群 (9408・9413地点)	散布地 集落址 官衙域	奈良・平安・縄文早期・後期	道路跡1 竪穴住居址7	土師器・須恵器・布目瓦・滑石製石鍋・鉄鎌・近世陶磁器・縄文土器・磨製石斧・石鏃	
本庄遺跡 (9511地点)	散布地 集落址	奈良・平安・縄文早期・後期	竪穴住居址5・掘立柱建物址2・方形竪穴状遺構4・溝・堀6・道路状遺構6	土師器・須恵器・鉄鏃・銅銭・縄文土器・石器	

熊本大学埋蔵文化財調査報告書　第１集
熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅰ
（1994・1995年度）

平成15年３月25日　印刷
平成15年３月31日　発行

編集・発行　熊本大学埋蔵文化財調査室
〒860－8555　熊本市黒髪２丁目39－１
TEL 096(342)3832　FAX 096(342)3832
印　　刷　シモダ印刷株式会社